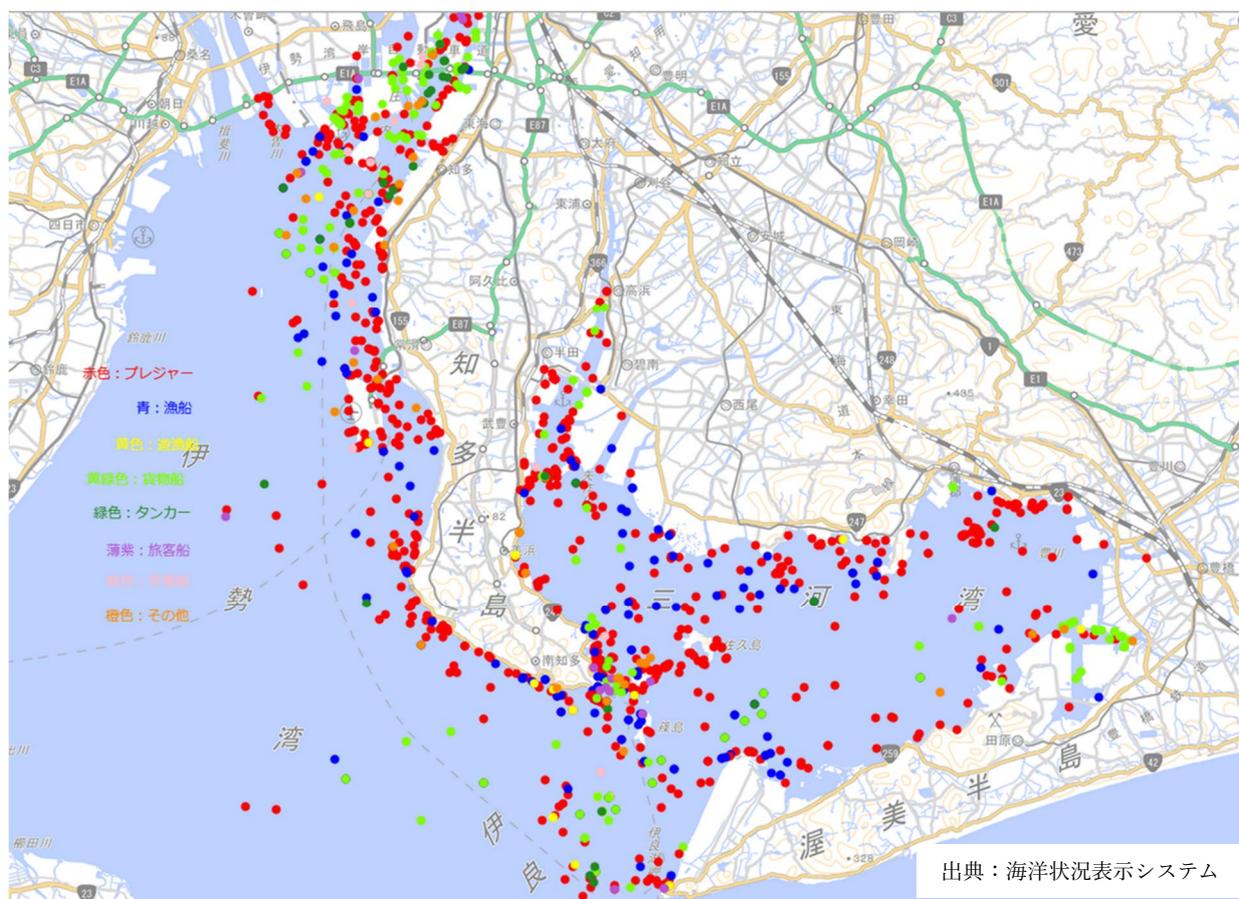


名古屋海上保安部における 海難の発生状況



三河海上保安署、衣浦海上保安署を含む管内における平成 17 年から令和 6 年までの過去 20 年間の船舶海難・マリンレジャーに伴う人身事故の統計資料

令和 7 年 1 0 月作成 名古屋海上保安部

平成 17 年から令和 6 年までの過去 20 年間における名古屋海上保安部
(三河・衣浦海上保安署を含む) 海難発生状況

< 目 次 >

I 船舶海難	P 1
1 船舶海難の発生状況	P 1
(1) 海難隻数の推移 (船舶種別の割合、部署別の割合)	
(2) 海難種別の割合	
(3) 月別の海難発生状況	
(4) 全海難の発生場所分布図	
(5) 衝突海難の発生場所分布図	
(6) 乗揚海難の発生場所分布図	
(7) 単独衝突海難の発生場所分布図	
2 プレジャーボート (PB) の海難の発生状況	P 7
(1) 海難隻数の推移 (船舶種別の割合、部署別の割合)	
(2) 海難種別の割合	
(3) 月別の海難発生状況	
(4) 海難の発生場所分布図	
3 漁船海難の発生状況	P 1 1
(1) 海難隻数の推移 (部署別の割合)	
(2) 海難種別の割合	
(3) 月別の海難発生状況	
(4) 海難の発生場所分布図	
4 遊漁船海難の発生状況	P 1 5
(1) 海難隻数の推移 (部署別の割合)	
(2) 海難種別の割合	
(3) 月別の海難発生状況	
(4) 海難の発生場所分布図	
5 貨物船海難の発生状況	P 1 9
(1) 海難隻数の推移 (部署別の割合)	
(2) 海難種別の割合	
(3) 月別の海難発生状況	
(4) 海難の発生場所分布図	

6 タンカー船海難の発生状況 P 2 3

- (1) 海難隻数の推移（部署別の割合）
- (2) 海難種別の割合
- (3) 月別の海難発生状況
- (4) 海難の発生場所分布図

7 旅客船海難の発生状況 P 2 7

- (1) 海難隻数の推移（部署別の割合）
- (2) 海難種別の割合
- (3) 月別の海難発生状況
- (4) 海難の発生場所分布図

8 作業船海難の発生状況 P 3 1

- (1) 海難隻数の推移（部署別の割合）
- (2) 海難種別の割合
- (3) 月別の海難発生状況
- (4) 海難の発生場所分布図

9 その他の船舶海難の発生状況 P 3 5

- (1) 海難隻数の推移（部署別の割合）
- (2) 海難種別の割合
- (3) 月別の海難発生状況
- (4) 海難の発生場所分布図

10 水上オートバイ海難の発生状況 P 3 9

- (1) 海難隻数の推移（部署別の割合）
- (2) 月別の海難発生状況
- (3) 海難種別
- (4) 海難の発生場所分布図

11 ミニボート海難の発生状況 P 4 3

- (1) 海難隻数の推移（部署別の割合）
- (2) 月別の海難発生状況
- (3) 海難種別
- (4) 海難の発生場所分布図

12 船舶海難に伴う死亡事故の状況 P 4 7

- (1) 死亡者数の推移（部署別の割合）
- (2) 月別の海難発生状況

- (3) 海難種別
- (4) 海難の発生場所分布図
- (5) 事故の概要

II マリンレジャー中の事故	P 5 1
1 マリンレジャー中の事故発生状況	P 5 1
(1) 事故者数の推移	
(2) 月別の事故発生状況	
(3) 事故内容別事故者数・割合	
(4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況	
(5) 事故発生場所の分布図	
(6) 死亡事故発生場所の分布図	
2 遊泳中の事故発生状況	P 5 5
(1) 事故者数の推移	
(2) 月別の事故発生状況	
(3) 事故内容別事故者数・割合	
(4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況	
(5) 事故発生場所の分布図	
3 磯遊び中の事故発生状況	P 5 9
(1) 事故者数の推移	
(2) 月別の事故発生状況	
(3) 事故内容別事故者数・割合	
(4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況	
(5) 事故発生場所の分布図	
4 釣り中の事故発生状況	P 6 3
(1) 事故者数の推移	
(2) 月別の事故発生状況	
(3) 事故内容別事故者数・割合	
(4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況	
(5) 事故発生場所の分布図	
5 サーフィン中の事故発生状況	P 6 7
(1) 事故者数の推移	
(2) 月別の事故発生状況	

- (3) 事故内容別事故者数・割合
- (4) 事故者の年齢
- (5) 事故発生場所の分布図

6 ボードセーリング中の事故発生状況 P 7 1

- (1) 事故者数の推移
- (2) 月別の事故発生状況
- (3) 事故内容別事故者数・割合
- (4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況
- (5) 事故発生場所の分布図

7 ウェークボード中の事故発生状況 P 7 5

- (1) 事故者数の推移
- (2) 月別の事故発生状況
- (3) 事故内容別事故者数・割合
- (4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況
- (5) 事故発生場所の分布図

8 スタンドアップパドルボード (SUP) 中の事故発生状況 P 7 9

- (1) 事故者数の推移
- (2) 月別の事故発生状況
- (3) 事故内容別事故者数・割合
- (4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況
- (5) 事故発生場所の分布図

9 トーイング遊具中の事故発生状況 P 8 3

- (1) 事故者数の推移
- (2) 月別の事故発生状況
- (3) 事故内容別事故者数・割合
- (4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況
- (5) 事故発生場所の分布図

10 ダイビングの事故発生状況 P 8 7

- (1) 事故者数の推移
- (2) 月別の事故発生状況
- (3) 事故内容別事故者数・割合
- (4) 事故者の年齢
- (5) 事故発生場所の分布図

11 その他の事故発生状況 P 9 1

- (1) 事故者数の推移
- (2) 月別の事故発生状況
- (3) 事故の概要
- (4) 事故者の年齢・救命胴衣着用状況
- (5) 事故発生場所の分布図

III 部署別の海難等の状況 **P 9 5**

1 名古屋海上保安部 P 9 5

- (1) 船舶海難の発生状況
- (2) マリンレジャー事故の状況

2 三河海上保安署 P 1 0 1

- (1) 船舶海難の発生状況
- (2) マリンレジャー事故の状況

3 衣浦海上保安署 P 1 0 7

- (1) 船舶海難の発生状況
- (2) マリンレジャー事故の状況

I 船舶海難

1 船舶海難の発生状況

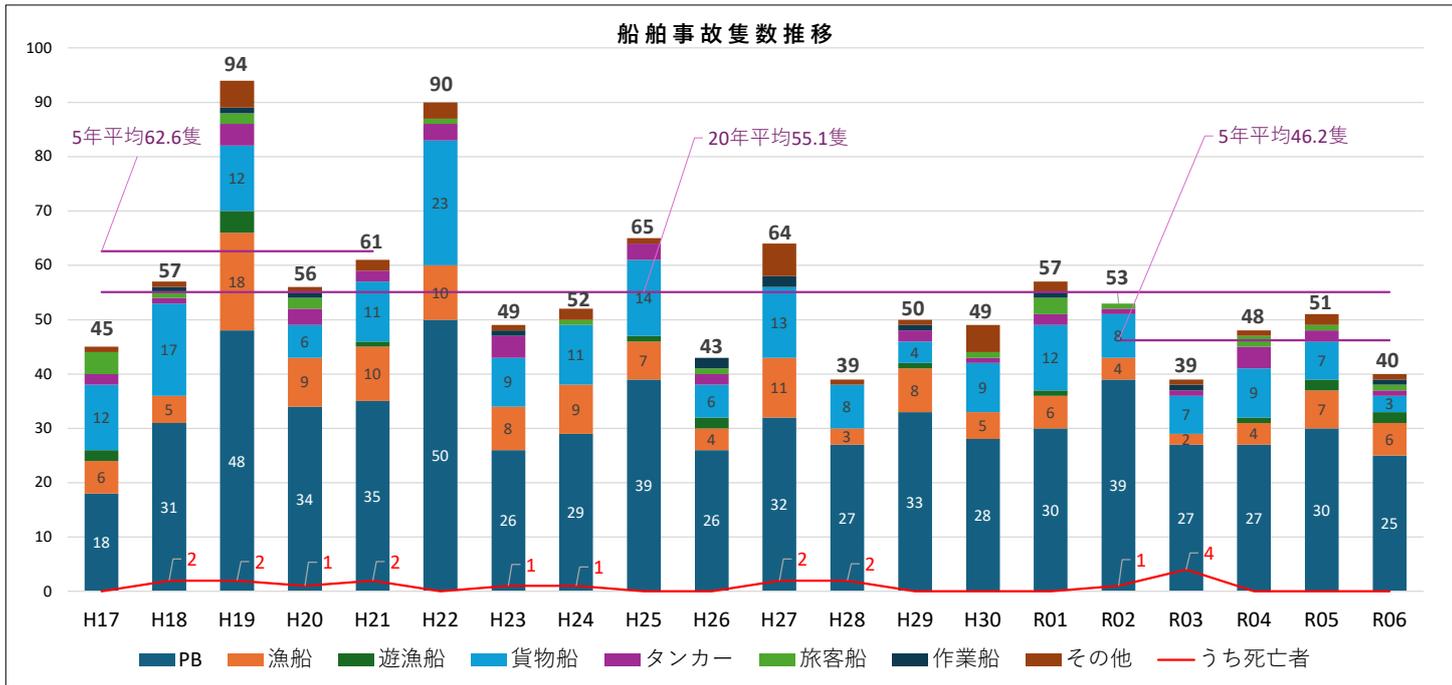
(1) 事故隻数の推移

○過去20年間の海難隻数は1102隻で、PB（58%）が最も多く、次いで貨物船（18%）、漁船（13%）

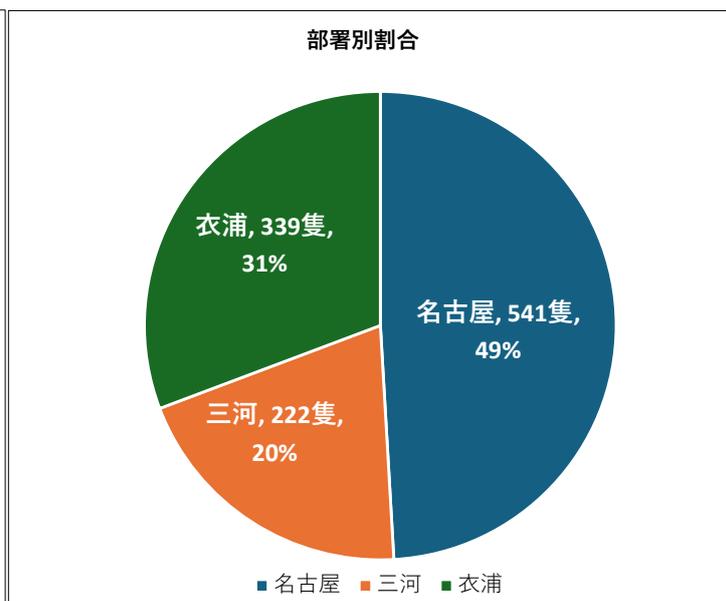
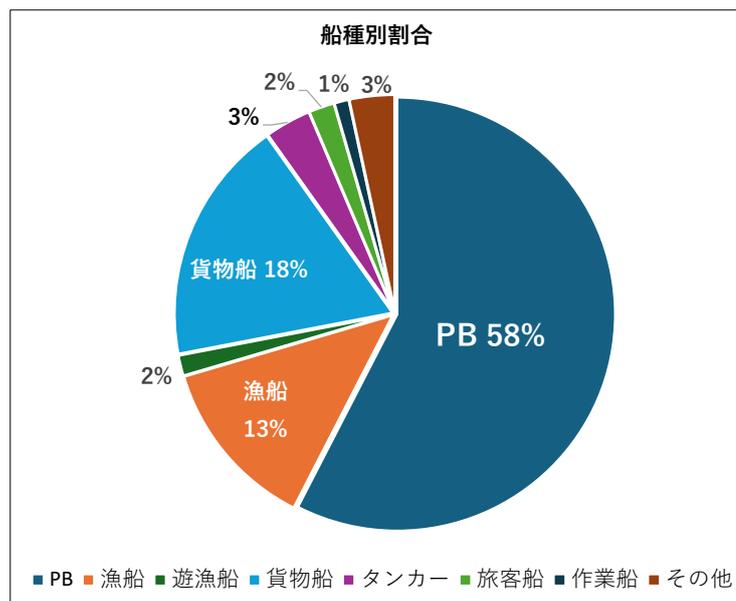
○年間平均は55隻。H17～H21年まで5年間の平均63隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は46隻で減少傾向（約2.5割減）

○部署別では名古屋541隻（約50%）を占め次いで衣浦約339隻（約30%）、三河222隻（約20%）

○船舶海難に伴う死者は18人発生（プレジャーボート13人、漁船5人）



船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
PB	18	31	48	34	35	50	26	29	39	26	32	27	33	28	30	39	27	27	30	25	634
漁船	6	5	18	9	10	10	8	9	7	4	11	3	8	5	6	4	2	4	7	6	142
遊漁船	2	0	4	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	1	2	2	17
貨物船	12	17	12	6	11	23	9	11	14	6	13	8	4	9	12	8	7	9	7	3	201
タンカー	2	1	4	3	2	3	4	0	3	2	0	0	2	1	2	1	1	4	2	1	38
旅客船	4	1	2	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	3	1	0	2	1	1	21
作業船	0	1	1	1	0	0	1	0	0	2	2	0	1	0	1	0	1	0	0	1	12
その他	1	1	5	1	2	3	1	2	1	0	6	1	1	5	2	0	1	1	2	1	37
計	45	57	94	56	61	90	49	52	65	43	64	39	50	49	57	53	39	48	51	40	1102
死亡者数	0	2	2	1	2	0	1	1	0	0	2	2	0	0	0	1	4	0	0	0	18

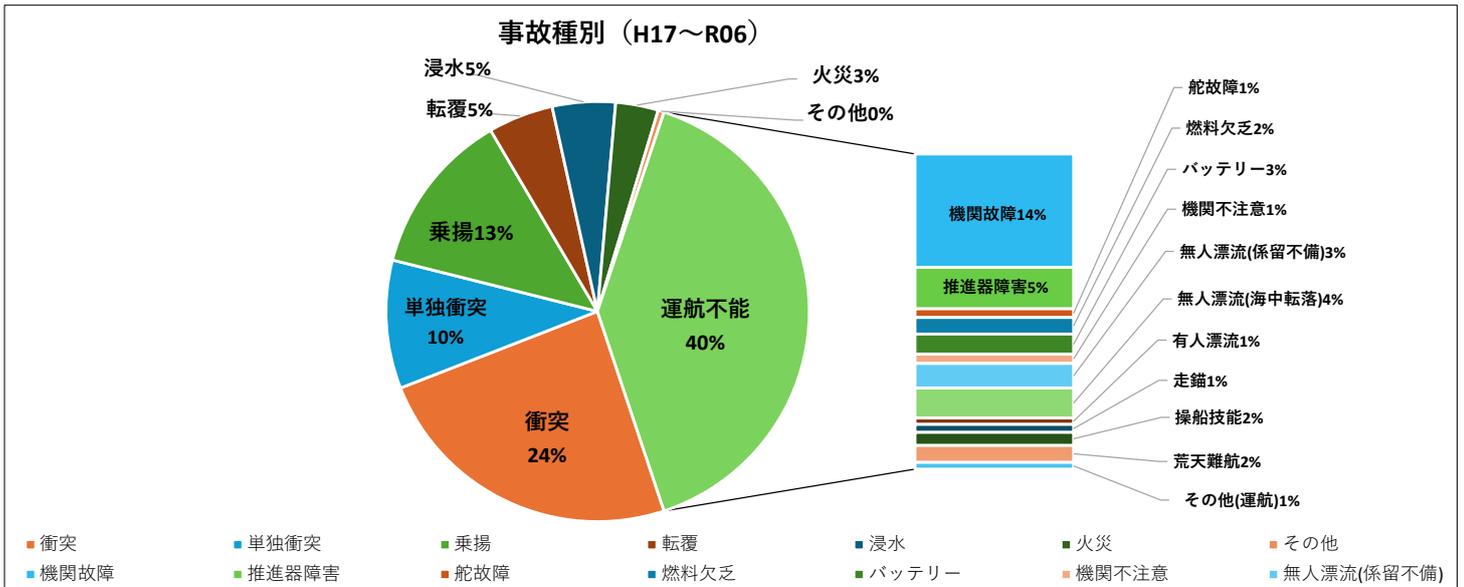


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	24	30	53	31	32	41	25	20	32	16	24	18	16	30	33	27	11	24	36	18	541
三河	8	10	18	13	9	30	3	12	16	11	21	12	6	7	2	6	10	7	12	9	222
衣浦	13	17	23	12	20	19	21	20	17	16	19	9	28	12	22	20	18	17	3	13	339
計	45	57	94	56	61	90	49	52	65	43	64	39	50	49	57	53	39	48	51	40	1102

(2) 事故種別の割合

○運航不能が最も多く439隻(40%)を占め、次いで衝突266隻(24%)、乗揚139隻(13%)

○運航不能の内訳は機関故障が最も多く158隻(全体14%)を占め、次いで推進器障害58隻(全体5%)



衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)													計
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)	
266	109	139	55	53	36	5	439	158	58	12	23	28	13	34	42	9	11	18	24	9	1102

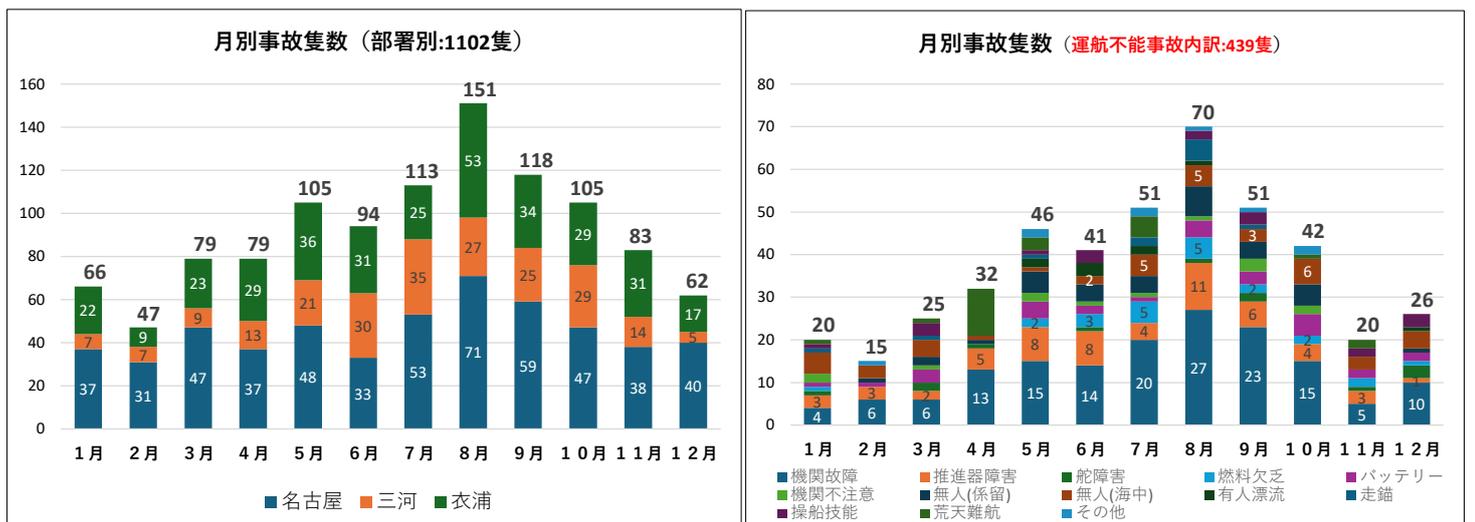
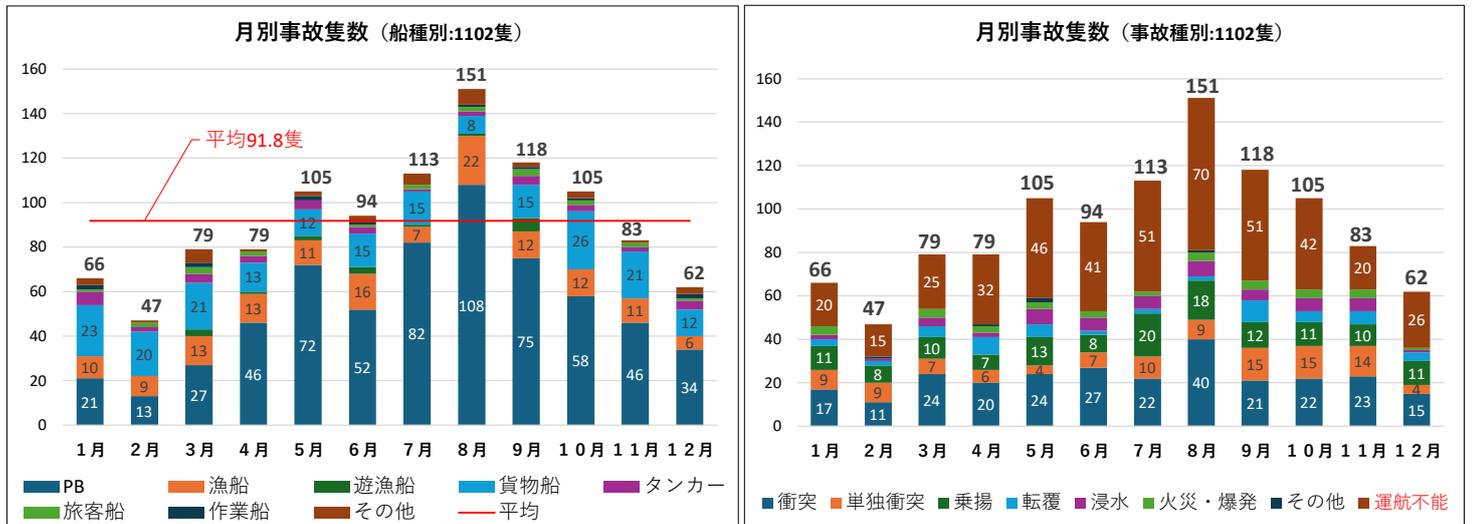
(3) 月別の事故隻数

○8月が最も多く151隻、次いで9月118隻、7月113隻となっており、5月から10月までは平均以上の事故隻数

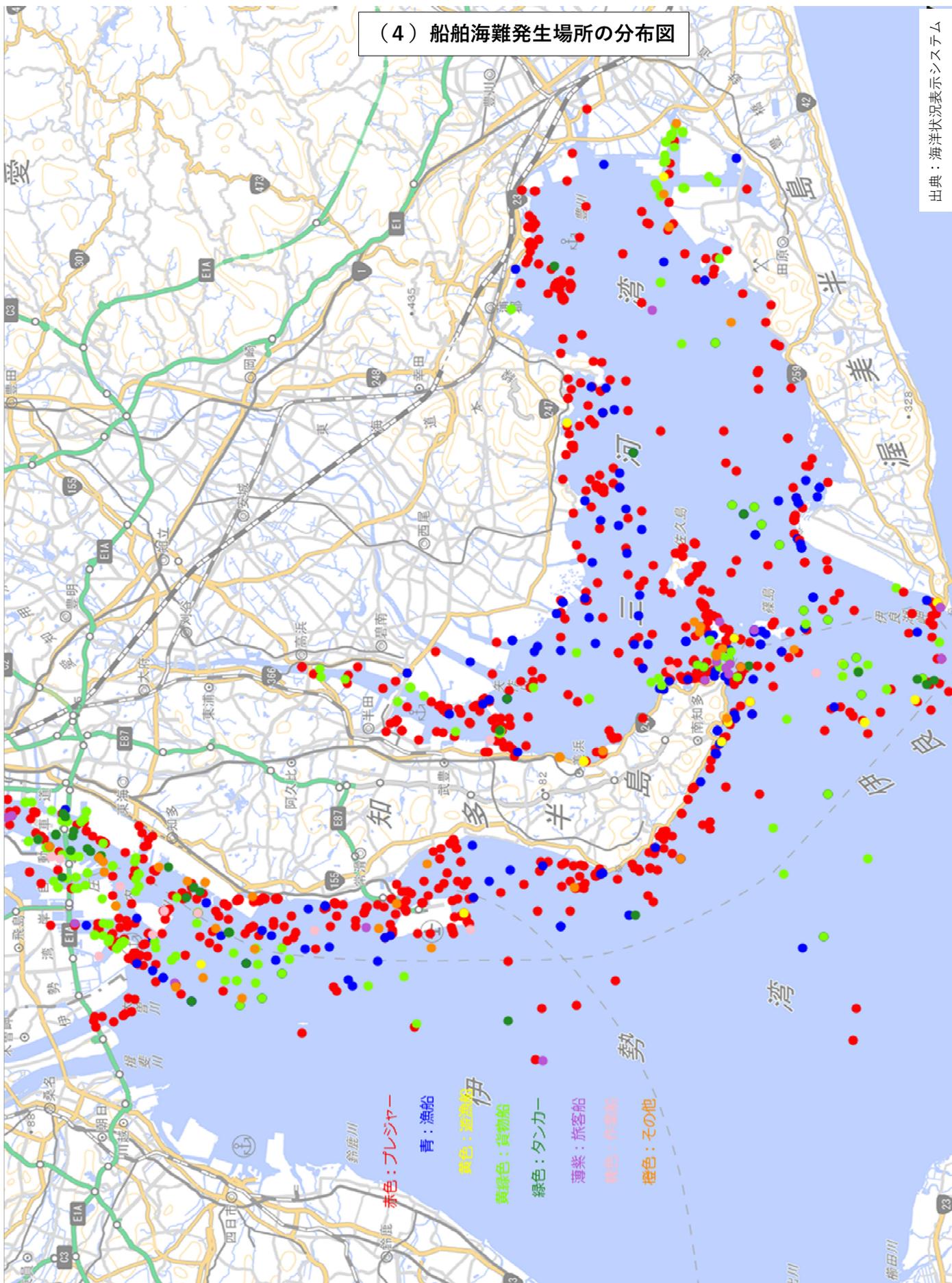
○名古屋(71隻)、衣浦(53隻)は8月が最も多く、三河(35隻)は7月が最も多い

○隻数が多い月の海難種別をみると、運航不能、衝突、乗揚が発生

○隻数が多い月の運航不能の内訳は、機関故障、推進器障害、無人漂流(海中転落)、燃料欠乏が発生



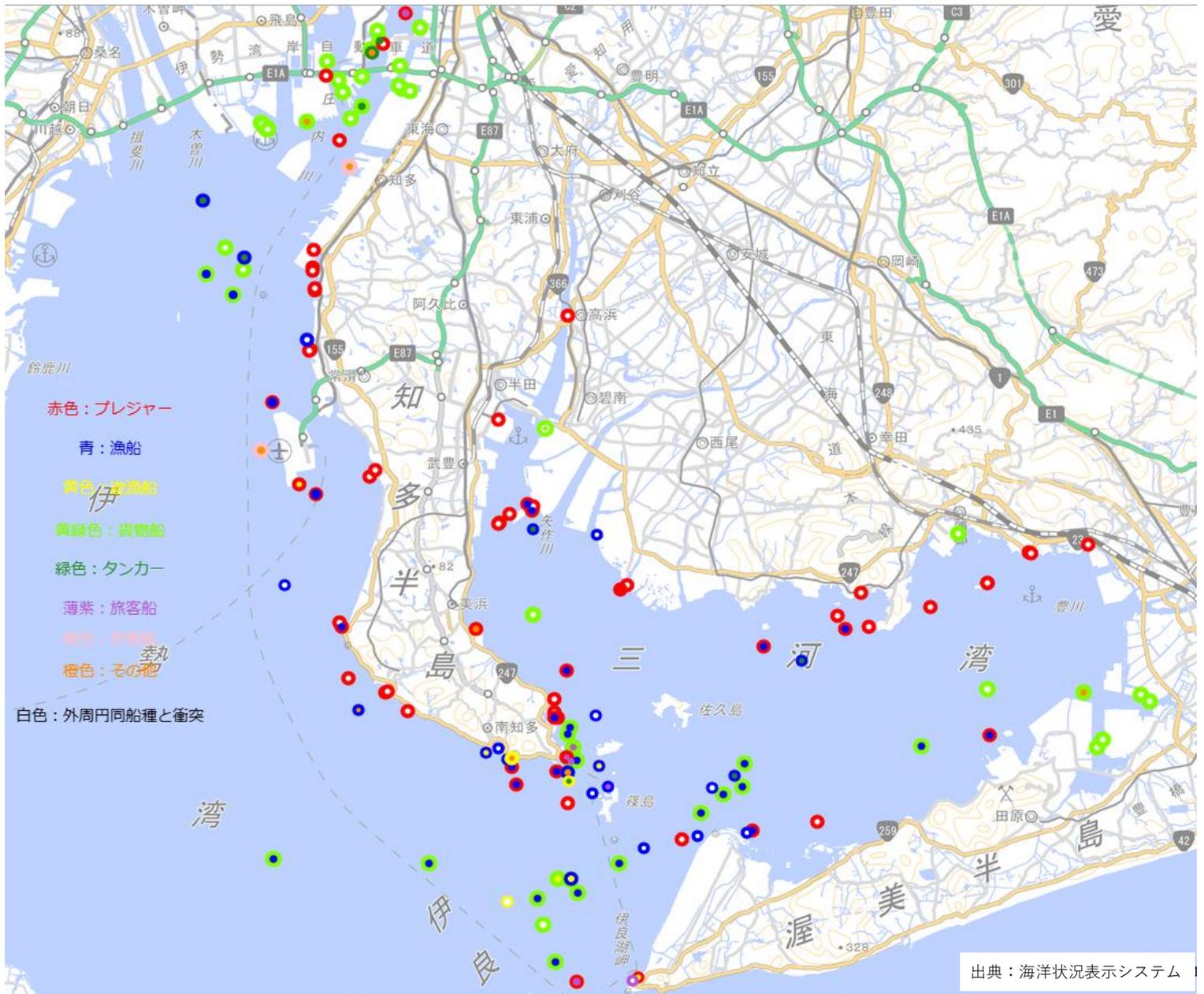
(4) 船舶海難発生場所の分布図



出典：海洋状況表示システム

- 赤色：プレジャー
- 青色：漁船
- 黄色：遊漁船
- 黄緑色：貨物船
- 緑色：タンカー
- 薄紫：旅客船
- 桃色：作業船
- 橙色：その他

(5) 衝突海難の発生場所分布図



【名古屋担任水域内（中部基地管内を除く）】

	●プレジャー(PB)	●漁船	●遊漁船	●貨物船	●タンカー	●旅客船	●作業船	●その他	計
●プレジャー(PB)	70	12	1	0	0	3	0	1	87
●漁船	12	16	4	17	5	1	0	2	57
●遊漁船	1	4	2	1	1	0	0	1	10
●貨物船	0	17	1	64	2	2	0	2	88
●タンカー	0	5	1	2	0	0	0	1	9
●旅客船	3	1	0	2	0	2	0	0	8
●作業船	0	0	0	0	0	0	0	1	1
●その他	1	2	1	2	1	0	1	0	8
計	87	57	10	88	9	8	1	8	268

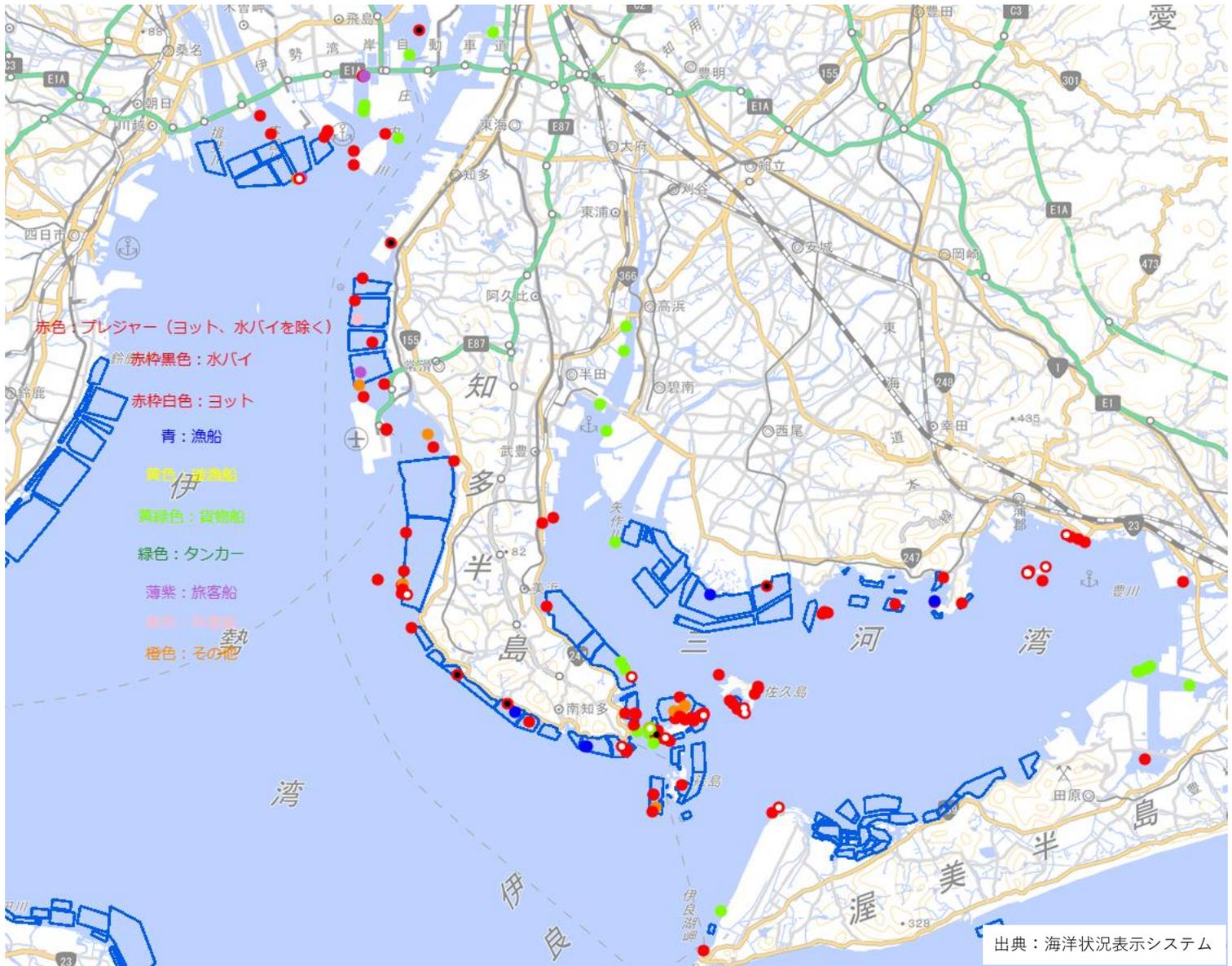
※中心が白色の円：外周円色の船種同士の衝突

※貨物船：貨物船3隻による衝突事案1件を含む

※衝突前に他の海難が発生した後、他船と衝突海難が発生した3隻を含む。

【貨物船（機関故障）×貨物船（衝突）、作業船（無人漂流）×その他（衝突）、PB（単独衝突）×遊漁船（衝突）】

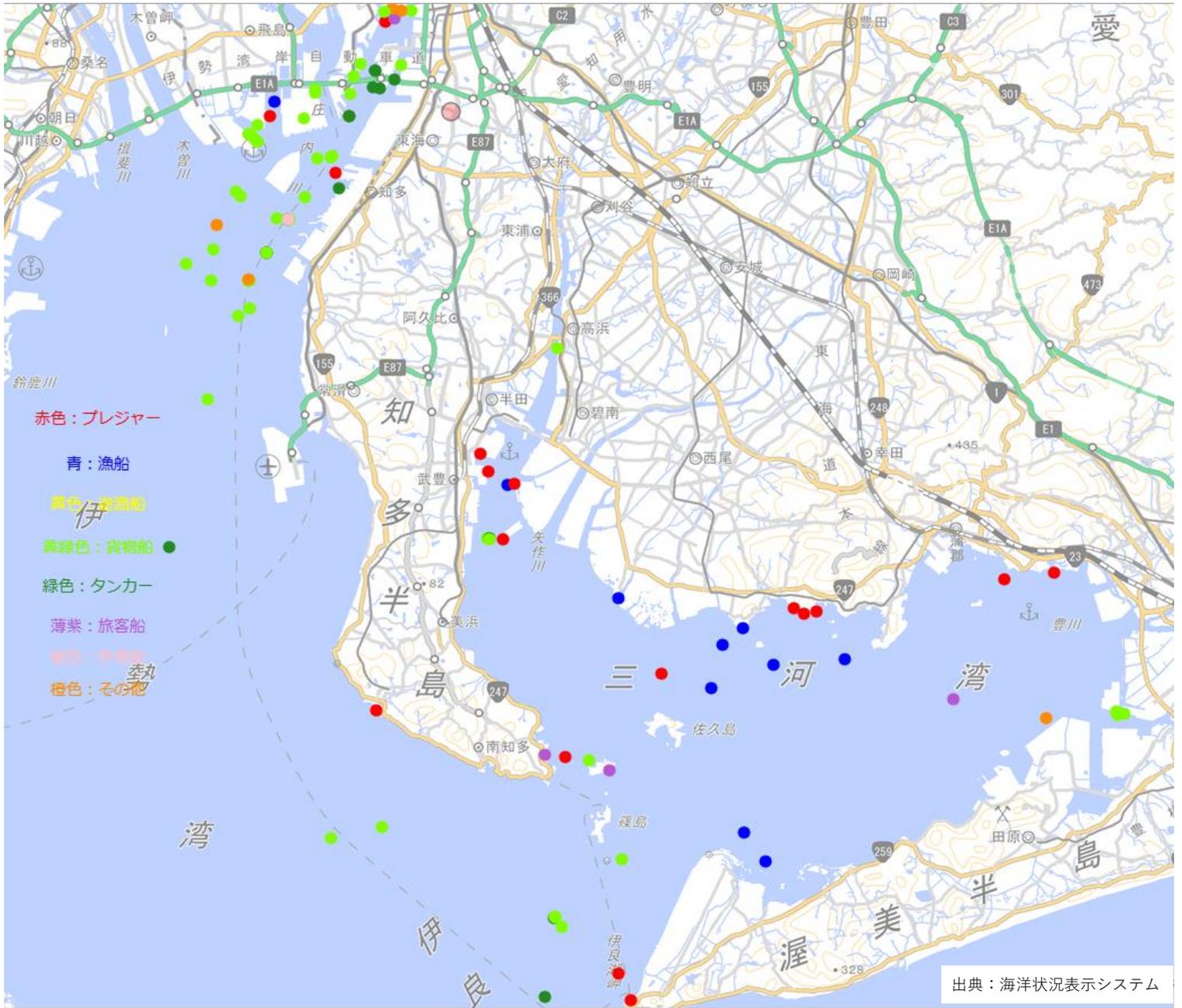
(6) 乗揚げ海難の発生場所分布図



※青線枠は区画漁業権を表示

- プレジャー（ヨット、水バイを除く）
- 赤枠黒色：水上オートバイ
- 赤枠白色：ヨット
- 漁船
- 遊漁船
- 貨物船
- タンカー
- 旅客船
- 作業船
- その他

(7) 単独衝突海難の発生場所分布図



※単独衝突：岸壁、海上構造物、ブイ、漂流物等との衝突

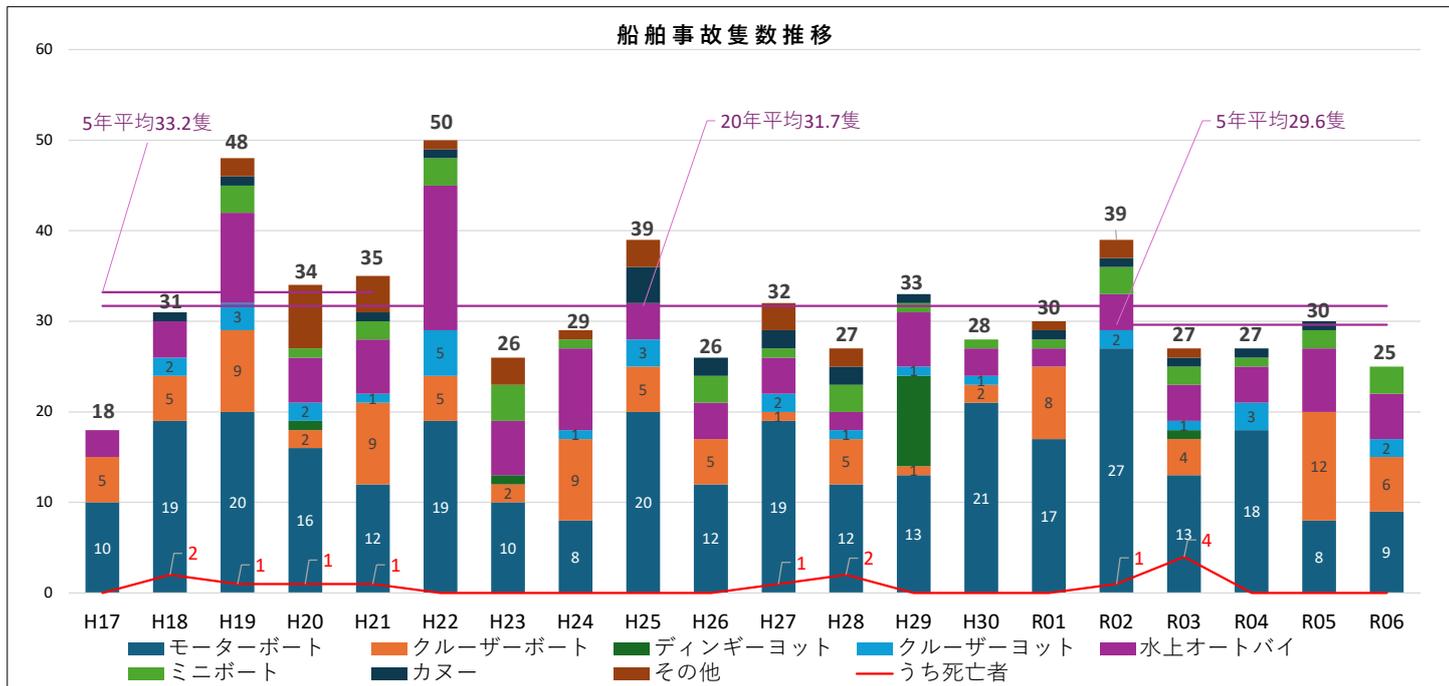
- プレジャー
- 漁船
- 遊漁船
- 貨物船
- タンカー
- 旅客船
- 作業船
- その他

I 船舶海難

2 プレジャーボート(PB)海難の発生状況

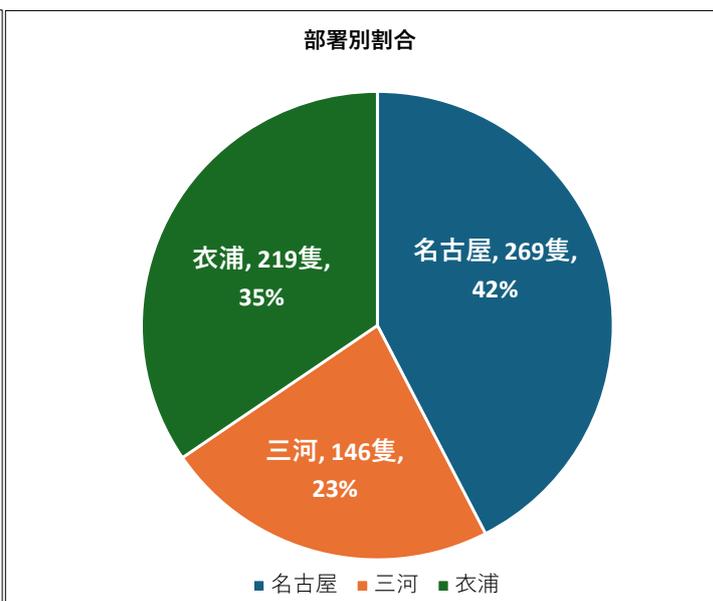
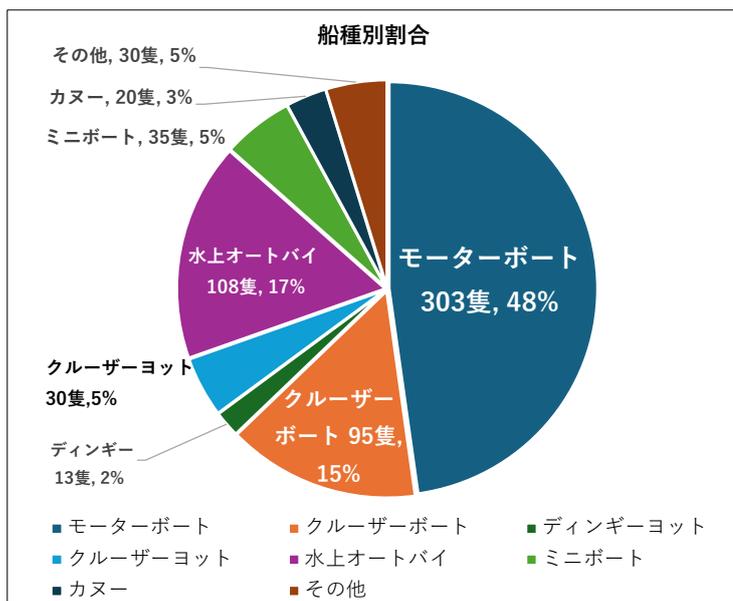
(1) 事故隻数の推移

- 過去20年間の海難隻数は634隻で、モーターボート（48%）が最も多く、次いで水パイ（17%）、クルーザーボート（15%）が占める
- 年間平均は約32隻。H17～H21年まで5年間の平均33隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は30隻でほぼ横ばいの状況
- 部署別では名古屋269隻（42%）を占め次いで衣浦約219隻（35%）、三河146隻（23%）
- 船舶海難に伴う死者は13人発生



船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
モーターボート	10	19	20	16	12	19	10	8	20	12	19	12	13	21	17	27	13	18	8	9	303
クルーザーボート	5	5	9	2	9	5	2	9	5	5	1	5	1	2	8	0	4	0	12	6	95
ディンギーヨット	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	10	0	0	0	1	0	0	0	13
クルーザーヨット	0	2	3	2	1	5	0	1	3	0	2	1	1	1	0	2	1	3	0	2	30
水上オートバイ	3	4	10	5	6	16	6	9	4	4	4	2	6	3	2	4	4	4	7	5	108
ミニボート	0	0	3	1	2	3	4	1	0	3	1	3	1	1	1	3	2	1	2	3	35
カヌー	0	1	1	0	1	1	0	0	4	2	2	2	1	0	1	1	1	1	1	0	20
その他	0	0	2	7	4	1	3	1	3	0	3	2	0	0	1	2	1	0	0	0	30
計	18	31	48	34	35	50	26	29	39	26	32	27	33	28	30	39	27	27	30	25	634
死亡者数	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	4	0	0	0	13

※その他：手漕ボート・ゴムボート

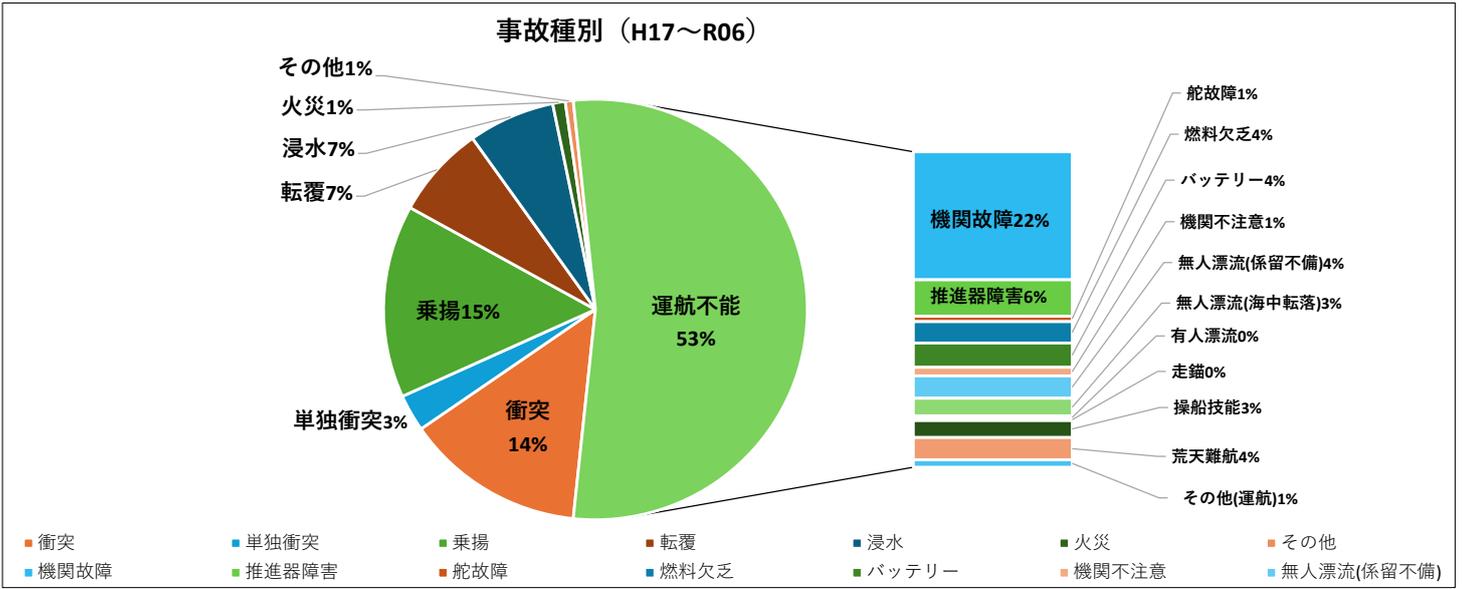


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	9	12	26	17	18	17	11	12	14	10	14	10	7	14	13	18	6	12	18	11	269
三河	3	8	7	12	6	21	2	8	9	6	11	9	4	5	2	3	7	7	9	7	146
衣浦	6	11	15	5	11	12	13	9	16	10	7	8	22	9	15	18	14	8	3	7	219
計	18	31	48	34	35	50	26	29	39	26	32	27	33	28	30	39	27	27	30	25	634

(2) 事故種別の割合

○運航不能が最も多く338隻(53%)を占め、次いで乗揚94隻(15%)、衝突87隻(14%)

○運航不能の内訳は機関故障が最も多く137隻(全体22%)を占め、次いで推進器障害39隻(全体6%)



衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)														計
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)		
87	18	94	45	42	6	4	338	137	39	6	23	26	9	24	19	3	2	18	24	8	634	

(3) 月別の事故隻数

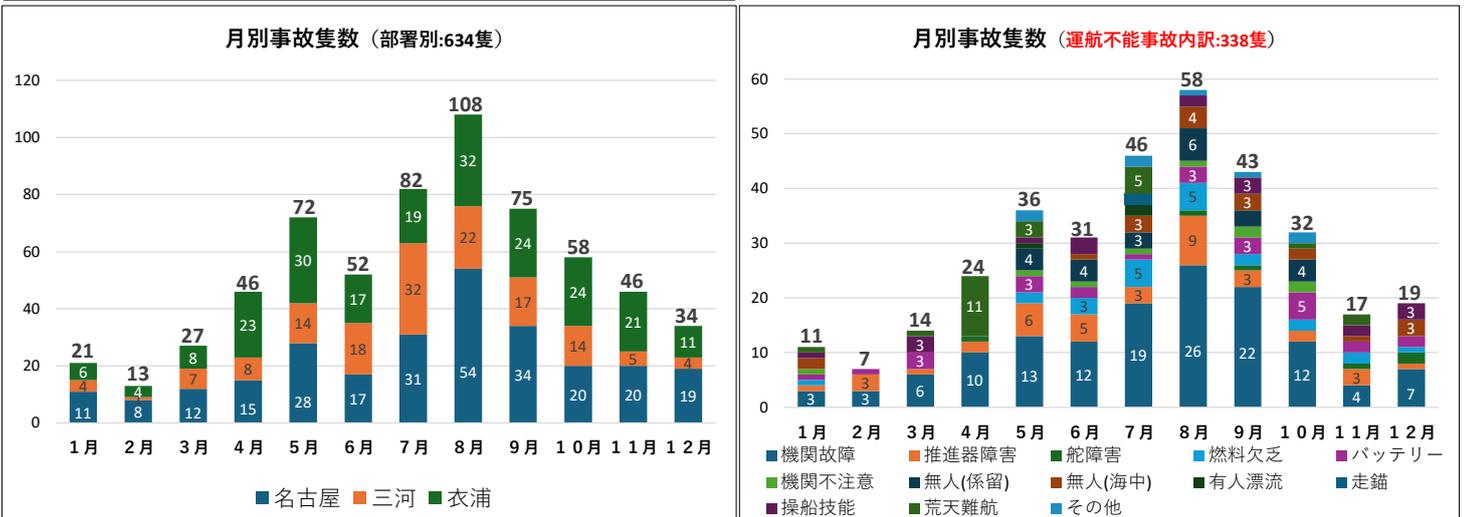
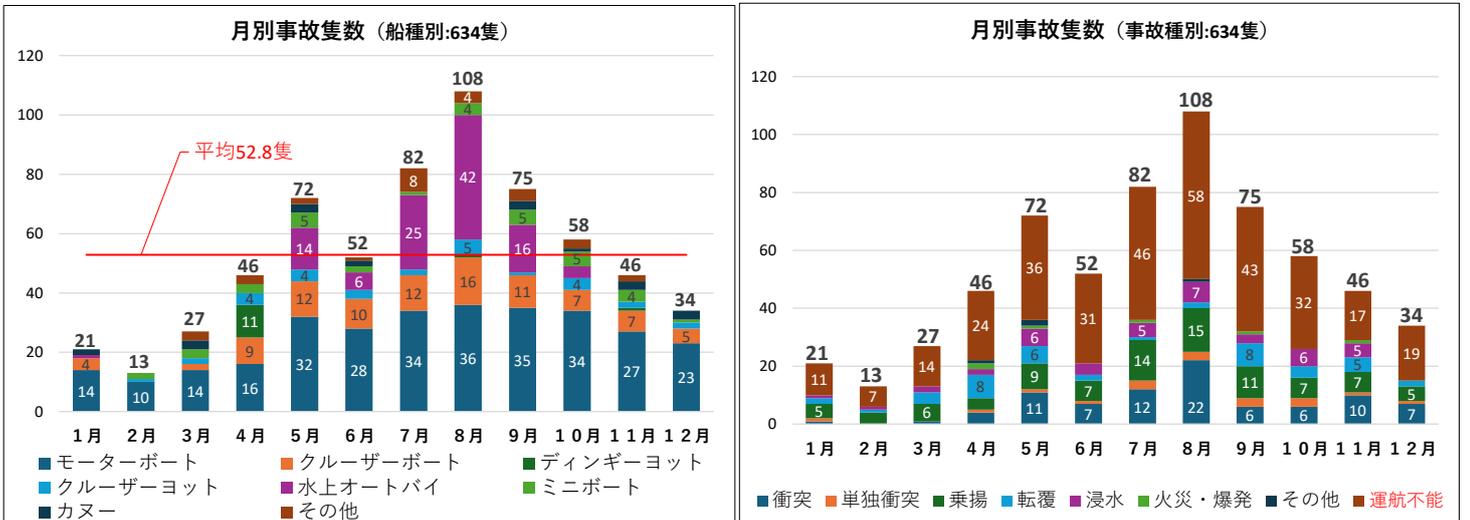
○8月が最も多く108隻、次いで7月82隻、9月75隻となっており、5月、7月から10月までは平均以上の事故隻数となっている

○名古屋(54隻)、衣浦(32隻)は8月が最も多く、三河(32隻)は7月が最も多い

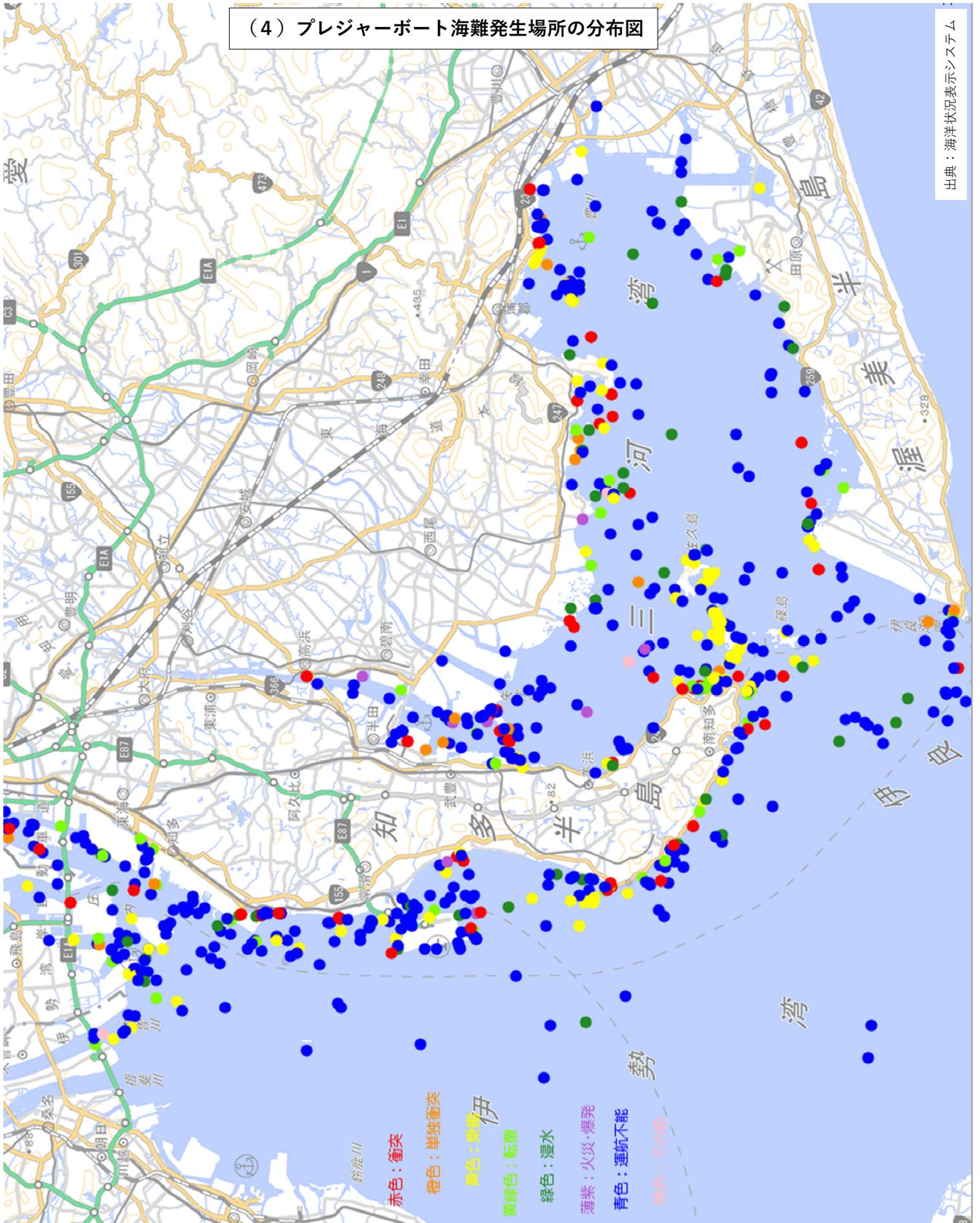
○隻数が多い月の海難種別をみると、運航不能、衝突、乗揚が発生

○隻数が多い月の運航不能の内訳は、機関故障、推進器障害、燃料欠乏が発生

○4月のディンギーヨット海難11隻のうち10隻は高等学校ヨット部のヨット10艇が突然の強風のため相次いで転覆したもの



(4) プレジャーボート海難発生場所の分布図



出典：海洋状況表示システム

I 船舶海難

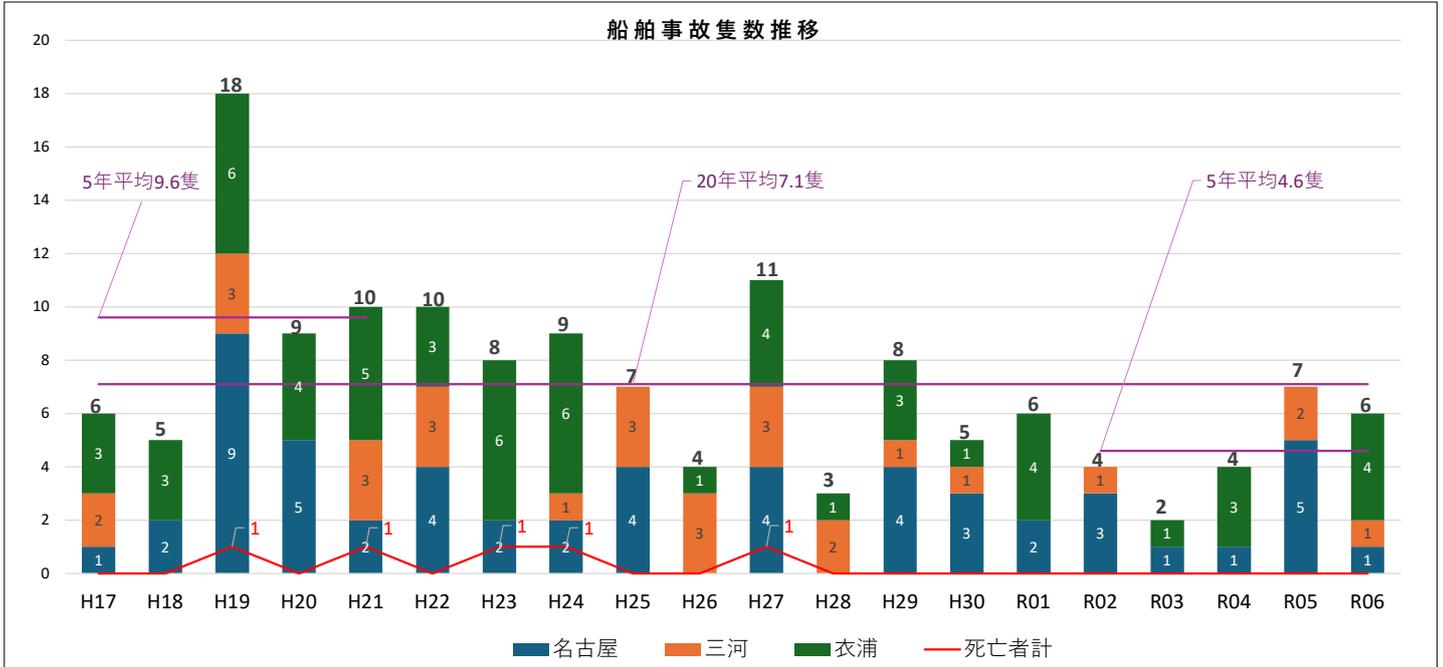
3 漁船海難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

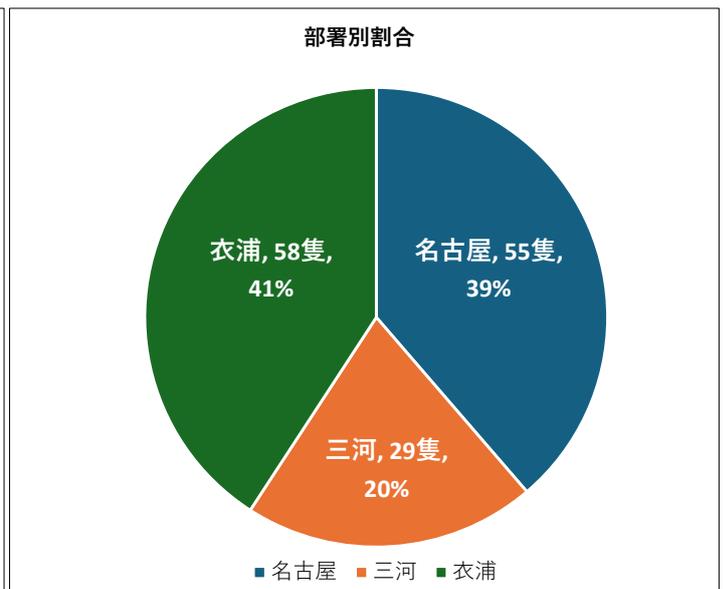
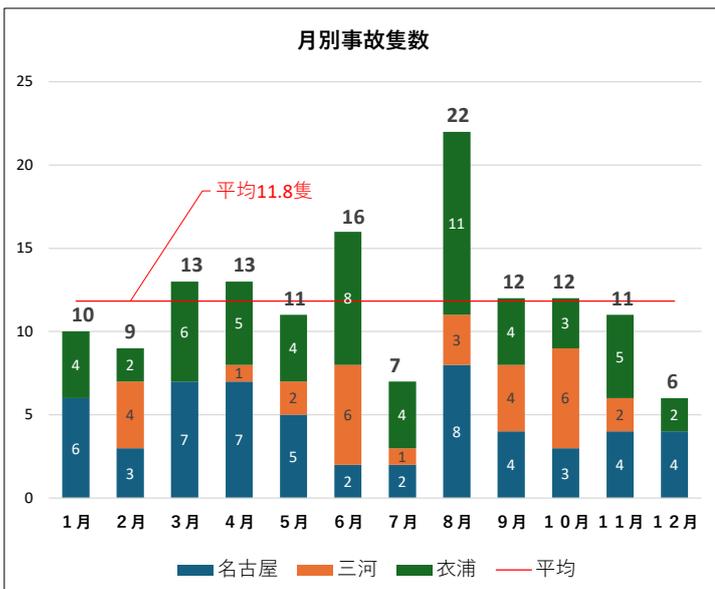
○過去20年間の海難隻数は142隻で、船舶海難に伴う死者は5人発生

○年間平均は約7隻。H17～H21年まで5年間の平均9.6隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は4.6隻で減少傾向（約5割減）

○部署別では衣浦58隻（約41%）を占め、次いで名古屋が55隻（約39%）、三河29隻（約20%）

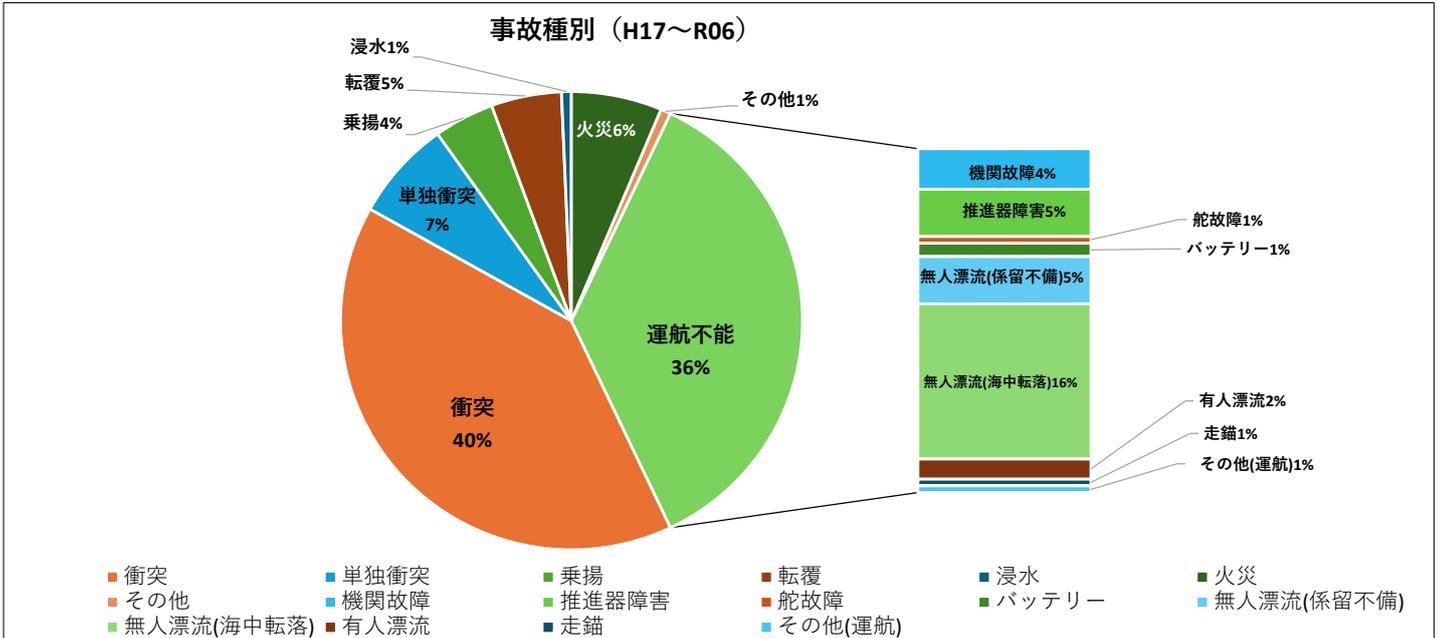


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	1	2	9	5	2	4	2	2	4	0	4	0	4	3	2	3	1	1	5	1	55
死者数	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
三河	2	0	3	0	3	3	0	1	3	3	3	2	1	1	0	1	0	0	2	1	29
死者数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
衣浦	3	3	6	4	5	3	6	6	0	1	4	1	3	1	4	0	1	3	0	4	58
死者数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	6	5	18	9	10	10	8	9	7	4	11	3	8	5	6	4	2	4	7	6	142
死者数計	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5



(2) 事故種別の割合

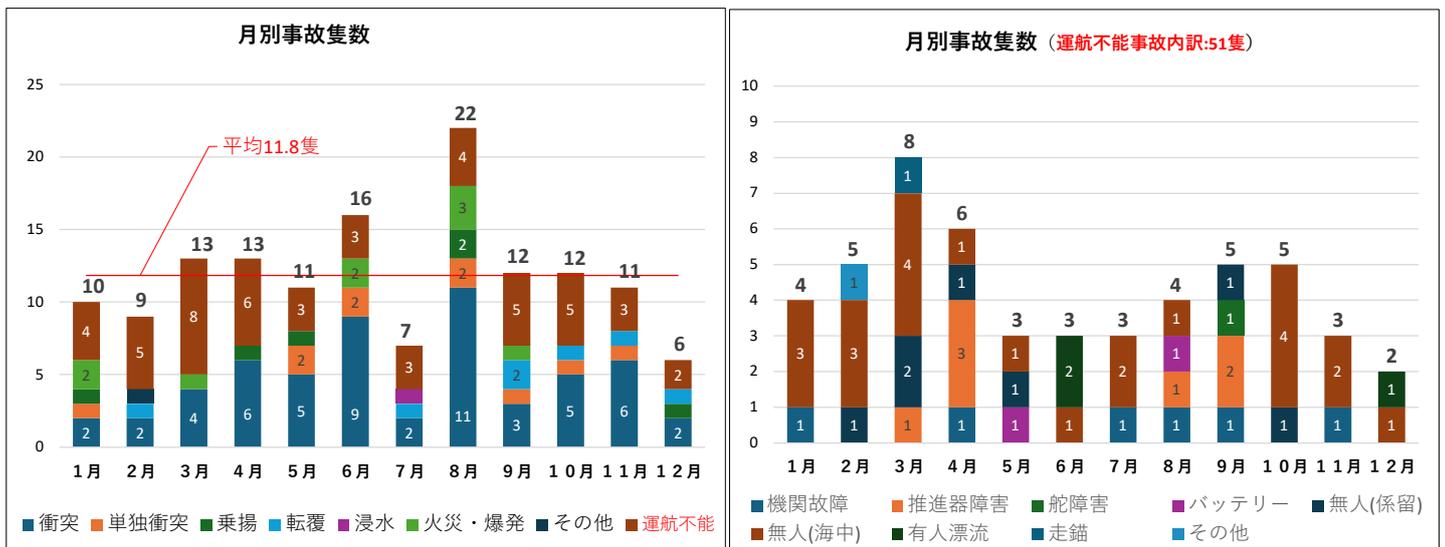
○衝突が最も多く57隻(40%)を占め、次いで運航不能51隻(36%)
 ○運航不能の内訳は、乗船者の海中転落による無人漂流が23隻(全体の16%)と最も多い



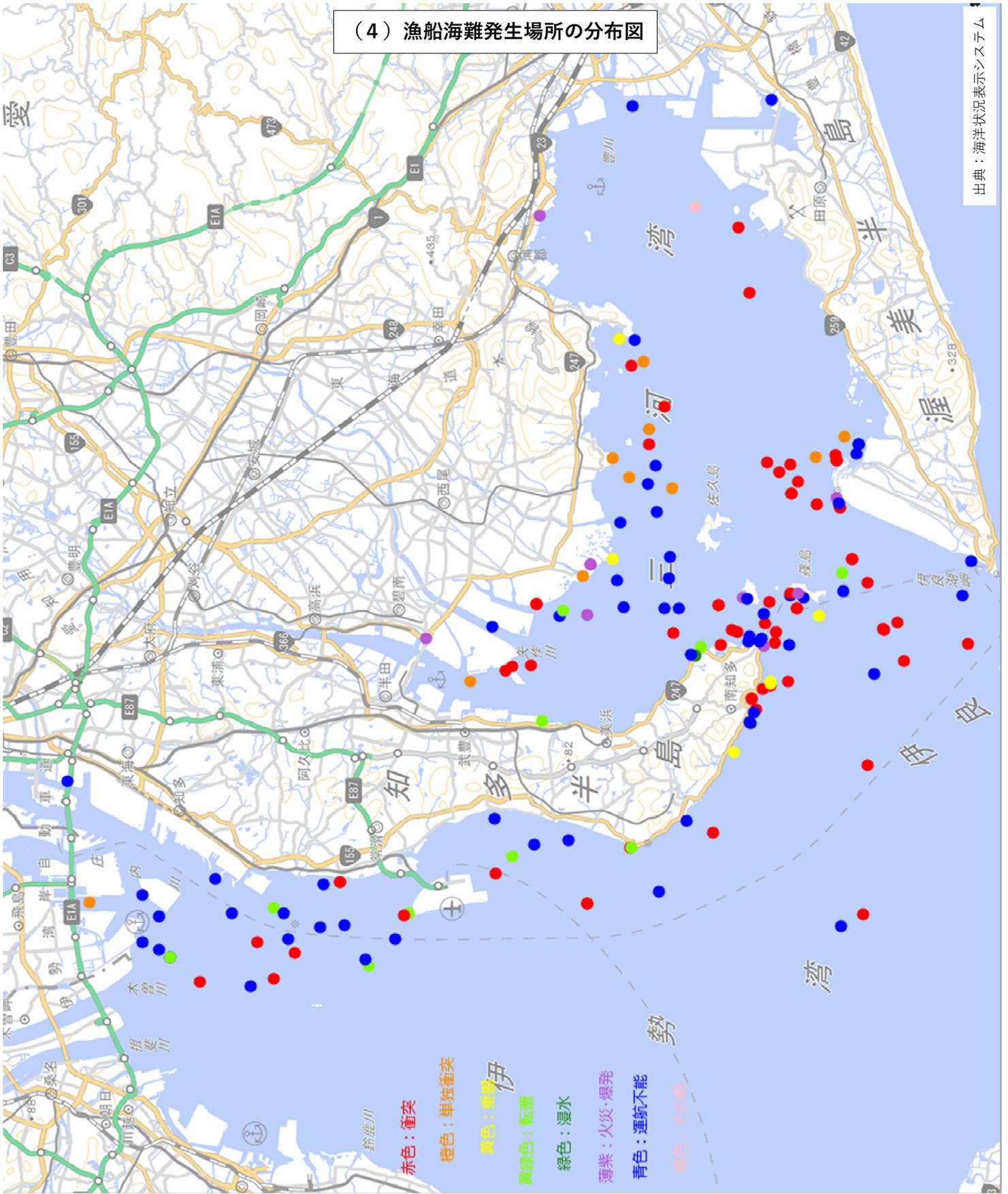
衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)											計		
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能		荒天離航	その他(運航)
57	10	6	7	1	9	1	51	6	7	1	0	2	0	7	23	3	1	0	0	1	142

(3) 月別の事故隻数

○8月が最も多く22隻、次いで6月16隻
 ○隻数が多い月の海難種別をみると、衝突、運航不能が発生
 ○運航不能を月別で見ると3月が8隻と最も多く、その内訳は無人漂流(海中転落)が4隻(50%)を占める



(4) 漁船海難発生場所の分布図



出典：海洋状況表示システム

I 船舶海難

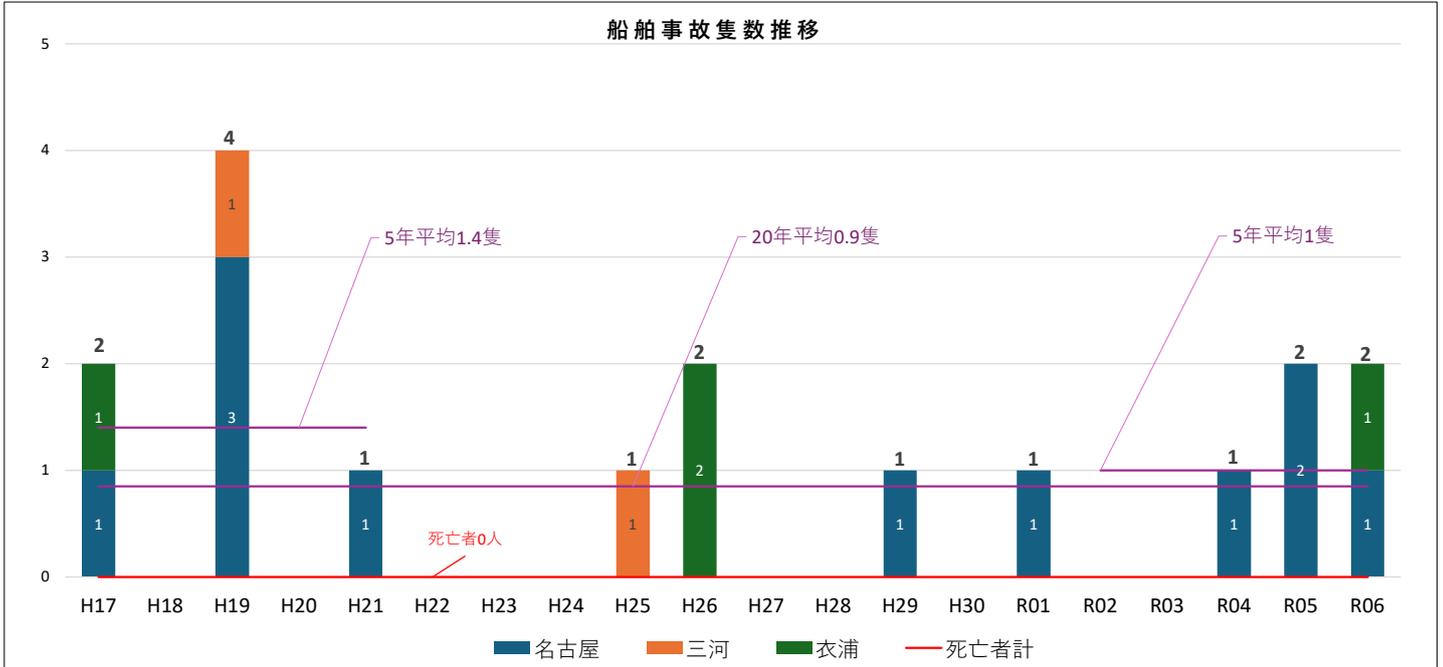
4 遊漁船海難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

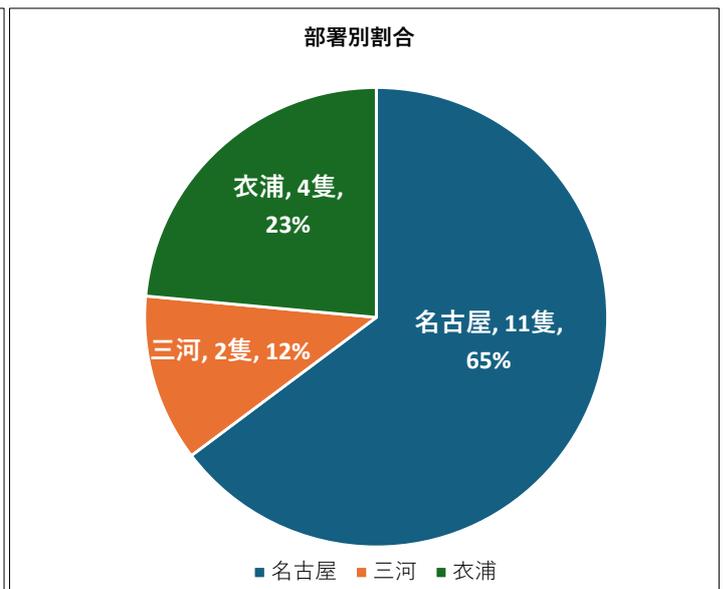
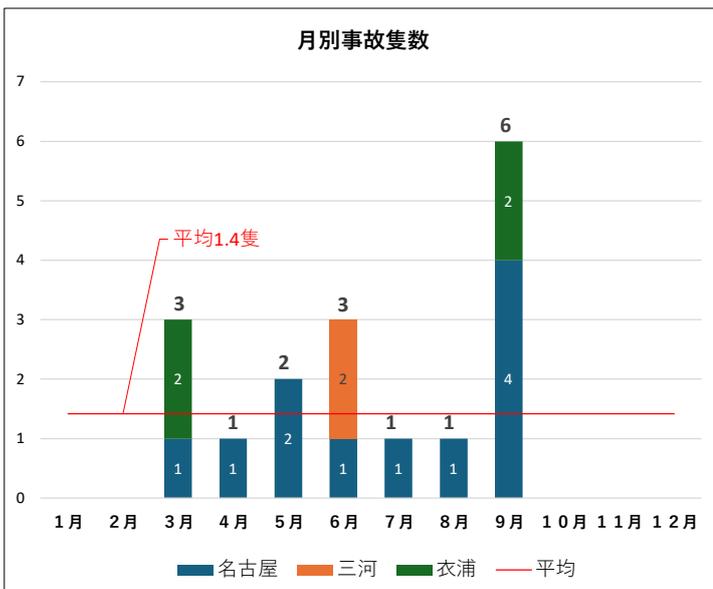
○過去20年間の海難隻数は17隻で、船舶海難に伴う死者の発生は無し

○年間平均は0.9隻。H17～H21年まで5年間の平均1.4隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は1隻でほぼ横ばいの状況

○部署別では名古屋11隻（65%）を占め次いで衣浦約4隻（23%）、三河2隻（12%）

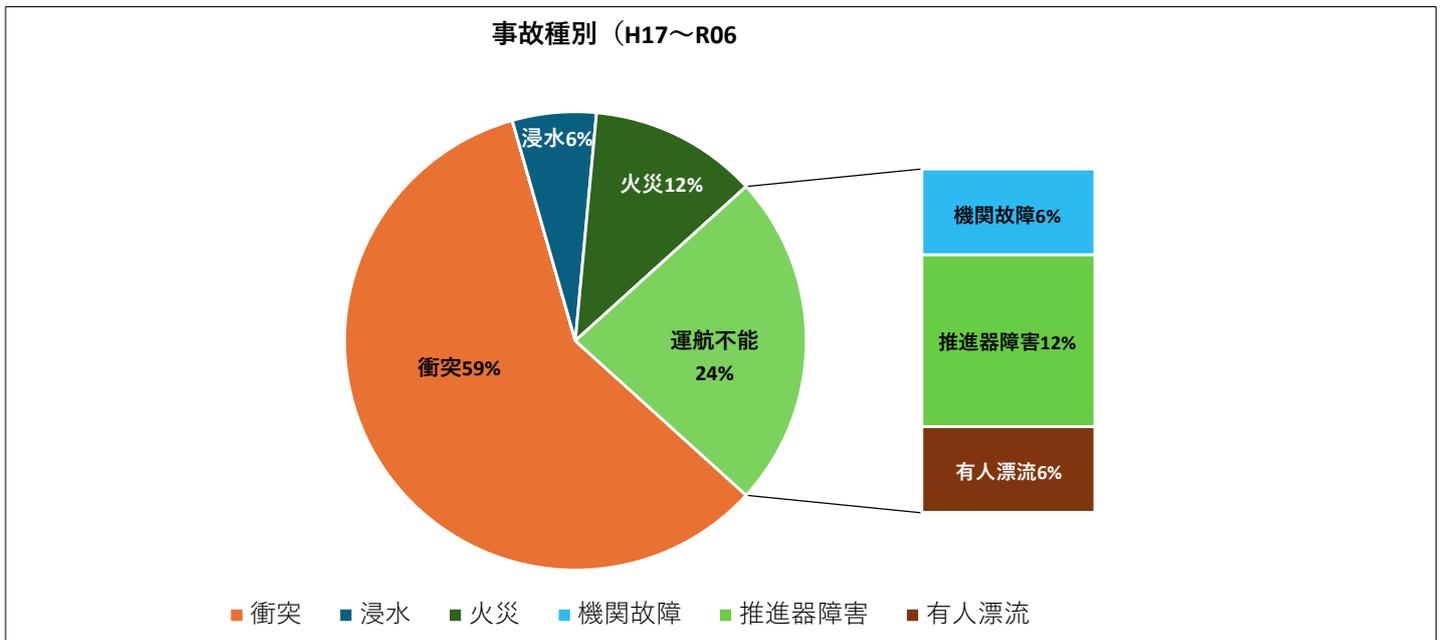


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	2	1	11
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三河	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
衣浦	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	0	4	0	1	0	0	0	1	2	0	0	1	0	1	0	0	1	2	2	17
死者数計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(2) 事故種別の割合

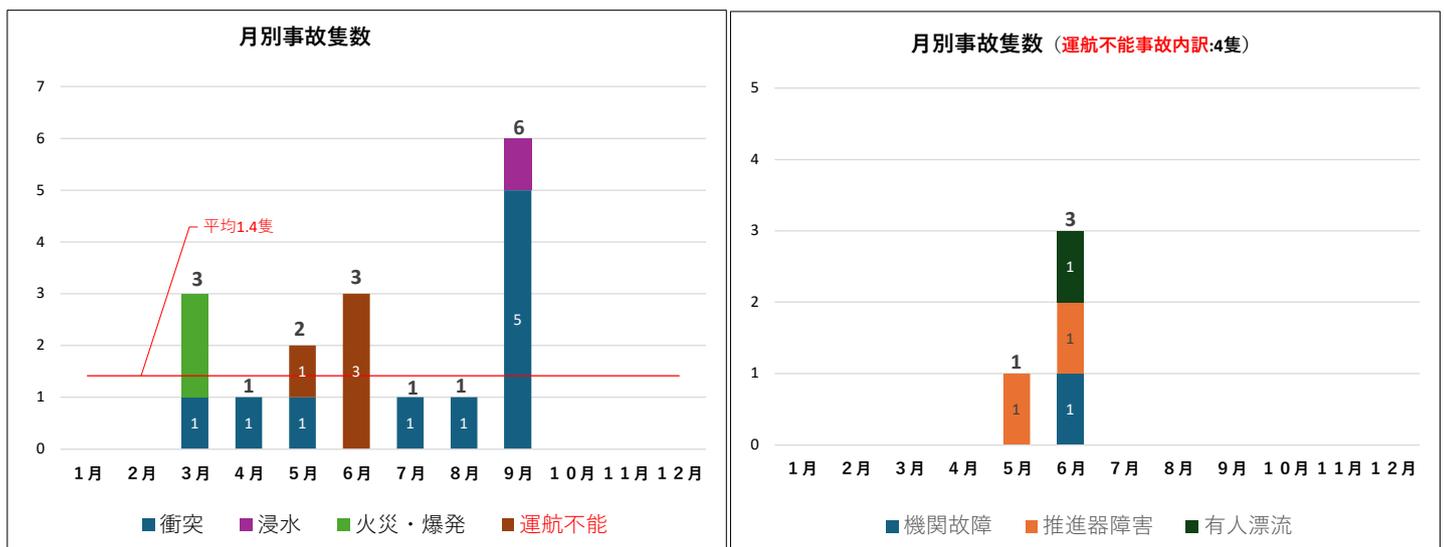
- 衝突が最も多く10隻（約60％）を占め、次いで運航不能4隻（24％）
- 運航不能の内訳は、推進器障害2隻、機関故障1隻、有人漂流1隻



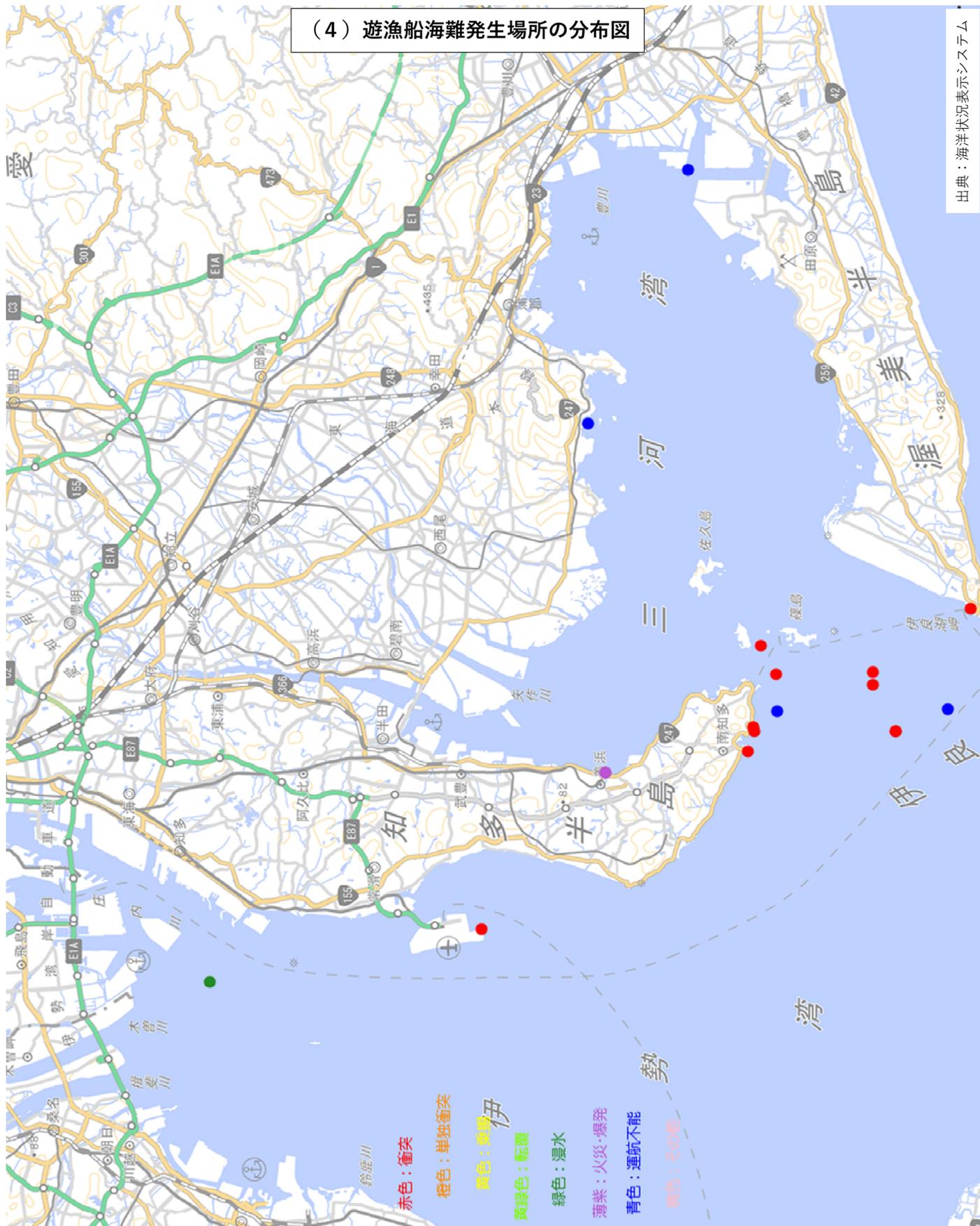
衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)											計			
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能		荒天離航	その他(運航)	
10	0	0	0	1	2	0	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	17

(3) 月別の事故隻数

- 3月～9月の間に発生し9月が最も多く6隻、次いで3月、6月が3隻
- 衝突海難10隻のうち9月に半分に当たるの5隻が発生
- 6月は運航不能が3隻発生し、その内訳は機関故障、推進器障害、舵故障



(4) 遊漁船海難発生場所の分布図



出典：海洋状況表示システム

I 船舶海難

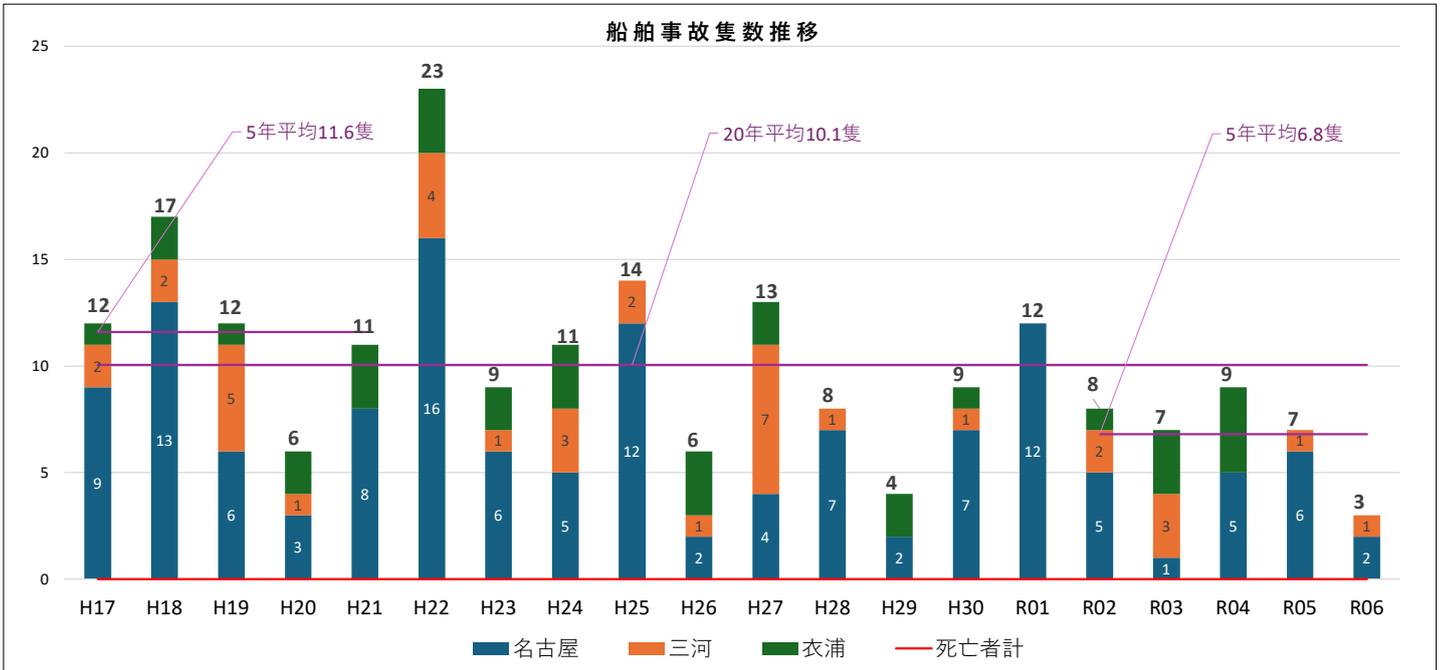
5 貨物船海難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

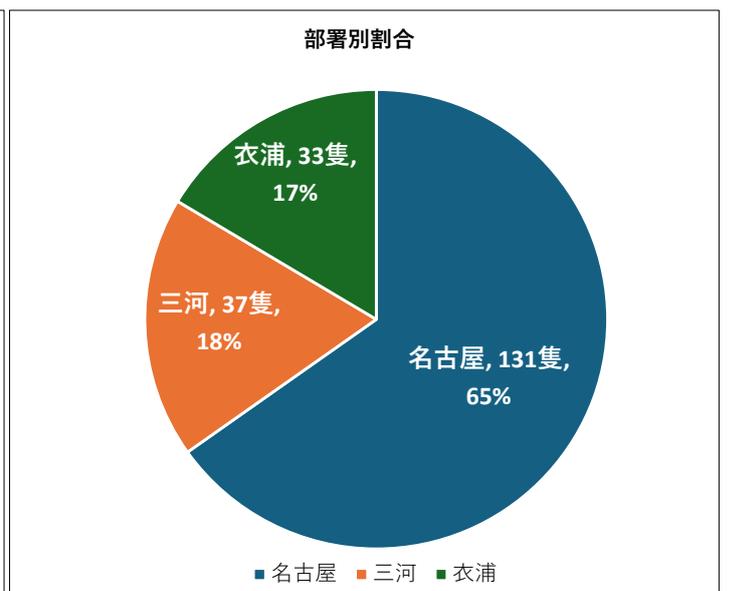
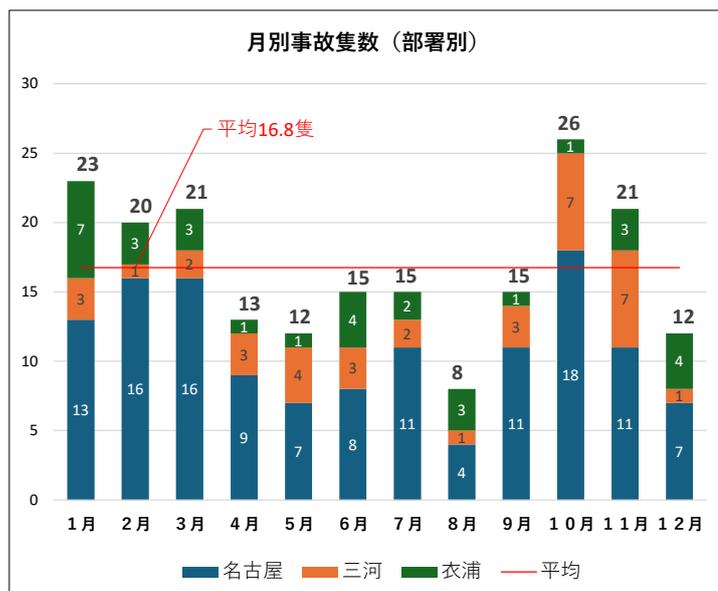
○過去20年間の海難隻数は201隻で、船舶海難に伴う死者の発生は無し

○年間平均は約10隻。H17～H21年まで5年間の平均約12隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は約7隻で減少傾向（約3割減）

○部署別では名古屋131隻（約65%）を占め次いで三河37隻（約18%）衣浦約33隻（約17%）

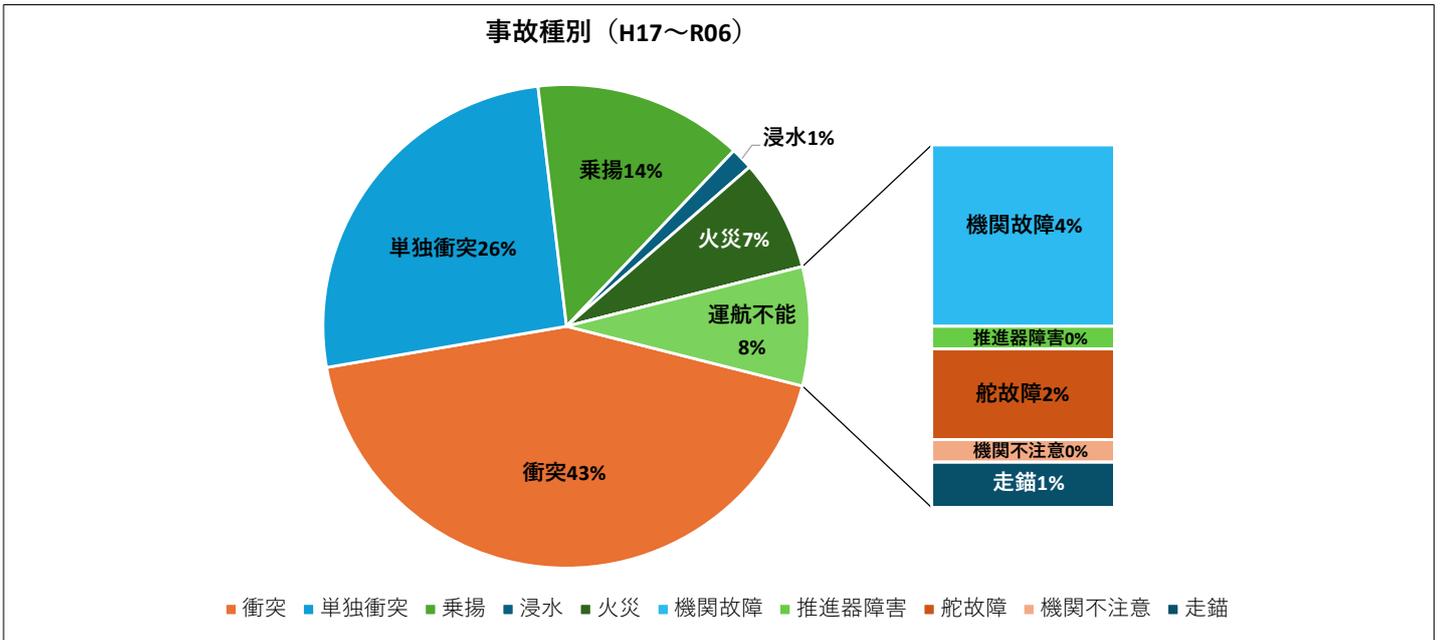


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	9	13	6	3	8	16	6	5	12	2	4	7	2	7	12	5	1	5	6	2	131
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三河	2	2	5	1	0	4	1	3	2	1	7	1	0	1	0	2	3	0	1	1	37
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
衣浦	1	2	1	2	3	3	2	3	0	3	2	0	2	1	0	1	3	4	0	0	33
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	12	17	12	6	11	23	9	11	14	6	13	8	4	9	12	8	7	9	7	3	201
死者数計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(2) 事故種別の割合

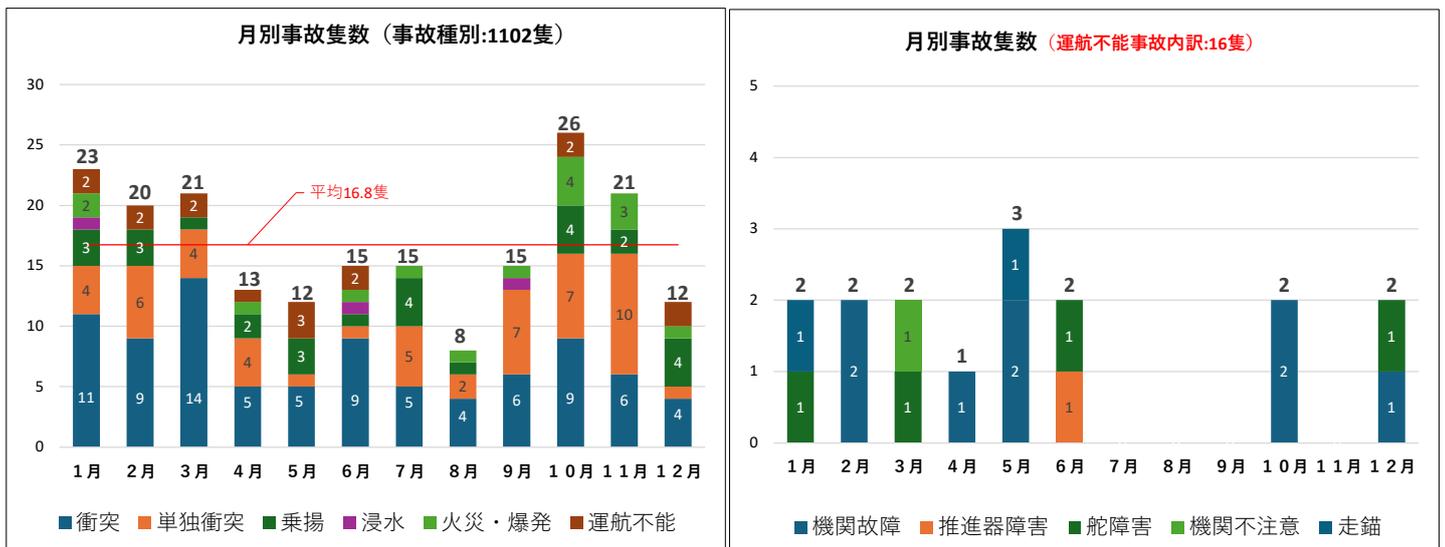
○衝突海難が最も多く87隻（43%）を占め、次いで単独衝突52隻（26%）、乗揚28隻（14%）
 ○運航不能の内訳は機関故障が最も多く8隻（全体4%）を占め、次いで舵故障4隻（全体2%）



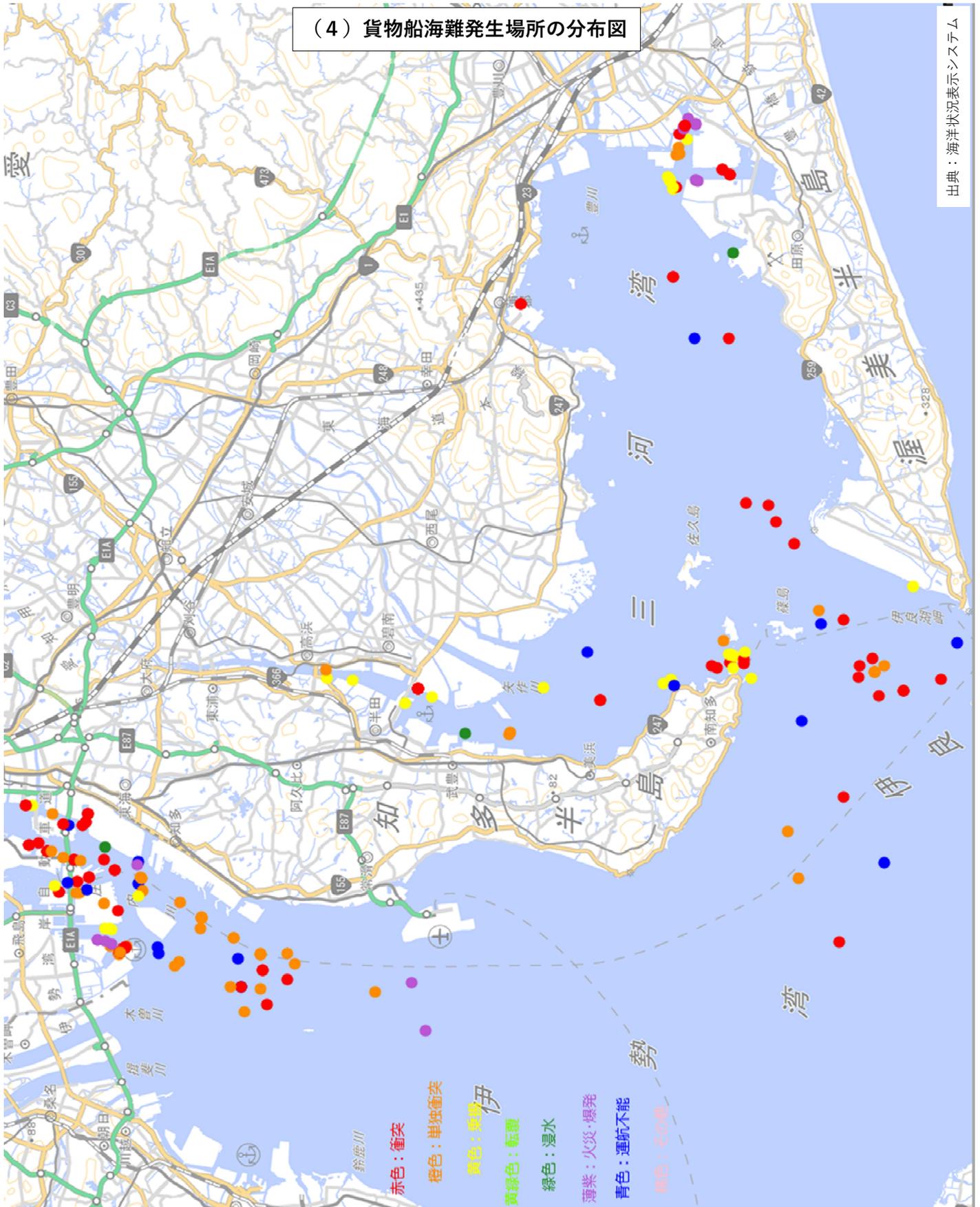
衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)													計	
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天離航	その他(運航)		
87	52	28	0	3	15	0	16	8	1	4	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	201

(3) 月別の事故隻数

○10月が最も多く26隻、12月を除く10月~3月までは月平均17隻以上の発生隻数
 ○各月において、衝突、単独衝突が多くを占める



(4) 貨物船海難発生場所の分布図



出典：海洋状況表示システム

I 船舶海難

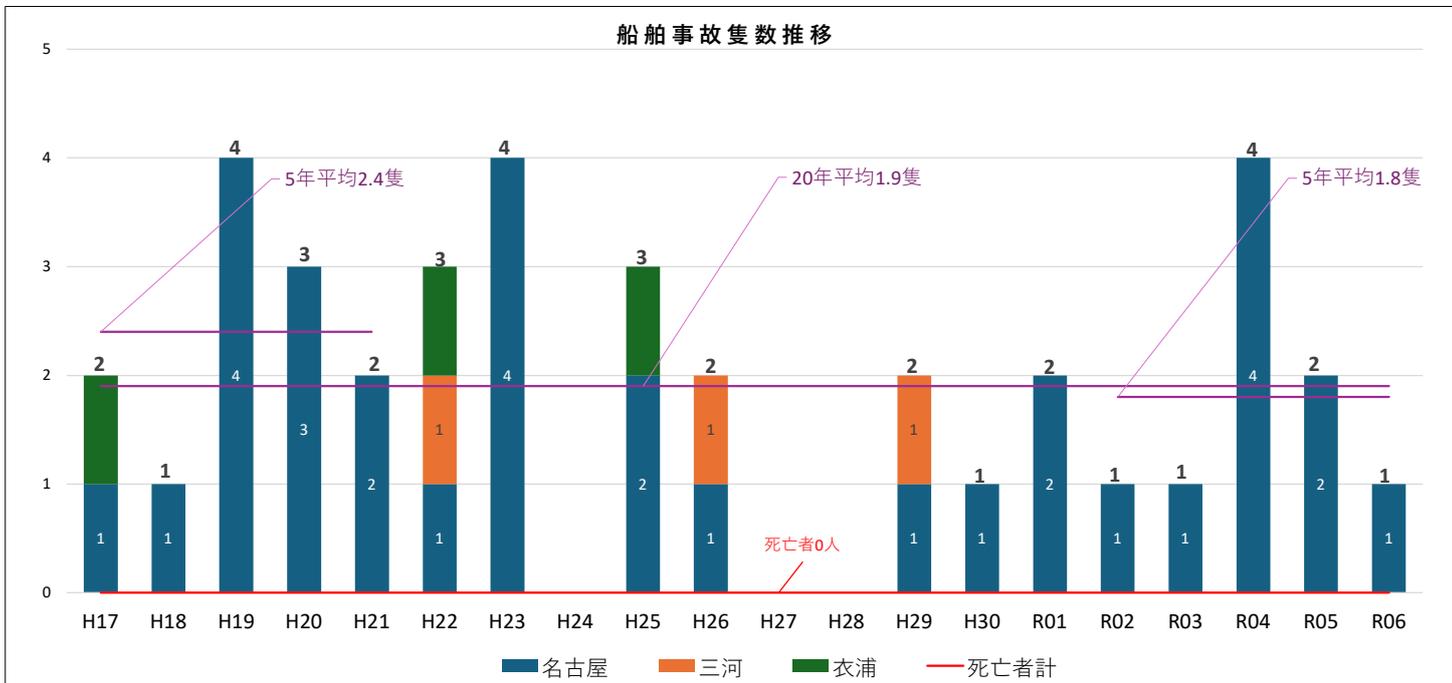
6 タンカー海難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

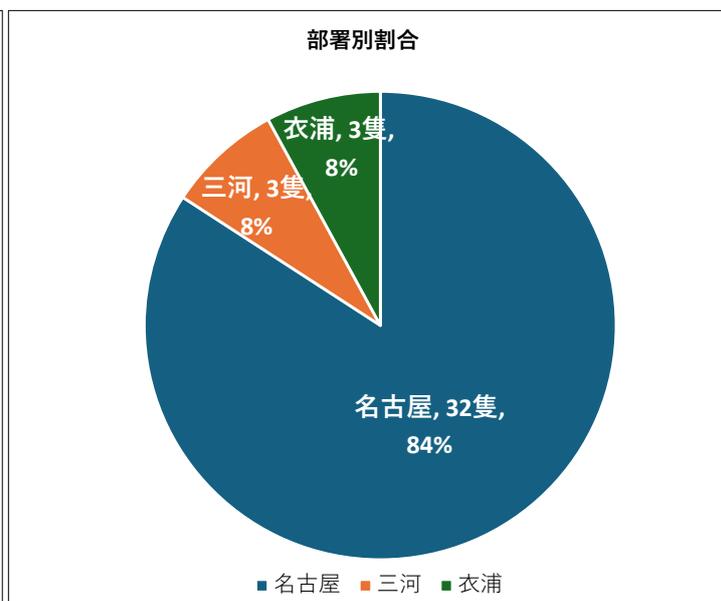
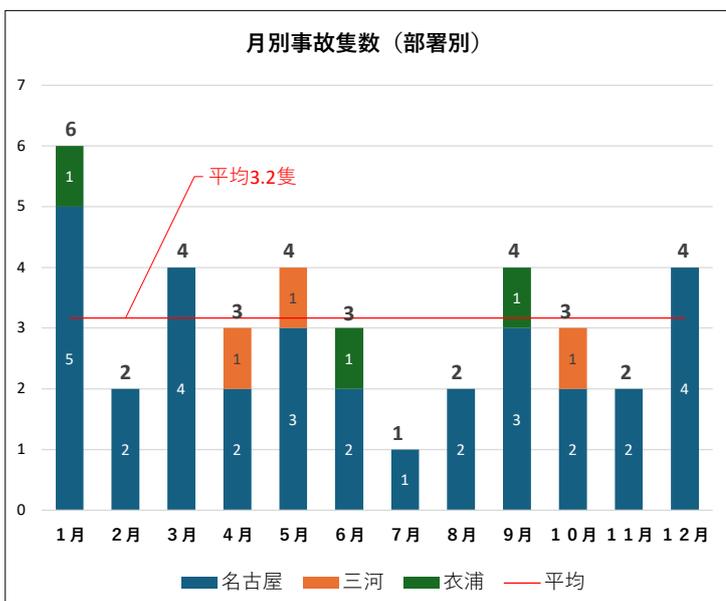
○過去20年間の海難隻数は38隻で、船舶海難に伴う死者の発生は無し

○年間平均は約2隻。H17～H21年まで5年間の平均2.4隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は1.8隻でほぼ横ばいの状況

○部署別では名古屋32隻（約84%）を占め、三河3隻（約8%）衣浦約3隻（約8%）

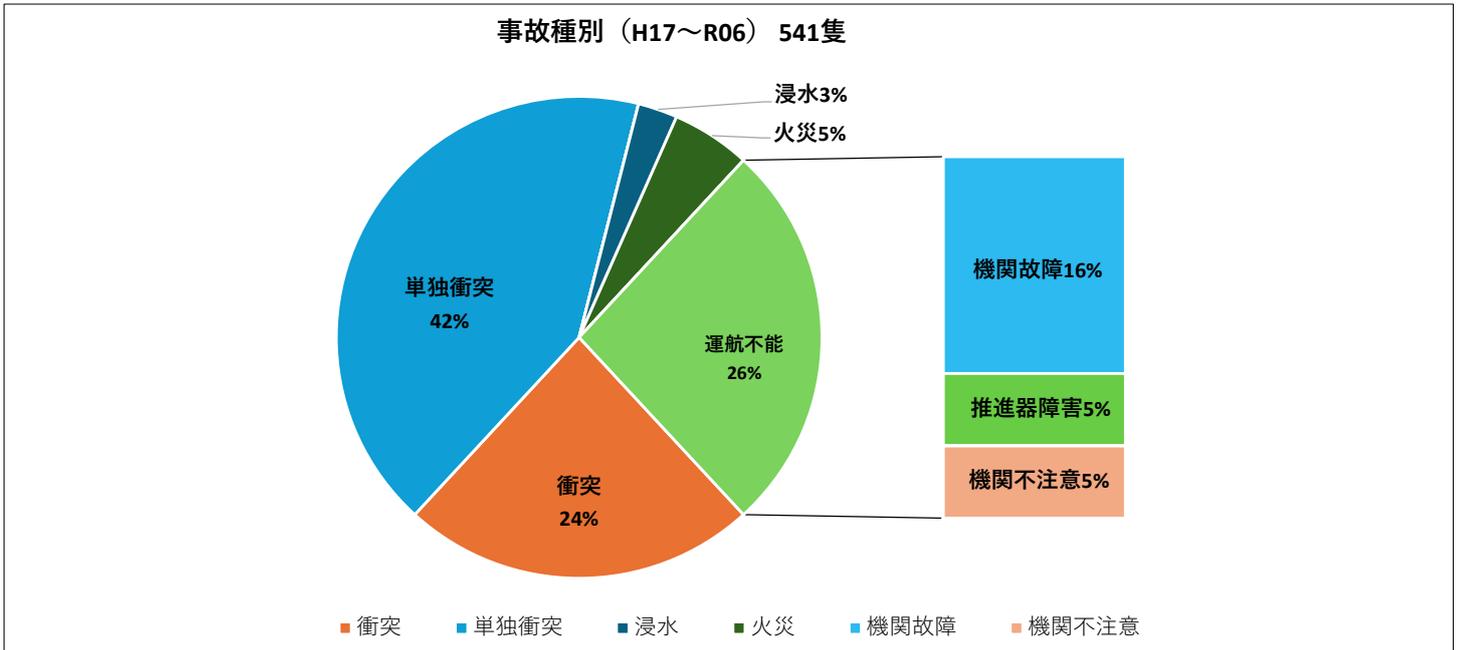


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	1	1	4	3	2	1	4	0	2	1	0	0	1	1	2	1	1	4	2	1	32
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三河	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
衣浦	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	1	4	3	2	3	4	0	3	2	0	0	2	1	2	1	1	4	2	1	38
死者数計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(2) 事故種別の割合

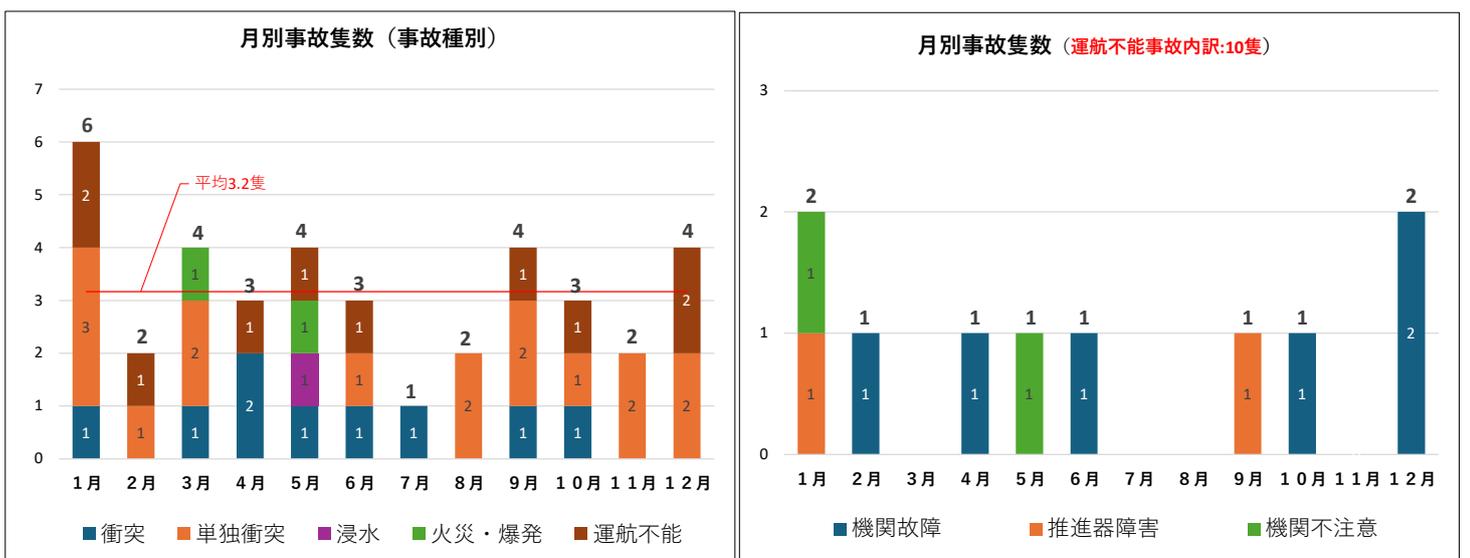
- 単独衝突が最も多く16隻（42%）を占め、次いで運航不能10隻（26%）、衝突9隻（24%）、
- 運航不能の内訳は機関故障6隻、推進器障害2隻、機関取扱不注意2隻



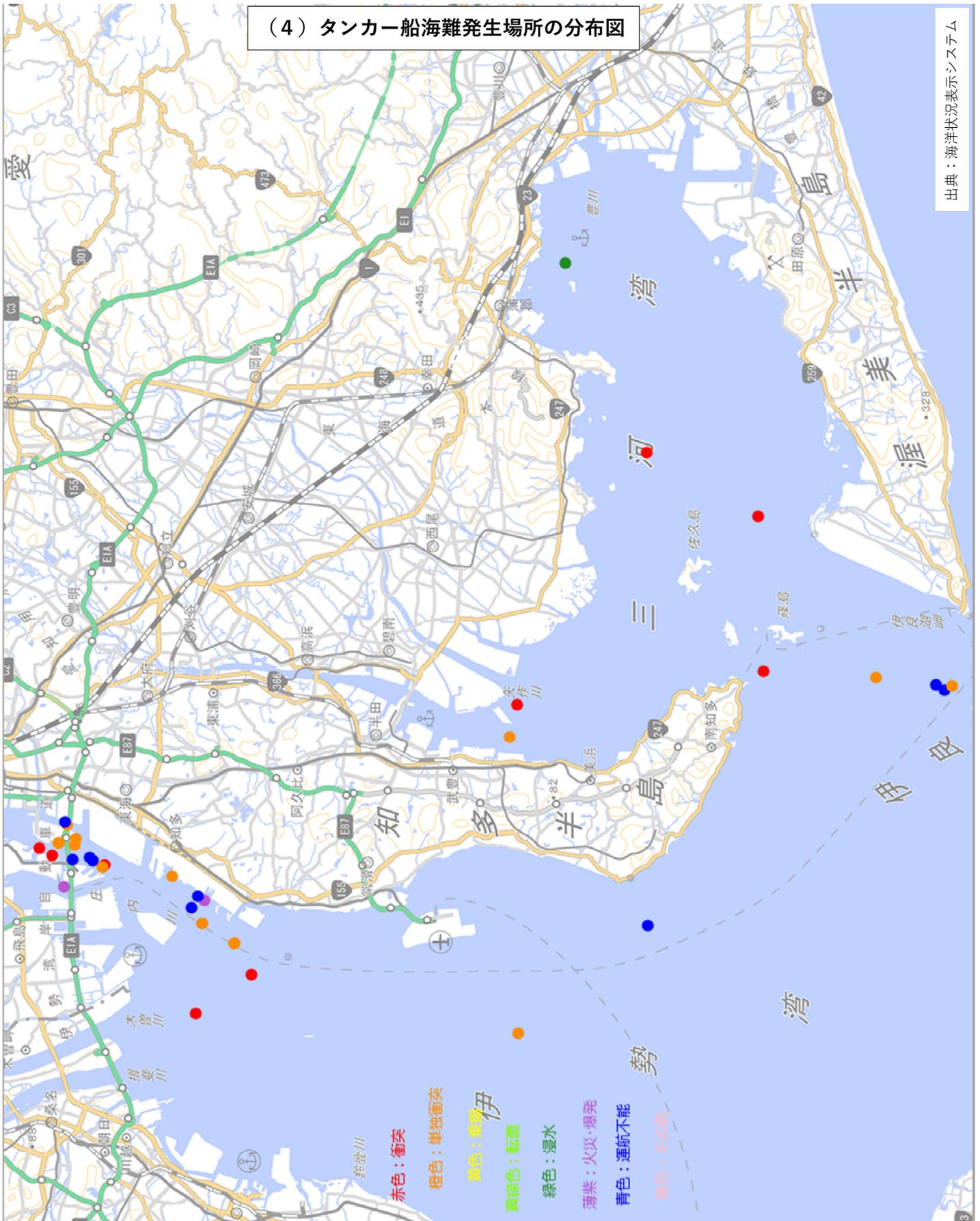
衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)													計		
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)			
9	16	0	0	1	2	0	10	6	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	38

(3) 月別の事故隻数

- 1月が最も多く6隻、7月が1隻と最も少なくなっている
- 各月において、衝突、単独衝突が多くを占める



(4) タンカー船海難発生場所の分布図



出典：海洋状況表示システム

- 赤色：衝突
- 橙色：単独衝突
- 黄色：乗揚
- 黄緑色：転覆
- 緑色：浸水
- 薄紫：火災・爆発
- 青色：運航不能
- 桃色：その他

I 船舶海難

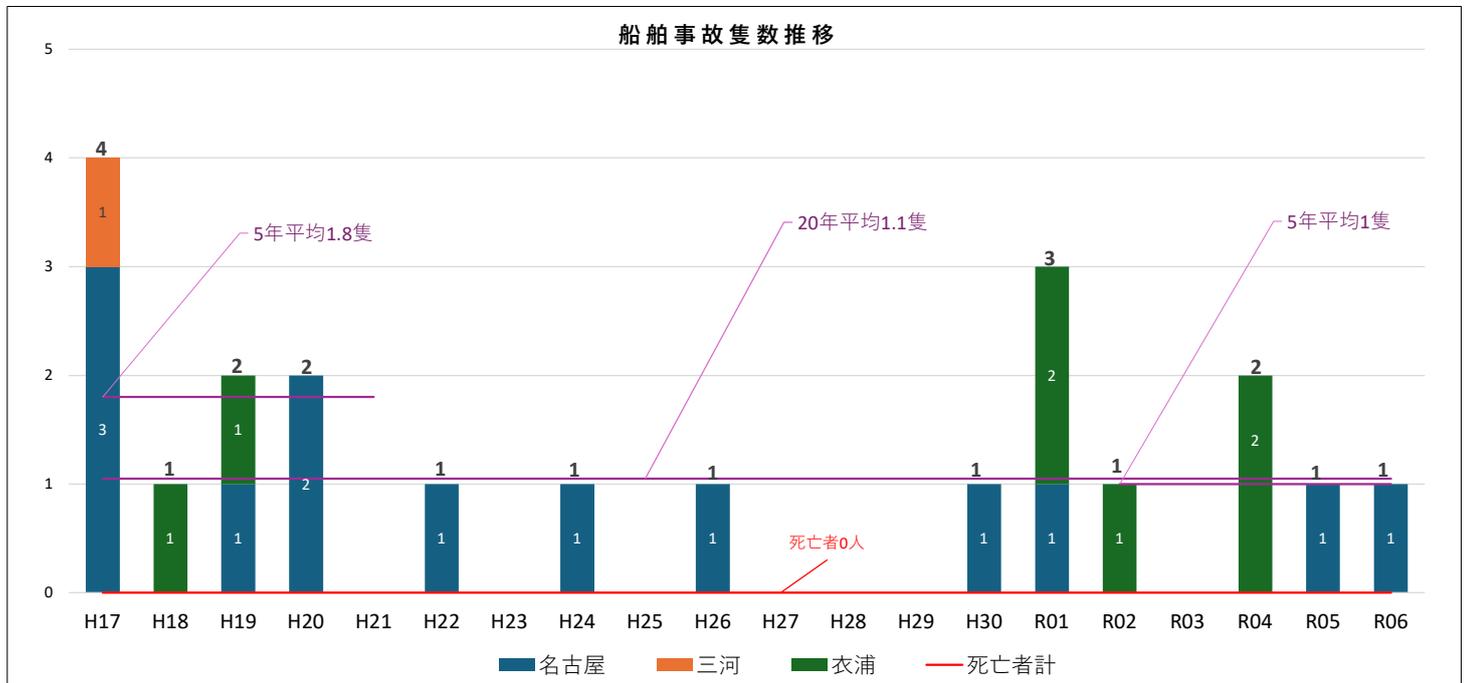
7 旅客船難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

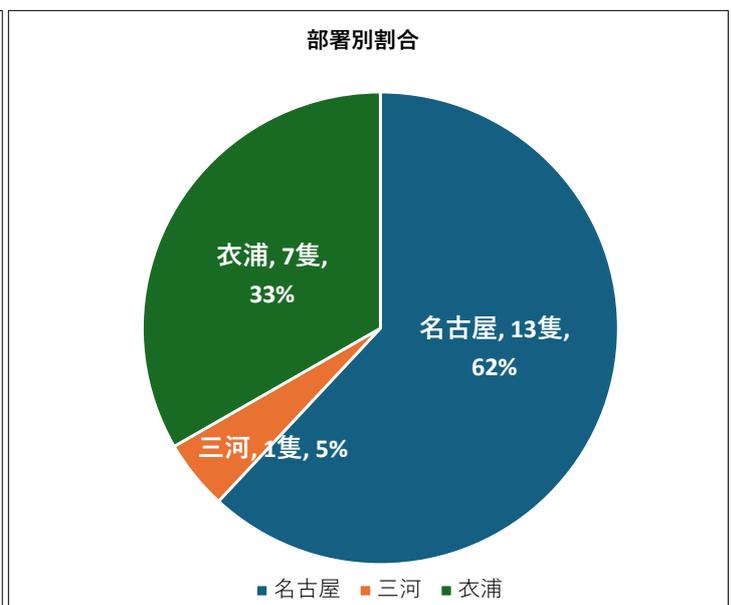
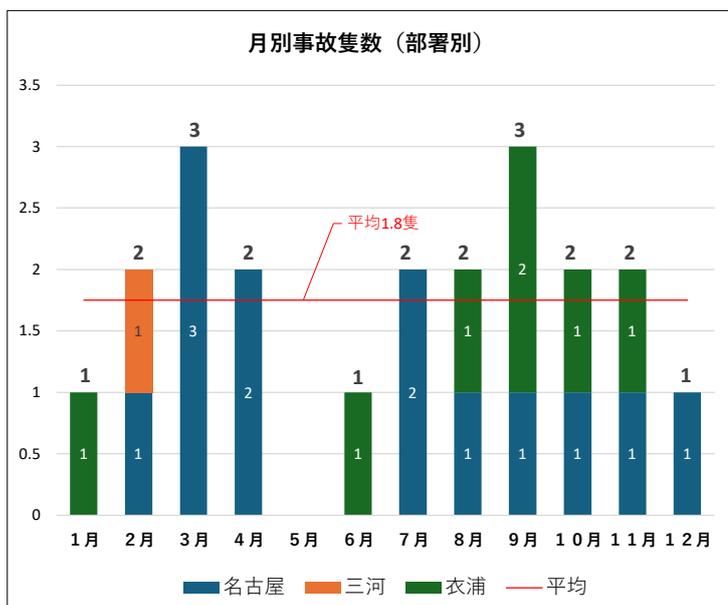
○過去20年間の海難隻数は21隻で、船舶海難に伴う死者の発生は無し

○年間平均は1.1隻。H17～H21年まで5年間の平均1.8隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は1隻で減少傾向（約4.5割減）

○部署別では名古屋13隻（約62%）を占め次いで衣浦約7隻（約33%）、三河1隻（約5%）

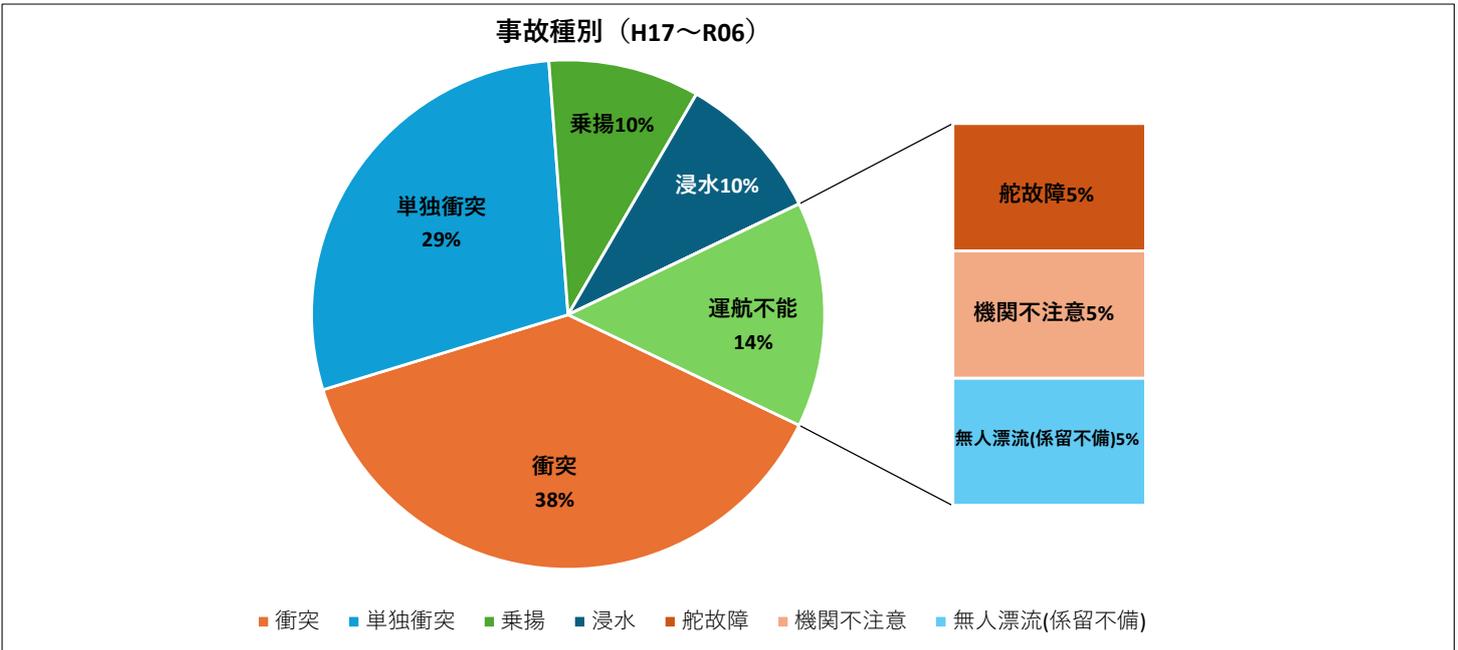


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	3	0	1	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	13
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三河	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
衣浦	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	7
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	1	2	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	3	1	0	2	1	1	21
死者数計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(2) 事故種別の割合

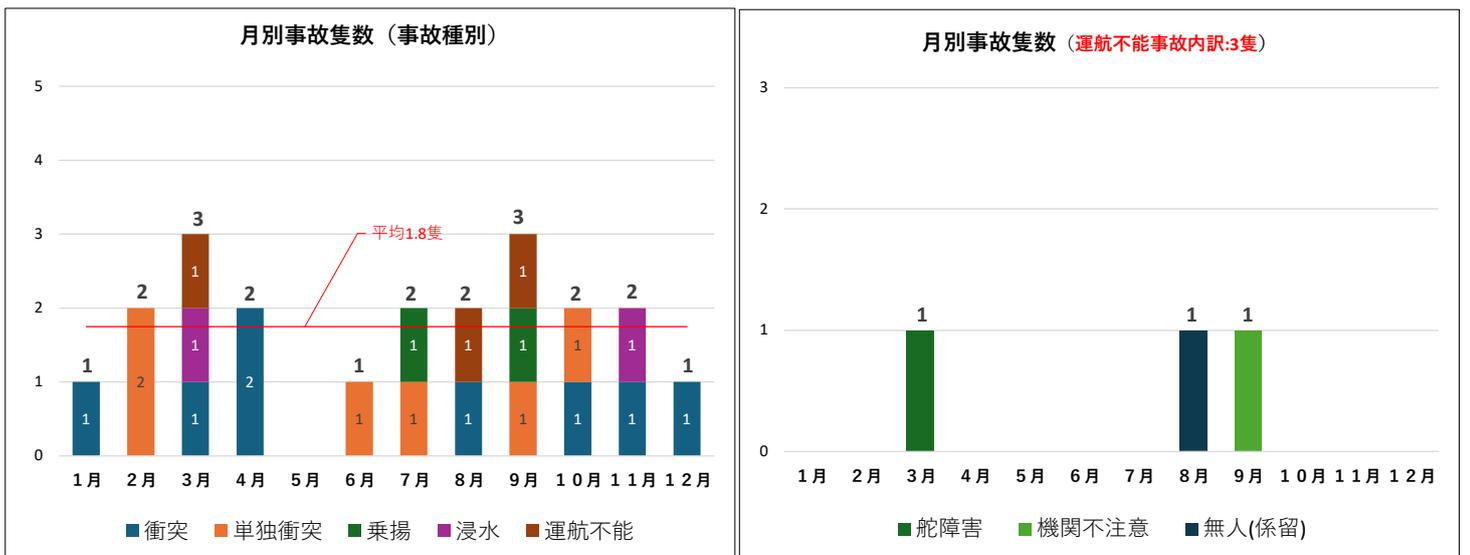
- 衝突海難が最も多く8隻（38％）を占め、次いで単独衝突6隻（29％）、運航不能3隻（14％）
- 運航不能の内訳は舵故障、機関取扱不注意、無人漂流（係留不備）



衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)													計	
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)		
8	6	2	0	2	0	0	3	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	21

(3) 月別の事故隻数

○3月、9月が最も多く3隻、5月が最も少なく0隻、月平均1.8隻となっている。



(4) 旅客船海難発生場所の分布図



- 赤色：衝突
- 橙色：単独衝突
- 黄色：乗揚
- 黄緑色：転覆
- 緑色：浸水
- 薄紫：火災・爆発
- 青色：運航不能
- 桃色：その他

I 船舶海難

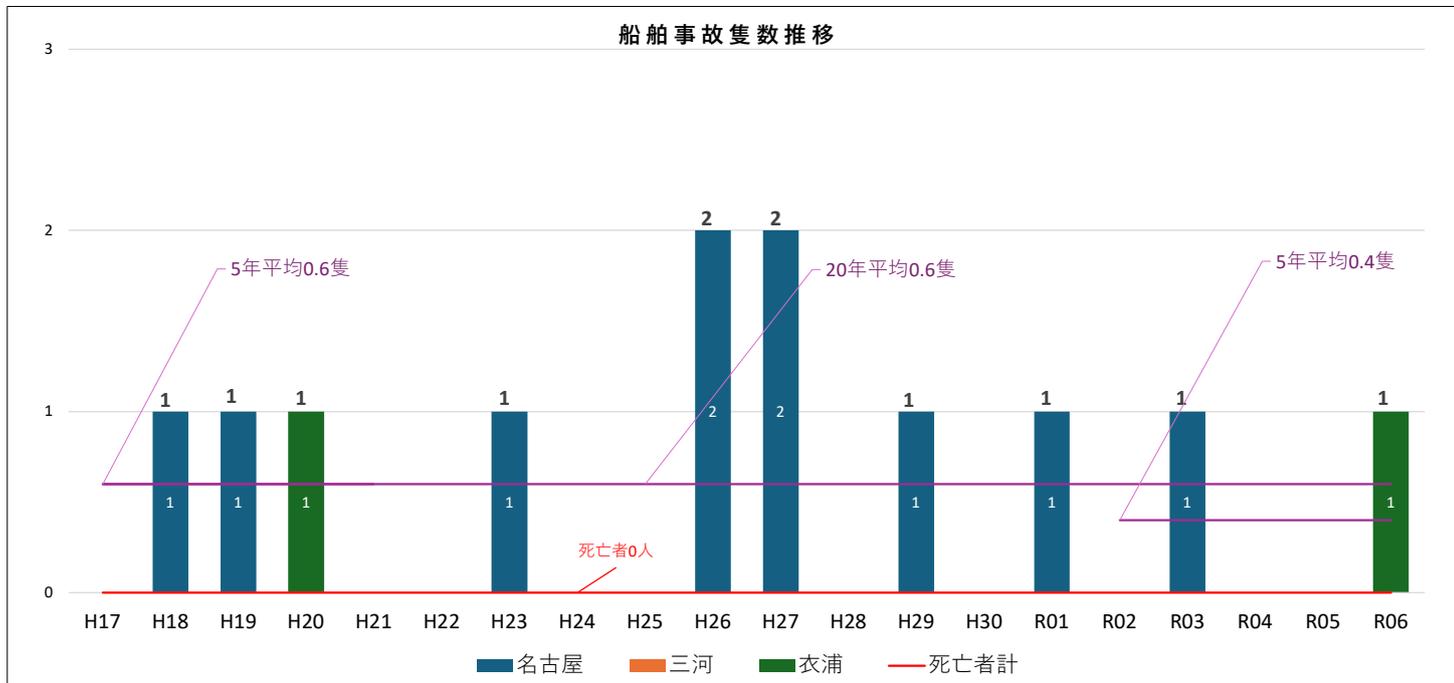
8 作業船海難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

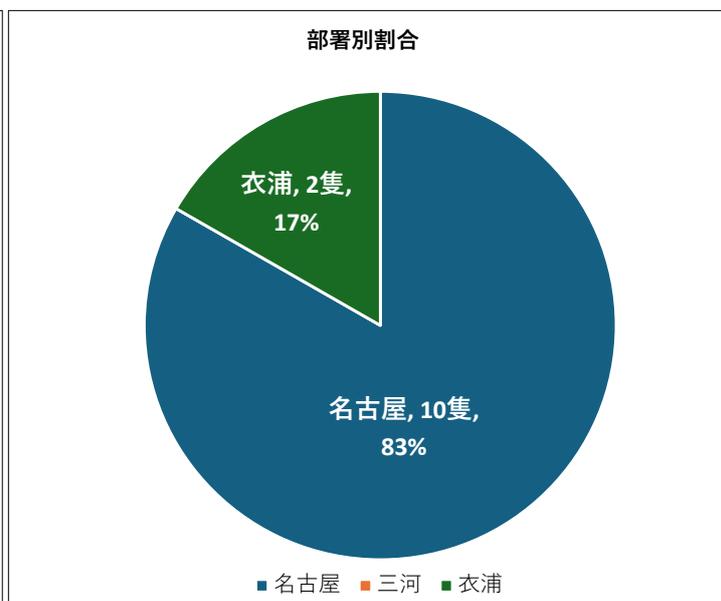
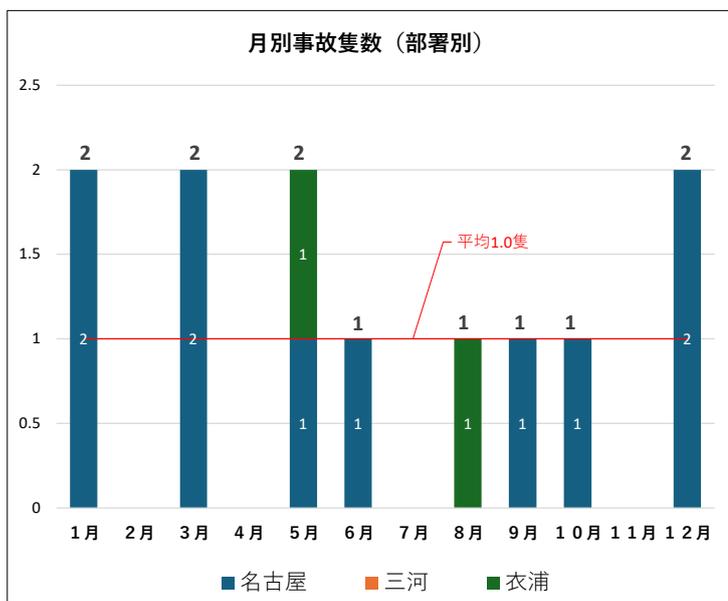
○過去20年間の海難隻数は12隻で、船舶海難に伴う死者の発生は無し

○年間平均は0.6隻。H17～H21年まで5年間の平均0.6隻に対して、最近の5年間（R02～R06）の平均は0.4隻でほぼ横ばい

○部署別では名古屋10隻（約83%）を占め次いで衣浦約2隻（約17%）、三河0隻

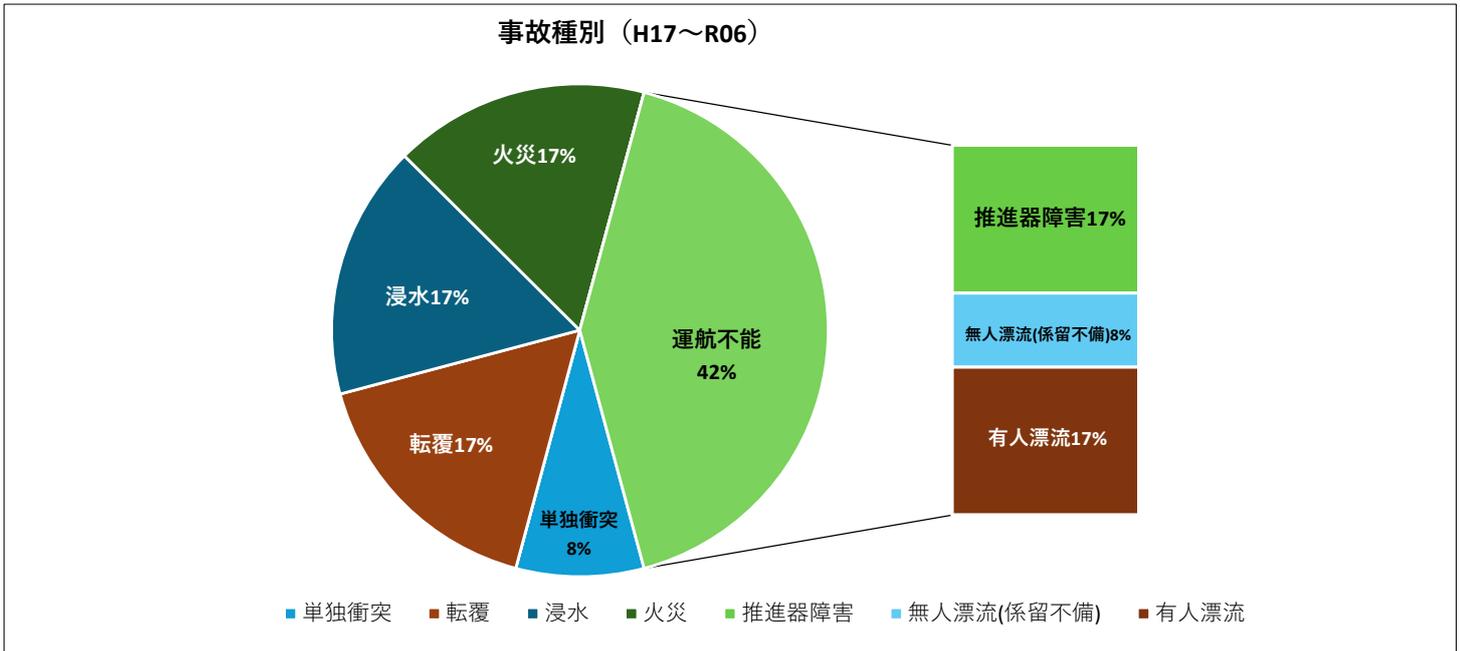


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
名古屋	0	1	1	0	0	0	1	0	0	2	2	0	1	0	1	0	1	0	0	0	10
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三河	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
衣浦	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
死者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	1	1	1	0	0	1	0	0	2	2	0	1	0	1	0	1	0	0	1	12
死者数計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



(2) 事故種別の割合

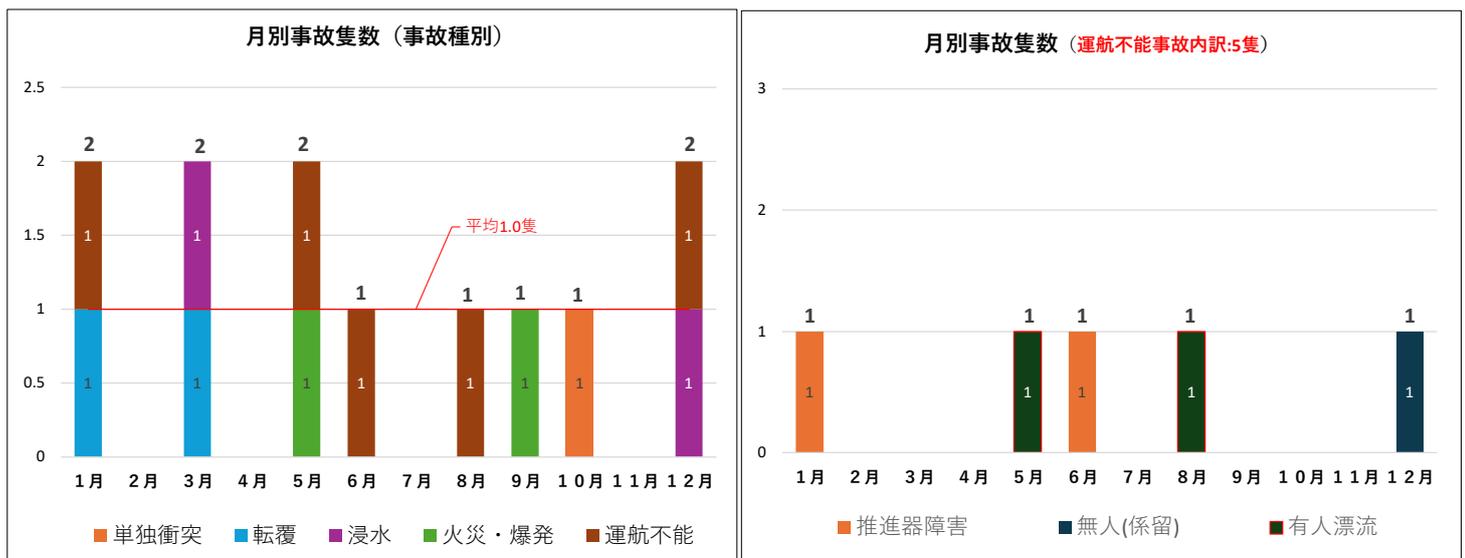
- 運航不能が最も多く5隻（42%）を占め、次いで転覆2隻、浸水2隻、火災2隻
- 運航不能の内訳は推進器障害2隻、有人漂流2隻、無人漂流（海中転落）1隻



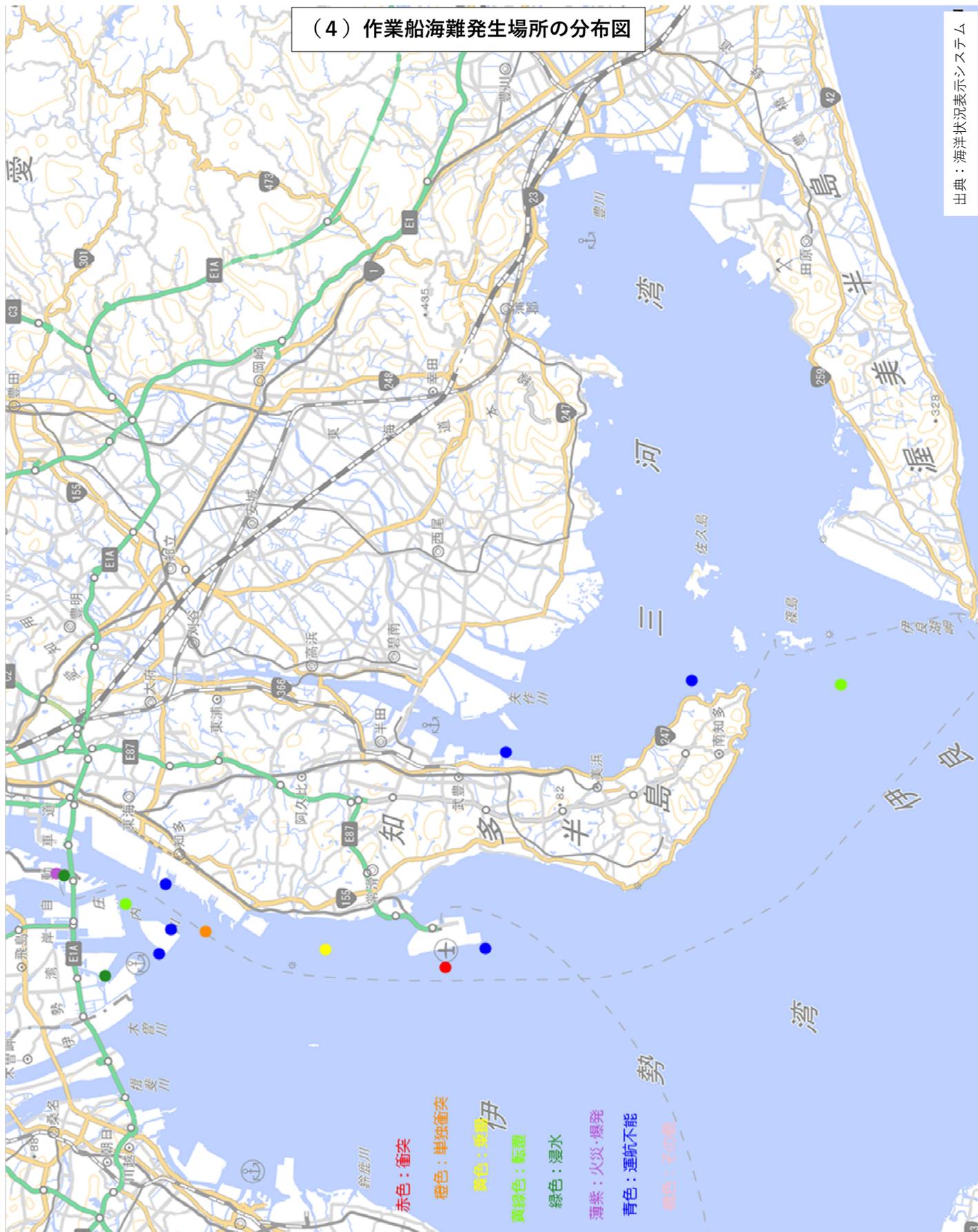
衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能	(運航不能内訳)													計	
								機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)		
0	1	0	2	2	2	0	5	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	12

(3) 月別の事故隻数

- 月平均1隻、その他特記事項なし



(4) 作業船海難発生場所の分布図



- 赤色：衝突
- 橙色：単独衝突
- 黄色：乗揚
- 黄緑色：転覆
- 緑色：浸水
- 薄紫：火災・爆発
- 青色：運航不能
- 桃色：その他

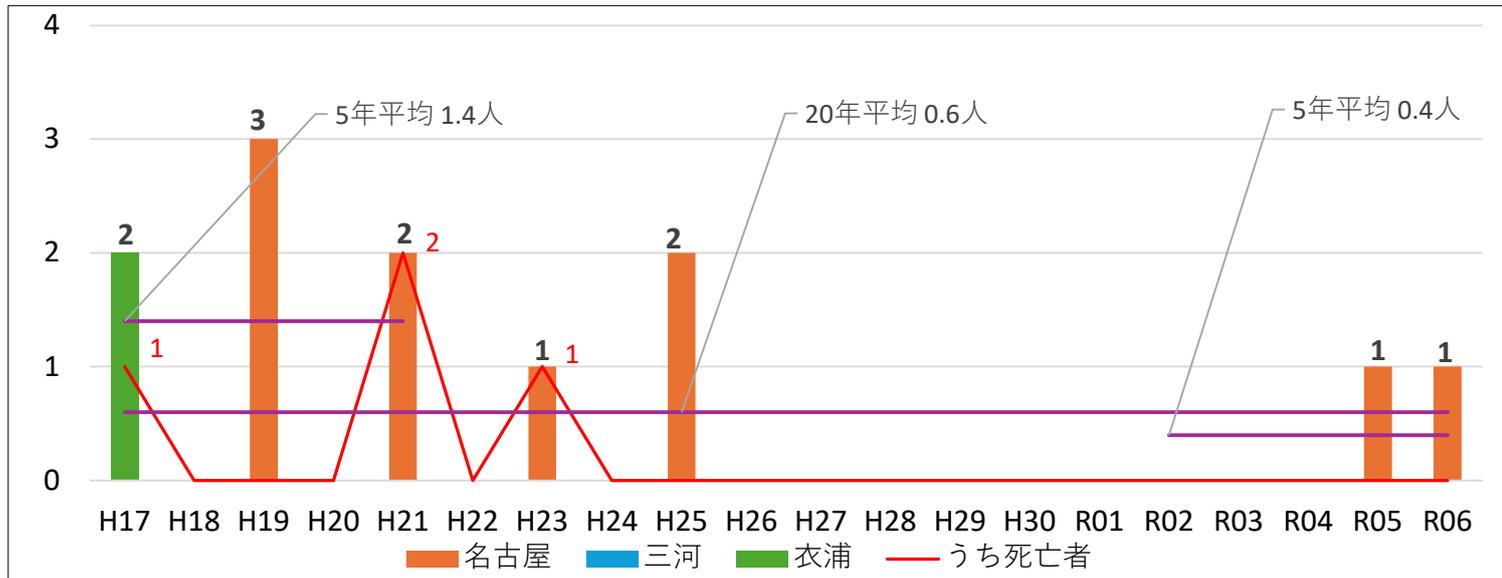
II マリンレジャー中の事故

1 1 その他の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は12人（うち死者4人）で名古屋83%、衣浦17%

○年間平均約0.6人。H17～H21年の平均約1.4人、直近R02～R06年の平均は0.4人で減少傾向

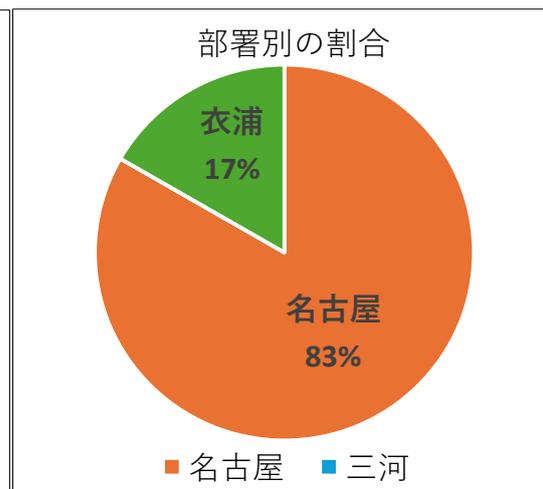
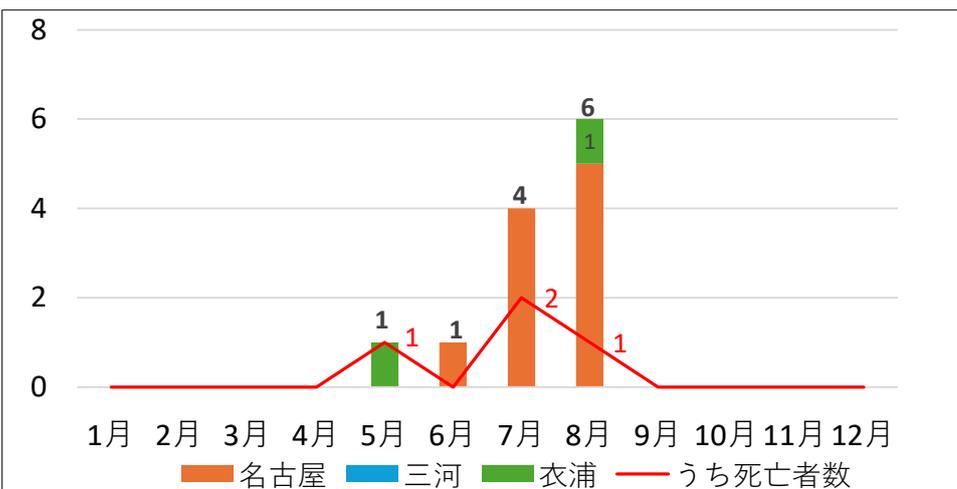


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計	
名古屋			3		2		1		2											1	1	10
三河																						0
衣浦	2																					2
計	2	0	3	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	12
うち死亡者	1				2		1															4

(2) 月別の状況

○事故者12人中、7月、8月に10人（83%）を占める

○死亡事故も4人中、7月、8月に3人（75%）を占める



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋						1	4	5					10
三河													0
衣浦					1			1					2
計	0	0	0	0	1	1	4	6	0	0	0	0	12
うち死亡者数					1	2	1						4

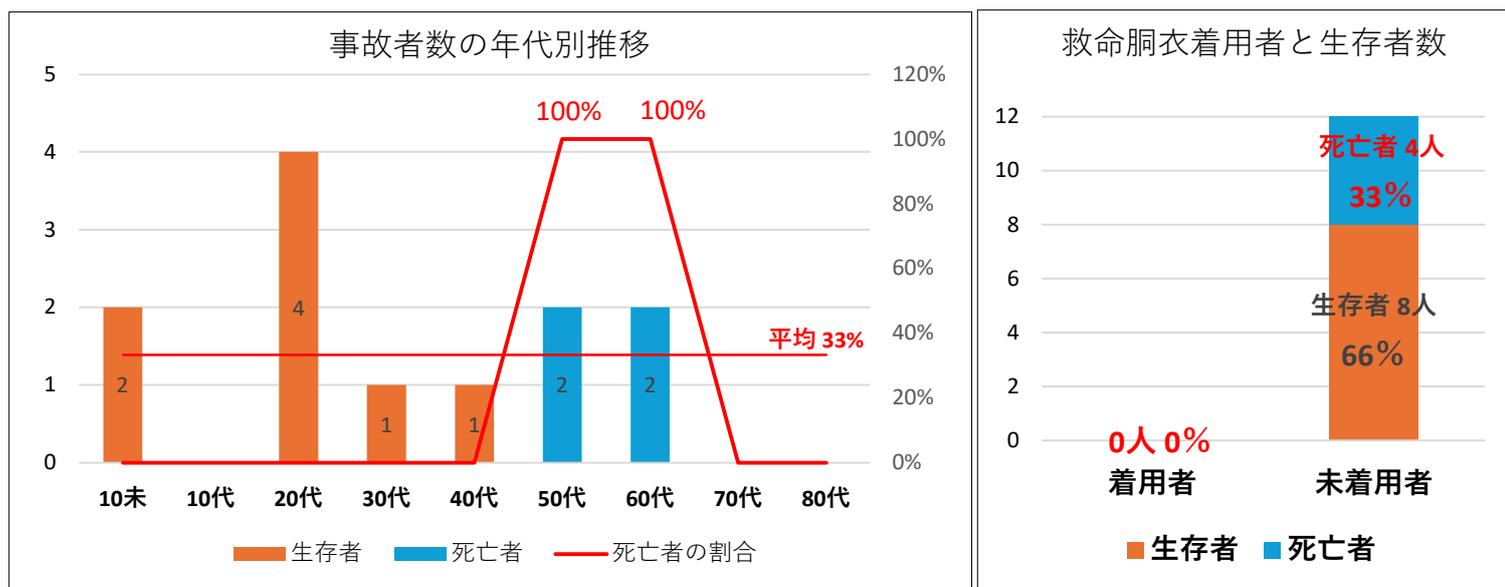
(3) その他事故の概要

年 月	年齢	活動内容	事故種別	生死	救命胴衣	部署
H17 5月	63歳	海中転落孫の救助中	溺水	死亡	無	衣浦
H17 8月	22歳	魚突き中	負傷		無	衣浦
H19 8月	27歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H19 8月	28歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H19 8月	34歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H21 7月	54歳	ダイビング準備中	溺水	死亡	無	名古屋
H21 7月	50歳	PB引出中	溺水	死亡	無	名古屋
H23 8月	64歳	ビニールボート乗船中	溺水	死亡	無	名古屋
H25 7月	4歳	ビニールボート乗船中	帰還不能		無	名古屋
H25 7月	5歳	ビニールボート乗船中	帰還不能		無	名古屋
R5 6月	25歳	魚突き中	負傷		無	名古屋
R6 8月	44歳	海上遊具遊興中	負傷		無	名古屋

(4) その他の事故者の年代及び救命胴衣着用状況

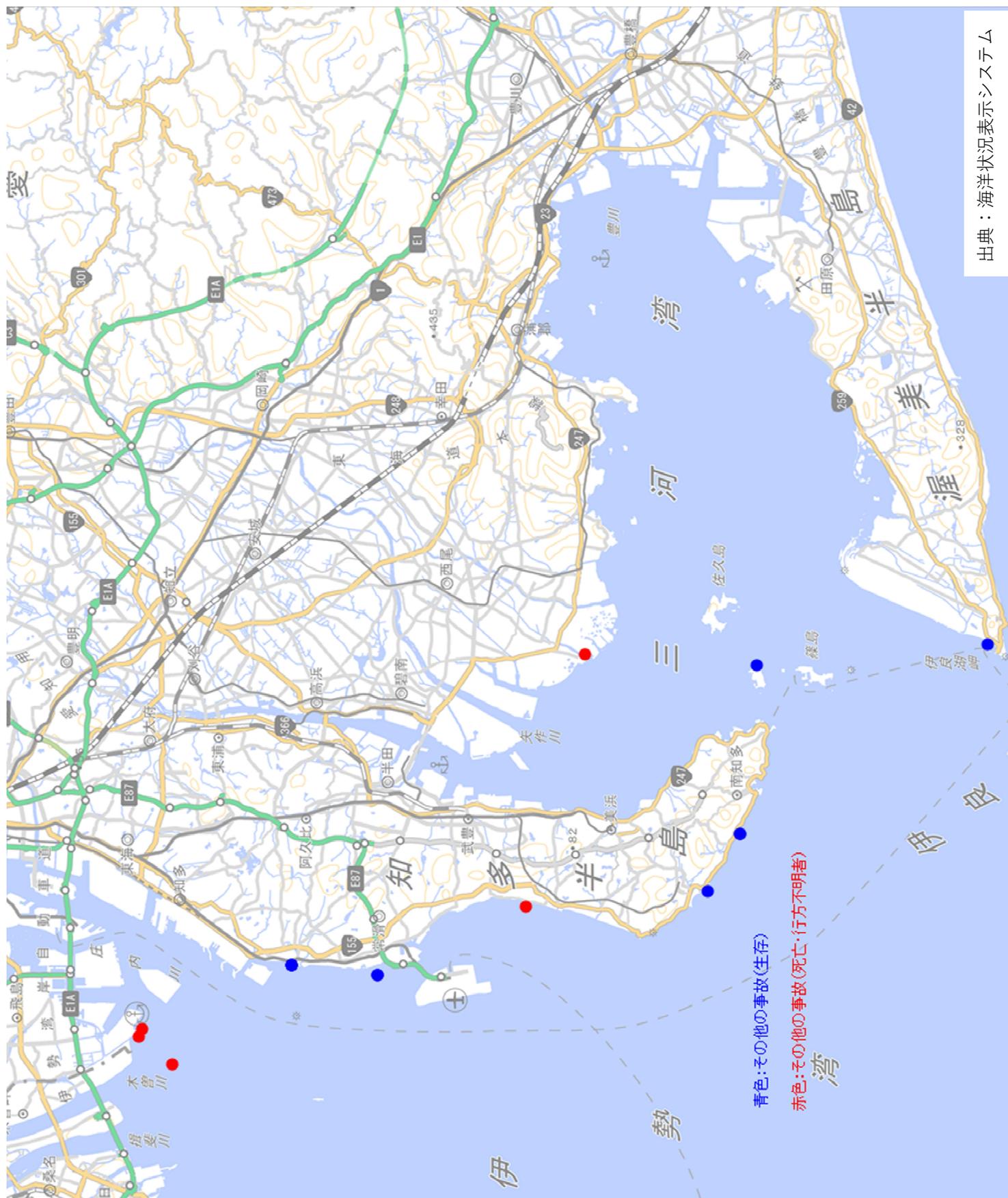
○10代未満から60代にかけて発生、死亡事故は50代、60代で発生

○事故者12人中の救命胴衣着用者は0人で着用率は0%



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者	2		4	1	1	0	0			8
死亡者						2	2			4
死亡者の割合	0%		0%	0%	0%	100%	100%			33%
LG着用										0

(5) その他の事故分布図

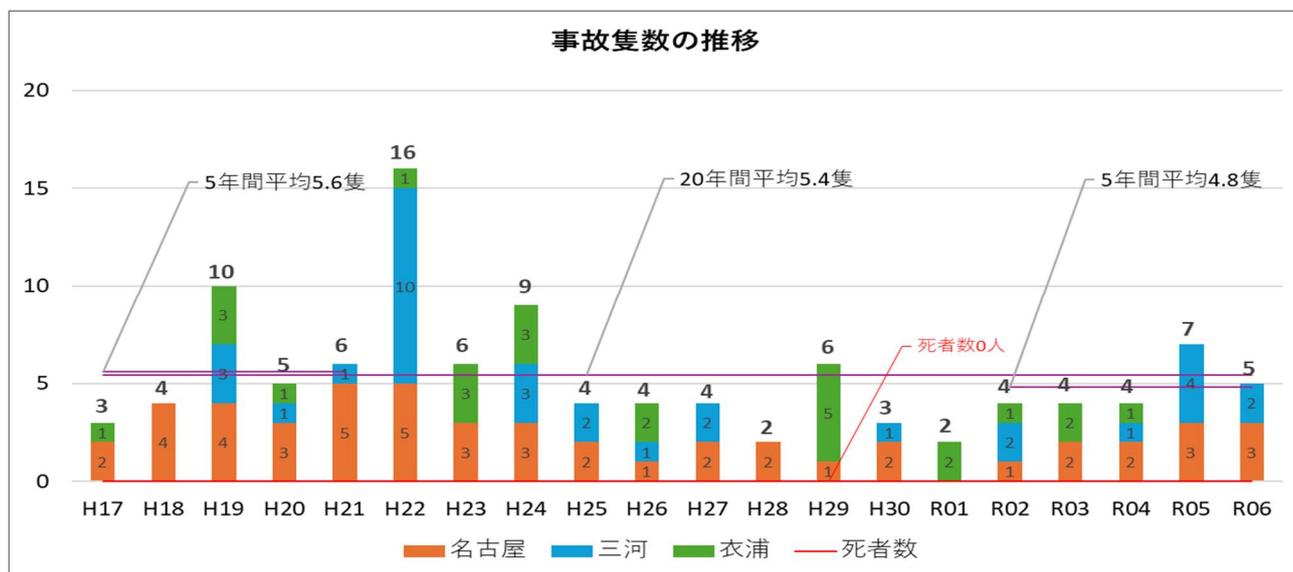


I 船舶海難

10 水上オートバイ海難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

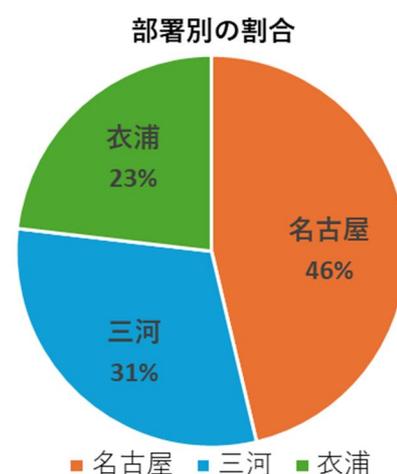
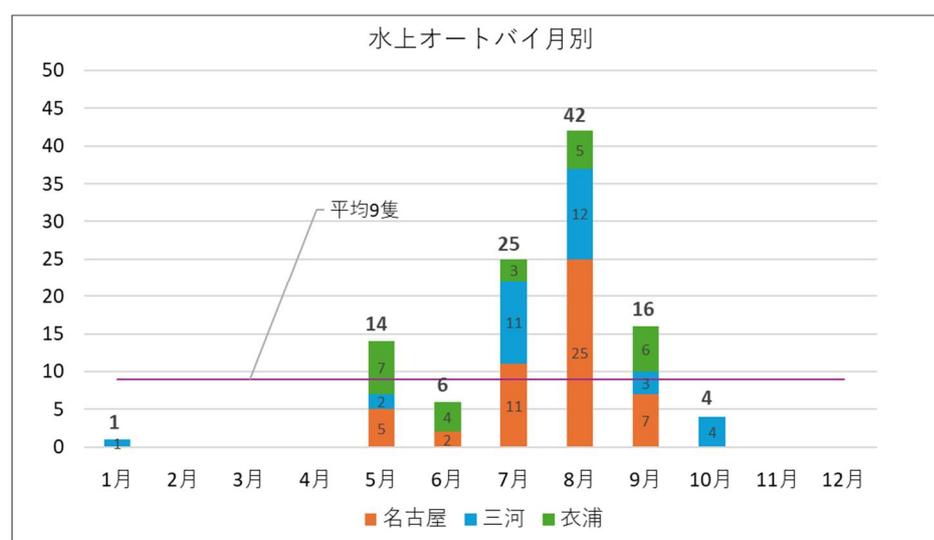
過去20年間の平均は5.4隻、H17～H21の5年間平均は5.6隻、R2～R6の5年間平均は4.8隻とほぼ横ばいとなっている。なお、H22三河管内の10隻の内訳は衝突8隻（関係者同士3件6隻、競技中2隻）、単独衝突1隻（防波堤）、推進器障害1隻（水上スキー曳航索）



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
名古屋	2	4	4	3	5	5	3	3	2	1	2	2	1	2		1	2	2	3	3	50
三河			3	1	1	10		3	2	1	2			1		2		1	4	2	33
衣浦	1		3	1		1	3	3		2			5		2	1	2	1			25
計	3	4	10	5	6	16	6	9	4	4	4	2	6	3	2	4	4	4	7	5	108
死者数																					0

(2) 月別の事故発生状況

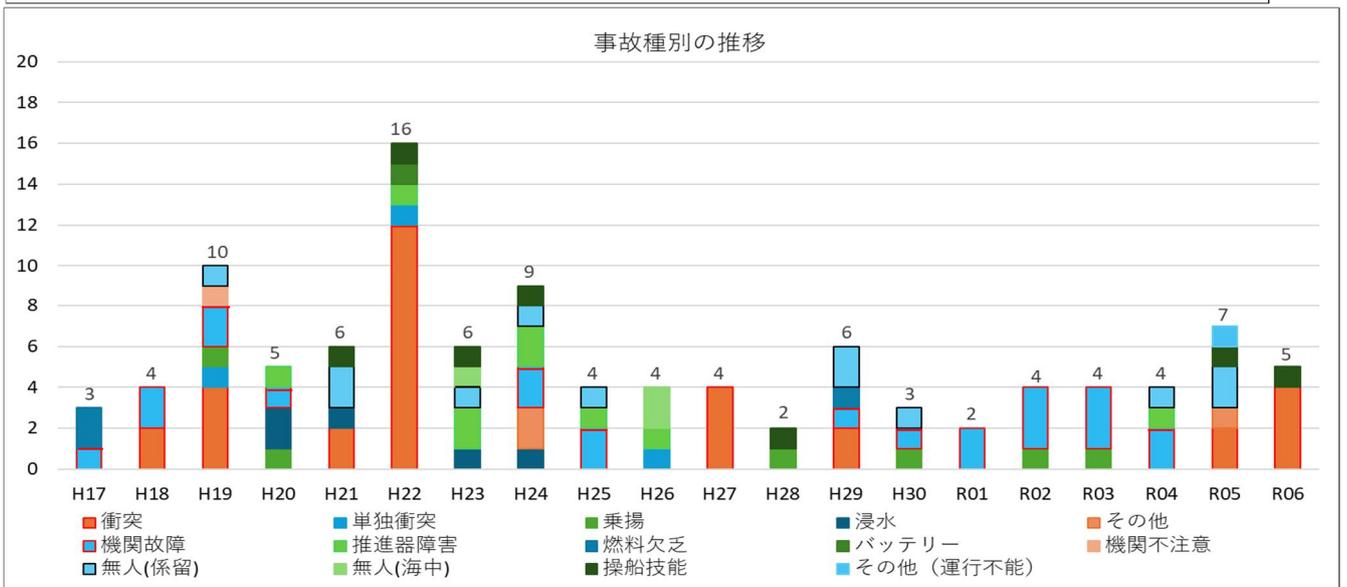
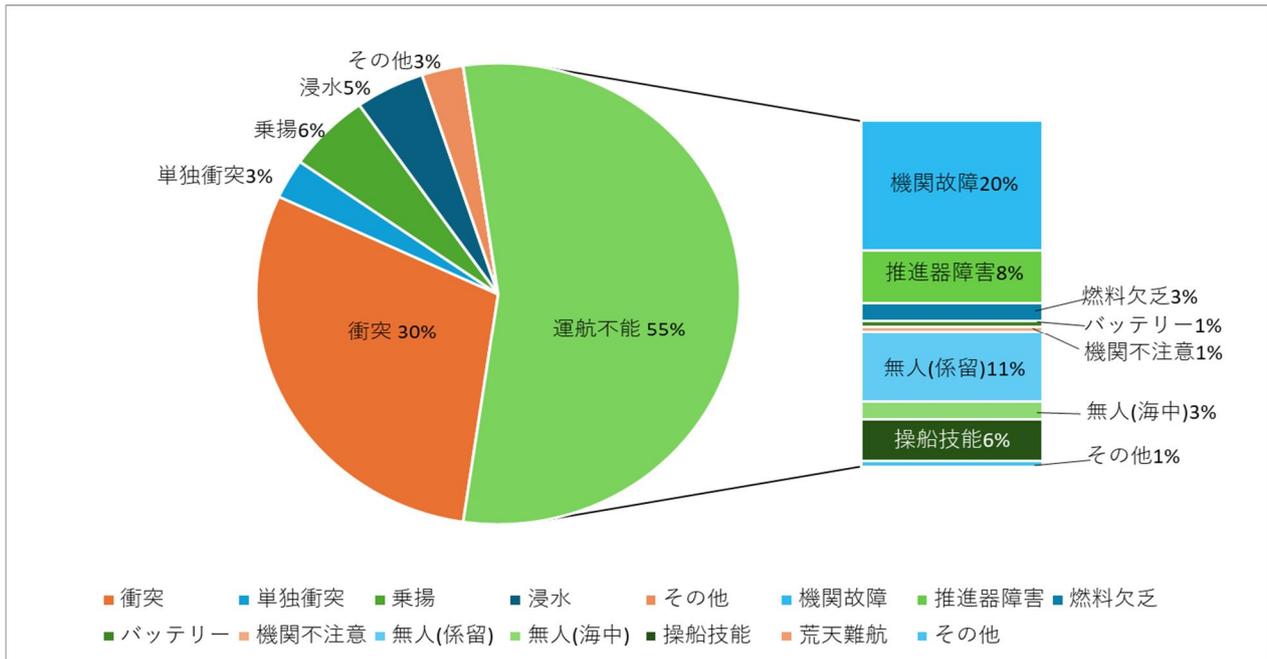
5月から10月にかけて事故が発生し、7月と8月で67隻62%を占めている。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋					5	2	11	25	7				50
三河	1				2		11	12	3	4			33
衣浦					7	4	3	5	6				25
計	1	0	0	0	14	6	25	42	16	4	0	0	108

(3) 事故種別

衝突が32隻(30%)と最も多く、次いで運航不能(機関故障)22隻(20%)、無人漂流(係留不備)12隻(11%)となっている。



年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計	
衝突		2	4		2	12					4		2						2	4	32	
単独衝突			1			1				1	4										3	
乗揚			1	1									1	1		1	1				6	
転覆																					0	
浸水				2	1		1	1													5	
火災・爆発																					0	
その他								2											1		3	
運航不能	機関故障	1	2	2	1			2	2				1	1	2	3	3	2			22	
	推進器障害				1		1	2	2	1	1							1			9	
	舵障害																				0	
	燃料欠乏	2											1								3	
	バッテリー						1														1	
	機関不注意			1																		1
	無人(係留)			1		2		1	1	1			2	1				1	2			12
	無人(海中)							1			2											3
	有人漂流																					0
	走錨																					0
	操船技能					1	1	1	1				1							1	1	7
荒天難航																					0	
その他(運行不能)																			1		1	
計(運航不能)	3	2	4	2	3	3	5	6	4	3	0	1	4	2	2	3	3	4	4	1	59	
計	3	4	10	5	6	16	6	9	4	4	4	2	6	3	2	4	4	4	7	5	108	

(4) 事故発生場所

知多半島西側の海水浴場付近海域及び三河大島付近海域で事故が多く発生している。



- 赤色：衝突 ●茶色：単独衝突 ●青色：運航不能（機関故障）
- 黄色：運航不能（係留不備） ●緑色：乗揚 ●紫色：浸水 ●黒色：船位喪失
- 黄土色：運航不能（機関故障、係留不備を除く）

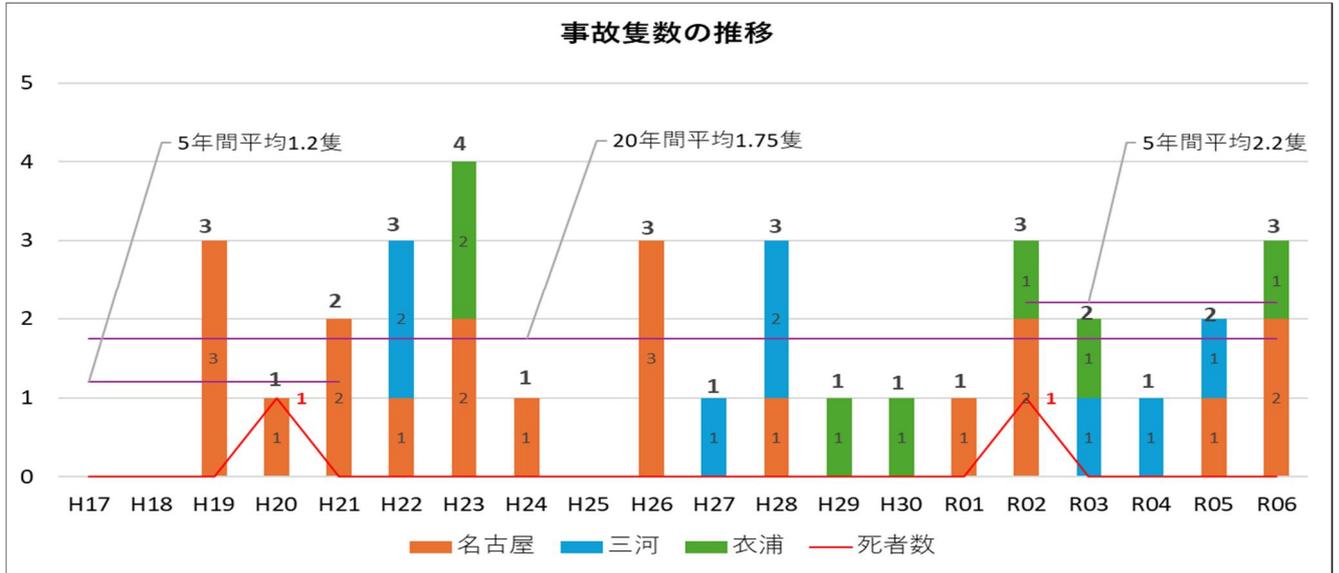
	衝突	単独 衝突	乗揚	転覆	浸水	火災 爆発	その他	運航 不能	運航不能（種別詳細）													計
									機関故障	推進器障害	舵障害	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錯	操船技能	荒天難航	その他	
名古屋	16	1	4		3		1	25	8	4		3			4	1			5			50
三河	12	2	1		1			17	6	2					5	1			2		1	33
衣浦	4		1		1		2	17	8	3			1	1	3	1						25
計(隻)	32	3	6	0	5	0	3	59	22	9	0	3	1	1	12	3	0	0	7	0	1	108

I 船舶海難

1.1 ミニボート海難の発生状況

(1) 事故隻数の推移

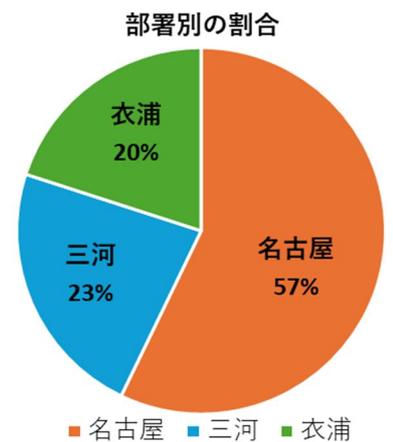
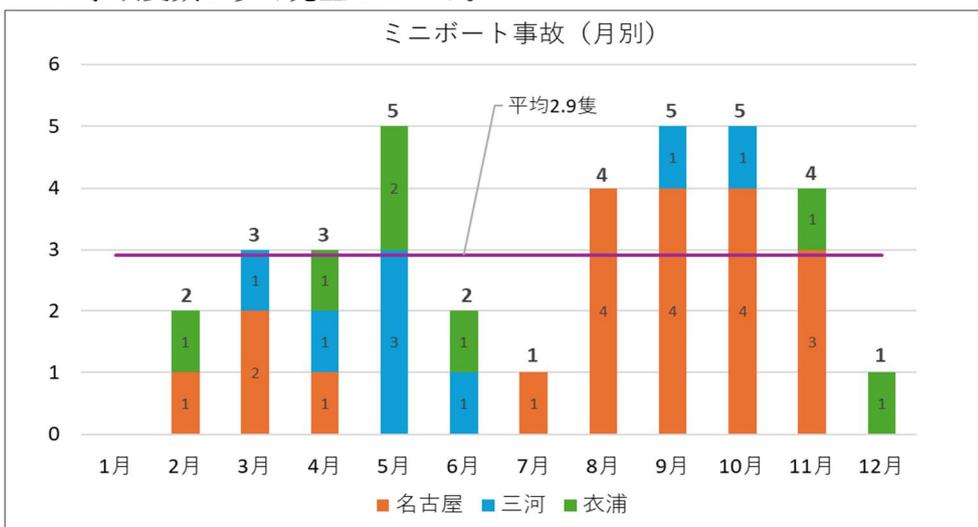
過去20年間の平均は1.8隻、H17～H21の5年間平均は1.2隻、R2～R6の5年間平均は2.2隻と増加となっている。名古屋保安部管内の事故隻数が最も多く約6割を占める



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
名古屋			3	1	2	1	2	1		3		1			1	2			1	2	20
三河						2					1	2					1	1	1		8
衣浦							2						1	1		1	1				7
計	0	0	3	1	2	3	4	1	0	3	1	3	1	1	1	3	2	1	2	3	35
死者数				1												1					2

(2) 月別の事故発生状況

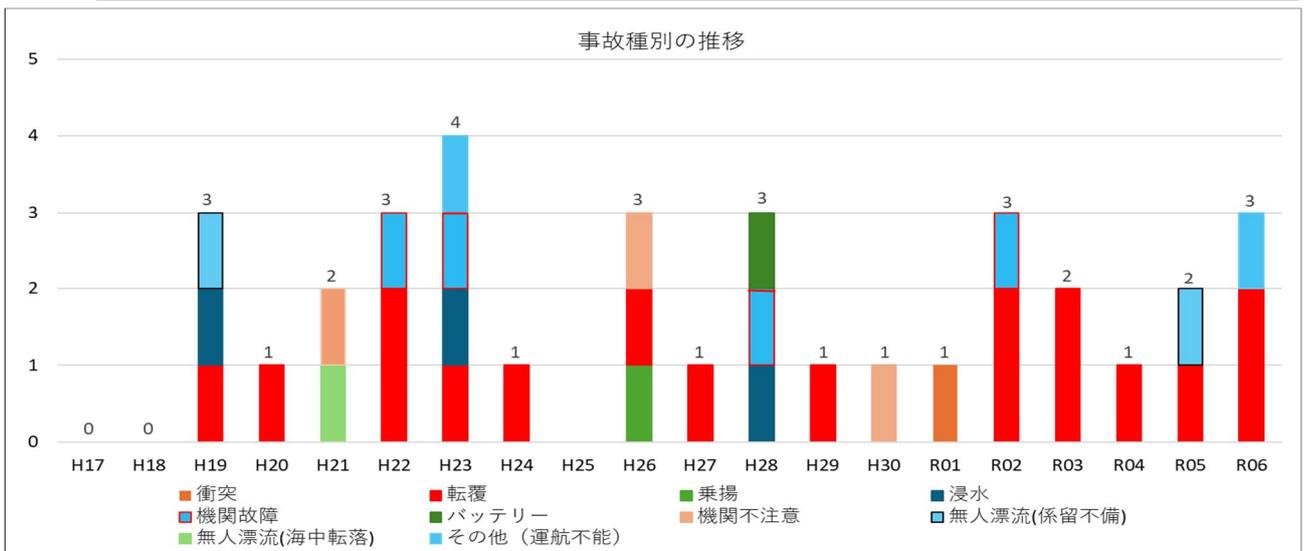
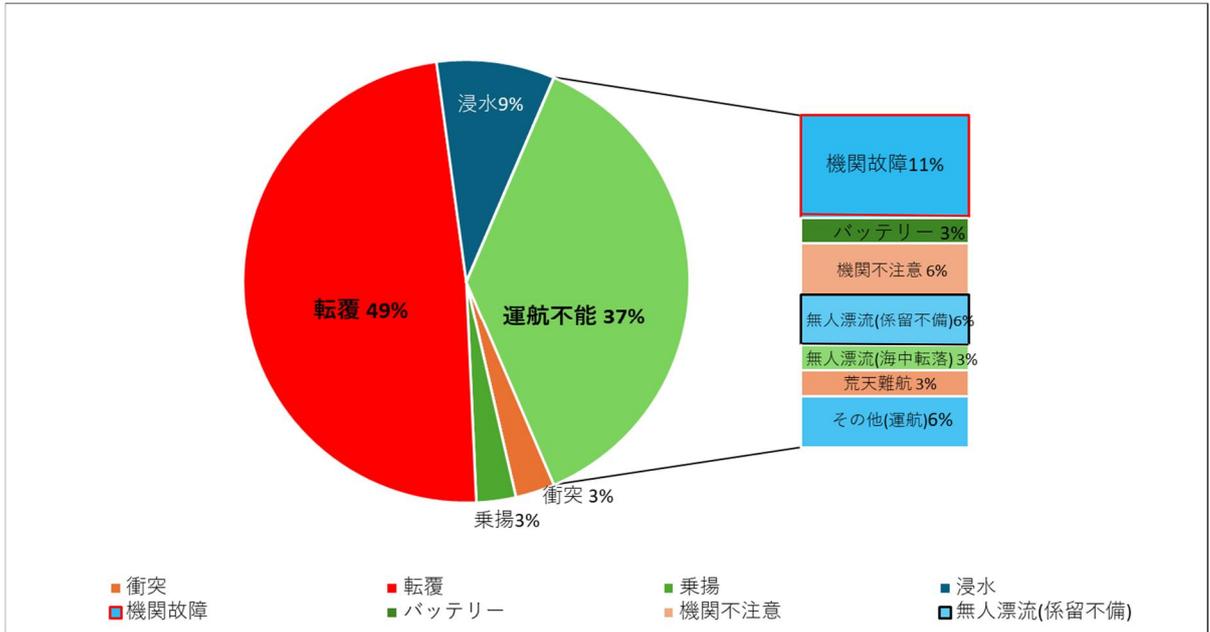
1月を除く各月で事故が発生し、3月～5月（11隻30%）と8月～11月（18隻50%）の2期に事故隻数が多く発生している。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋		1	2	1			1	4	4	4	3		20
三河			1	1	3	1			1	1			8
衣浦		1		1	2	1					1	1	7
計	0	2	3	3	5	2	1	4	5	5	4	1	35

(3) 事故種別

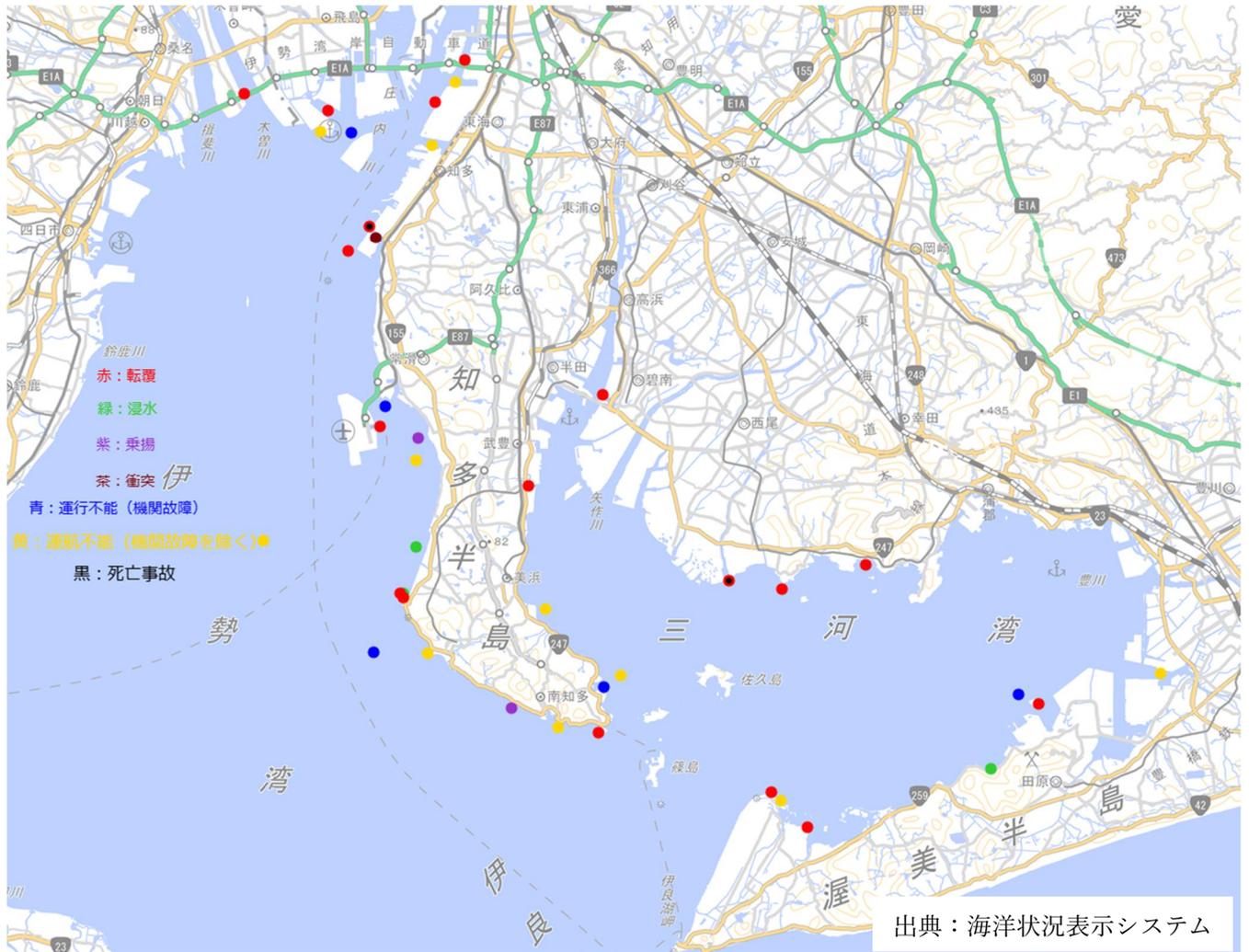
転覆が17隻(49%)と最も多く、次いで運航不能(機関故障)4隻(11%)、浸水3隻(9%)となっている。



		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計	
衝突	衝突															1							1
	単独衝突																						0
乗揚	乗揚										1												1
転覆	転覆			1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1		2	2	1	1	2		17
	浸水			1			1						1										3
火災・爆発	火災・爆発																						0
その他	その他																						0
運航不能	機関故障					1	1						1				1						4
	推進器障害																						0
	舵障害																						0
	燃料欠乏																						0
	バッテリー												1										1
	機関不注意											1				1							2
	無人漂流(係留不備)			1																	1		2
	無人漂流(海中転落)					1																	1
	有人漂流																						0
	走錨																						0
	操船技能																						0
	荒天難航					1																	1
	その他(運航不能)							1														1	2
計	計	0	0	1	0	2	1	2	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	0	1	1	13	
計	計	0	0	3	1	2	3	4	1	0	3	1	3	1	1	1	3	2	1	2	3	35	

(4) 事故発生場所

港湾区域及び漁港区域内又はその周辺で事故が多く発生



●赤：転覆 ●緑：浸水 ●紫：乗揚 ●茶：衝突 ●青：運航不能（機関故障）

●黄色：運航不能（機関故障を除く）

死亡事故：円中心に黒丸

	衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災 爆発	その他	運航 不能	運航不能（種別詳細）											計			
									機関故障	推進器障害	舵障害	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走離	操舵技能		荒天離航	その他	
名古屋	1		1	9	2			7	2					1	1	1				1	1	20	
三河				4	1			3	1				1		1								8
衣浦				4				3	1					1								1	7
計(隻)	1	0	1	17	3	0	0	13	4	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	0	1	2	35

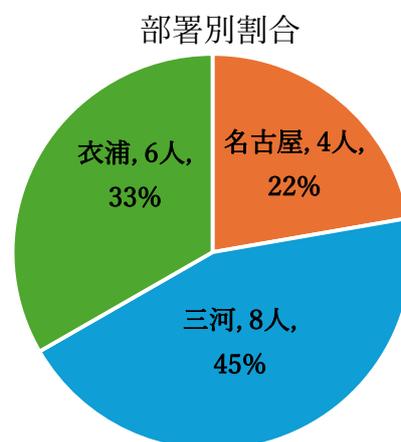
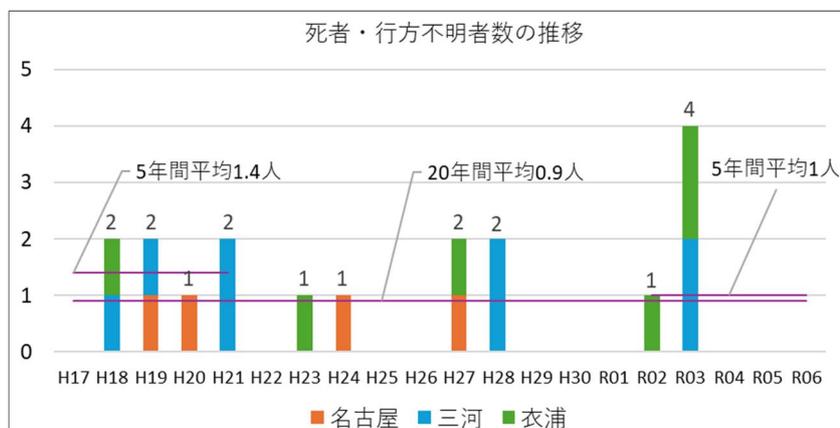
I 船舶海難

1 2 船舶海難に伴う死亡事故の状況

(1) 死亡者数の推移 (18人)

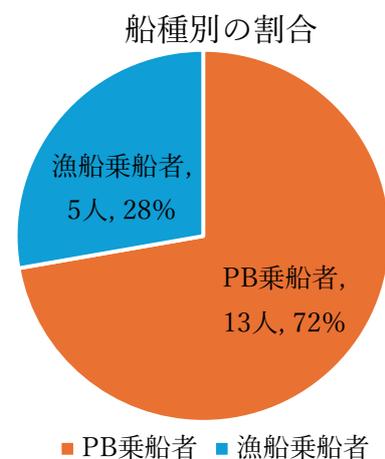
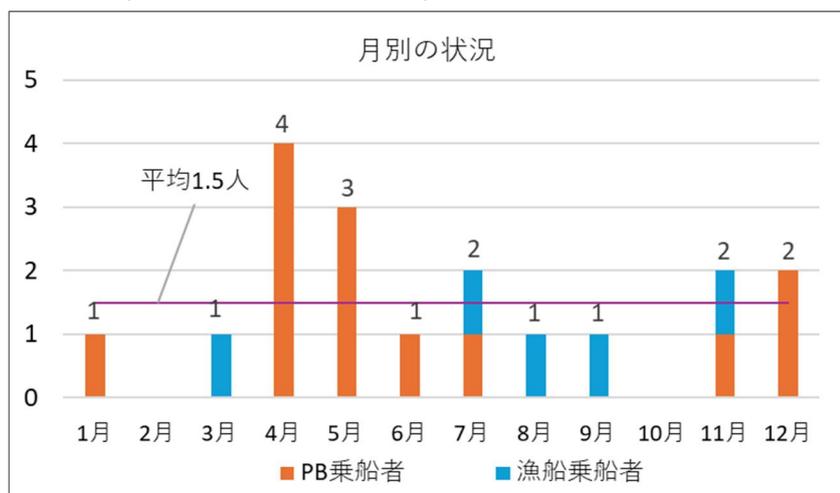
過去20年間の平均は0.9人、H17~H21の5年間平均は1.4人、R2~R6の5年間平均は1人とほぼ横ばいとなっている。三河管内の事故者数が最も多く約4割5分を占める

R03年に三河湾内で錨泊中のヨット転覆事故(2名死亡)、PB火災事故(2名死亡)が発生



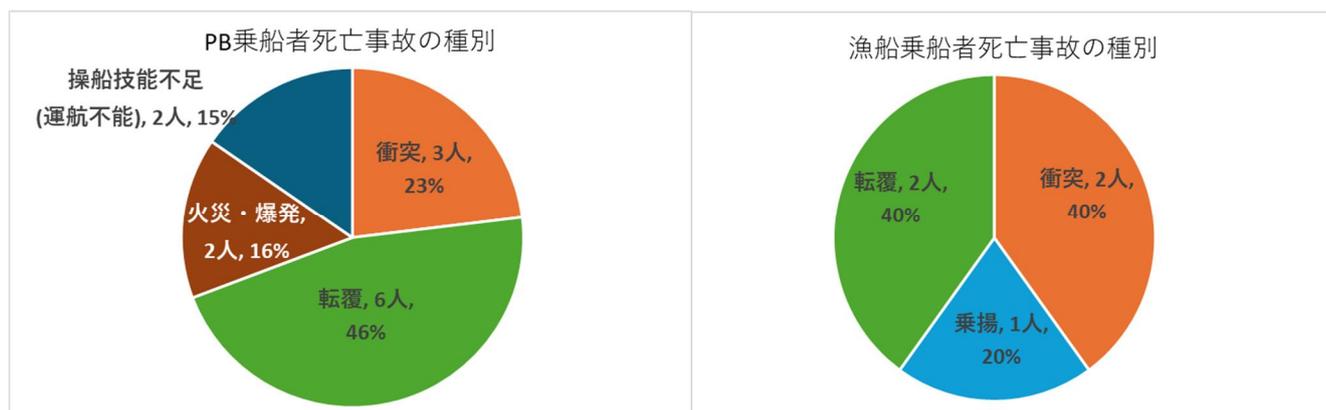
(2) 死亡者の月別状況

月平均1.5人のところ4月は4人、5月は3人と多く発生している。船舶海難に伴う死亡者はPB乗船者が約7割、漁船乗船者が約3割を占める

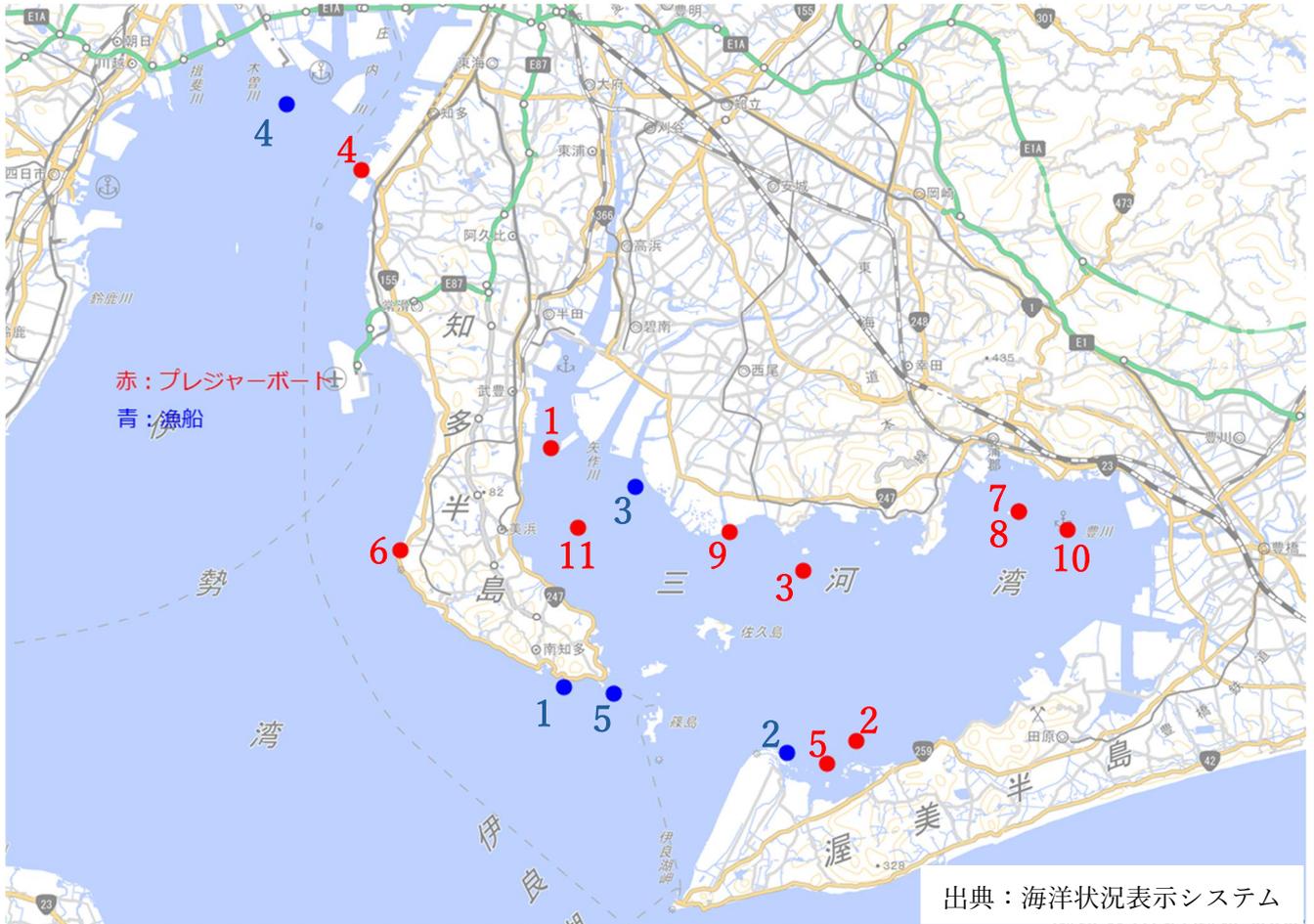


(3) 事故種別

転覆事故によるものが8人(PB6人、漁船2人)、次いで衝突5人(PB3人、漁船2人)操船技能不足によるものはシーカヤック乗船者2名



(4) 事故の概要



○ 漁船事故の概要

1	H19 1月	漁船	乗揚	該人は漁船で、わかめ養殖筏に向かい作業、先に息子を返し作業継続、帰宅が遅いため息子が迎えに行ったところ、チルトアップした船外機のプロペラに絡索した該船を発見、該人は行方不明で後に遺体で発見された。絡索を除去中に海中転落したものと推定。
2	H21 8月	漁船	衝突	該人は、漁船に1人で乗組み航行中、後方から漁船に衝突され、該人は海中転落し遺体で発見されたもの。
3	H23 7月	漁船	転覆	該人は、漁船に1人で乗組み水流噴射式貝けた網漁業を操業中に転覆、該人は海中転落し救助され病院に搬送されたが死亡が確認されたもの。
4	H24 11月	漁船	転覆	該人は、漁船に1人で乗組み現場海域で小船に乗換え海苔網張りの作業中に何らかの原因により小船が転覆、海中転落し溺水したもの。（推定）
5	H27 3月	漁船	衝突	衝突の相手船から「師崎沖で漁船と衝突。漁船は転覆し、海面に見えていた人影が見えなくなった」旨通報があり、捜索の結果、後日遺体で発見されたもの。

○ プレジャーボート (PB) 事故の概要

1	H18	5月	PB	転覆	該人は、1800頃から船外機付組み立て型ボートに一人で乗組み釣りを始め、2030頃、風が強くなり友人が迎えに向ったところ漂流する救命胴衣を発見し118番通報。捜索の結果、2328頃転覆ボートが発見され、翌9日0124頃、該人の遺体が発見された。
2	H18	9月	PB	衝突	該人は、プレジャーボートに船長として他2名と乗船し、錨泊して魚釣り中、船首方向から接近する相手船を初認し、避航がないことから大声で相手船に注意を促したが、相手船が衝突し乗船者3名が海中に転落し、該人が衝突の衝撃で脳挫傷により死亡したものの。
3	H19	7月	PB	衝突	該人は、プレジャーボートに船長として他1名と乗船し、梶島東方で錨泊して魚釣り中、船尾方向からの漁船を認めたが、漁船が避けると億段し釣りを続けていたところ、漁船が衝突し、衝突により海中転落した該人が死亡（溺死）、同乗者も重傷を負ったものの。
4	H20	11月	PB	転覆	該人は、ミニボートに船長と2名で新舞子砂浜から出港し、名古屋港L2棧橋付近向け航行中、大きく面舵に変針したところ船尾から波が侵入し転覆したものの。船長はボートの縁に捕り救助され、該人はボートから離され漂流中に救助されたが死亡が確認された。
5	H21	4月	PB	転覆	該人は、友人と船外機付ボート2隻にそれぞれ乗組み釣り中、該人がライトを借りるため横付けしたところバランスを崩し両者のボートが転覆、海中転落したものの。復原せず、該人が海中に沈み行方不明となり遺体で発見された。友人はボートに捕まり救助された。
6	H27	6月	PB	衝突	該人は、可搬式船外機付きボートに一人で乗組み、富具崎漁港を出港し、釣りをしていたところ、航行中のプレジャーボートが衝突し、該人が海中転落したものの。
7	H28	12月	PB	操船技能不足 (運航不)	該人は、友人と2人で別々のカヤックに乗り、港から三河大島向け出発、1246頃の連絡を最後に夜に帰宅しないため、家族が118番通報、翌日に遺体で発見されたものの。2名が漂流（水温約10度）し、低体温症により溺水したと推測される。
8	H28	12月	PB	操船技能不足 (運航不)	該人は、友人と2人で別々のカヤックに乗り、港から三河大島向け出発、1246頃の連絡を最後に夜に帰宅しないため、家族が118番通報、翌日に遺体で発見されたものの。2名が漂流（水温約10度）し、低体温症により溺水したと推測される。
9	R2	4月	PB	転覆	該人は、友人とミニボートに乗組み、釣りの後、帰港中に風浪・横波で転覆、海中転落したものの。後に救助されたが該人は死亡、友人は命に別状なかった。該人は10年前に喉頭ガンの手術で胸部に永久気管孔が開孔しており、海水が直接肺に入り溺水に至った。
10	R3	4月	PB	転覆	投錨した状態で転覆した無人小型ヨットを発見した旨の通報を受け捜索したところ、付近を漂流している事故者1名の遺体を発見揚収し、また同ヨット船内からも事故者1名の遺体を発見したものの。
11	R3	5月	PB	火災	該船関係者から「乗員から火災発生、乗員2名とも海に飛び込む旨連絡があった。」旨の通報があり、乗員の捜索、火災船の消火を実施。船は沈没し後日発見、乗員2名は後日遺体で発見された。特定できないが船底の電気配線に溶融痕があり短絡・発火と推測。

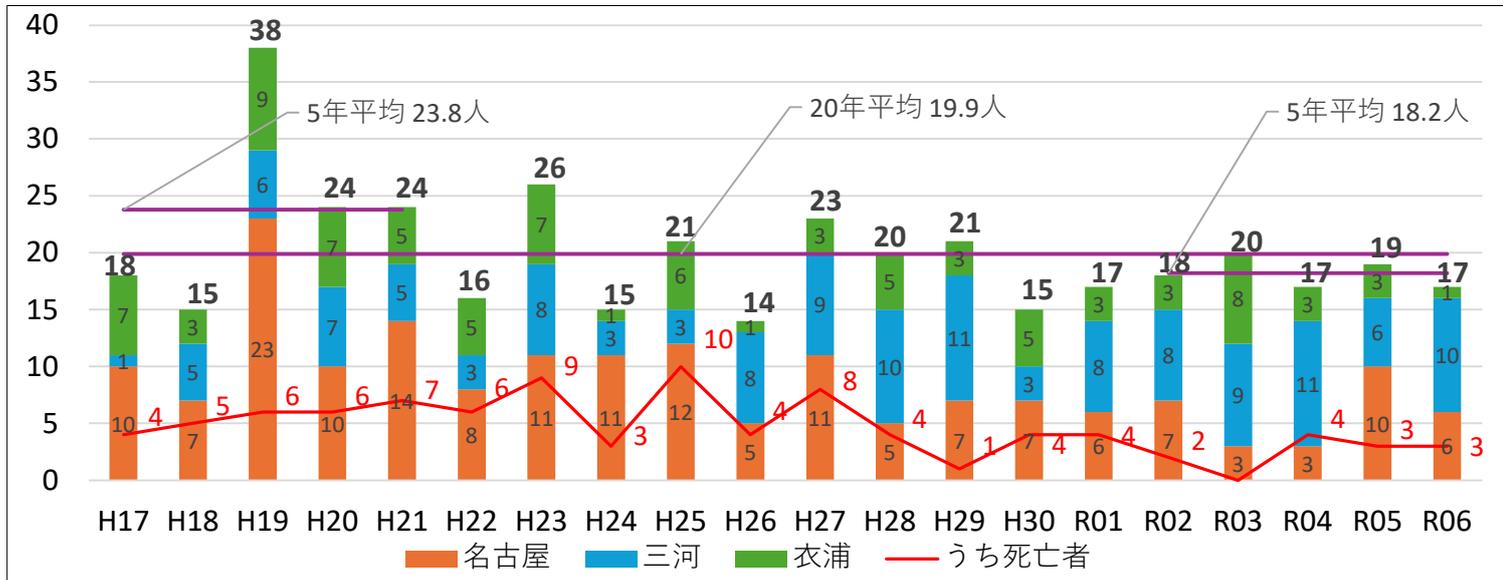
Ⅱ マリンレジャー中の事故

1 マリンレジャー中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は398人（うち死者93人）で名古屋44%、三河34%、衣浦22%を占める

○年間平均約20人。H17～H21年の平均約24人、直近R02～R06年の平均は18人で減少傾向（約25%減）

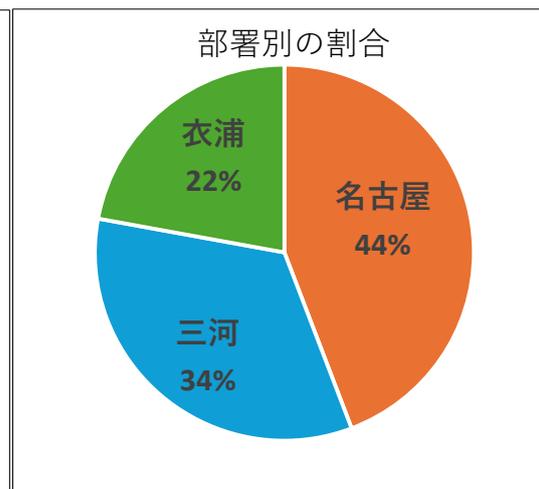
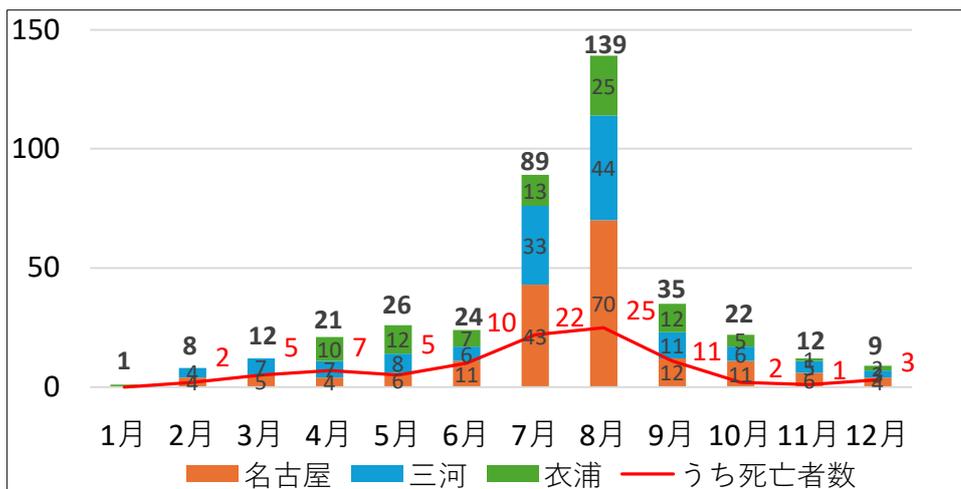


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
名古屋	10	7	23	10	14	8	11	11	12	5	11	5	7	7	6	7	3	3	10	6	176
三河	1	5	6	7	5	3	8	3	3	8	9	10	11	3	8	8	9	11	6	10	134
衣浦	7	3	9	7	5	5	7	1	6	1	3	5	3	5	3	3	8	3	3	1	88
計	18	15	38	24	24	16	26	15	21	14	23	20	21	15	17	18	20	17	19	17	398
うち死亡者	4	5	6	6	7	6	9	3	10	4	8	4	1	4	4	2	0	4	3	3	93

(2) 月別の状況

○事故者数398人中、7月、8月の事故者数が228人で約60%を占める

○死亡者においても93人中、7月、8月の事故者が47人で約50%を占める

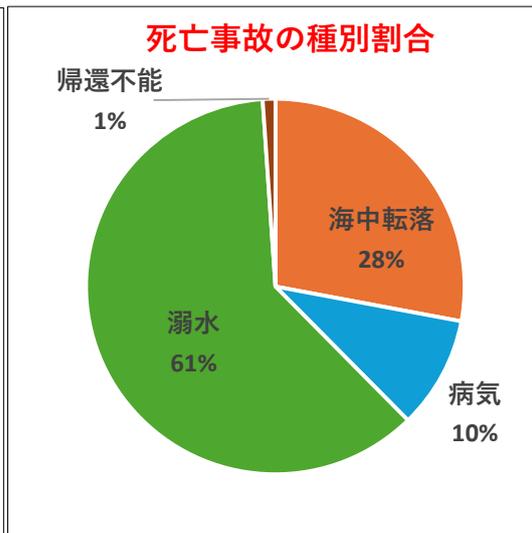
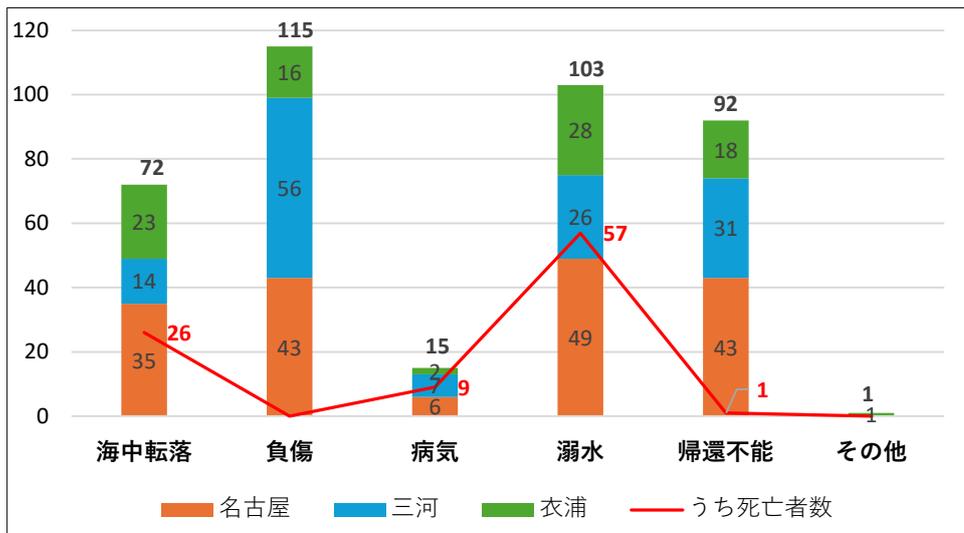


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋		4	5	4	6	11	43	70	12	11	6	4	176
三河		4	7	7	8	6	33	44	11	6	5	3	134
衣浦	1			10	12	7	13	25	12	5	1	2	88
計	1	8	12	21	26	24	89	139	35	22	12	9	398
うち死亡者数	0	2	5	7	5	10	22	25	11	2	1	3	93

(3) マリンレジャー中の事故種別

○多い順に、負傷115人（30％）、溺水103人（26％）、帰還不能92人（23％）、海中転落72人（18％）

○死亡事故は溺水が57人（60％）、海中転落が26人（30％）を占める

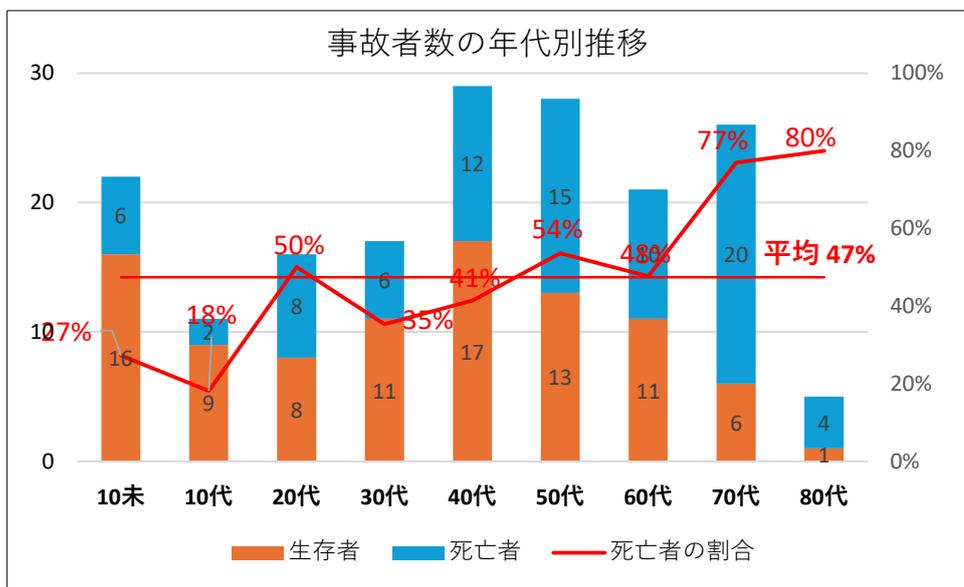


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋	35	43	6	49	43		176
三河	14	56	7	26	31		134
衣浦	23	16	2	28	18	1	88
計	72	115	15	103	92	1	398
うち死亡者数	26		9	57	1		93

(4) マリンレジャー中の溺水・海中転落事故者の年代及び救命胴衣着用状況

○溺水・海中転落事故者175人中、40代29人、50代28人、70代26人と40代以上に多く発生

○事故者に占める死亡者の割合は平均47%に対して、50代以降の割合は増加



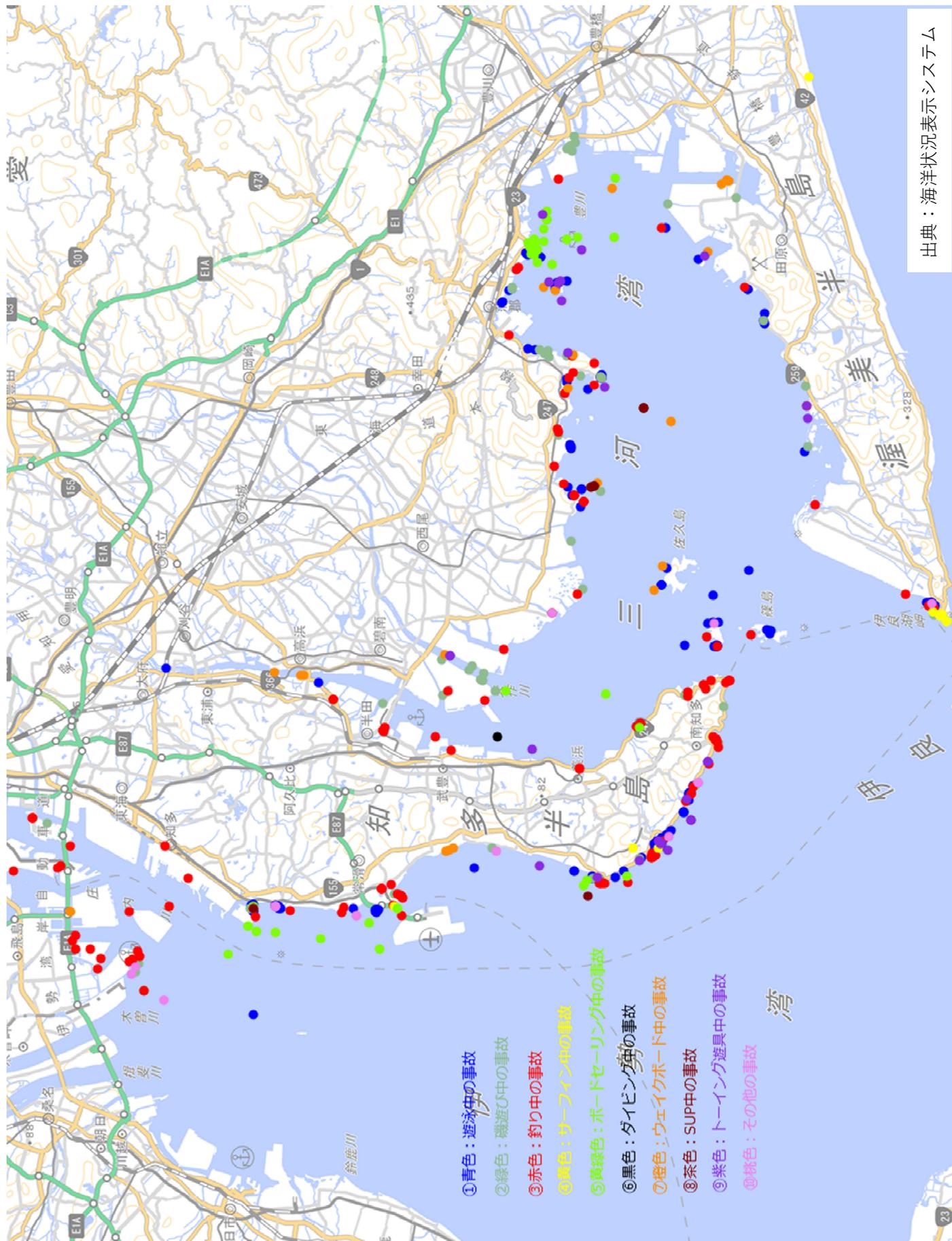
年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者	16	9	8	11	17	13	11	6	1	92
死亡者	6	2	8	6	12	15	10	20	4	83
死亡者の割合	27%	18%	50%	35%	41%	54%	48%	77%	80%	47%
LG着用	2				5	2	1			10

○溺水・海中転落事故者175人中、救命胴衣(LG)着用者は10名（6％）に留まっている

○LG着用事故者10人のうち死亡者2人（20％）に対して生存者は8人（80％）

○LG未着用事故者148人のうち死亡者72人（49％）生存者は76人（51％） ※着用状況不明者17人を除く

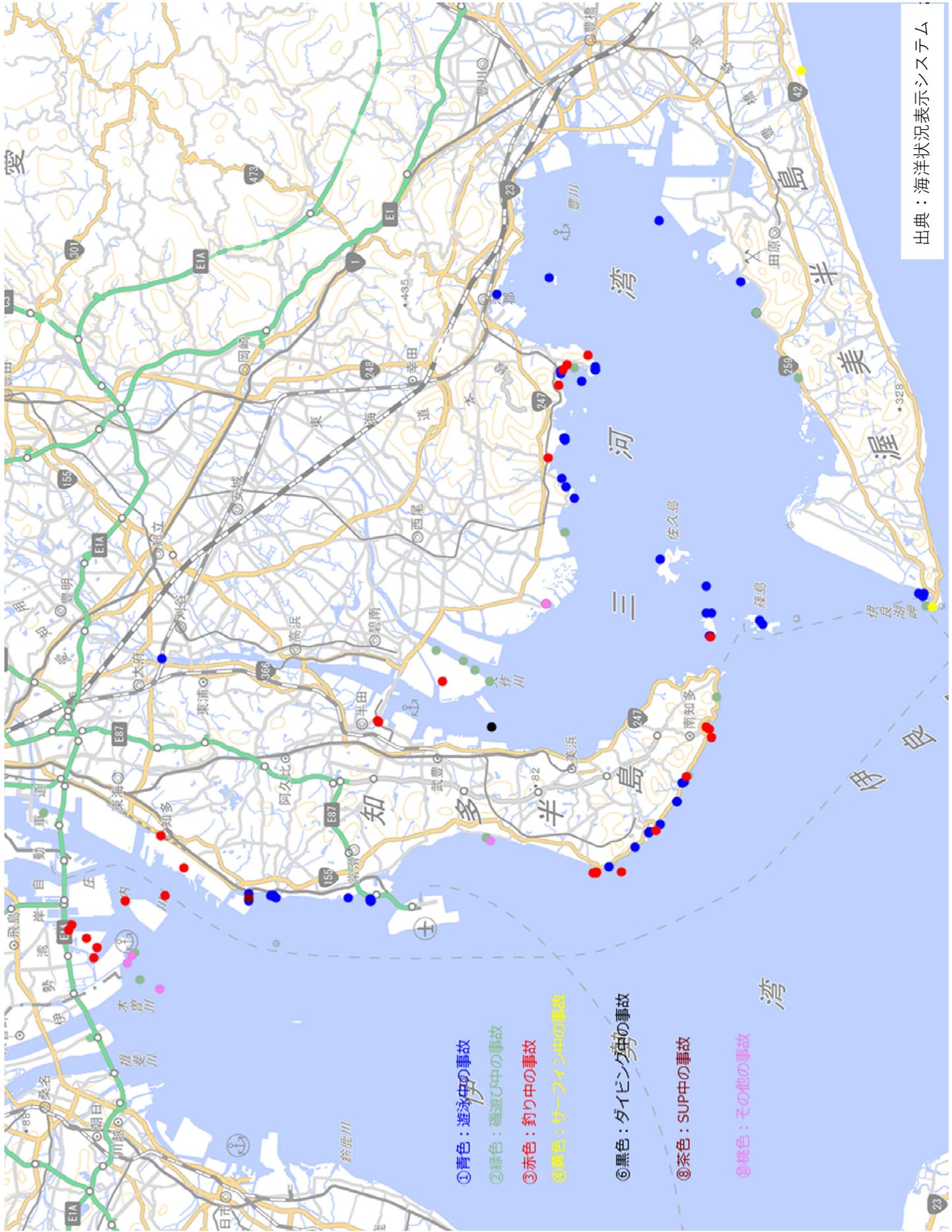
(5) マリンレジャー中の事故分布図



出典：海洋状況表示システム

- 遊泳中
- 磯遊び中
- 釣り中
- サーフィン中
- ボードセーリング中
- ダイビング中
- ウェイクボード中
- SUP中
- トーイング遊具中
- その他

(6) マリンレジャー中の死亡事故分布図



- 遊泳中
- 磯遊び中
- 釣り中
- サーフィン中
- ダイビング中
- SUP中
- その他

出典：海洋状況表示システム

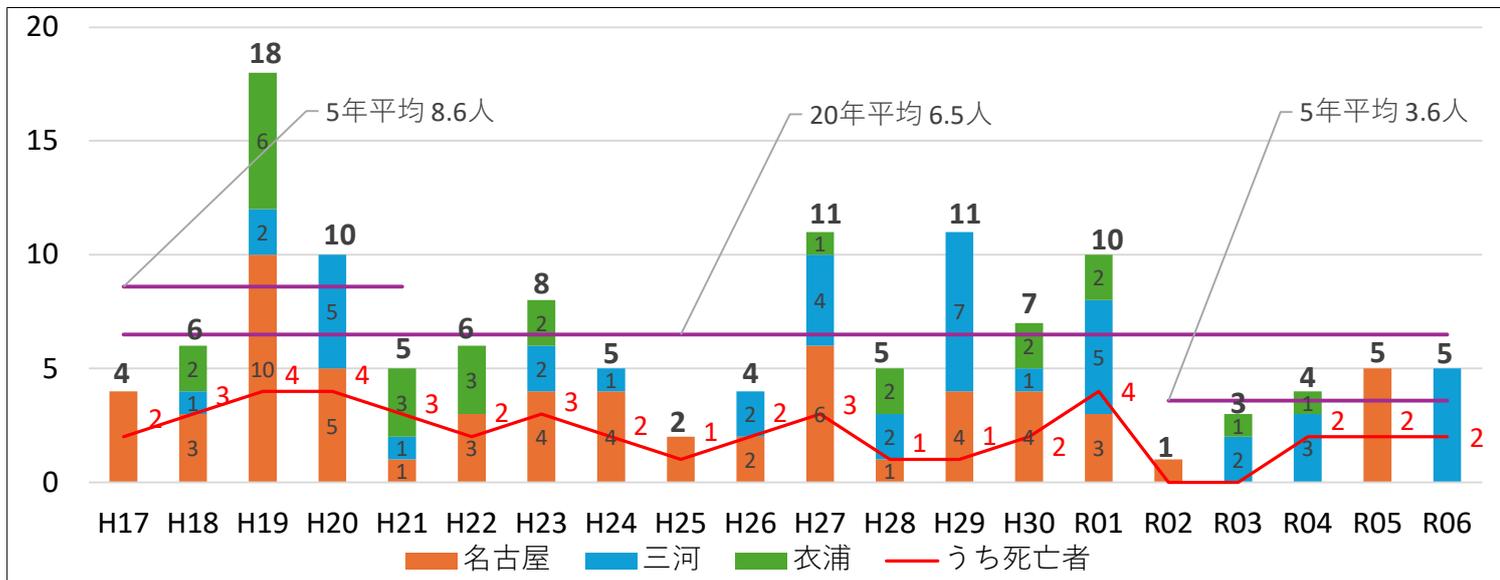
II マリンレジャー中の事故

2 遊泳中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は130人（うち死者43人）で名古屋48%、三河33%、衣浦19%を占める

○年間平均約6.5人。H17～H21年の平均約8.6人、直近R02～R06年の平均は3.6人で減少傾向（約58%減）

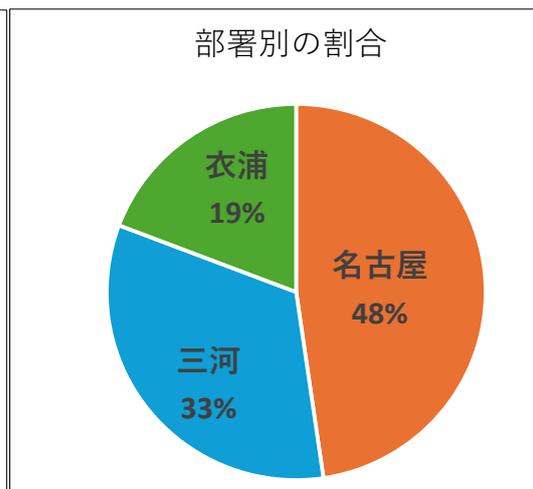
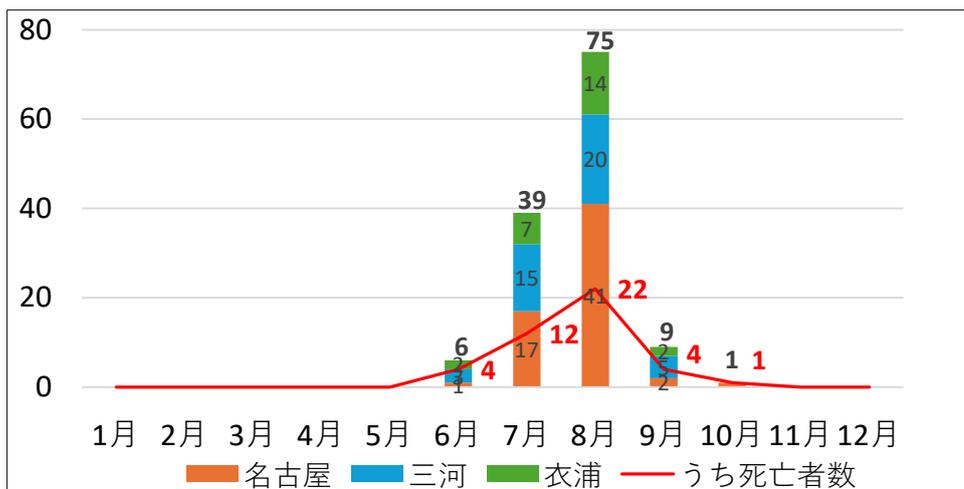


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
名古屋	4	3	10	5	1	3	4	4	2	2	6	1	4	4	3	1			5		62
三河		1	2	5	1		2	1		2	4	2	7	1	5		2	3		5	43
衣浦		2	6		3	3	2				1	2		2	2		1	1			25
計	4	6	18	10	5	6	8	5	2	4	11	5	11	7	10	1	3	4	5	5	130
うち死亡者	2	3	4	4	3	2	3	2	1	2	3	1	1	2	4			2	2	2	43

(2) 月別の状況

○事故者数130人中、7月、8月の事故者数が114人で88%を占める

○死亡者においても43人中、7月、8月の事故者が34人で80%を占める

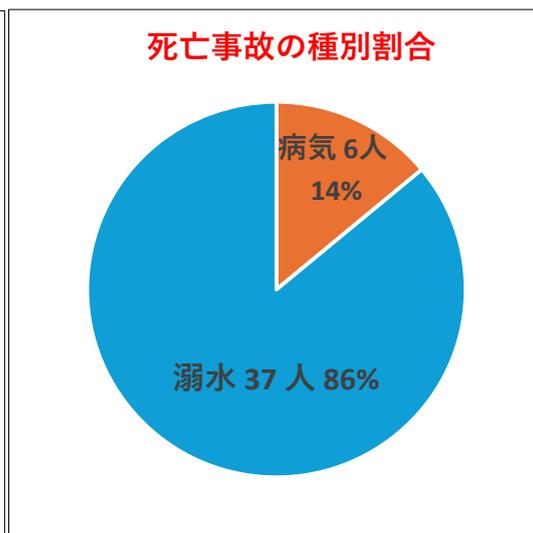
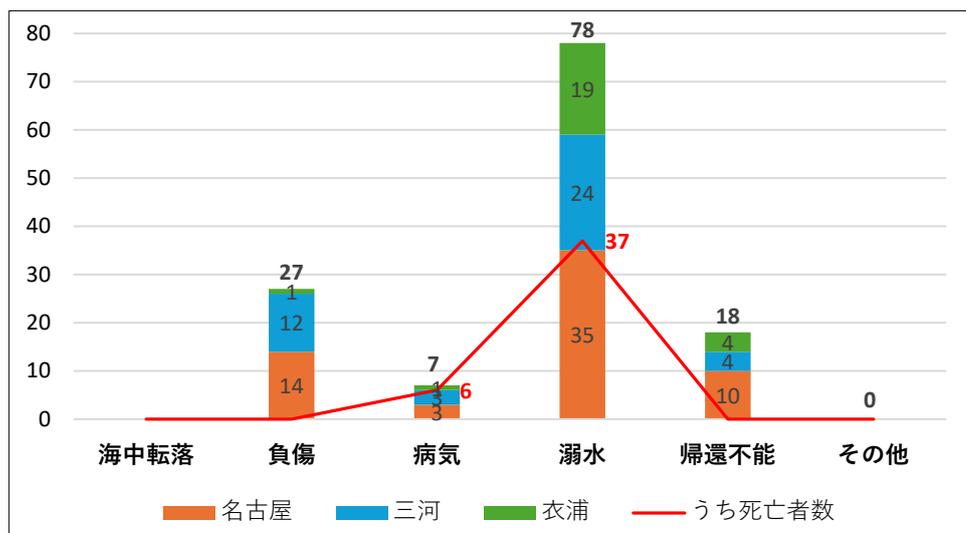


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋						1	17	41	2	1			62
三河						3	15	20	5				43
衣浦						2	7	14	2				25
計	0	0	0	0	0	6	39	75	9	1	0	0	130
うち死亡者数						4	12	22	4	1			43

(3) 遊泳中の事故種別

○多い順に、溺水78人（60%）、負傷27人（20%）、帰還不能18人（14%）

○死亡事故は43人中、溺水が37人（86%）、病気が6人（14%）を占める

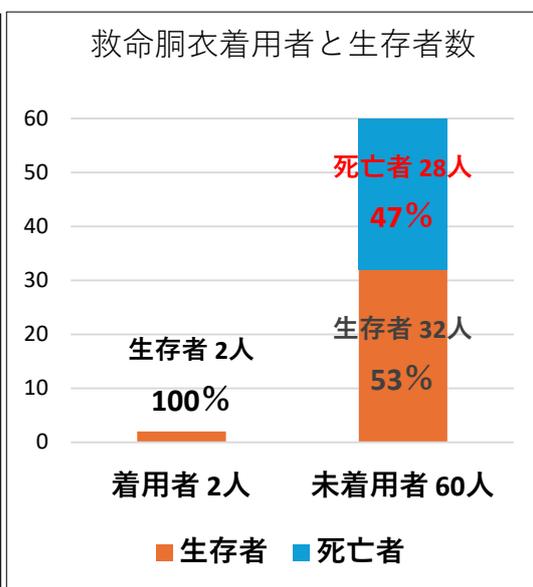
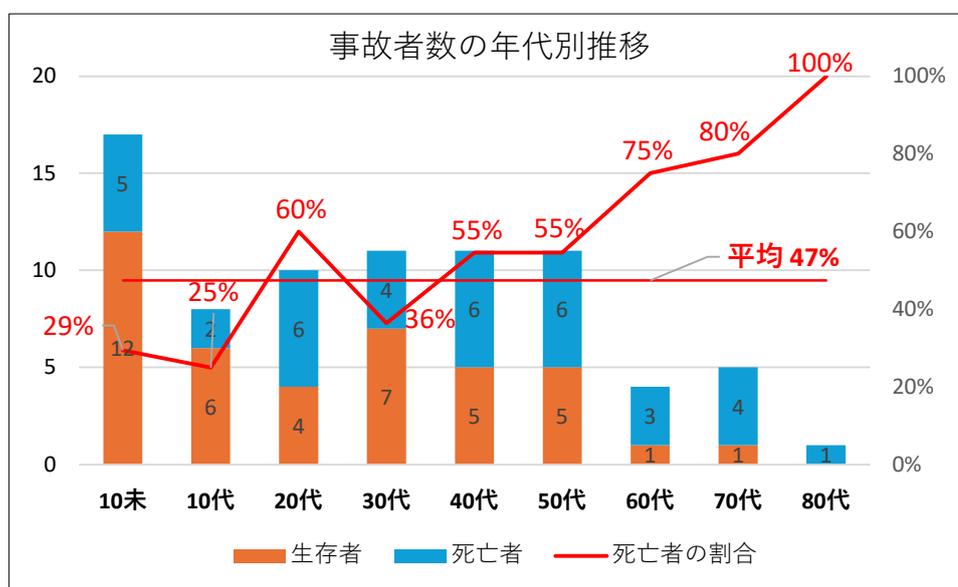


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋		14	3	35	10		62
三河		12	3	24	4		43
衣浦		1	1	19	4		25
計	0	27	7	78	18	0	130
うち死亡者数			6	37			43

(4) 遊泳中の溺水事故者の年代及び救命胴衣着用状況

○溺水事故者78人中、10代未満が17人と最も多く、10代から50代まで約10人前後が事故を発生

○事故者に占める死亡者の割合は平均47%に対して、20代及び40代以降の割合が増加



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者	12	6	4	7	5	5	1	1	0	41
死亡者	5	2	6	4	6	6	3	4	1	37
死亡者の割合	29%	25%	60%	36%	55%	55%	75%	80%	100%	47%
LG着用	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2

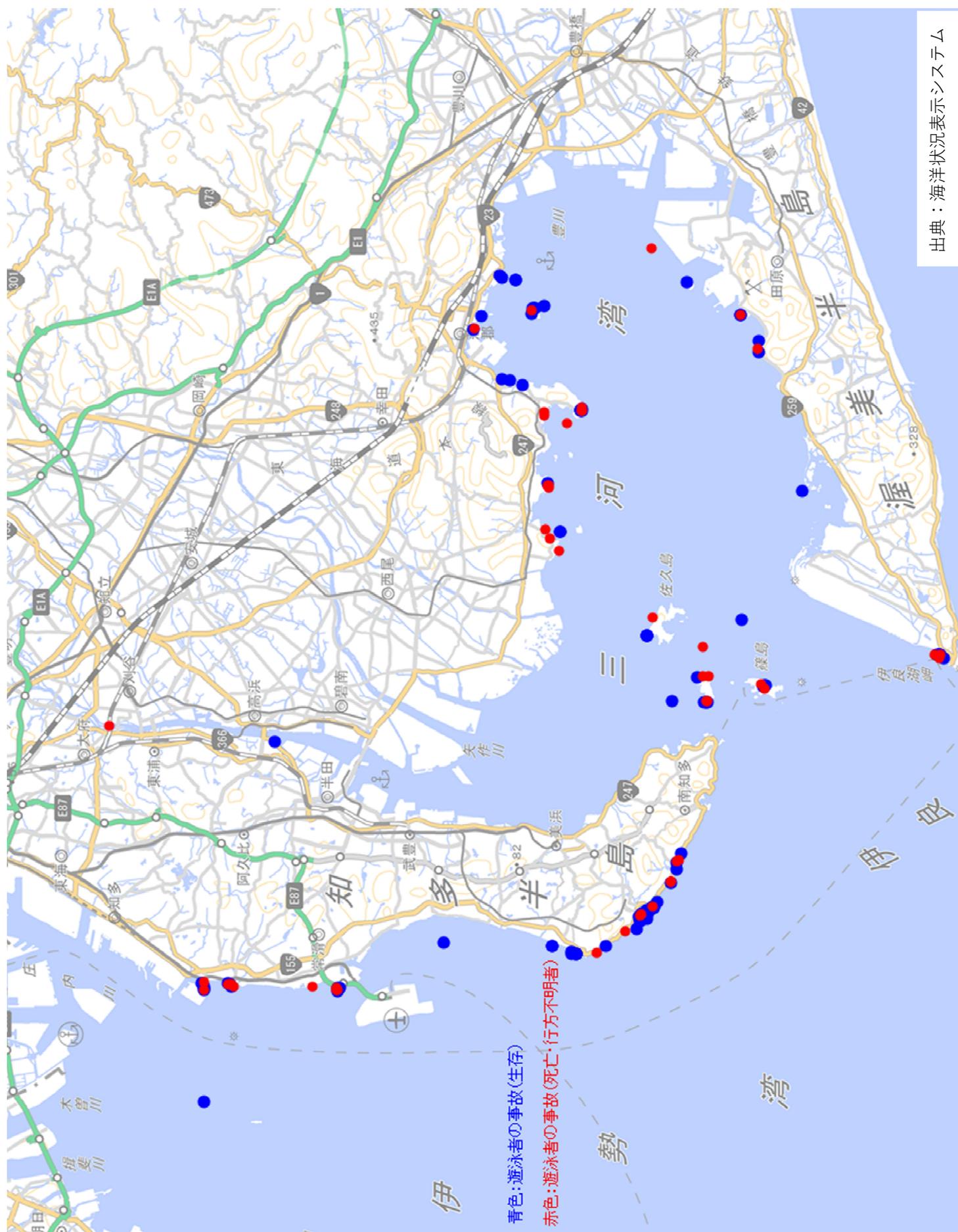
○溺水事故者78人中、救命胴衣（LG）着用者2名（2.5%）に留まっている

○LG着用事故者2人のうち死亡者0人（0%）生存者は2人（100%）

○LG未着用事故者60人のうち死亡者28人（47%）生存者は32人（53%）

※着用状況不明者16人を除く

(5) 遊泳中事故の分布図



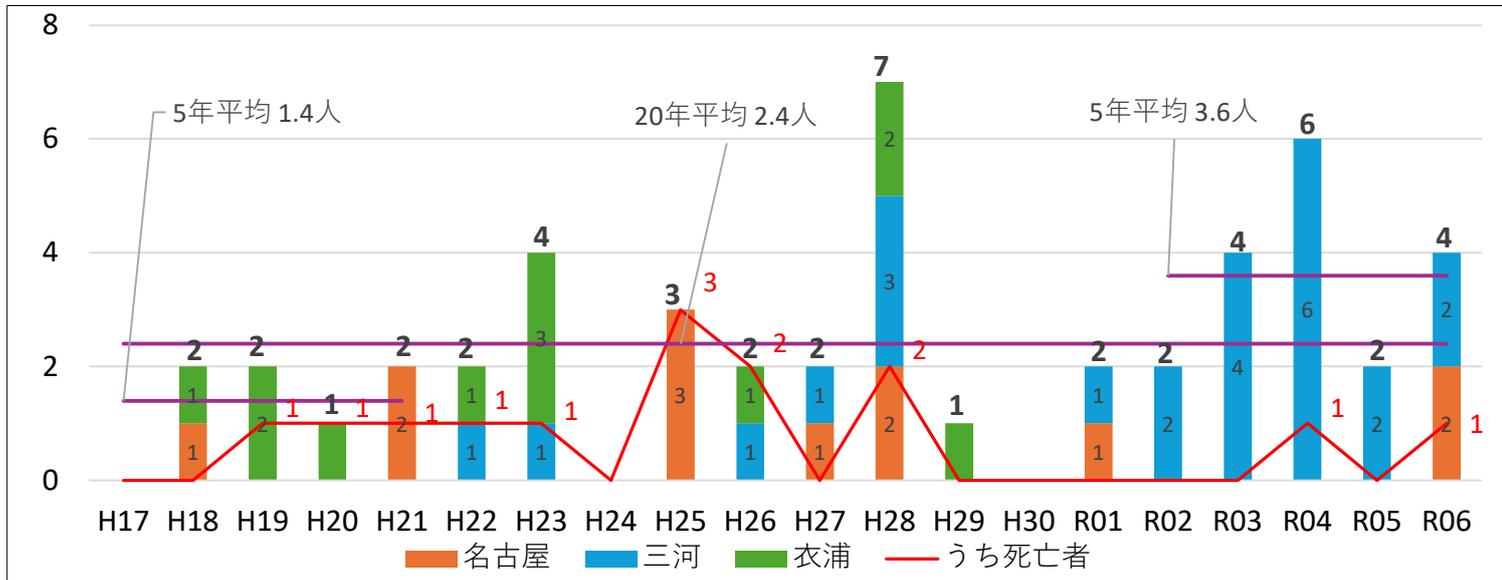
II マリンレジャー中の事故

3 磯遊び中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は48人（うち死者14人）で名古屋25%、三河50%、衣浦25%を占める

○年間平均約2.4人。H17～H21年の平均約1.4人、直近R02～R06年の平均は3.6人で増加傾向（約2.5倍）

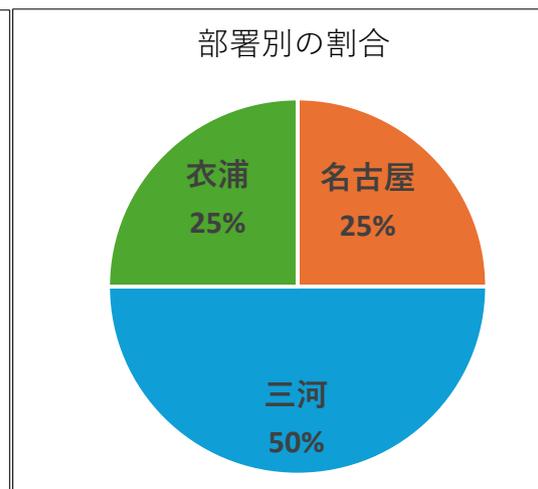
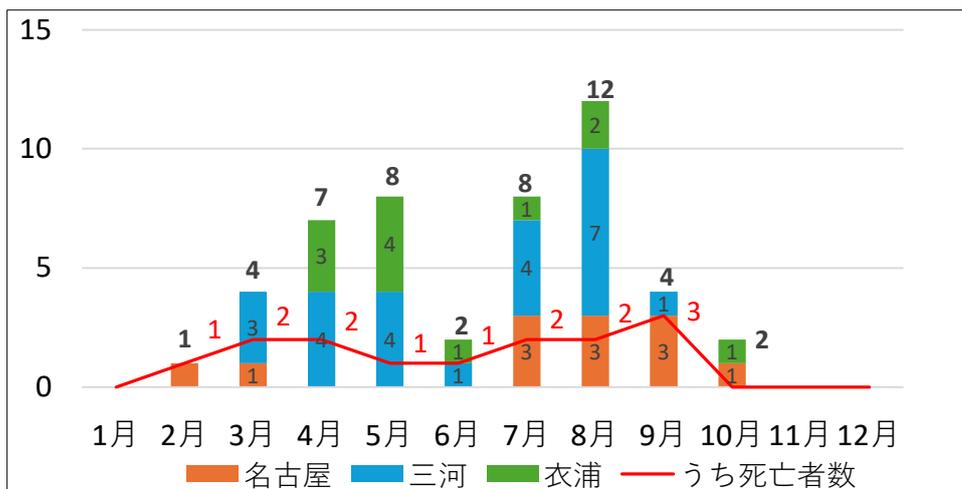


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
名古屋		1			2				3		1	2			1					2	12
三河						1	1			1	1	3			1	2	4	6	2	2	24
衣浦		1	2	1		1	3			1		2	1								12
計	0	2	2	1	2	2	4	0	3	2	2	7	1	0	2	2	4	6	2	4	48
うち死亡者			1	1	1	1	1		3	2		2						1		1	14

(2) 月別の状況

○4月、5月に15人（30%）、7月、8月に20人（40%）と多く発生

○死亡者は事故が発生している2月から9月にかけて毎月発生

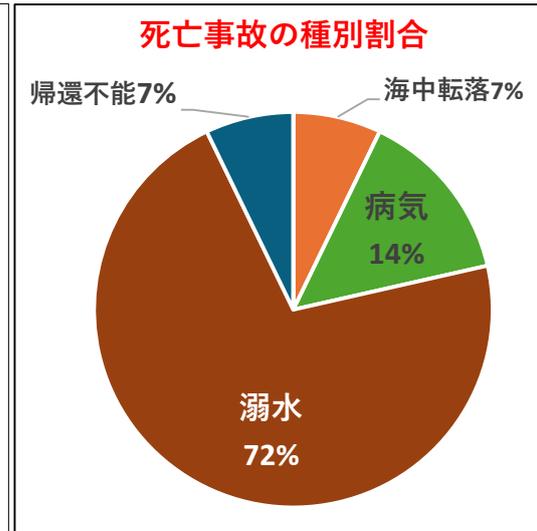
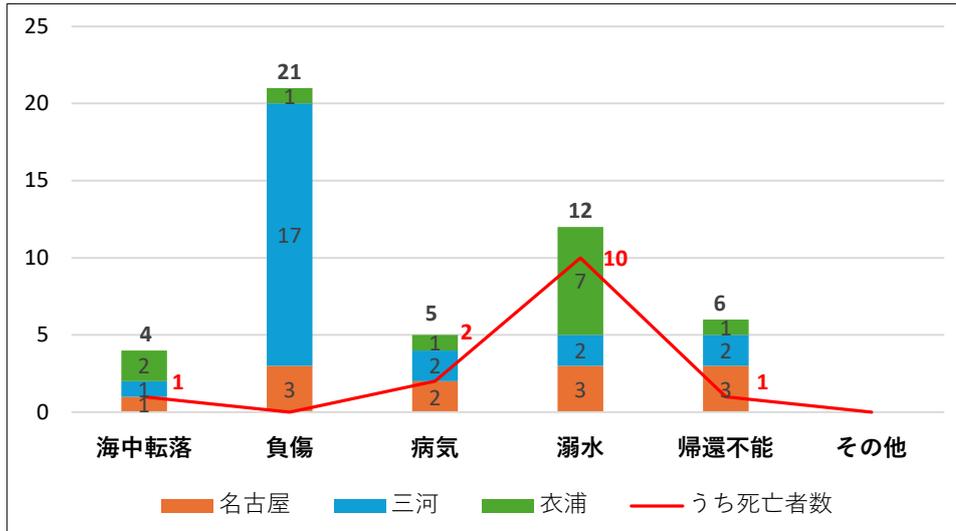


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋		1	1				3	3	3	1			12
三河			3	4	4	1	4	7	1				24
衣浦				3	4	1	1	2		1			12
計	0	1	4	7	8	2	8	12	4	2	0	0	48
うち死亡者数		1	2	2	1	1	2	2	3				14

(3) 磯遊び中の事故種別

○多い順に、負傷21人（44%）、溺水12人（25%）、帰還不能6人（13%）

○死亡事故は14人中、溺水が10人（72%）、病気が2人（14%）を占める

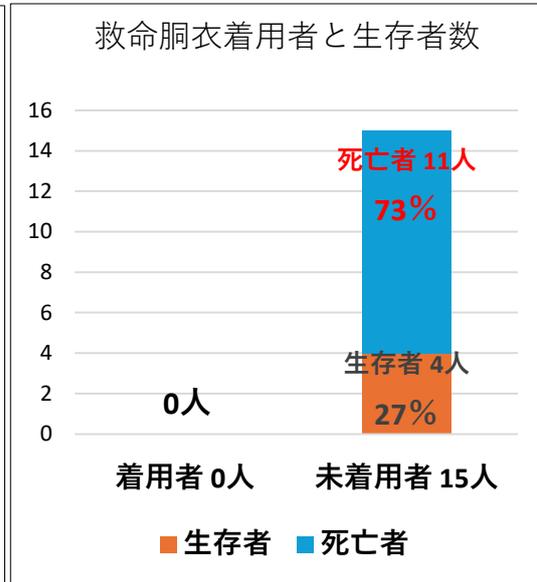
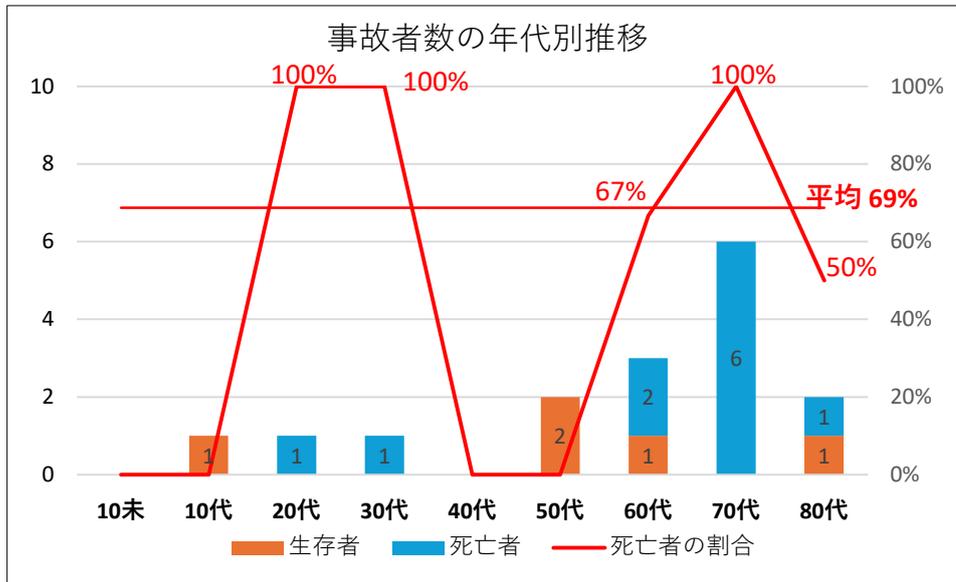


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋	1	3	2	3	3		12
三河	1	17	2	2	2		24
衣浦	2	1	1	7	1		12
計	4	21	5	12	6	0	48
うち死亡者数	1		2	10	1		14

(4) 磯遊び中の溺水・海中転落事故者の年代及び救命胴衣着用状況

○溺水・海中転落事故者数は40代以下の3人に対して、50代以上は13人と多く発生

○事故者に占める死亡者の割合は平均約70%と高い割合を示している

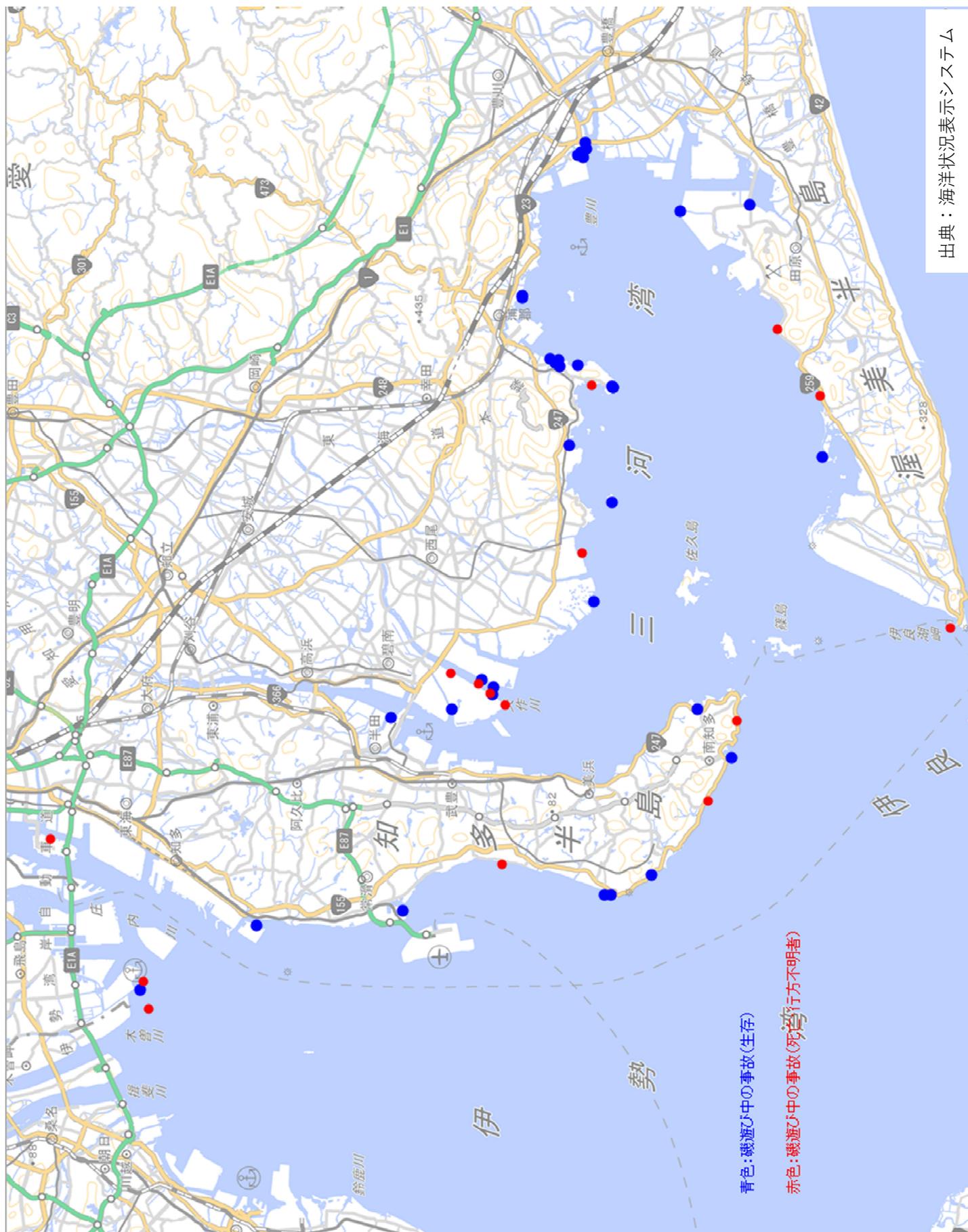


年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者		1				2	1		1	5
死亡者			1	1			2	6	1	11
死亡者の割合		0%	100%	100%		0%	67%	100%	50%	69%
LG着用										0

○溺水・海中転落事故者16人中、救命胴衣（LG）着用者は0名となっている。

○LG未着用事故者15人のうち死亡者11人（73%）生存者は4人（27%） ※着用状況不明者1人を除く

(5) 磯遊び中の事故分布図



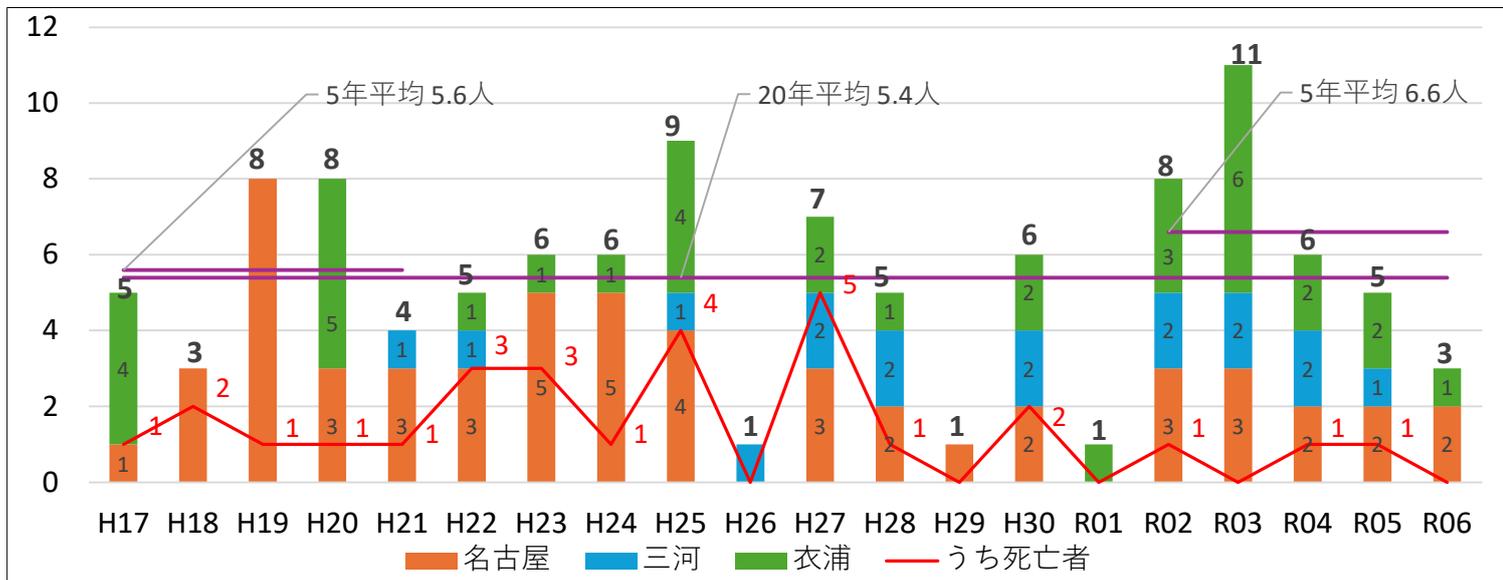
II マリンレジャー中の事故

4 釣り中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は108人（うち死者28人）で名古屋51%、三河16%、衣浦33%を占める

○年間平均約5.4人。H17～H21年の平均約5.6人、直近R02～R06年の平均は6.6人で増加傾向（約1.2倍）

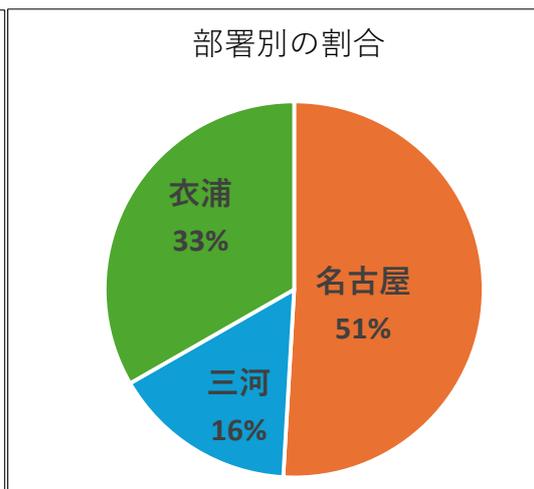
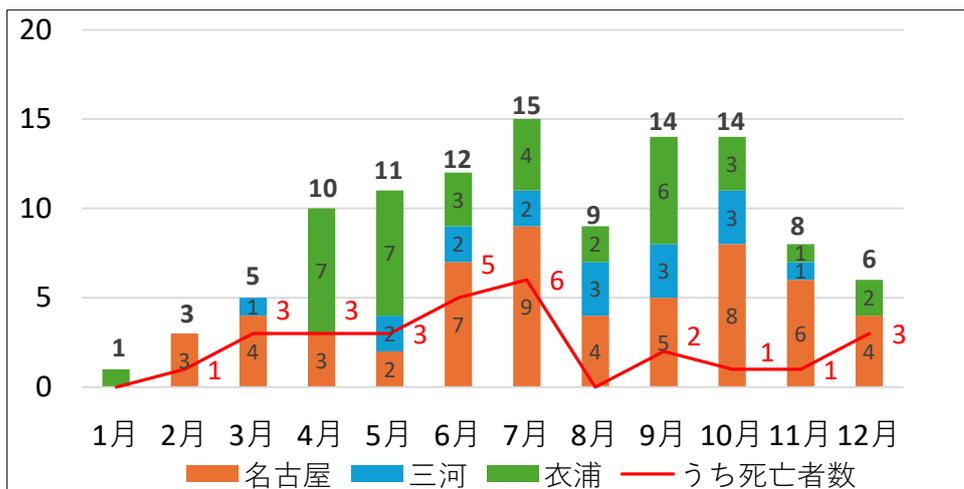


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計	
名古屋	1	3	8	3	3	3	5	5	4		3	2	1	2		3	3	2	2	2	2	55
三河					1	1			1	1	2	2		2		2	2	2	1			17
衣浦	4			5		1	1	1	4		2	1		2	1	3	6	2	2	1		36
計	5	3	8	8	4	5	6	6	9	1	7	5	1	6	1	8	11	6	5	3		108
うち死亡者	1	2	1	1	1	3	3	1	4		5	1		2		1		1	1			28

(2) 月別の状況

○4月から10月まで毎月、概ね10人以上の事故者が発生

○死亡事故は6月に5人、7月に6人と多く発生（計11人40%）

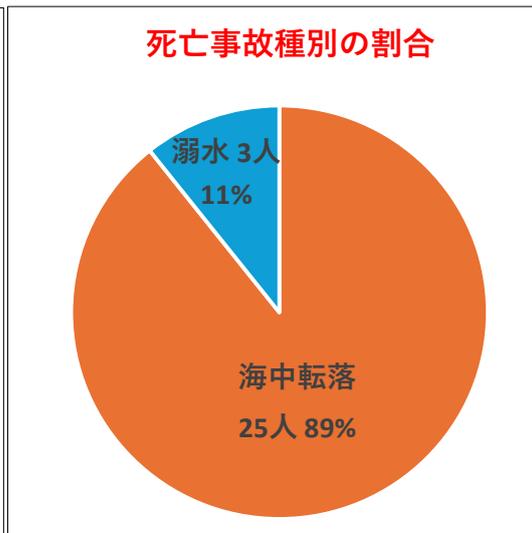
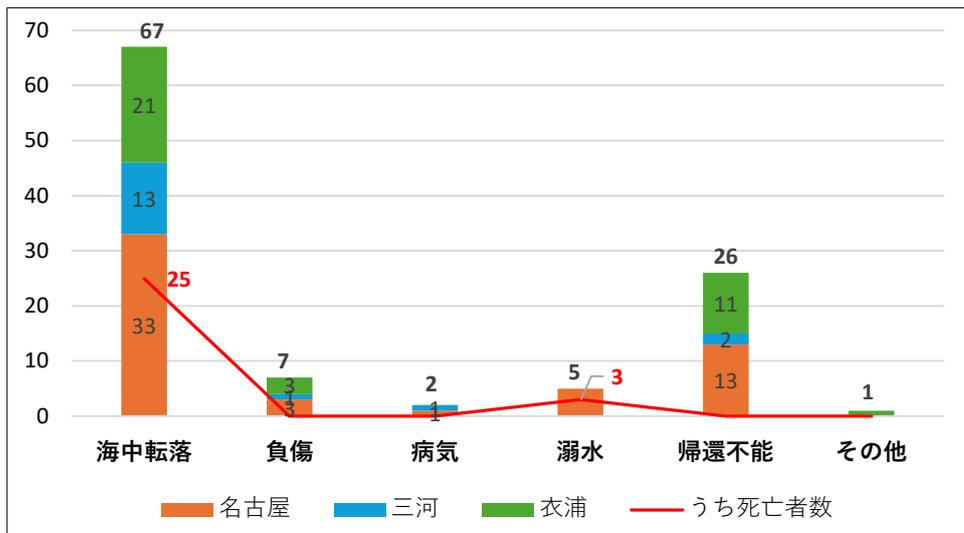


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋		3	4	3	2	7	9	4	5	8	6	4	55
三河			1		2	2	2	3	3	3	1		17
衣浦	1			7	7	3	4	2	6	3	1	2	36
計	1	3	5	10	11	12	15	9	14	14	8	6	108
うち死亡者数		1	3	3	3	5	6		2	1	1	3	28

(3) 釣り中の事故種別

○海中転落事故が最も多く67人（60％）を占める、次いで帰還不能が25％

○死亡事故は海中転落25人（約90％）と溺水3人（10％）で発生。海中転落者に占める死亡者の割合は37％

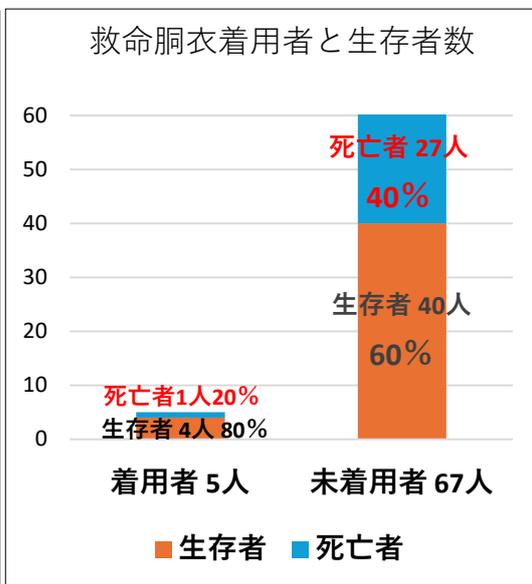
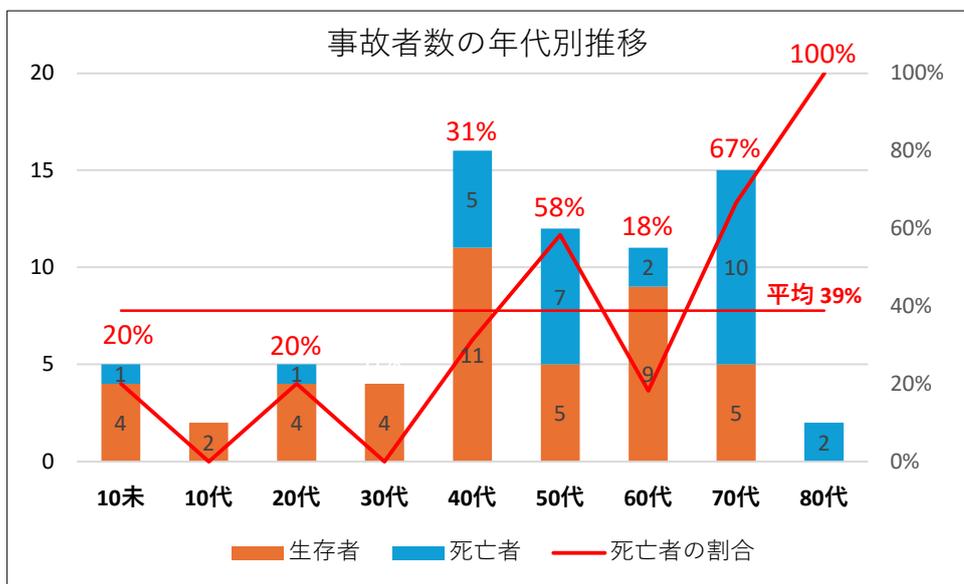


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋	33	3	1	5	13		55
三河	13	1	1		2		17
衣浦	21	3			11	1	36
計	67	7	2	5	26	1	108
うち死亡者数	25			3			28

(4) 釣り中の海中転落・溺水事故者の年代及び救命胴衣着用状況

○海中転落・溺水事故者数は30代以下16人に対して、40代以上は56人と多く発生

○事故者に占める死亡者の割合は平均39％。年代が上がると死亡者の割合は増加傾向



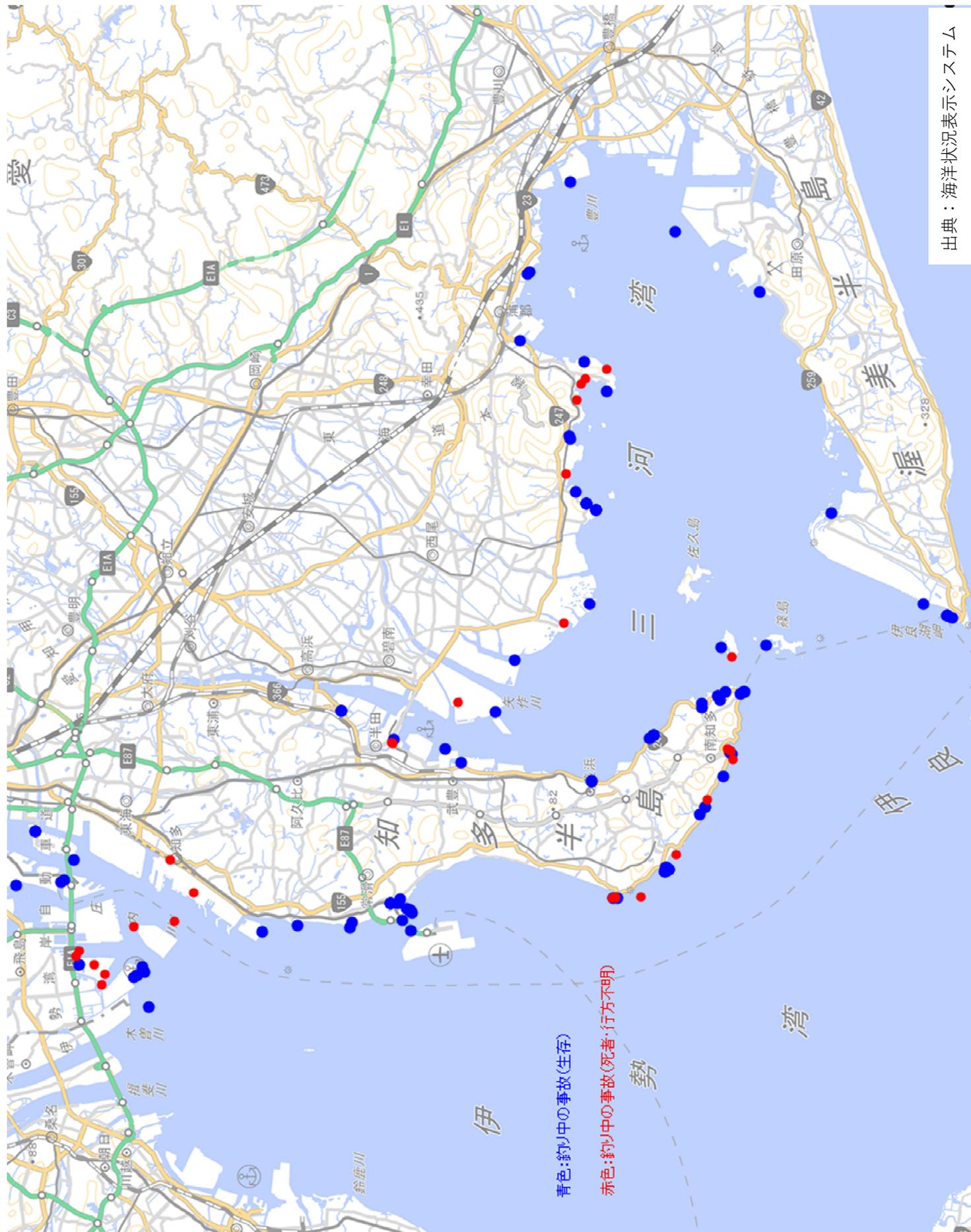
年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者	4	2	4	4	11	5	9	5		44
死亡者	1		1		5	7	2	10	2	28
死亡者の割合	20%	0%	20%	0%	31%	58%	18%	67%	100%	39%
LG着用	1				3		1			5

○海中転落・溺水事故者72人中、LG着用者5名（7％）に留まっている

○LG着用事故者5人のうち死亡者1人（20％）生存者は4人（80％）

○LG未着用事故者67人のうち死亡者27人（40％）生存者は40人（60％）

(5) 釣り中の事故分布図



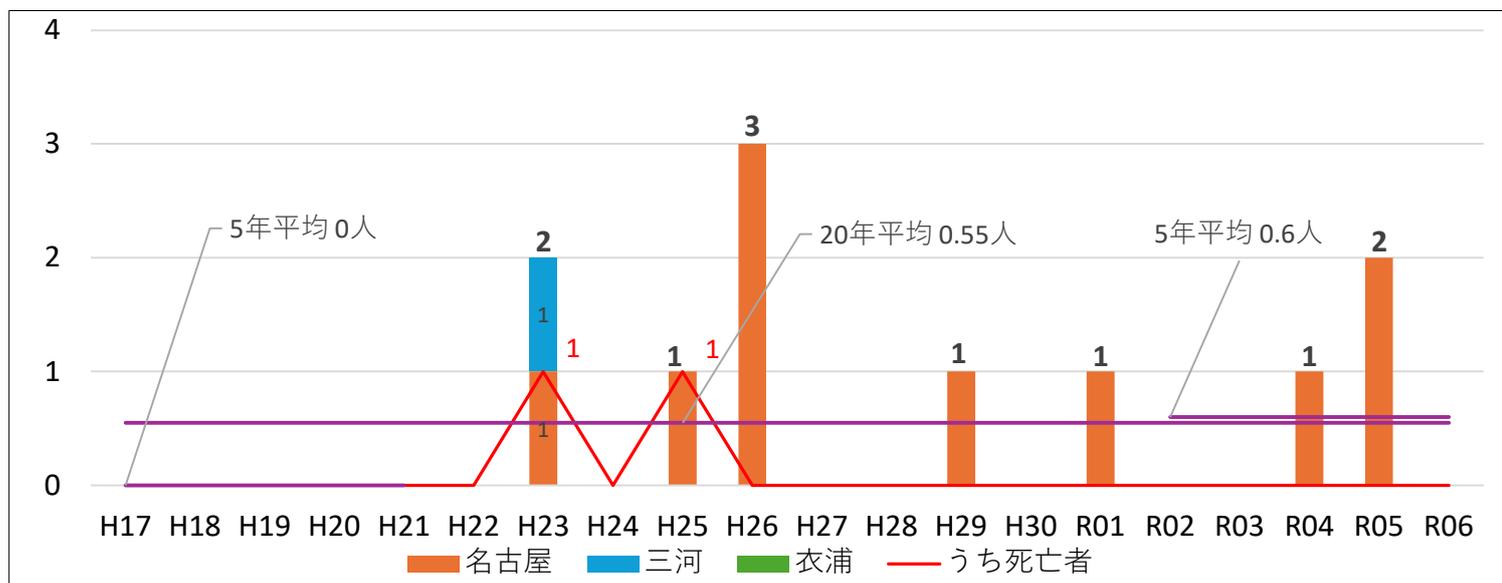
II マリンレジャー中の事故

5 サーフィン中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は11人（うち死者2人）で名古屋91%、三河9%を占める

○年間平均約0.6人。H17～H21年の平均約0人、直近R02～R06年の平均は0.6人

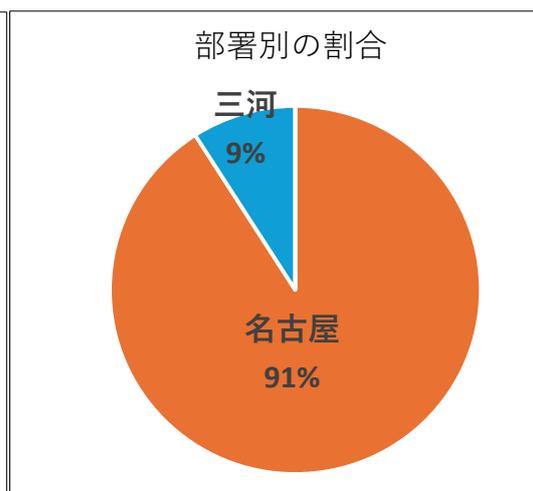
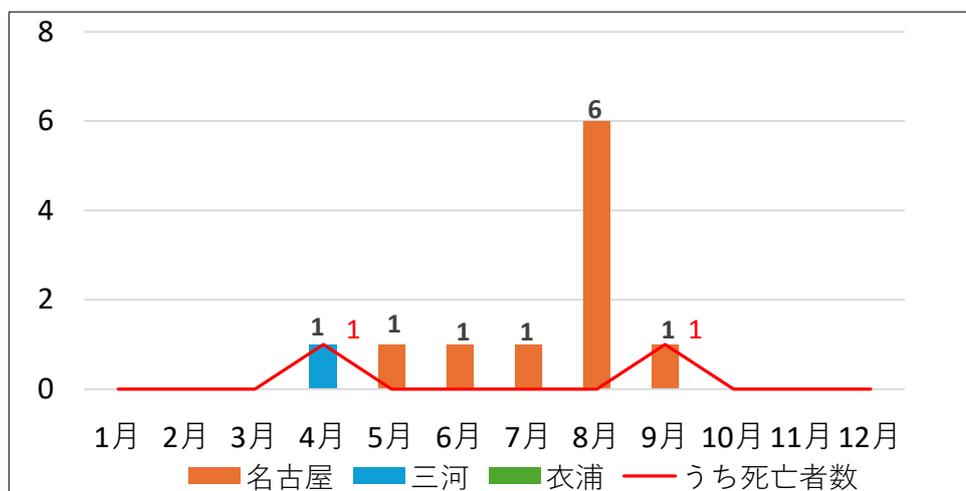


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
名古屋							1		1	3			1		1			1	2		10
三河							1														1
衣浦							0														0
計							2		1	3			1		1			1	2		11
うち死亡者							1		1												2

(2) 月別の状況

○事故者数11人中、8月に6人（55%）と多く発生

○死亡事故は2人で4月と9月に発生

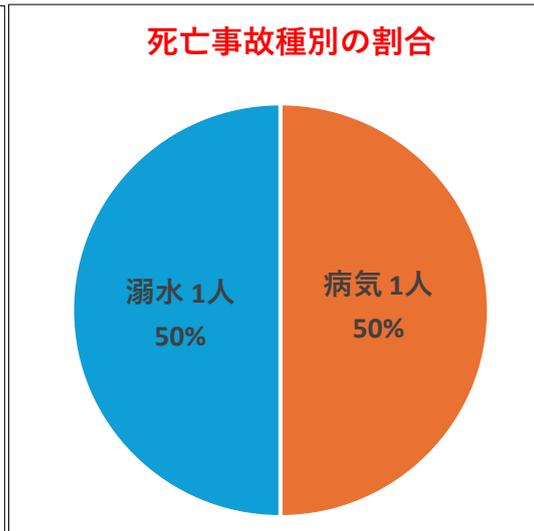
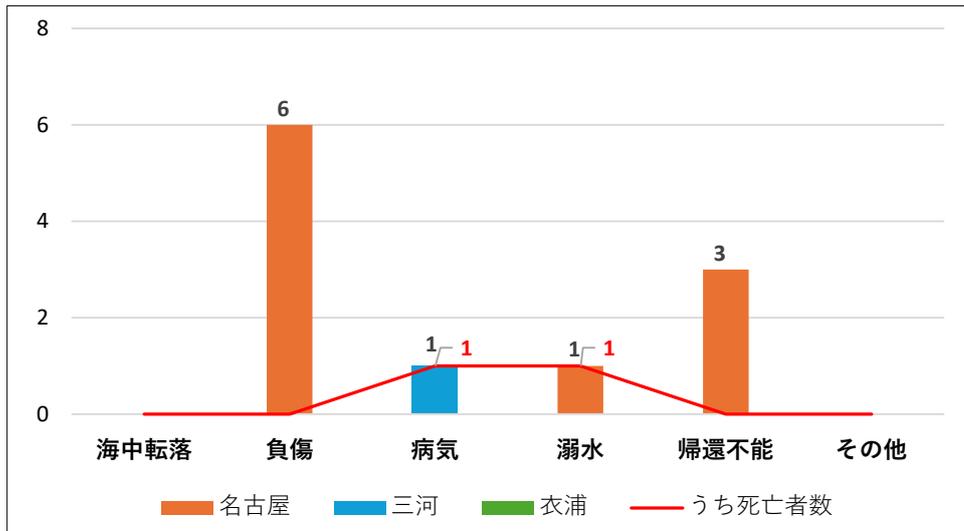


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋					1	1	1	6	1				10
三河				1									1
衣浦													0
計	0	0	0	1	1	1	1	6	1	0	0	0	11
うち死亡者数				1					1				2

(3) サーフィン中の事故種別

○負傷が最も多く6人（54%）、次いで帰還不能が3人（27%）

○死亡事故2名では溺水と病気で発生

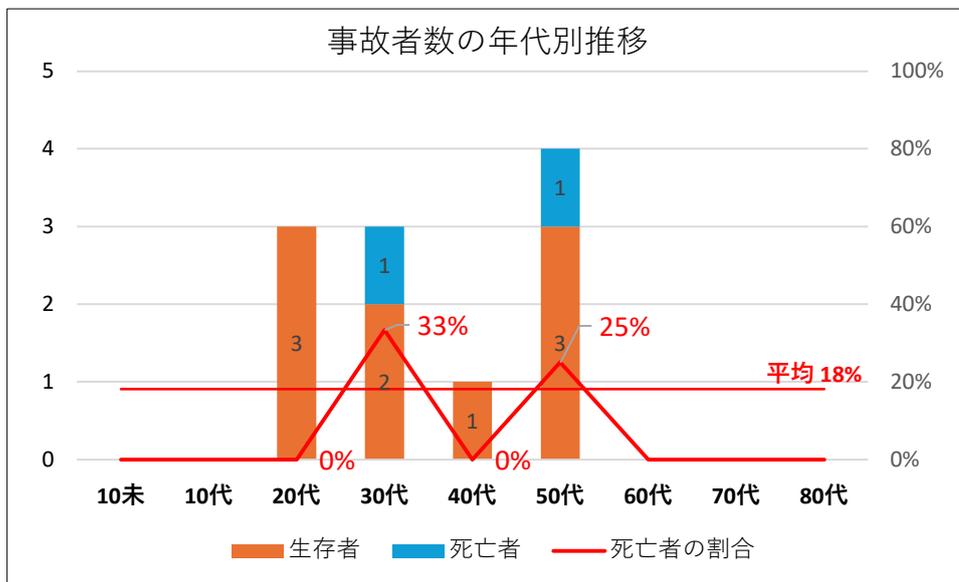


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋		6		1	3		10
三河			1				1
衣浦							0
計	0	6	1	1	3	0	11
うち死亡者数			1	1			2

(4) サーフィン中の事故者の年代

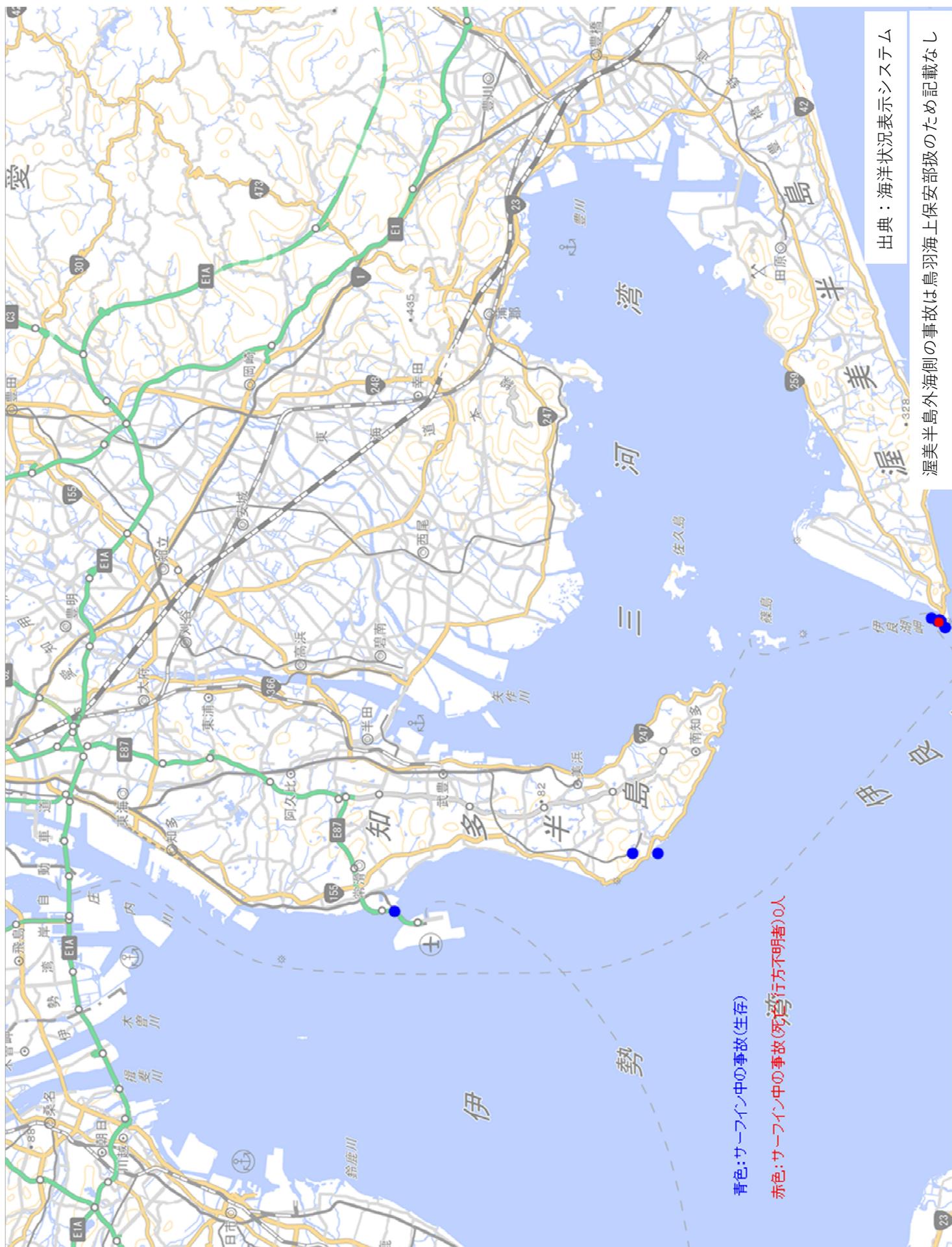
○20代から50代で事故が発生

○死亡事故は30代1人、50代1人



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者			3	2	1	3				9
死亡者				1		1				2
死亡者の割合			0%	33%	0%	25%				18%
LG着用			0	0	0	0				0

(5) サーフィン中の事故分布図



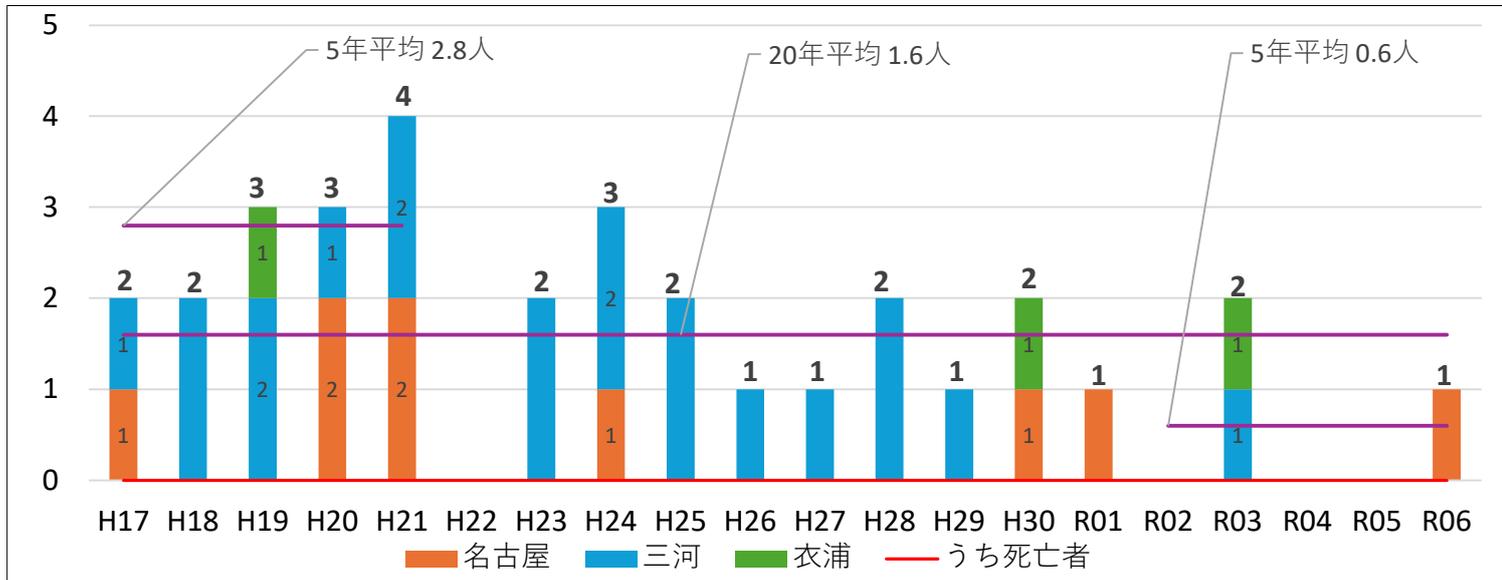
II マリンレジャー中の事故

6 ボードセーリング中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は32人（うち死者0人）で名古屋28%、三河63%、衣浦9%を占める

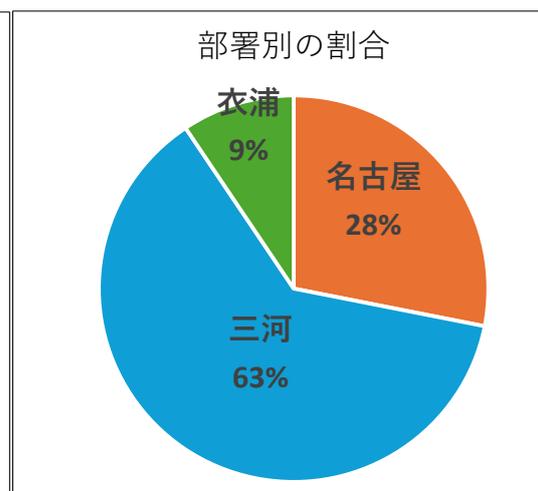
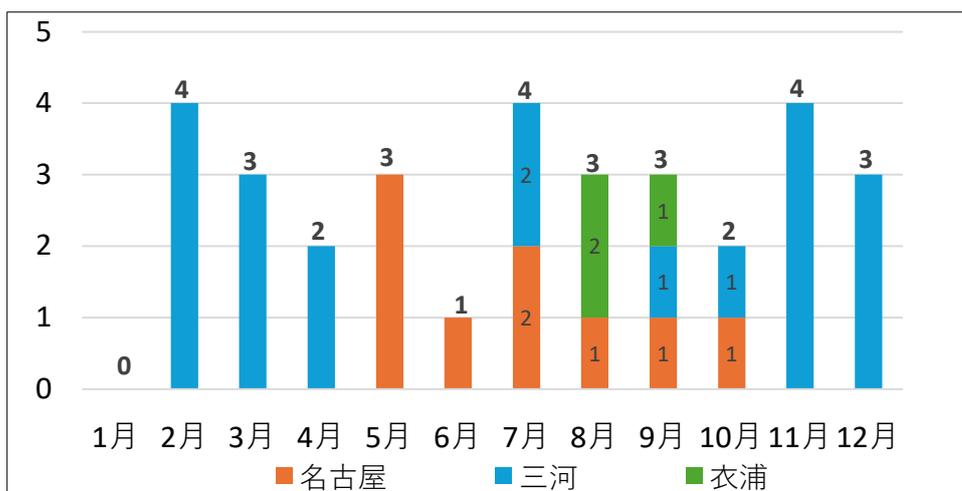
○年間平均約1.6人。H17～H21年の平均約2.8人、直近R02～R06年の平均は0.6人で減少傾向



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計	
名古屋	1			2	2			1						1	1						1	9
三河	1	2	2	1	2		2	2	2	1	1	2	1				1					20
衣浦			1											1			1					3
計	2	2	3	3	4	0	2	3	2	1	1	2	1	2	1	0	2	0	0	1	32	
うち死亡者																						0

(2) 月別の状況

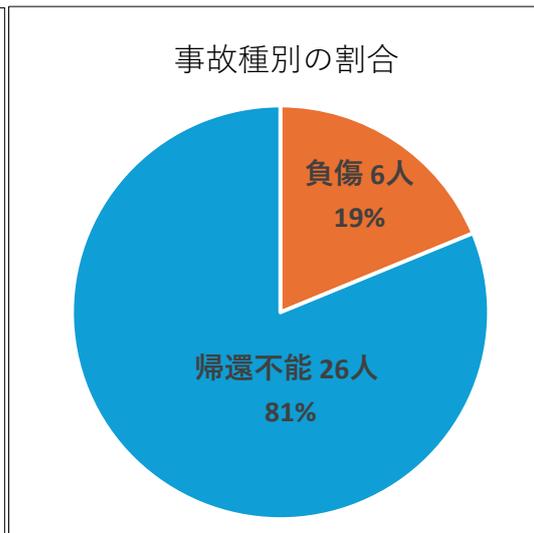
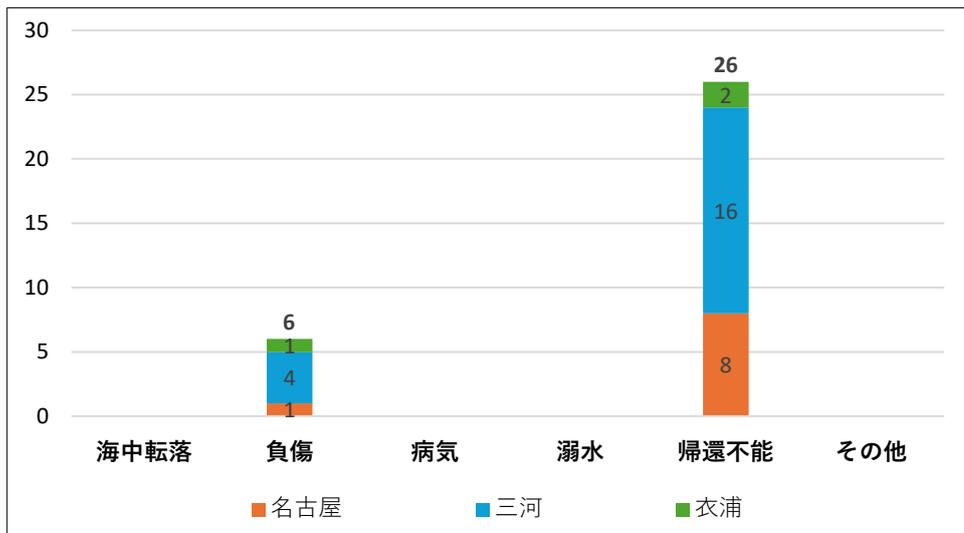
○1月を除く、すべての月において事故が発生（月平均2.6人）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋					3	1	2	1	1	1			9
三河		4	3	2			2		1	1	4	3	20
衣浦								2	1				3
計	0	4	3	2	3	1	4	3	3	2	4	3	32
うち死亡者数													0

(3) ボードセーリング中の事故種別

○帰還不能が最も多く26人（80%）、負傷が6人（20%）を占める

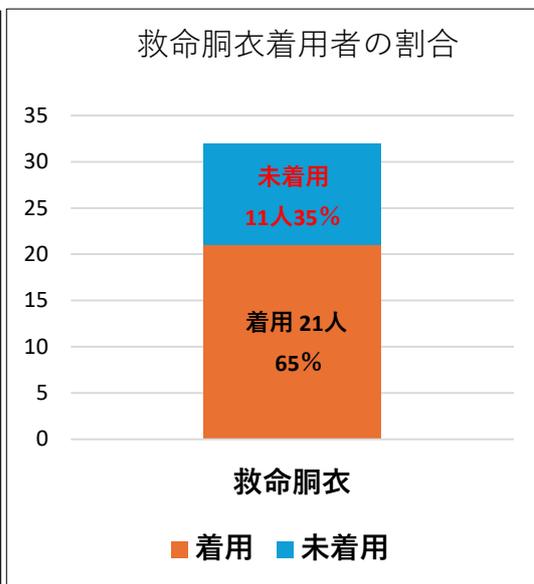
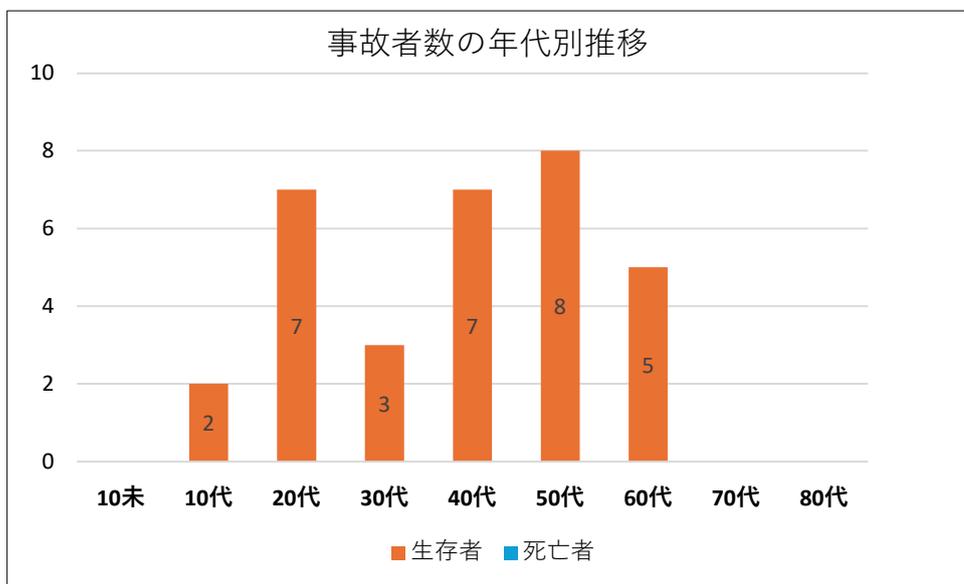


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋		1			8		9
三河		4			16		20
衣浦		1			2		3
計	0	6	0	0	26	0	32
うち死者数							0

(4) ボードセーリング中の事故者の年代及び救命胴衣着用状況

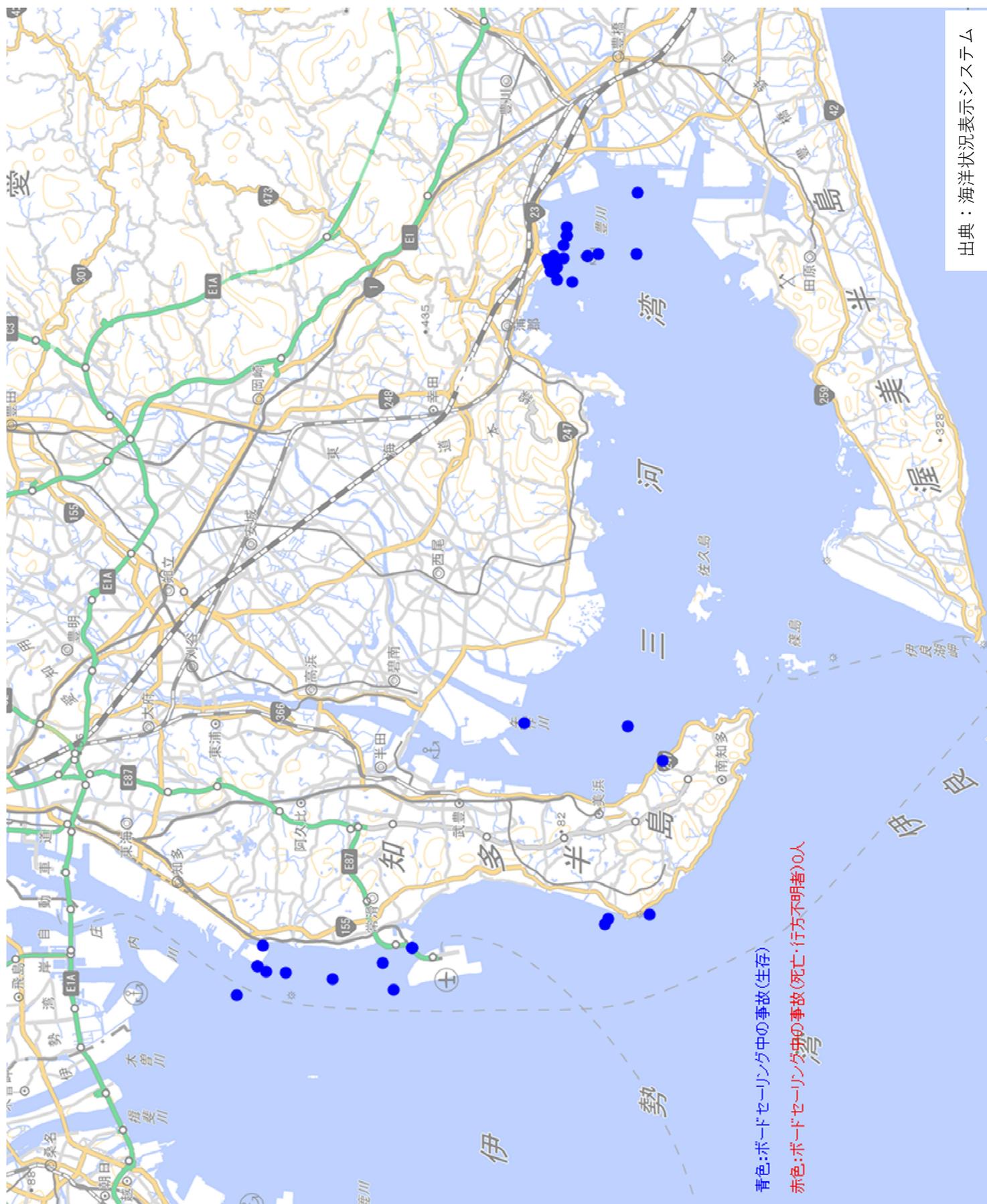
○10代から60代で事故が発生

○事故者32人のうち救命胴衣着用者は21人で着用率は65%に留まっている



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者		2	7	3	7	8	5			32
死亡者										0
死亡者の割合		0%	0%	0%	0%	0%	0%			0%
LG着用	0	1	4	1	5	7	3	0	0	21

(5) ボードセーリング中の事故分布図



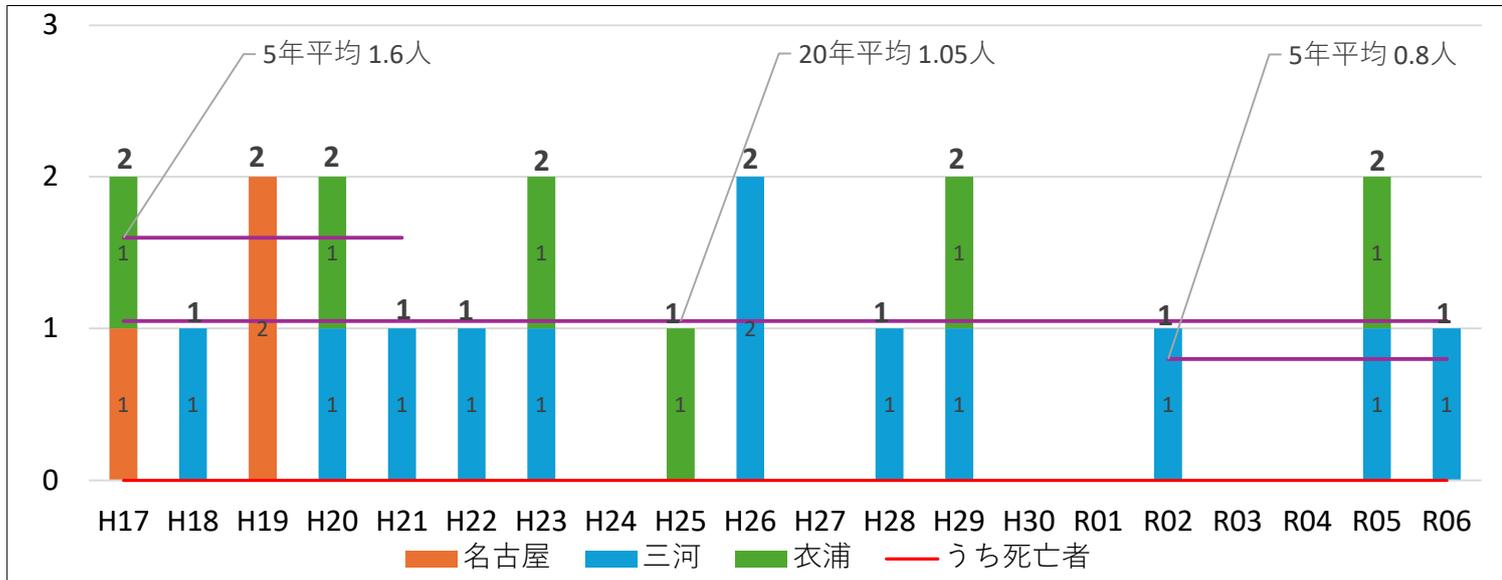
II マリンレジャー中の事故

7 ウェークボード中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は21人（うち死者0人）で名古屋14%、三河57%、衣浦29%を占める

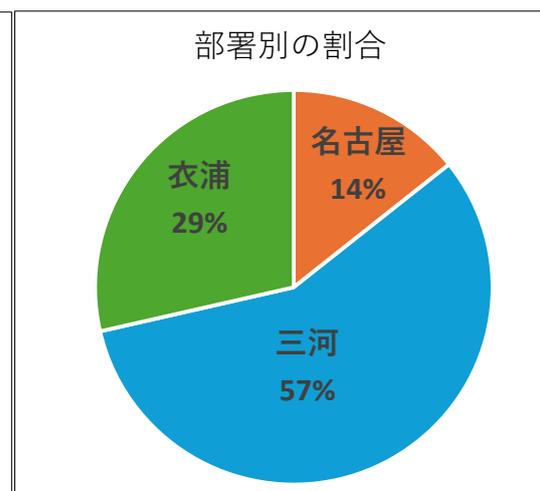
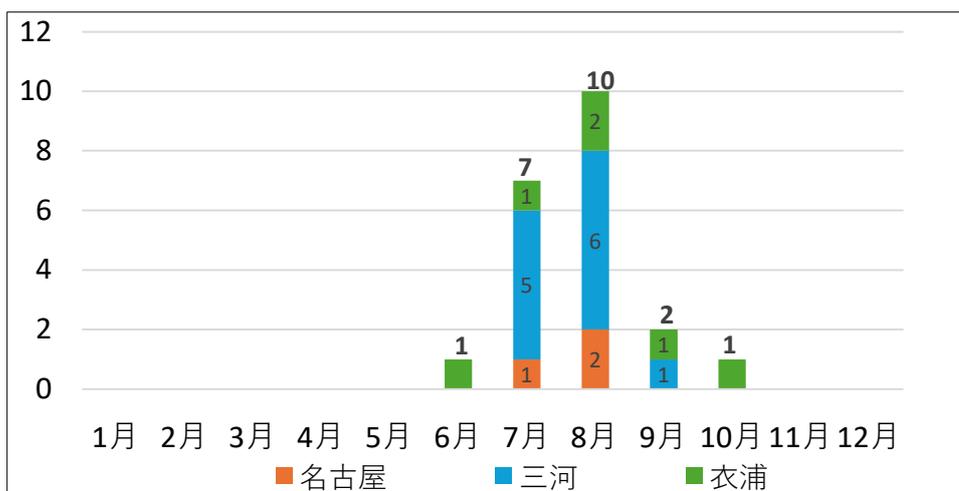
○年間平均1人。H17～H21年の平均1.6人、直近R02～R06年の平均は0.8人で減少傾向



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計	
名古屋	1		2																			3
三河		1		1	1	1	1			2		1	1			1			1	1		12
衣浦	1			1			1		1				1							1		6
計	2	1	2	2	1	1	2	0	1	2	0	1	2	0	0	1	0	0	2	1		21
うち死亡者																						0

(2) 月別の状況

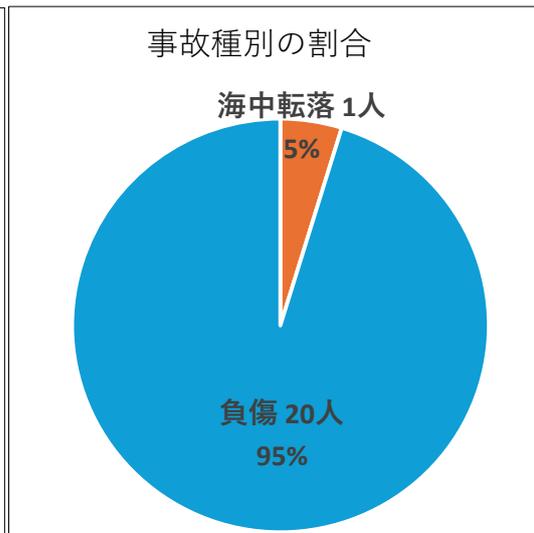
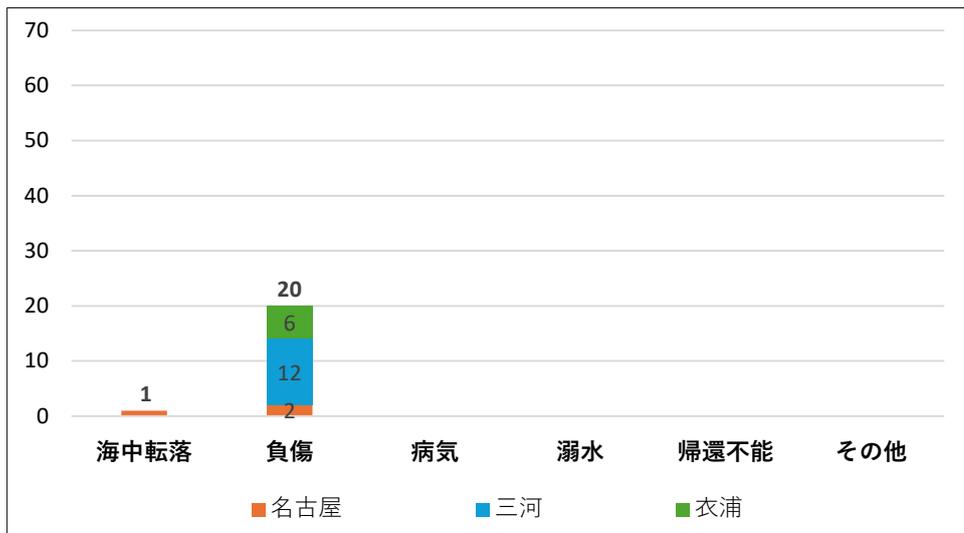
○事故者21人中、7月8月に17人（80%）を占める



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋							1	2					3
三河							5	6	1				12
衣浦						1	1	2	1	1			6
計	0	0	0	0	0	1	7	10	2	1	0	0	21
うち死亡者数													0

(3) ウェークボード中の事故種別

○事故者21人中、負傷が20人（95%）を占める

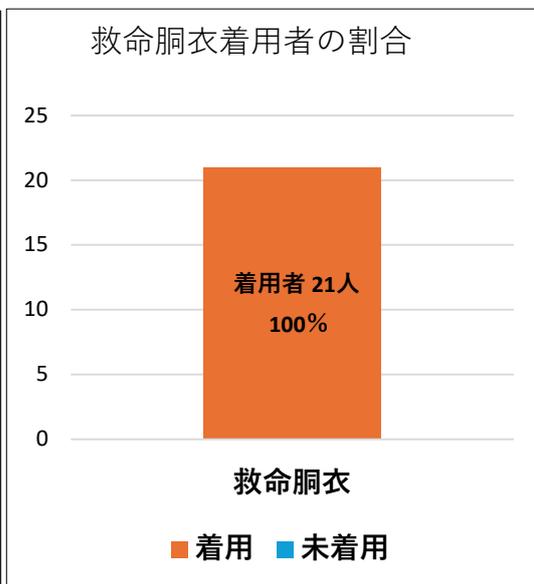
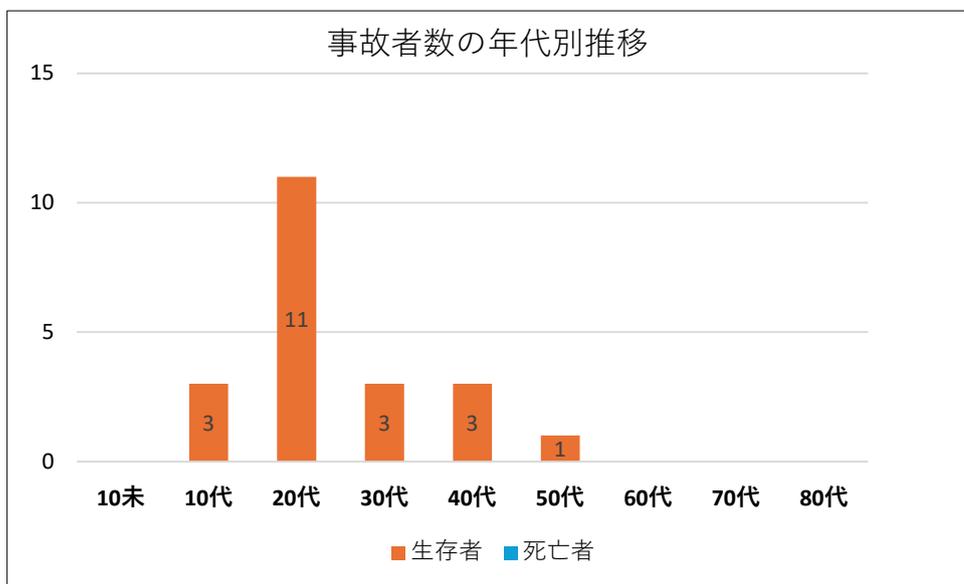


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋	1	2					3
三河		12					12
衣浦		6					6
計	1	20	0	0	0	0	21
うち死亡者数							0

(4) ウェークボード中の事故者の年代及び救命胴衣着用状況

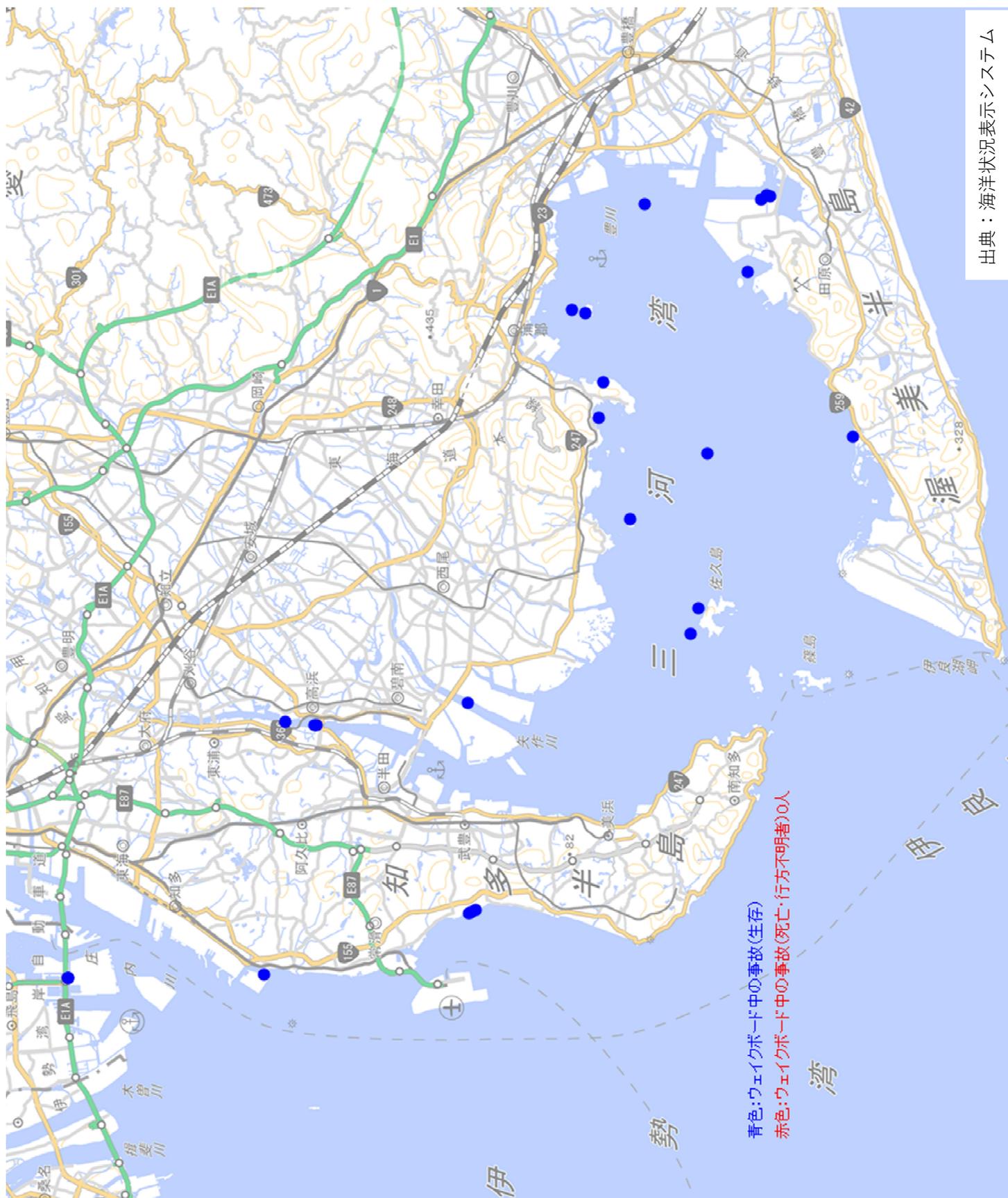
○20代が最も多く11人52%を占める

○事故者21人のうち救命胴衣着用者は21人で着用率は100%を占める



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者		3	11	3	3	1				21
死亡者										0
死亡者の割合		0%	0%	0%	0%	0%				0%
LG着用	0	3	11	3	3	1	0	0	0	21

(5) ウェークボード中の事故分布図



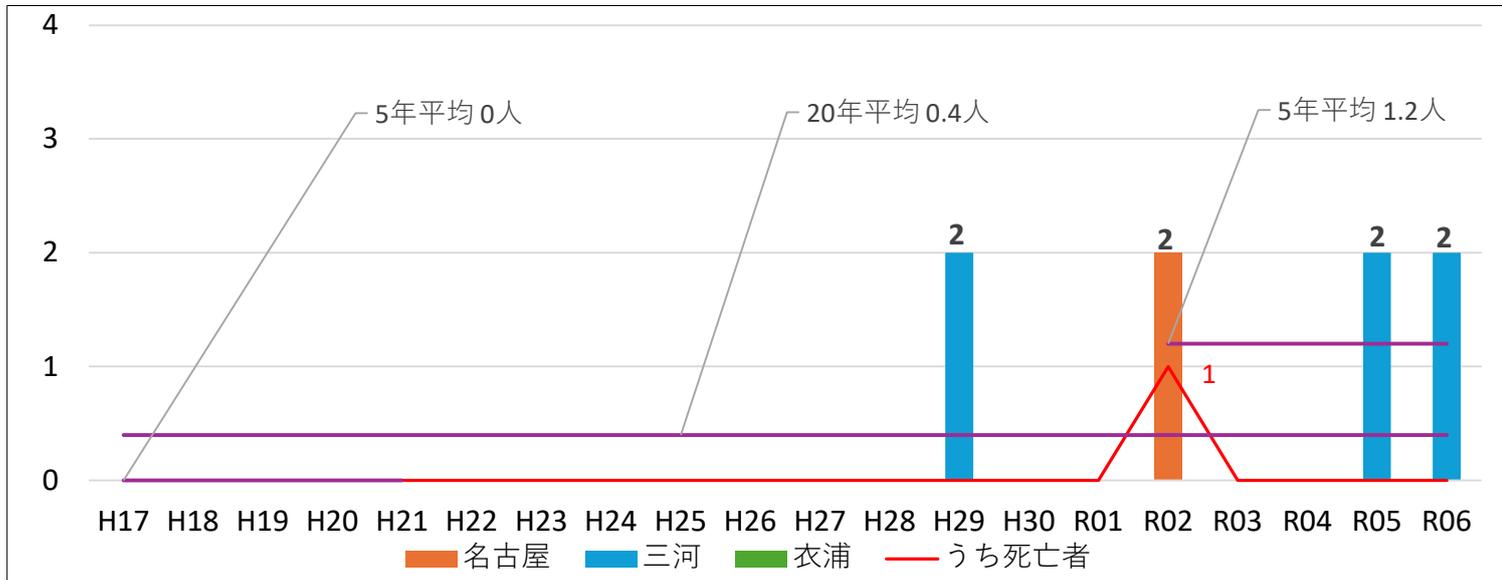
II マリンレジャー中の事故

8 スタンドアップパドルボード（SUP）中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○平成29年に初めて管内で事故が発生し、以後8人の事故が発生し1人が死亡

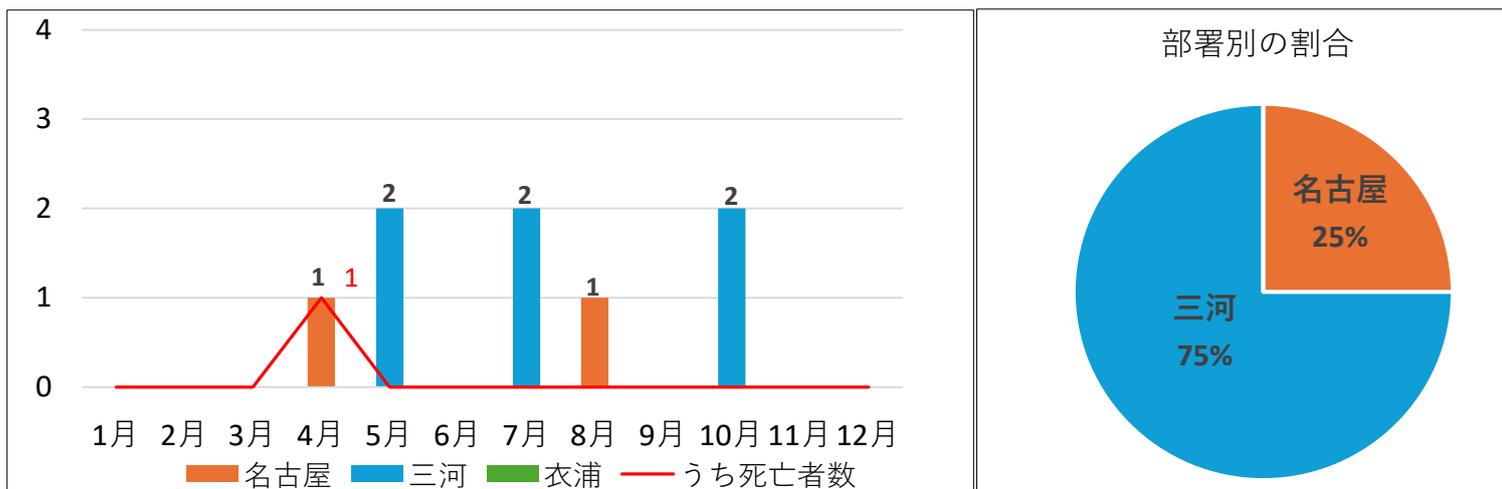
○名古屋が25%、三河が75%を占める



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
名古屋																2					2
三河													2						2	2	6
衣浦																					0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	2	8
うち死亡者																1					1

(2) 月別の状況

○概ね4月から10月にかけて発生

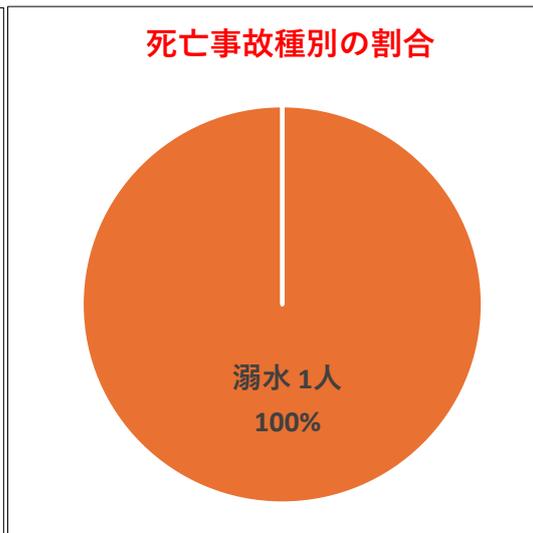
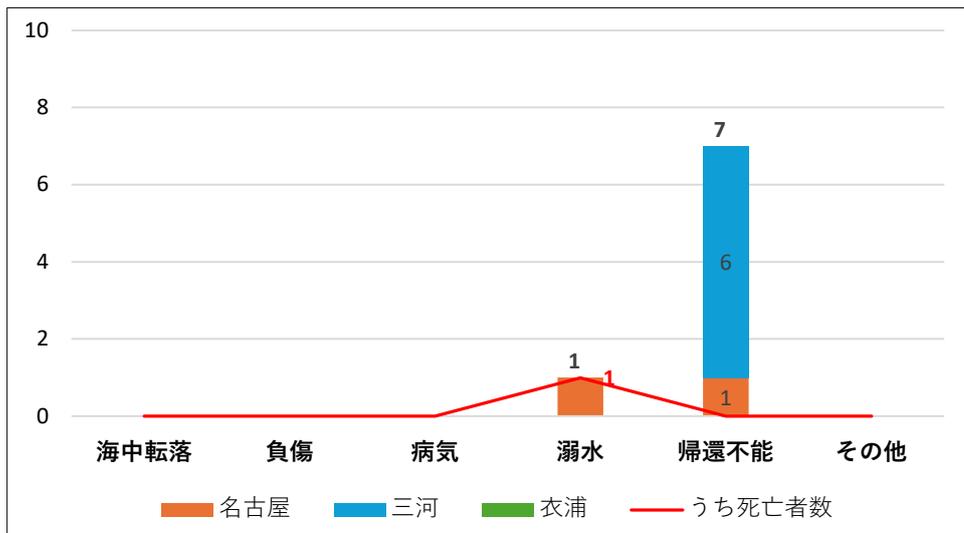


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋				1				1					2
三河					2		2			2			6
衣浦													0
計	0	0	0	1	2	0	2	1	0	2	0	0	8
うち死亡者数				1									1

(3) スタンドアップパドルボード中の事故種別

○事故者8人中、帰還不能事故が7人（88%）、溺水事故が1人（12%）を占める

○死亡事故は溺水によるものが1人発生

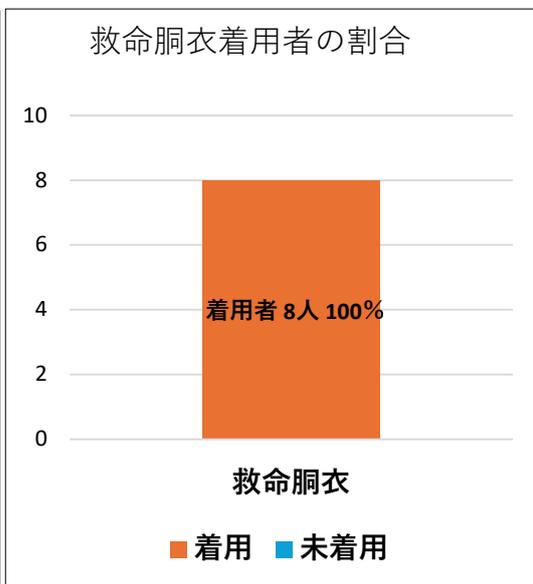
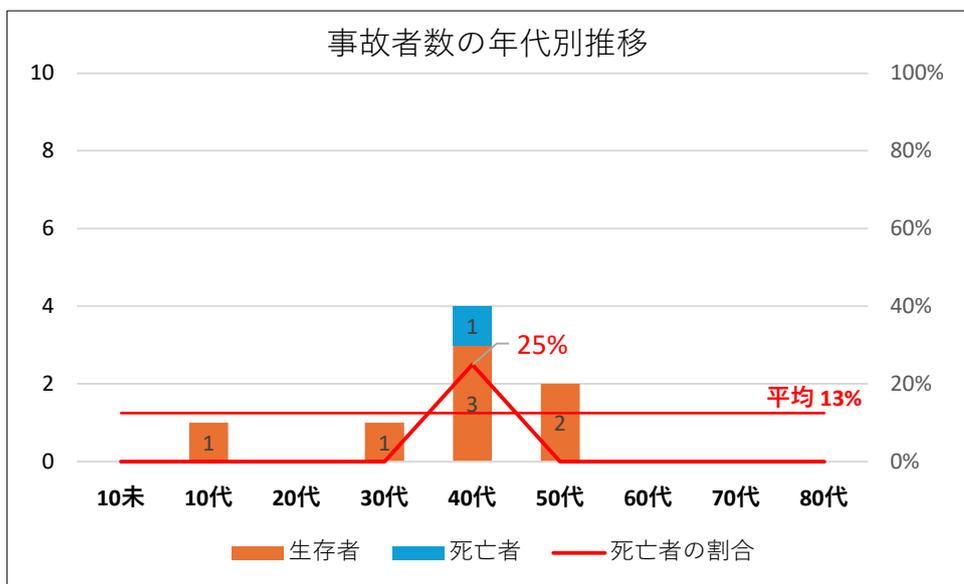


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋				1	1		2
三河					6		6
衣浦					0		0
計	0	0	0	1	7	0	8
うち死亡者数				1			1

(4) スタンドアップパドルボード中の事故者の年代及び救命胴衣着用状況

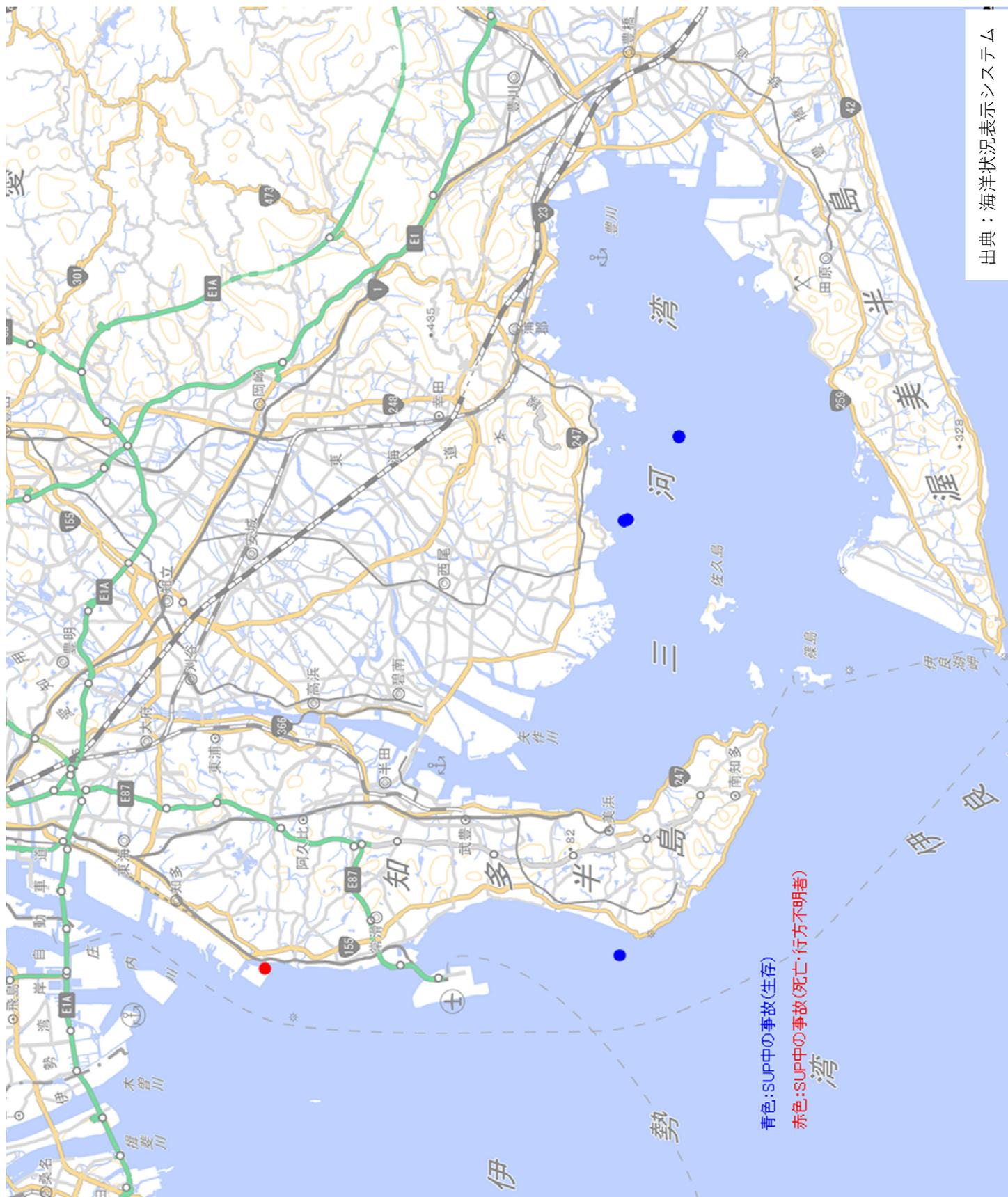
○40代が最も多く4人50%を占め、うち死亡者1名となっている

○事故者8人のうち救命胴衣着用者は8人で着用率は100%を占める



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者		1		1	3	2				7
死亡者					1					1
死亡者の割合		0%		0%	25%	0%				13%
LG着用		1		1	4	2				8

(5) スタンドアップパドルボード中の事故分布図



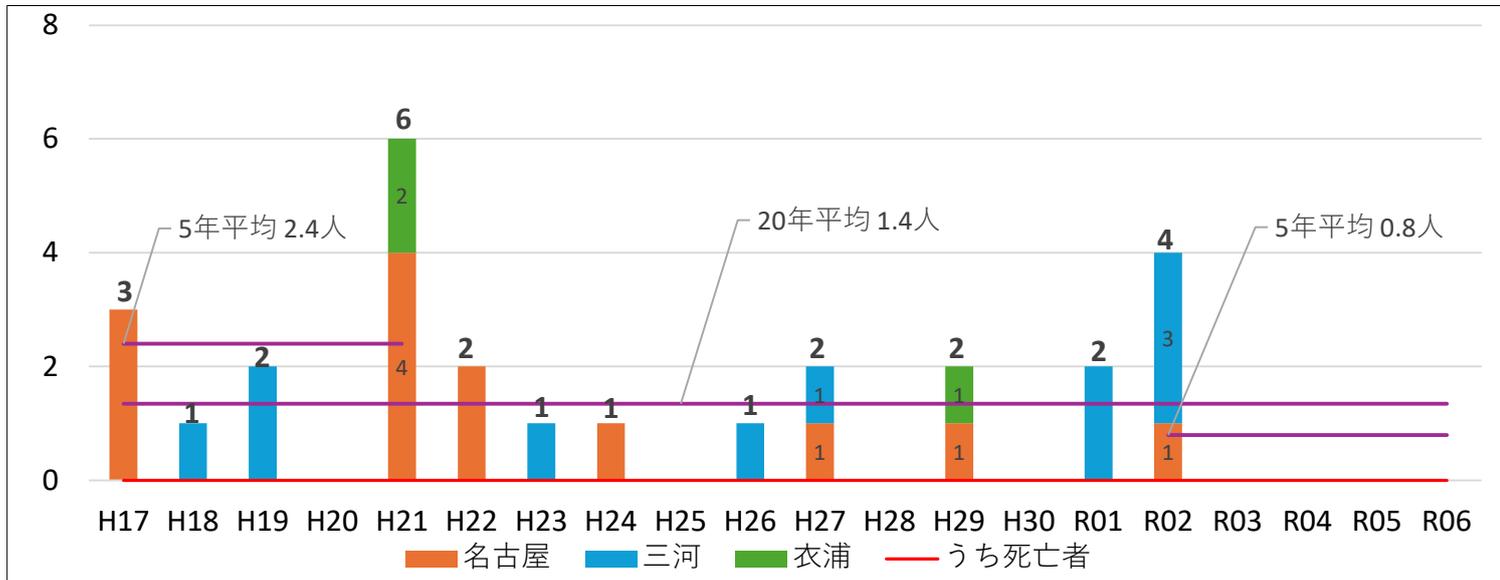
II マリンレジャー中の事故

9 トーイング遊具中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は27人（うち死者0人）で名古屋48%、三河41%、衣浦11%を占める

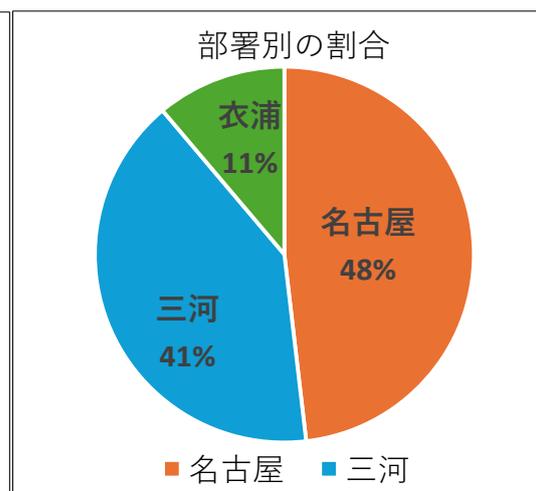
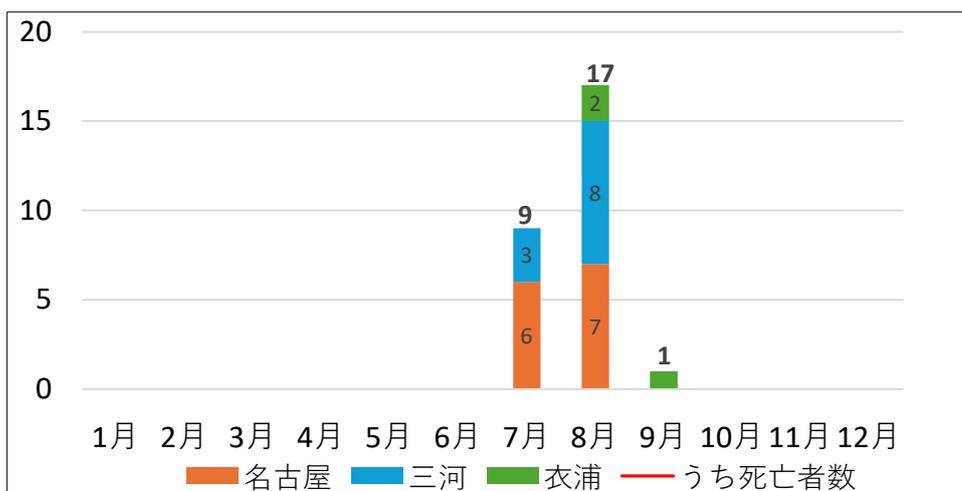
○年間平均約1.4人。H17～H21年の平均約2.4人、直近R02～R06年の平均は0.8人で減少傾向



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計	
名古屋	3				4	2		1			1		1			1						13
三河		1	2				1			1	1				2	3						11
衣浦					2								1									3
計	3	1	2	0	6	2	1	1	0	1	2	0	2	0	2	4	0	0	0	0	27	
うち死亡者																						0

(2) 月別の状況

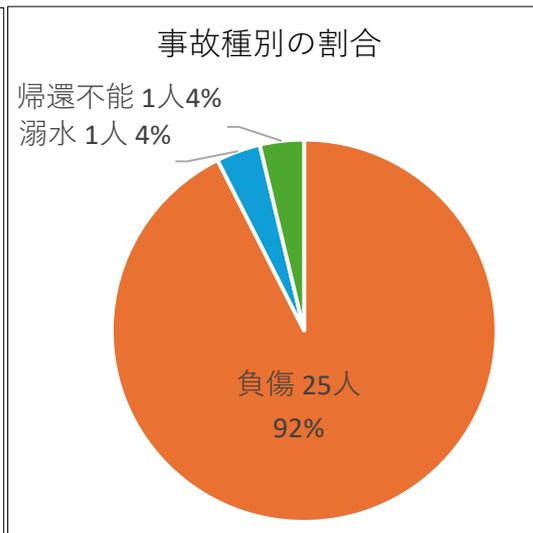
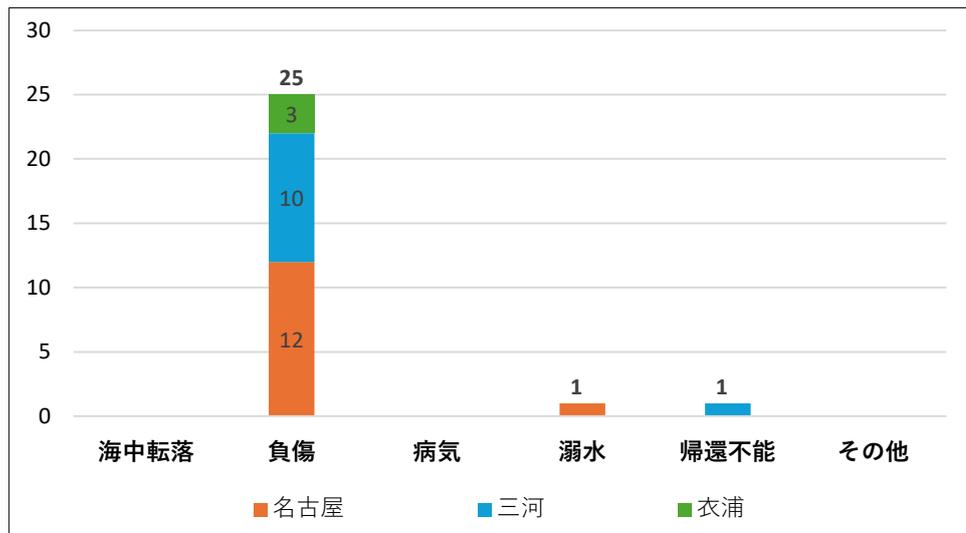
○事故者27人中、7月、8月に26人（96%）を占める



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋							6	7					13
三河							3	8					11
衣浦								2	1				3
計	0	0	0	0	0	0	9	17	1	0	0	0	27
うち死亡者数													0

(3) トーイング遊具中の事故種別

○事故者27人中、負傷事故が25人（92%）を占める

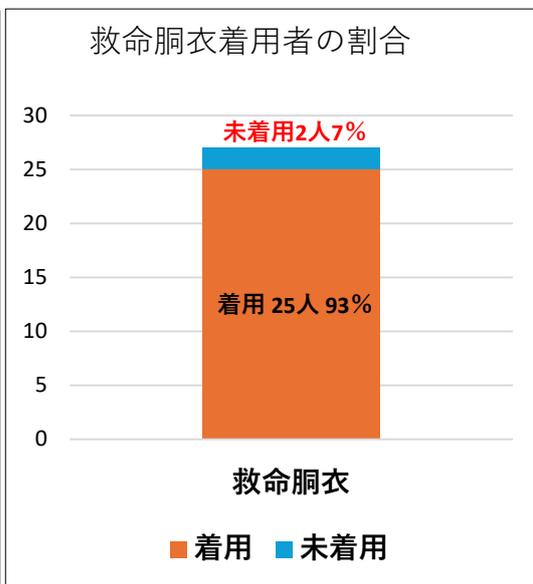
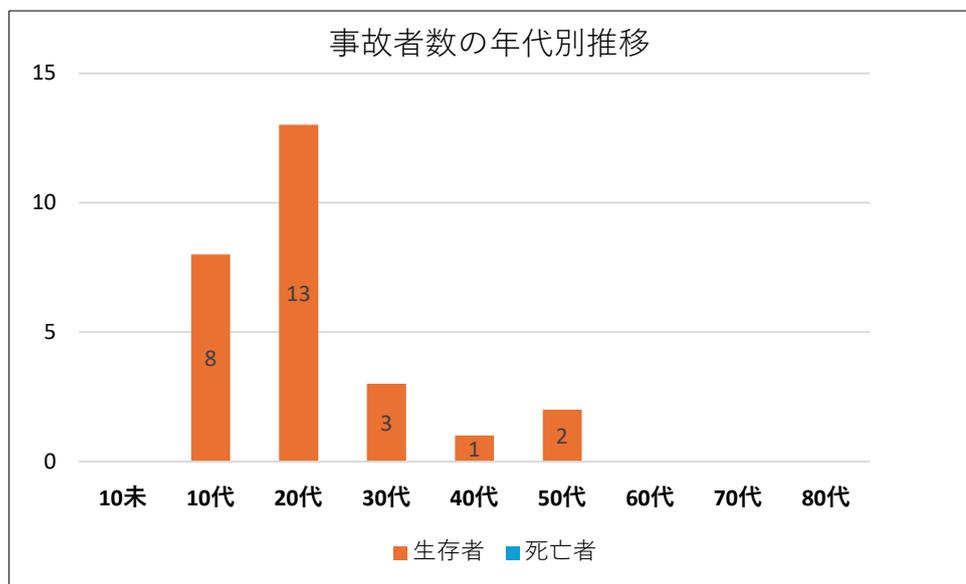


	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋		12		1			13
三河		10			1		11
衣浦		3					3
計	0	25	0	1	1	0	27
うち死亡者数							0

(4) トーイング遊具中の事故者の年代及び救命胴衣着用状況

○10代から20代が21人約80%を占める

○事故者27人中の救命胴着用者は25人で着用率は93%を占める



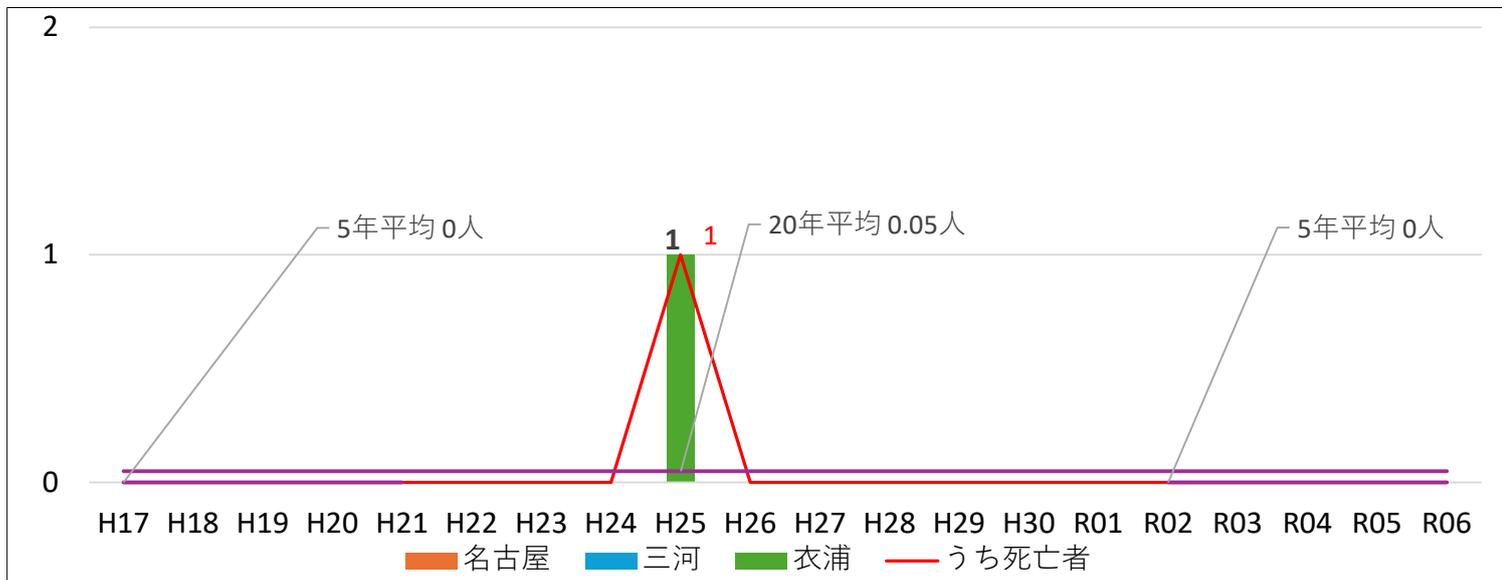
年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者		8	13	3	1	2				27
死亡者										0
死亡者の割合		0%	0%	0%	0%	0%				0%
LG着用	0	8	11	3	1	2	0	0	0	25

II マリンレジャー中の事故

10 ダイビング中の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

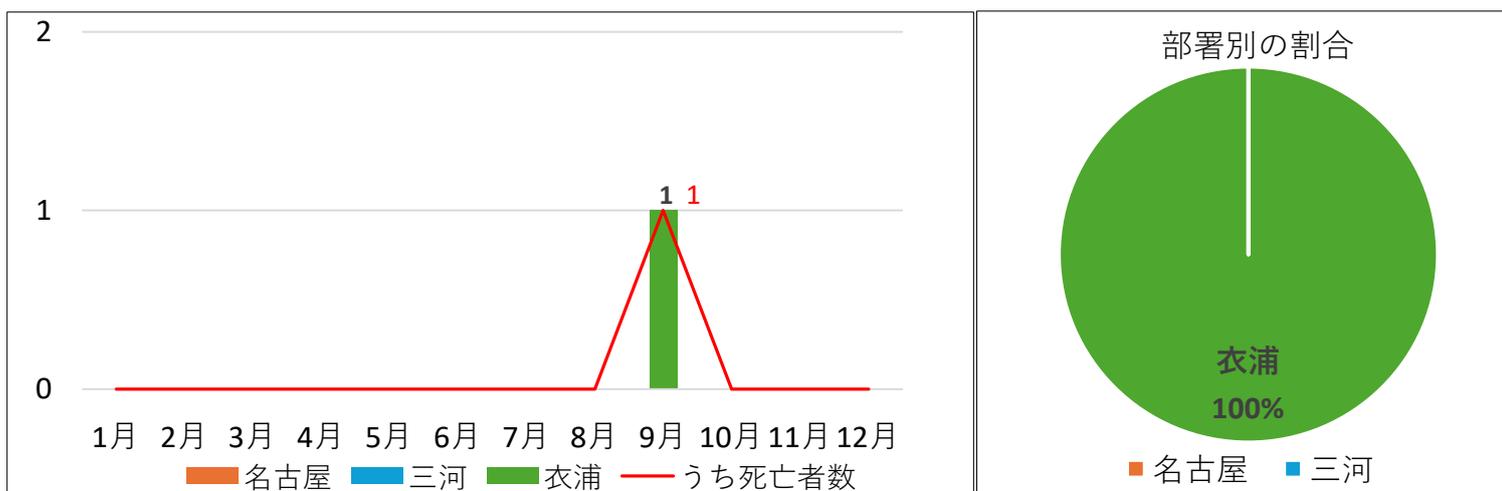
○過去20年間の事故者数は1人（死亡）、衣浦管内で発生



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計	
名古屋																						0
三河																						0
衣浦									1													1
計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
うち死亡者									1													1

(2) 月別の状況

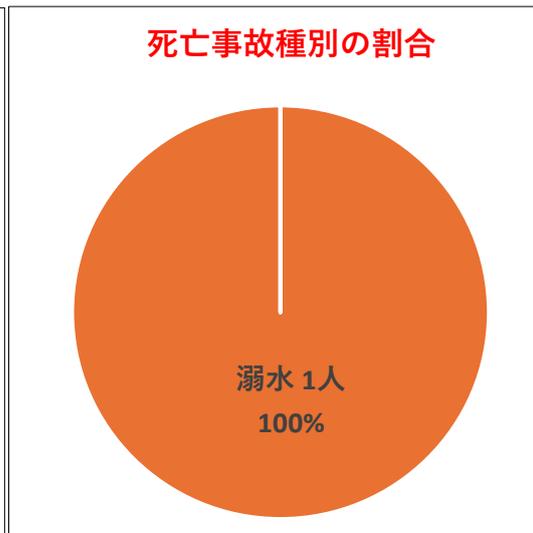
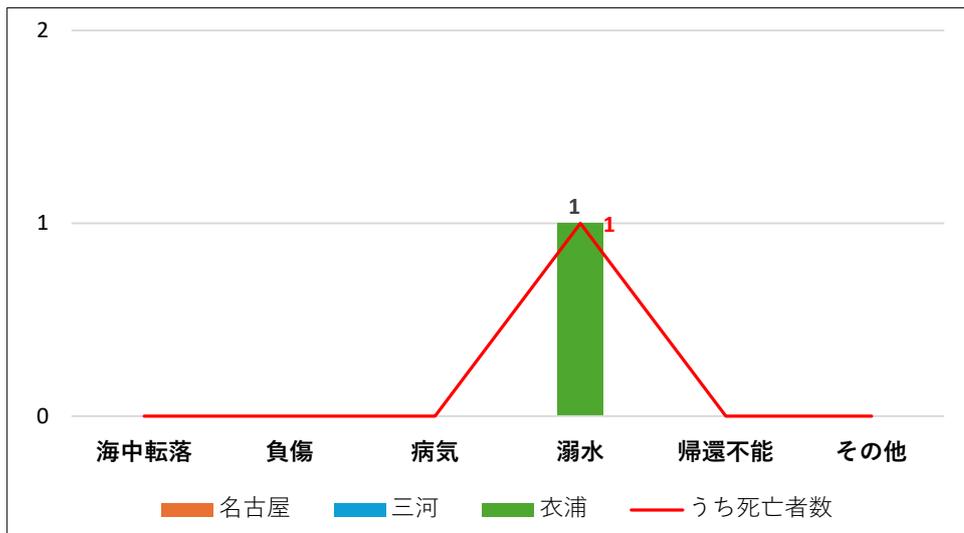
○9月に1人（死亡）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋													0
三河													0
衣浦									1				1
計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
うち死亡者数									1				1

(3) ダイビング中の事故種別

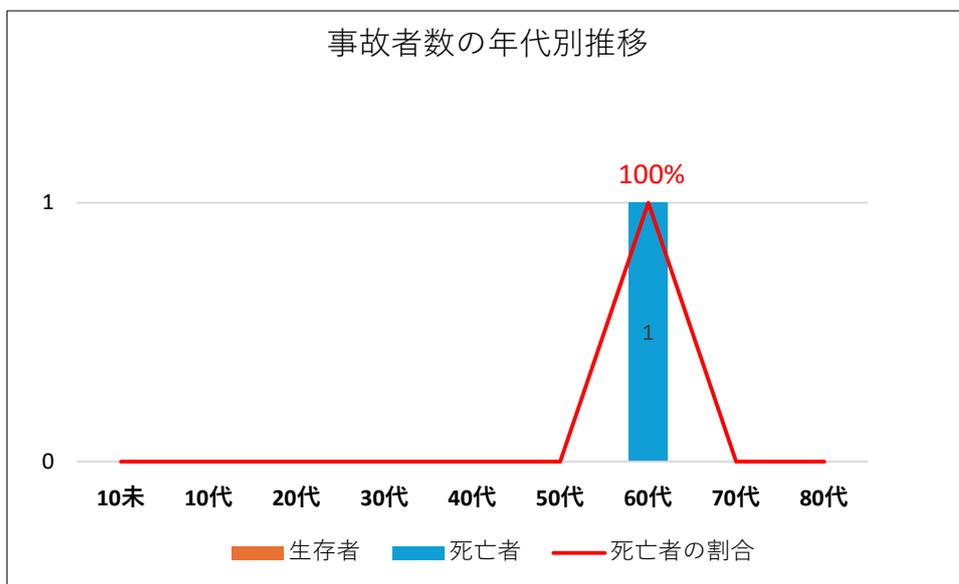
○溺水による死亡事故1人



	海中転落	負傷	病気	溺水	帰還不能	その他	計
名古屋							0
三河							0
衣浦				1			1
計	0	0	0	1	0	0	1
うち死亡者数				1			1

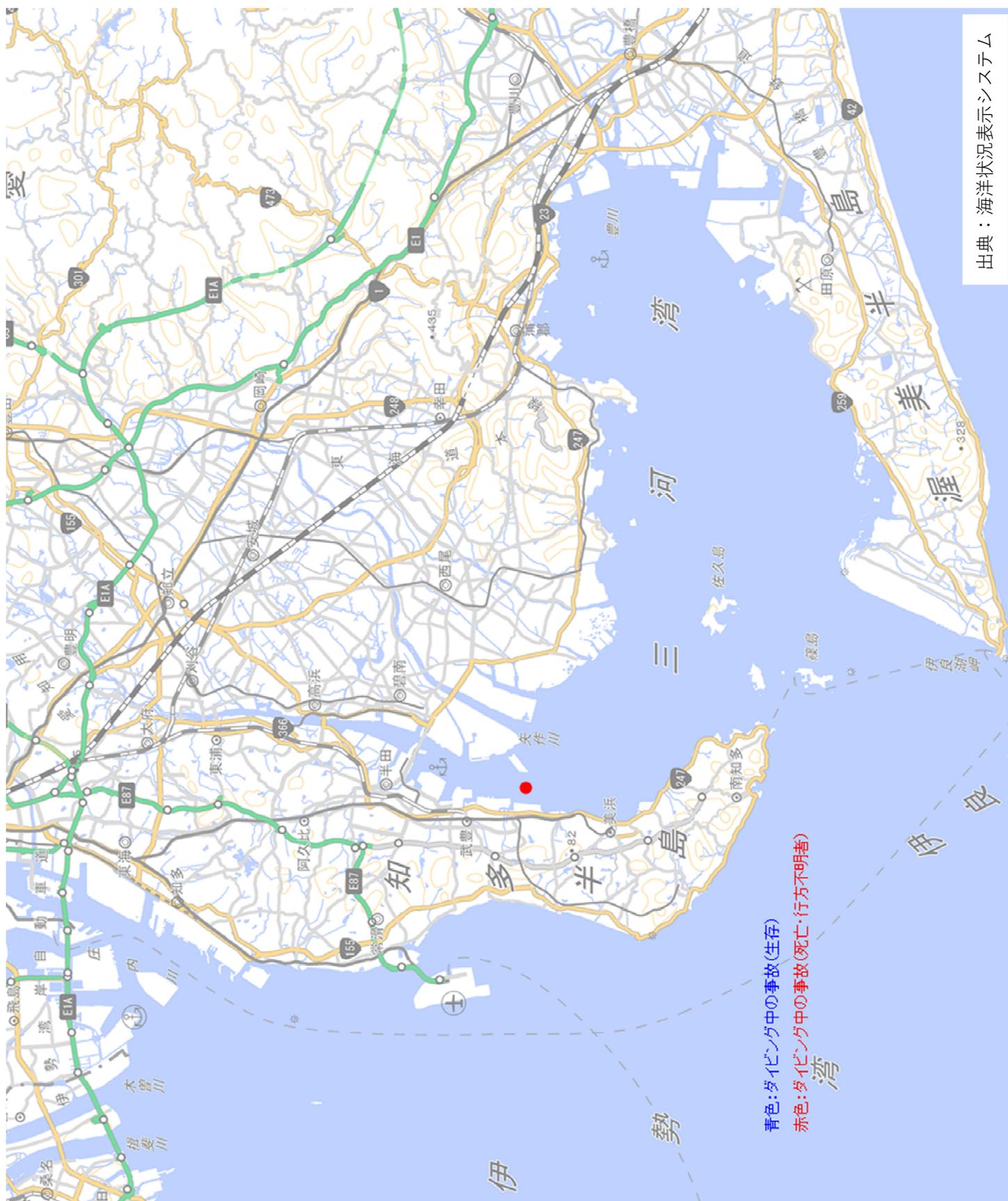
(4) ダイビング中の事故者の年代

○60代による溺水、死亡事故



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者										0
死亡者							1			1
死亡者の割合							100%			100%

(5) ダイビング中の事故分布図



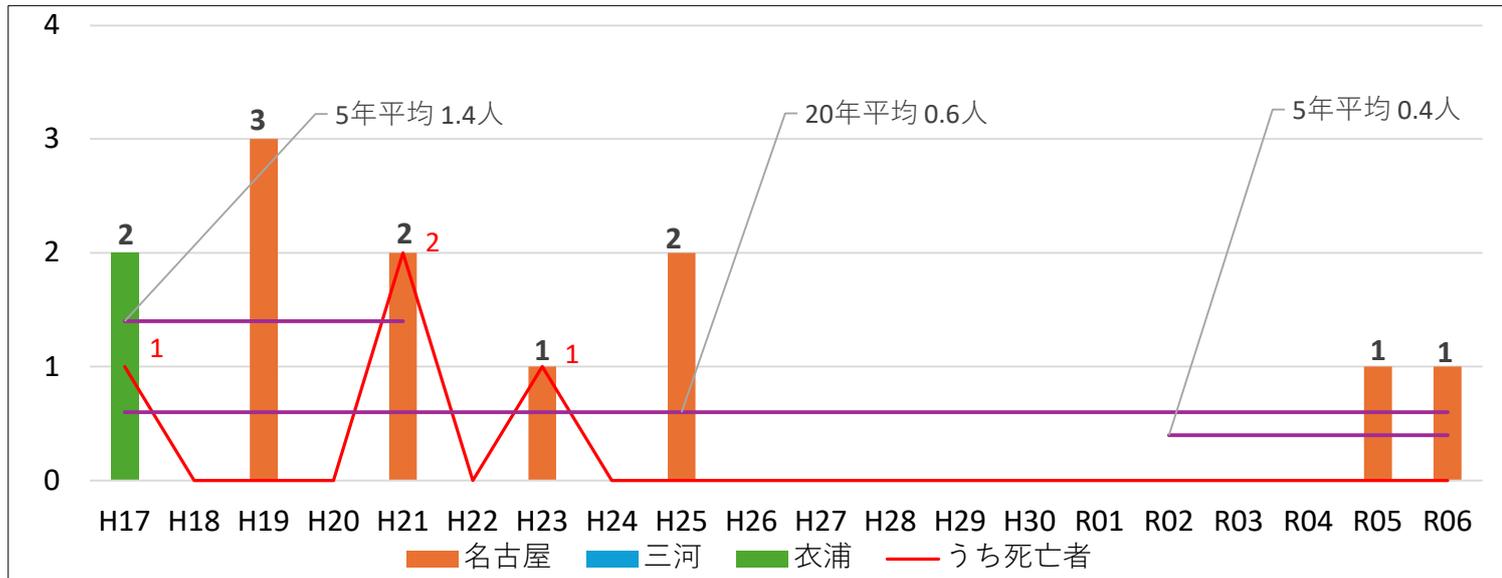
II マリンレジャー中の事故

1 1 その他の事故発生状況

(1) 事故者数の推移

○過去20年間の事故者数は12人（うち死者4人）で名古屋83%、衣浦17%

○年間平均約0.6人。H17～H21年の平均約1.4人、直近R02～R06年の平均は0.4人で減少傾向

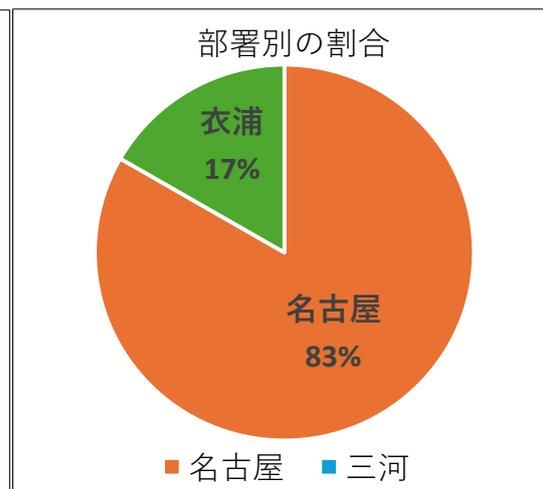
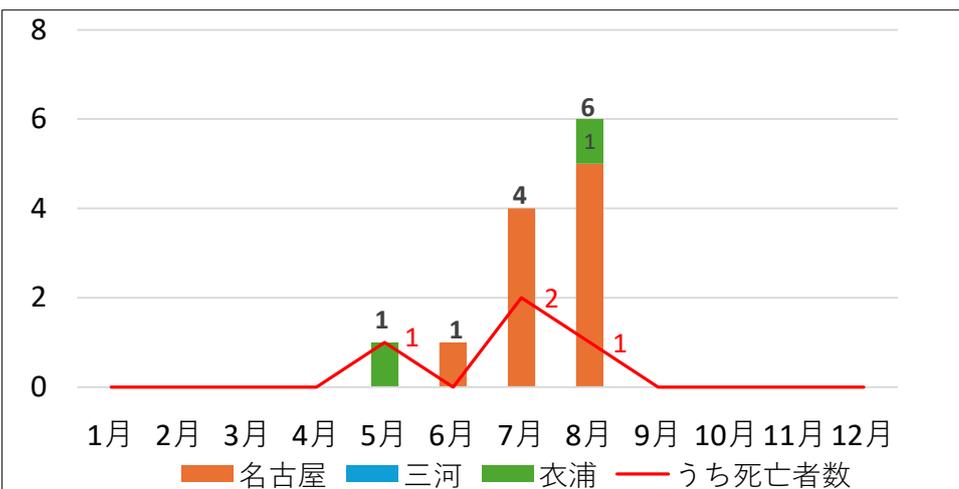


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計	
名古屋			3		2		1		2											1	1	10
三河																						0
衣浦	2																					2
計	2	0	3	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	12
うち死亡者	1				2		1															4

(2) 月別の状況

○事故者12人中、7月、8月に10人（83%）を占める

○死亡事故も4人中、7月、8月に3人（75%）を占める



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
名古屋						1	4	5					10
三河													0
衣浦					1			1					2
計	0	0	0	0	1	1	4	6	0	0	0	0	12
うち死亡者数					1	2	1						4

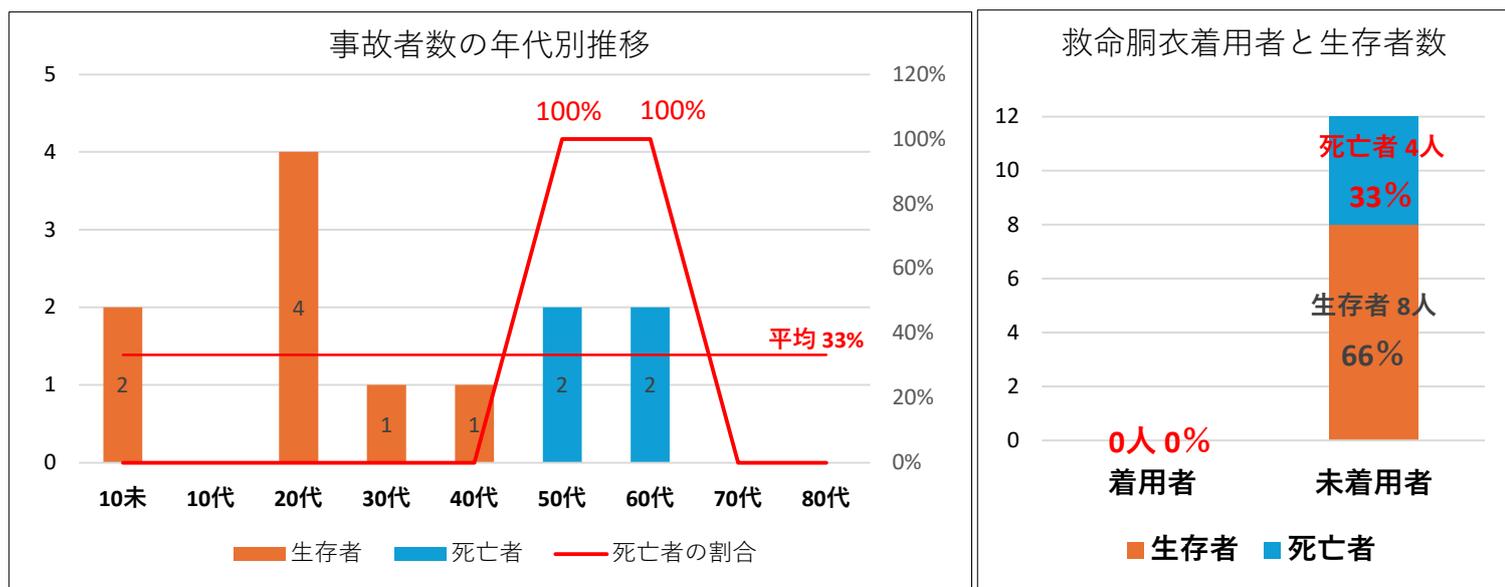
(3) その他事故の概要

年 月	年齢	活動内容	事故種別	生死	救命胴衣	部署
H17 5月	63歳	海中転落孫の救助中	溺水	死亡	無	衣浦
H17 8月	22歳	魚突き中	負傷		無	衣浦
H19 8月	27歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H19 8月	28歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H19 8月	34歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H21 7月	54歳	ダイビング準備中	溺水	死亡	無	名古屋
H21 7月	50歳	PB引出中	溺水	死亡	無	名古屋
H23 8月	64歳	ビニールボート乗船中	溺水	死亡	無	名古屋
H25 7月	4歳	ビニールボート乗船中	帰還不能		無	名古屋
H25 7月	5歳	ビニールボート乗船中	帰還不能		無	名古屋
R5 6月	25歳	魚突き中	負傷		無	名古屋
R6 8月	44歳	海上遊具遊興中	負傷		無	名古屋

(4) その他の事故者の年代及び救命胴衣着用状況

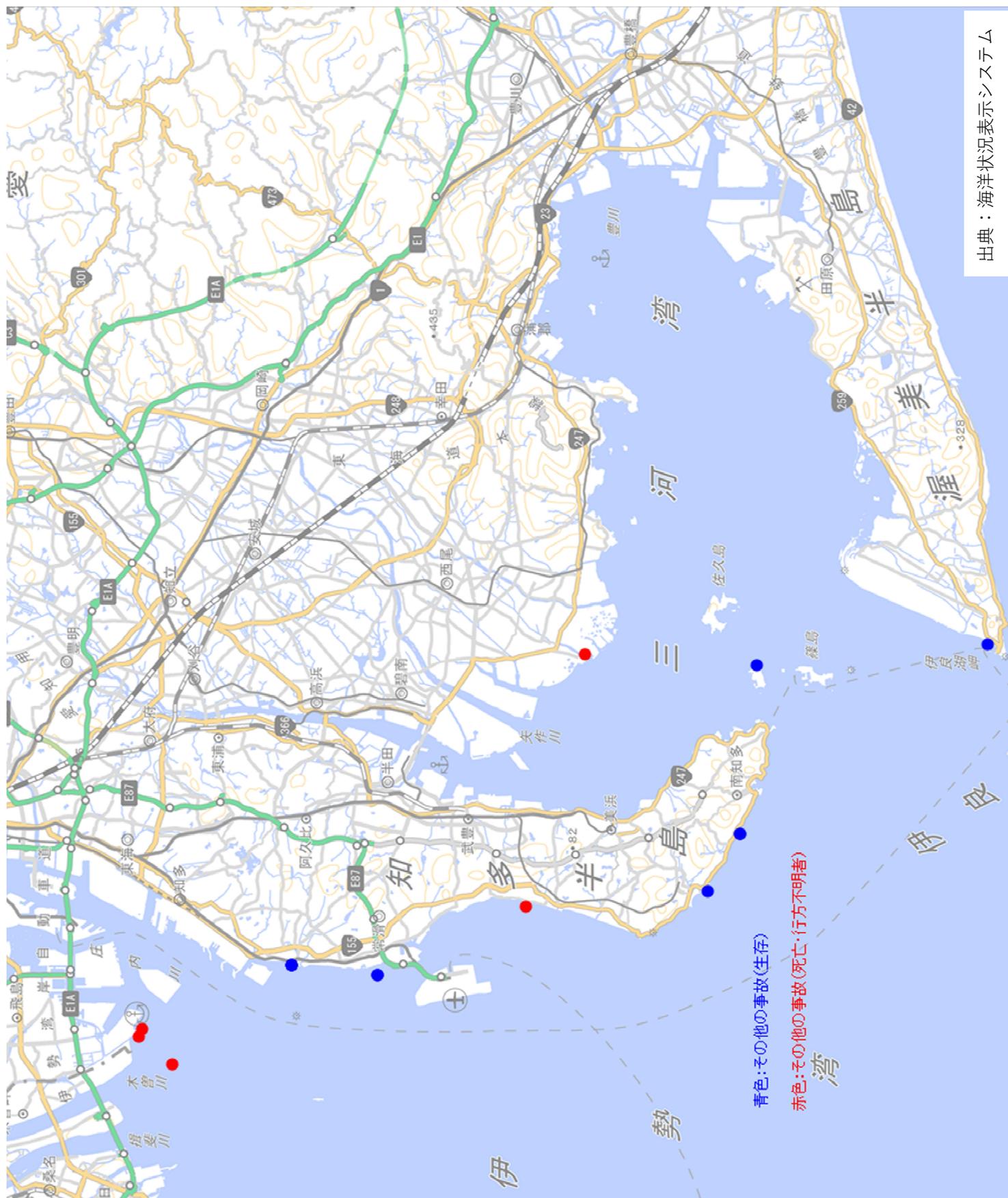
○10代未満から60代にかけて発生、死亡事故は50代、60代で発生

○事故者12人中の救命胴衣着用者は0人で着用率は0%



年代	10未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
生存者	2		4	1	1	0	0			8
死亡者						2	2			4
死亡者の割合	0%		0%	0%	0%	100%	100%			33%
LG着用										0

(5) その他の事故分布図

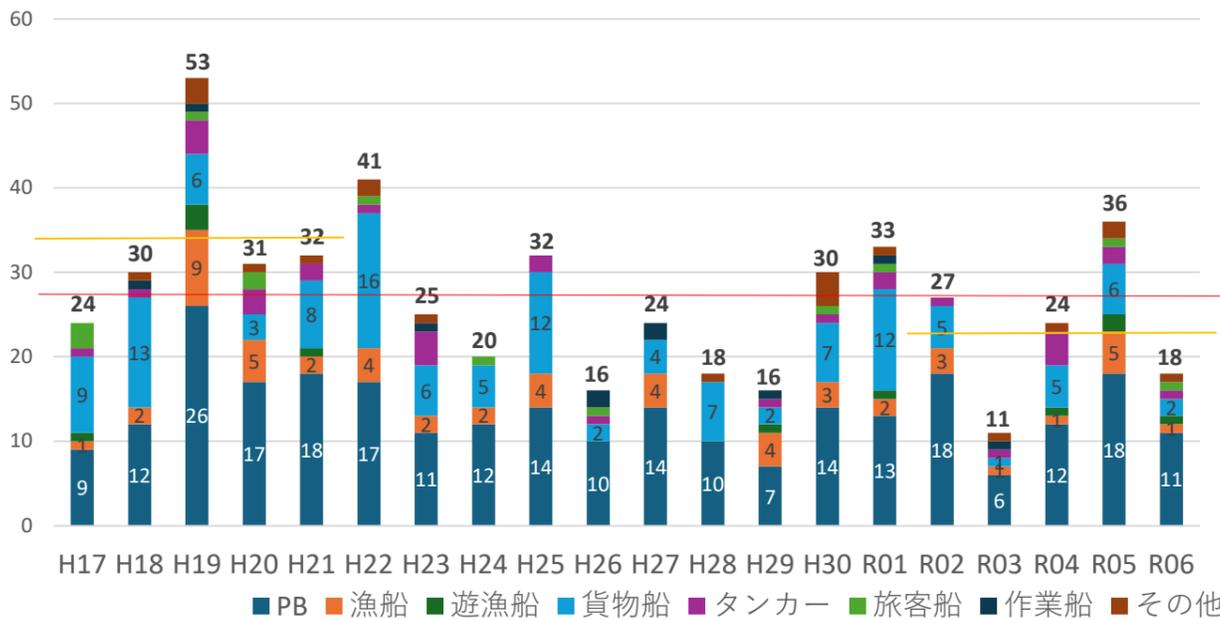


Ⅲ 部署別の海難等の状況

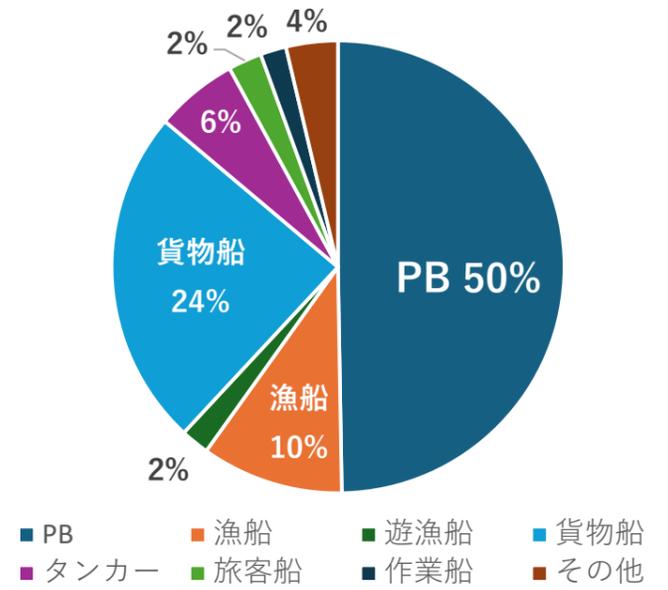
1 名古屋海上保安部

(1) 船舶海難の状況

船舶事故隻数推移



過去20年 (H17~R06) 船種別割合



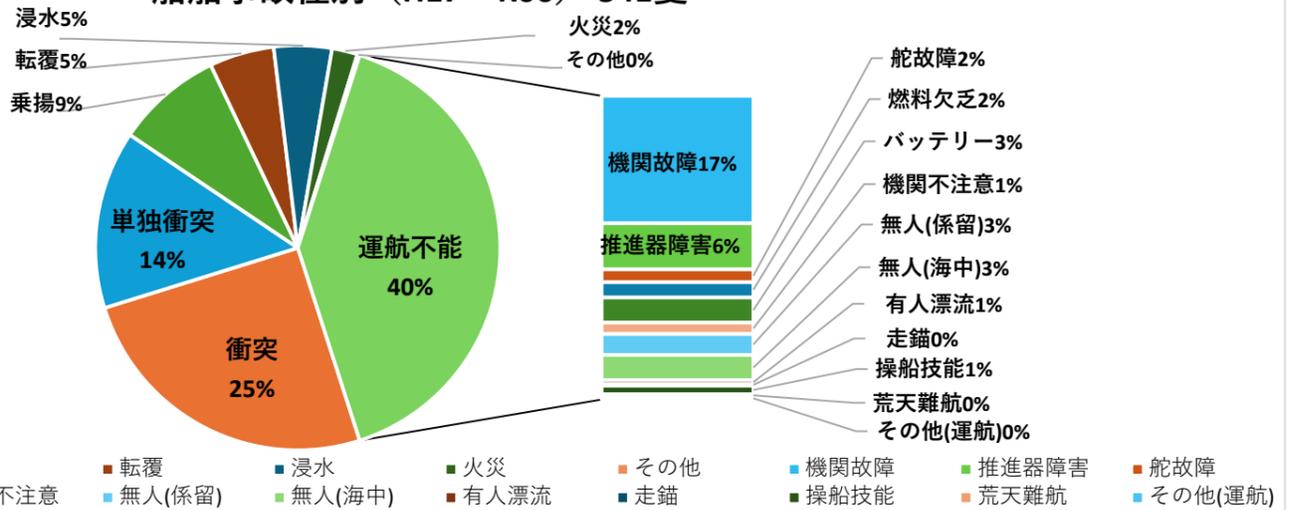
船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
PB	9	12	26	17	18	17	11	12	14	10	14	10	7	14	13	18	6	12	18	11	269
漁船	1	2	9	5	2	4	2	2	4		4		4	3	2	3	1	1	5	1	55
遊漁船	1		3		1								1		1			1	2	1	11
貨物船	9	13	6	3	8	16	6	5	12	2	4	7	2	7	12	5	1	5	6	2	131
タンカー	1	1	4	3	2	1	4		2	1			1	1	2	1	1	4	2	1	32
旅客船	3		1	2		1		1		1				1	1				1	1	13
作業船		1	1				1			2	2		1		1		1				10
その他		1	3	1	1	2	1					1		4	1		1	1	2	1	20
計	24	30	53	31	32	41	25	20	32	16	24	18	16	30	33	27	11	24	36	18	541

○名古屋保安部における過去20年間の海難隻数は541隻で、PB (50%) が最も多く、次いで貨物船 (24%)、漁船 (10%)

○年間平均は27隻。H17~H21年まで5年間の平均34隻に対して、最近の5年間 (R02~R06) の平均は23隻で減少傾向 (約3割減)

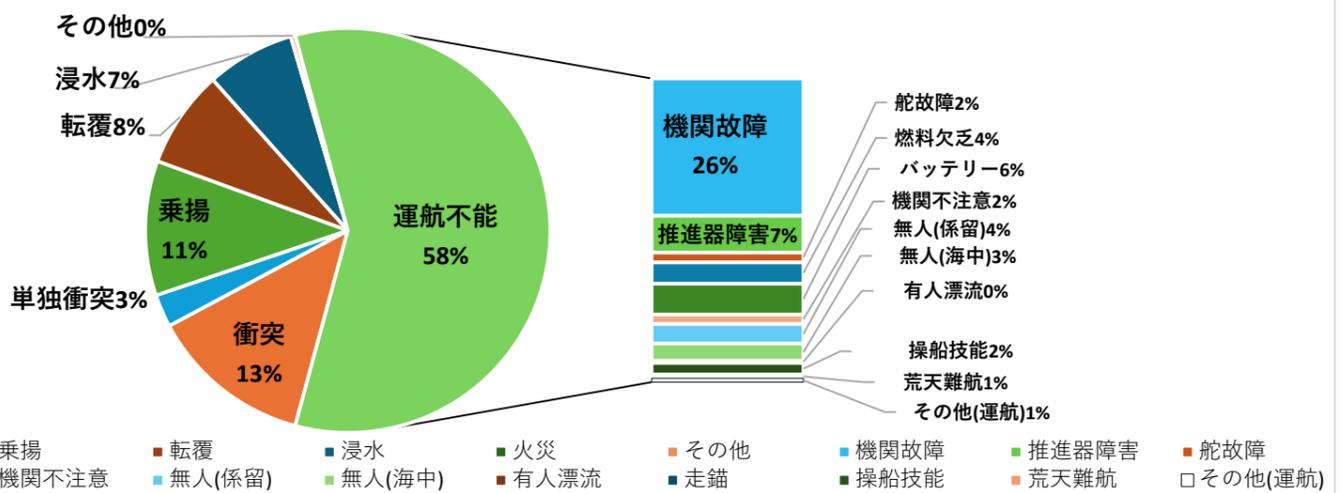
○PBの事故隻数平均は約13隻。H17~H21年まで5年間の平均16隻に対して、最近の5年間 (R02~R06) の平均は13隻で減少傾向 (約2割減)

船舶事故種別 (H17~R06) 541隻



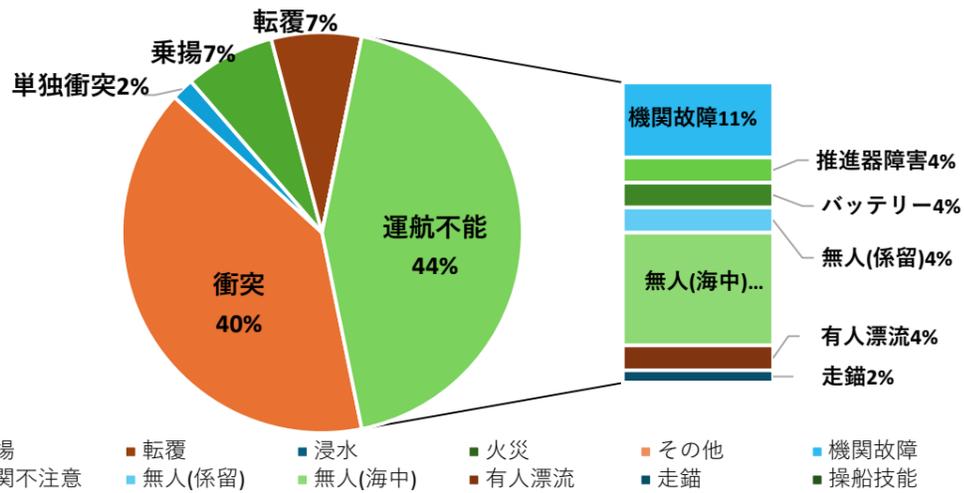
衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能												
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)
136	77	46	28	25	11	1	91	33	9	11	18	8	15	18	3	1	6	2	2

プレジャーボート事故種別 (H17~R06) 269隻



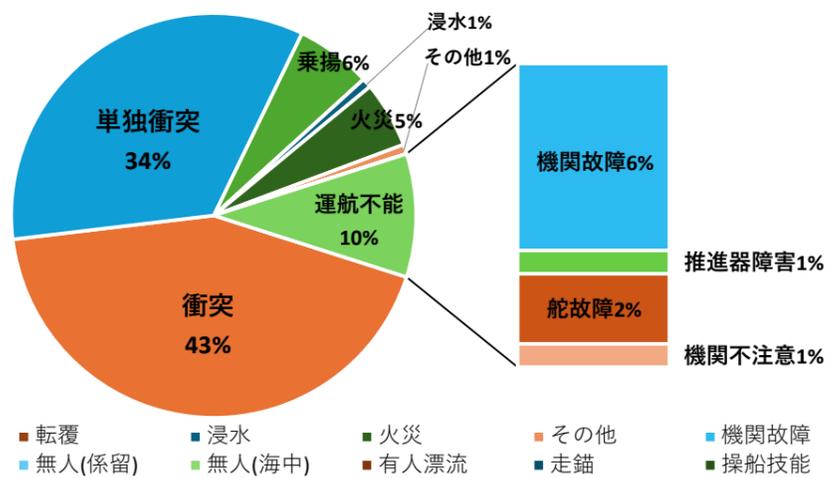
衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能												
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)
35	7	29	21	19	0	1	71	19	5	11	16	5	10	9	1	0	6	2	2

漁船事故種別 (H17~R06) 55隻



衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能												
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)
22	1	4	4	0	0	0	6	2	0	0	2	0	2	9	2	1	0	0	0

貨物船事故種別 (H17~R06) 131隻



衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能												
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)
57	45	8	0	1	7	1	8	1	3			1							

Ⅲ 部署別の海難等の状況

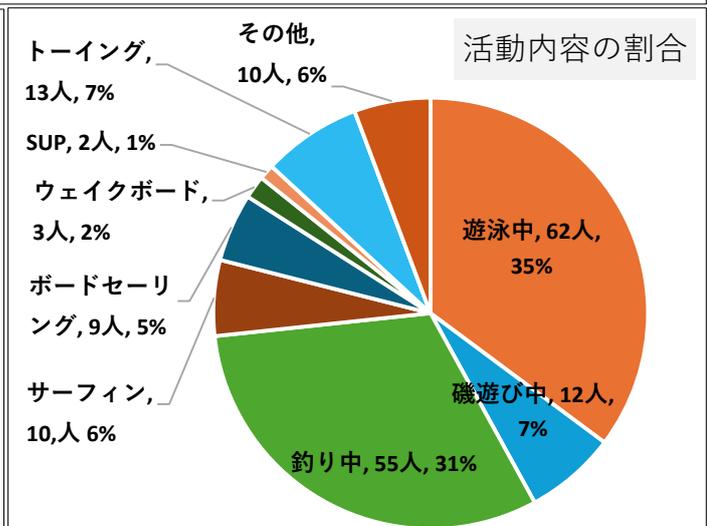
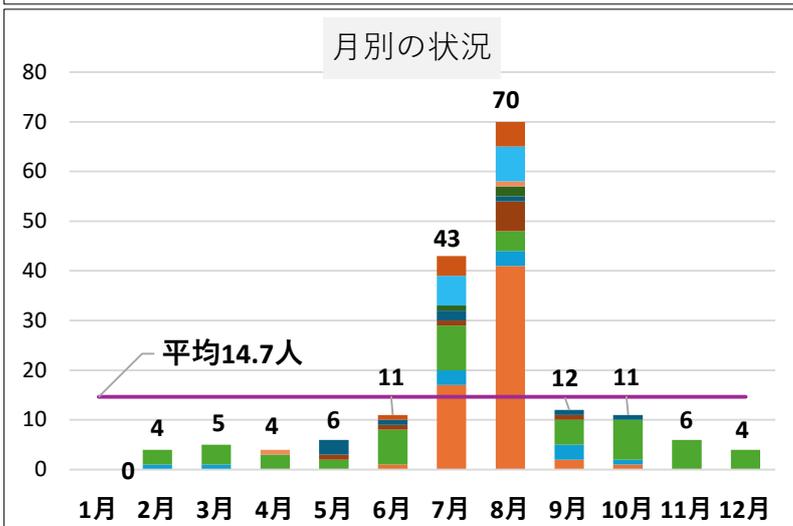
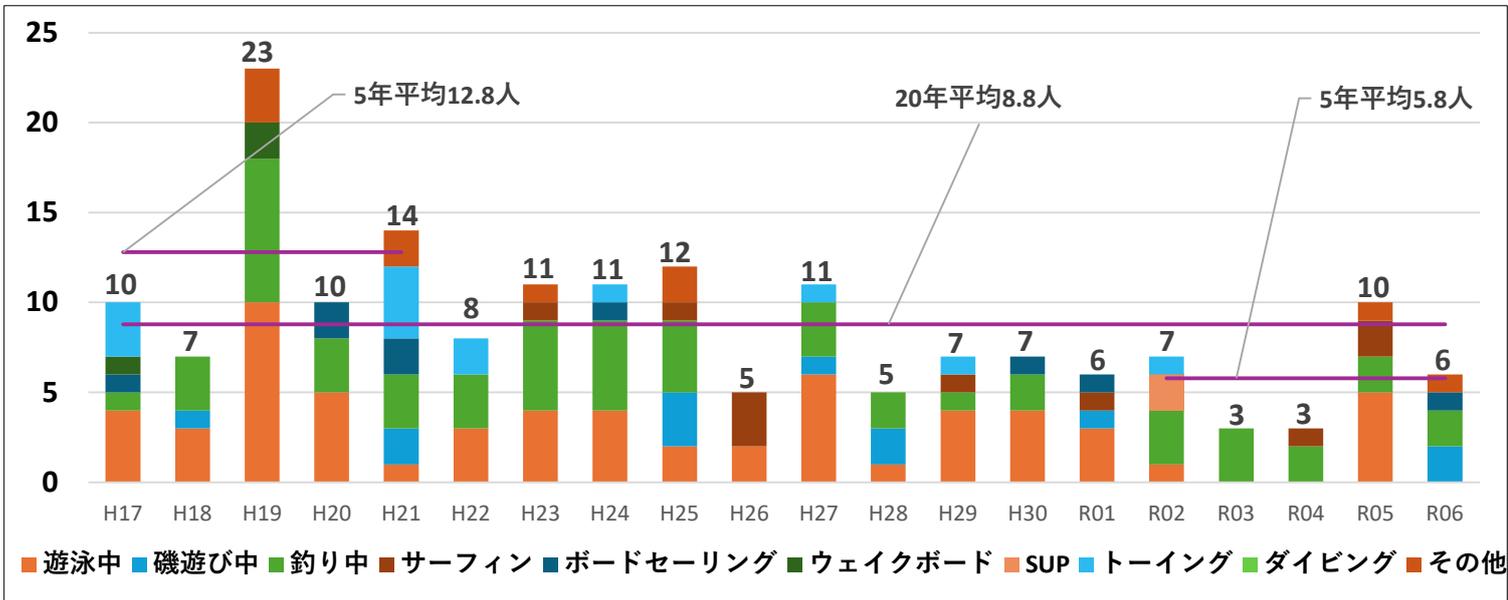
1 名古屋海上保安部

(2) マリンレジャー事故の状況

○過去20年間の事故者数は176人（うち死者46人）

○年間平均9人。H17～H21年の平均13人、直近R02～R06年の平均は6人で減少傾向（約50%減）

○事故者数176人のうち7月、8月に113人（64%）と集中して発生

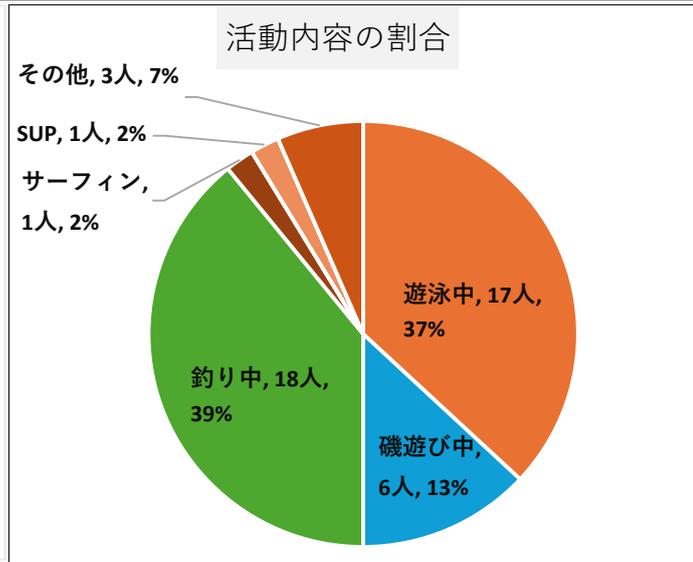
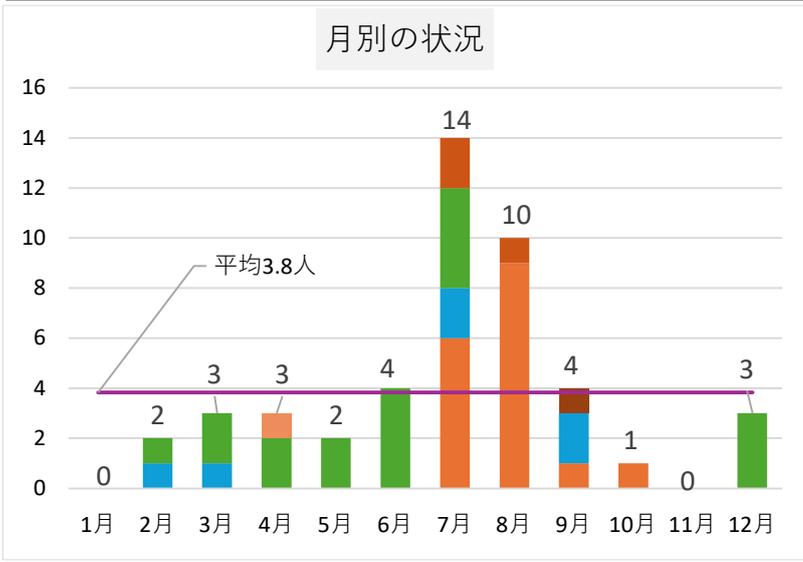
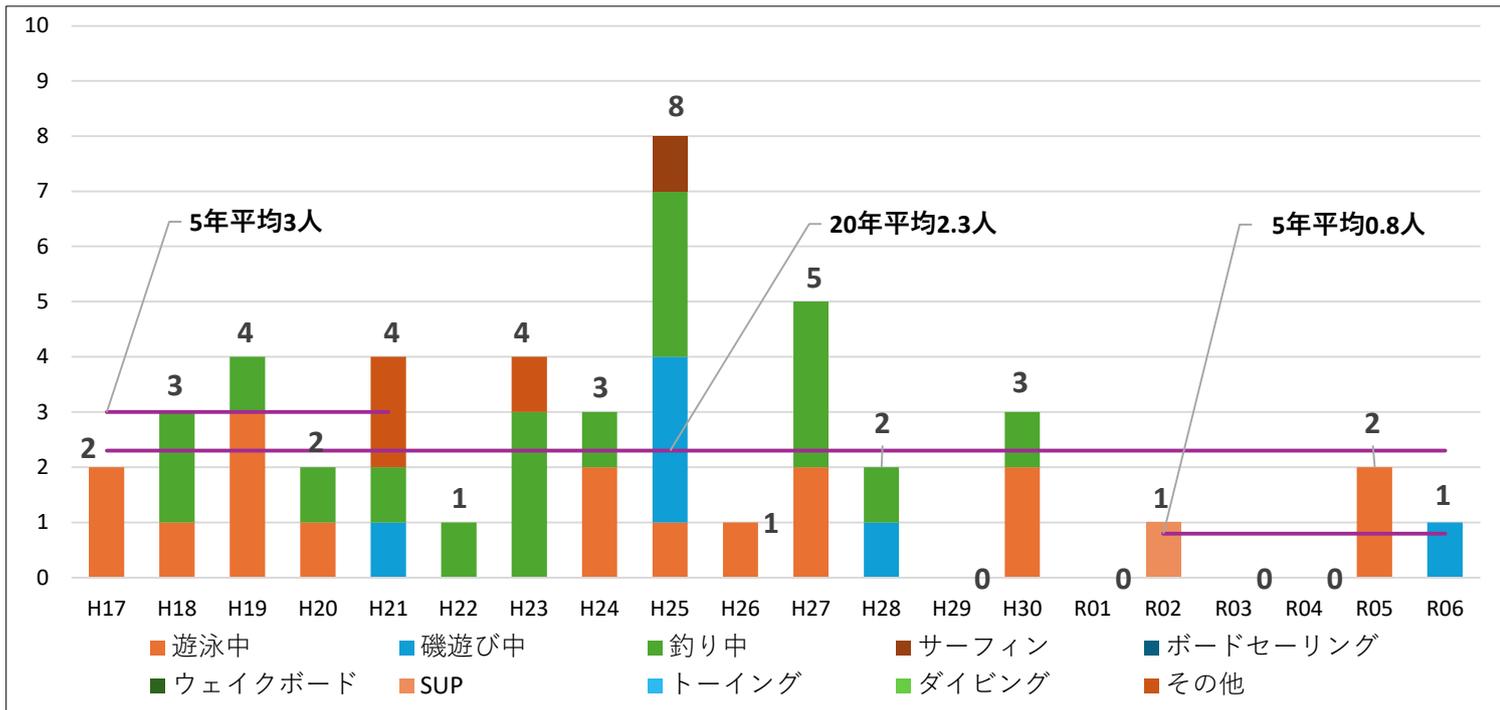


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
遊泳中	4	3	10	5	1	3	4	4	2	2	6	1	4	4	3	1	0	0	5	0	62
磯遊び中	0	1	0	0	2	0	0	0	3	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2
釣り中	1	3	8	3	3	3	5	5	4	0	3	2	1	2	0	3	3	2	2	2	55
サーフィン	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	0	0	1	0	1	0	0	1	2	0	10
ボードセーリング	1	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	9
ウェイクボード	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
SUP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
トーイング	3	0	0	0	4	2	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	13
ダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	3	0	2	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	10
計	10	7	23	10	14	8	11	11	12	5	11	5	7	7	6	7	3	3	10	6	176

うち死亡者を伴う事故の推移

○死亡者の年間平均2.3人。H17～H21年平均3人、直近R02～R06年平均は0.8人で減少傾向（約65%減）

○死亡事故は46人のうち7月、8月に24人（52%）発生



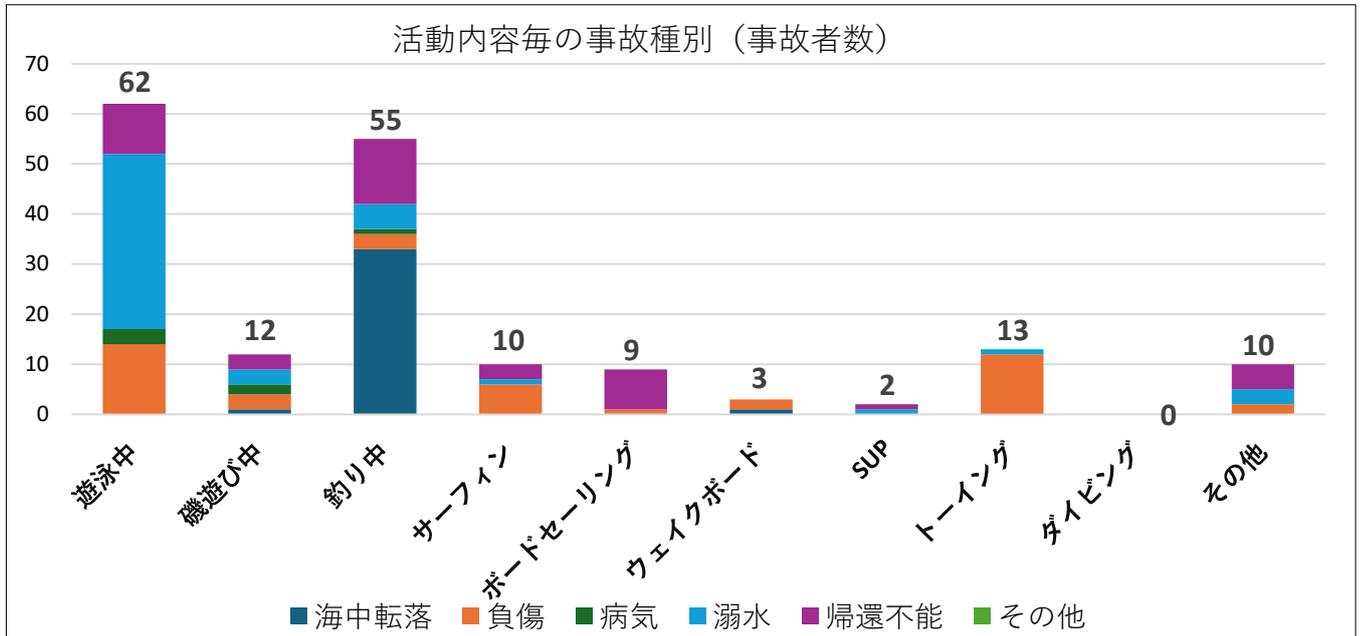
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
遊泳中	2	1	3	1	0	0	0	2	1	1	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	17
磯遊び中	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
釣り中	0	2	1	1	1	1	3	1	3	0	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	18
サーフィン	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ボードセーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウェイクボード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SUP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
トーイング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
計	2	3	4	2	4	1	4	3	8	1	5	2	0	3	0	1	0	0	2	1	46

活動内容毎の事故種別

○活動内容別では176人中、遊泳中62人（35%）、釣り中55人（30%）が多く発生

○遊泳中の事故は62人中、溺水35人（56%）、負傷14人（23%）が多く発生

○釣り中の事故は55人中、海中転落33人（60%）、帰還不能13人（24%）が多く発生



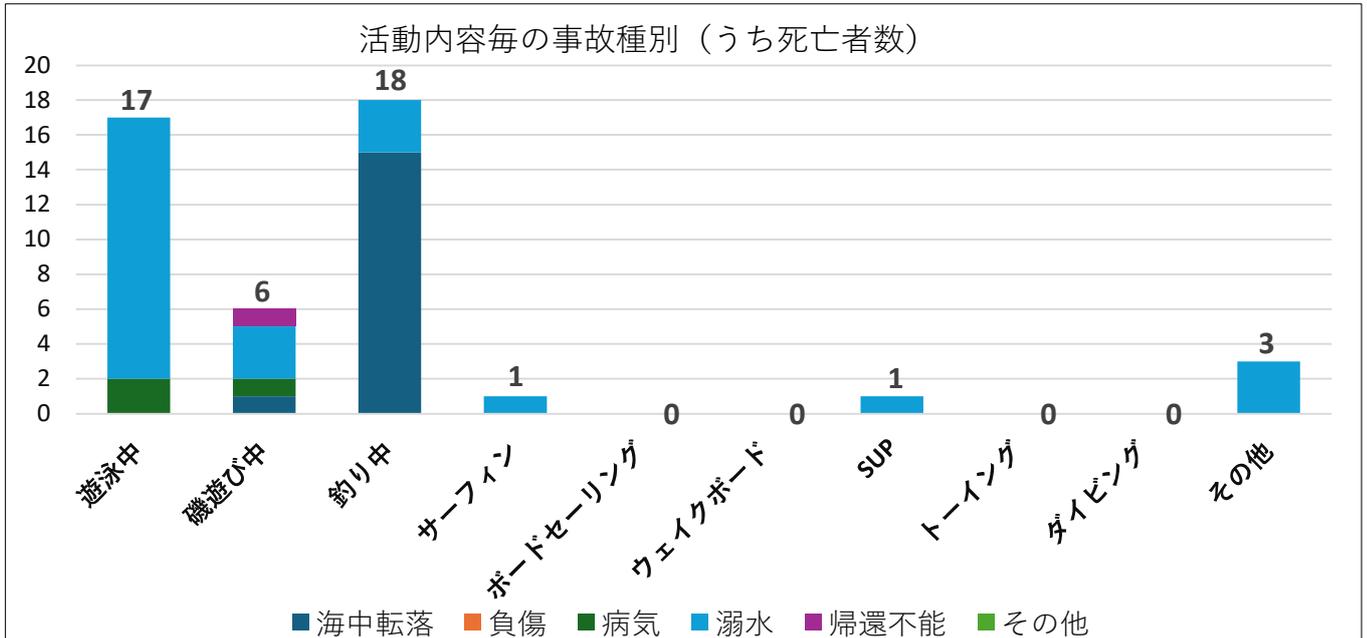
	遊泳中	磯遊び中	釣り中	サーフィン	ボードセーリング	ウェイクボード	SUP	トーイング	ダイビング	その他	計
海中転落	0	1	33	0	0	1	0	0	0	0	35
負傷	14	3	3	6	1	2	0	12	0	2	43
病気	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6
溺水	35	3	5	1	0	0	1	1	0	3	49
帰還不能	10	3	13	3	8	0	1	0	0	5	43
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	62	12	55	10	9	3	2	13	0	10	176

うち死亡者を伴う「活動内容毎の事故種別」

○死亡者を伴う事故は46人のうち、釣り中が18人（39%）、遊泳中が17人（37%）と多く発生

○釣り中の死亡事故は18人中、海中転落が15人（83%）、溺水が3人（16%）と多く発生

○遊泳中の死亡事故は17人中、溺水が15人（88%）と多く発生



	遊泳中	磯遊び中	釣り中	サーフィン	ボードセーリング	ウェイクボード	SUP	トーイング	ダイビング	その他	計
海中転落	0	1	15	0	0	0	0	0	0	0	16
負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病気	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
溺水	15	3	3	1	0	0	1	0	0	3	26
帰還不能	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	17	6	18	1	0	0	1	0	0	3	46

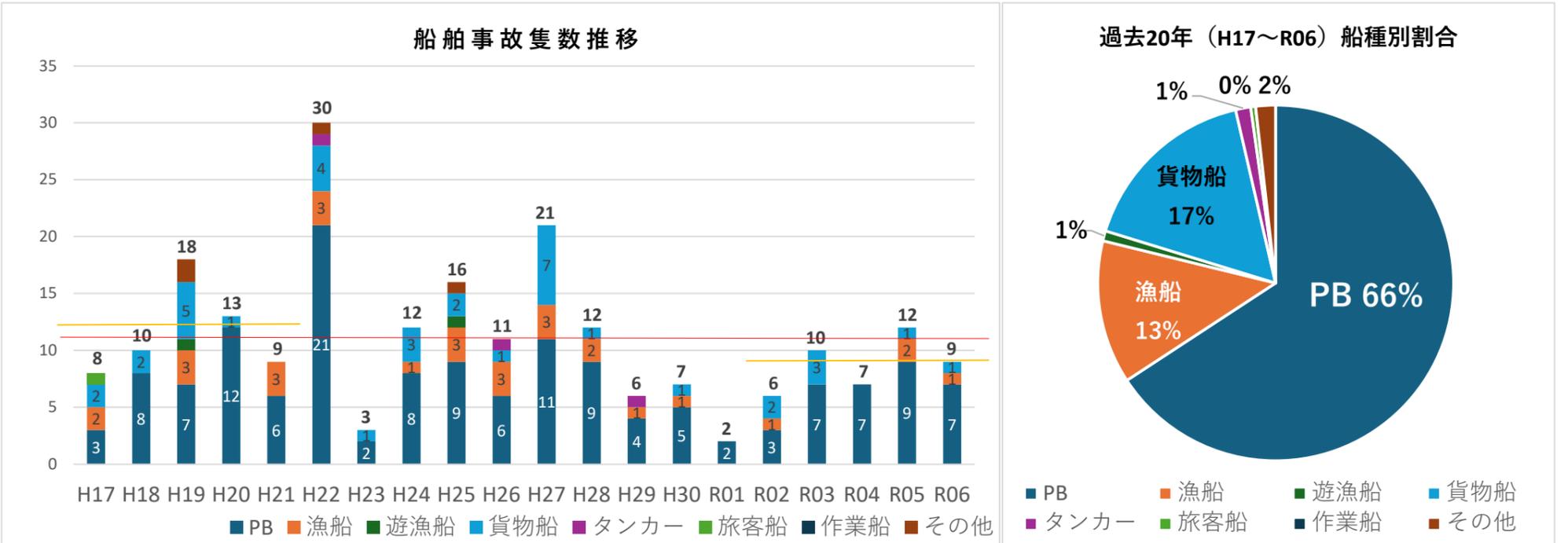
○その他事故の概要

年 月	年齢	活動内容	事故種別	死亡事故	救命胴衣	部署
H19 8月	27歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H19 8月	28歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H19 8月	34歳	漂流水バイ追跡中	帰還不能		無	名古屋
H21 7月	54歳	ダイビング準備中	溺水	死亡事故	無	名古屋
H21 7月	50歳	PB引出中	溺水	死亡事故	無	名古屋
H23 8月	64歳	ビニールボート乗船中	溺水	死亡事故	無	名古屋
H25 7月	4歳	ビニールボート乗船中	帰還不能		無	名古屋
H25 7月	5歳	ビニールボート乗船中	帰還不能		無	名古屋
R5 6月	25歳	魚突き中	負傷		無	名古屋
R6 8月	44歳	海上遊具遊興中	負傷		無	名古屋

Ⅲ 部署別の海難等の状況

2 三河海上保安署

(1) 船舶海難の状況

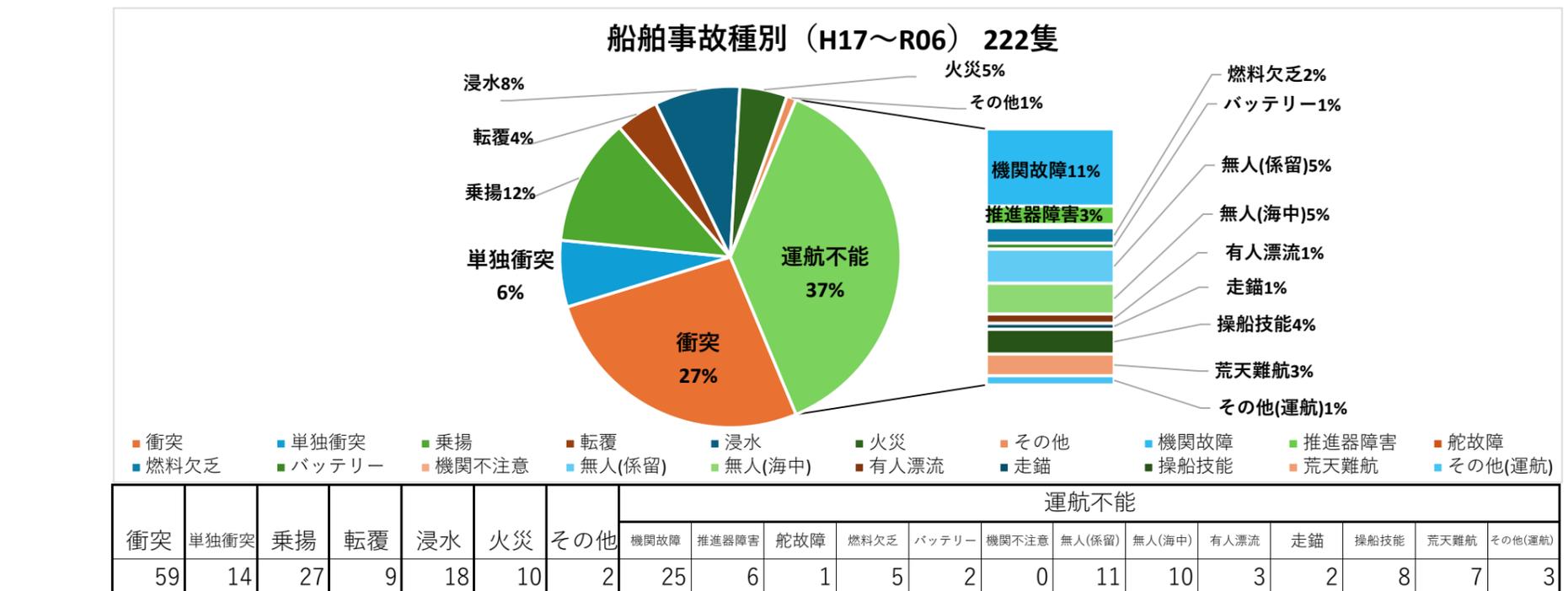


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
PB	3	8	7	12	6	21	2	8	9	6	11	9	4	5	2	3	7	7	9	7	146
漁船	2		3		3	3		1	3	3	3	2	1	1		1			2	1	29
遊漁船			1						1												2
貨物船	2	2	5	1		4	1	3	2	1	7	1		1		2	3		1	1	37
タンカー						1				1					1						3
旅客船	1																				1
作業船																					0
その他			2			1			1												4
計	8	10	18	13	9	30	3	12	16	11	21	12	6	7	2	6	10	7	12	9	222

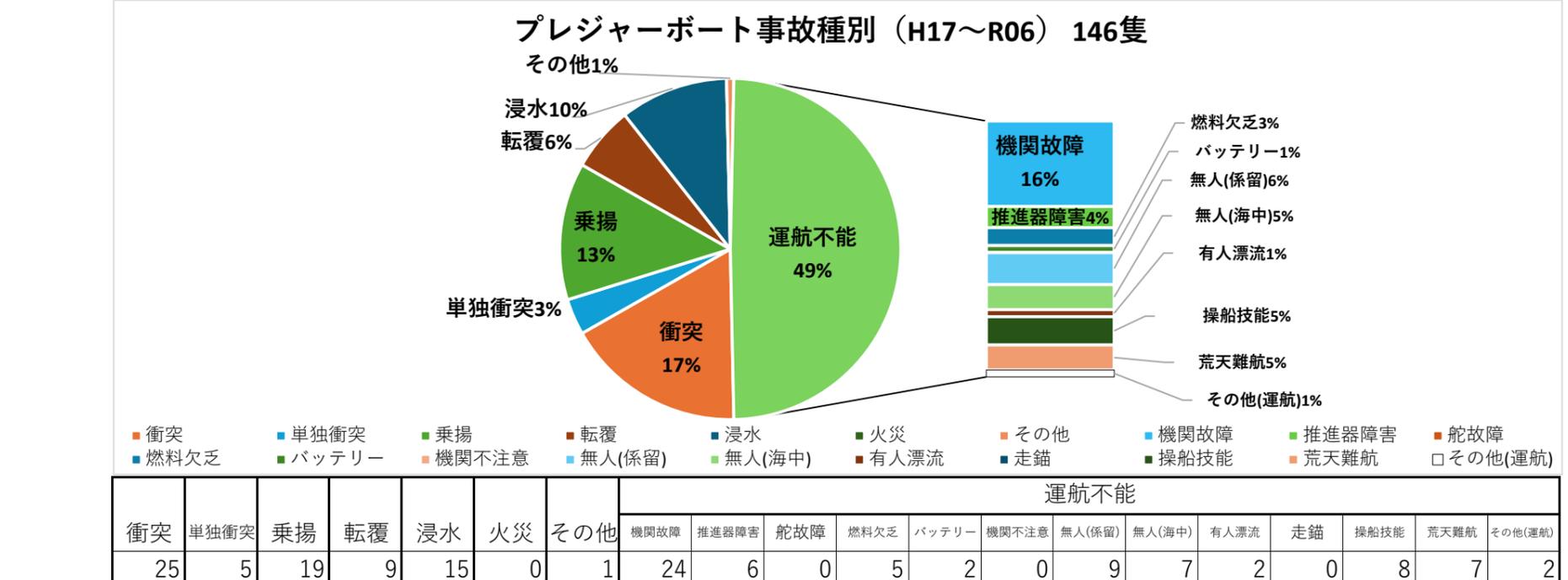
○衣浦海上保安署における過去20年間の海難隻数は222隻で、PB(66%)が最も多く次いで貨物船 (17%)、漁船 (13%)

○年間平均は11隻。H17~H21年まで5年間の平均12隻に対して、最近の5年間 (R02~R06) の平均は9隻で減少傾向 (約2.5割減)

○PBの事故隻数平均は約7.3隻。H17~H21年まで5年間の平均7.2隻に対して、最近の5年間 (R02~R06) の平均は6.6隻で減少傾向 (約1割減)

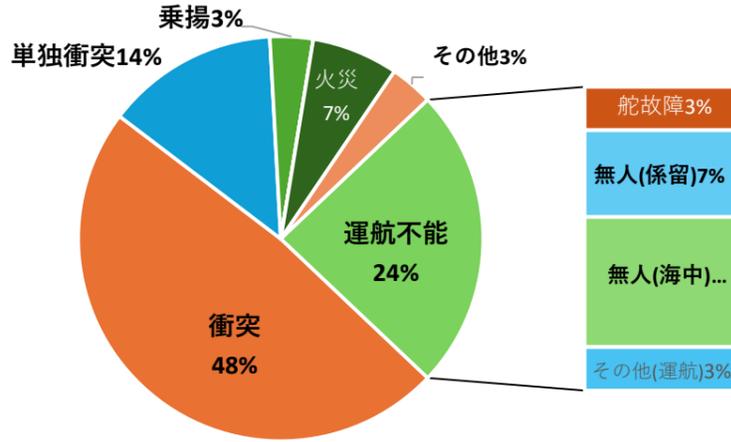


衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能													
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)	
59	14	27	9	18	10	2	25	6	1	5	2	0	11	10	3	2	8	7	3	



衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能													
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)	
25	5	19	9	15	0	1	24	6	0	5	2	0	9	7	2	0	8	7	2	

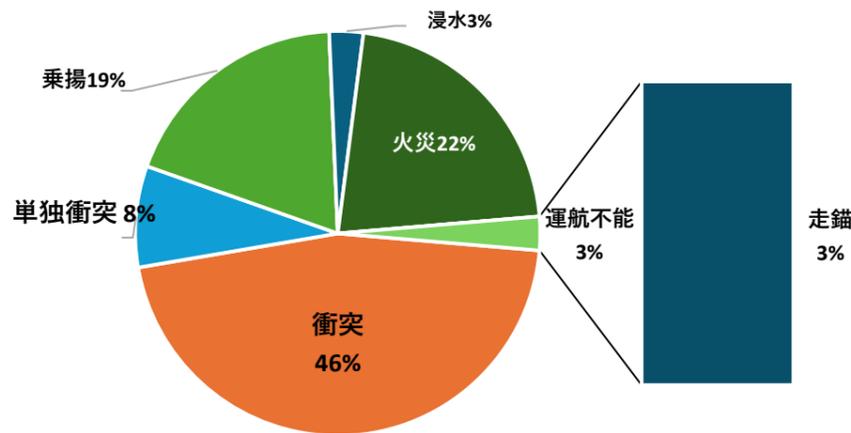
漁船事故種別 (H17~R06) 29隻



- 衝突
- 単独衝突
- 乗揚
- 転覆
- 浸水
- 火災
- その他
- 機関故障
- 推進器障害
- 舵故障
- 燃料欠乏
- バッテリー
- 機関不注意
- 無人(係留)
- 無人(海中)
- 有人漂流
- 走錨
- 操船技能
- 荒天難航
- その他(運航)

衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能													
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)	
14	4	1	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	1

貨物船事故種別 (H17~R06) 37隻



- 衝突
- 単独衝突
- 乗揚
- 転覆
- 浸水
- 火災
- その他
- 機関故障
- 推進器障害
- 舵故障
- 燃料欠乏
- バッテリー
- 機関不注意
- 無人(係留)
- 無人(海中)
- 有人漂流
- 走錨
- 操船技能
- 荒天難航
- その他(運航)

衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能													
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)	
17	3	7	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

Ⅲ 部署別の海難等の状況

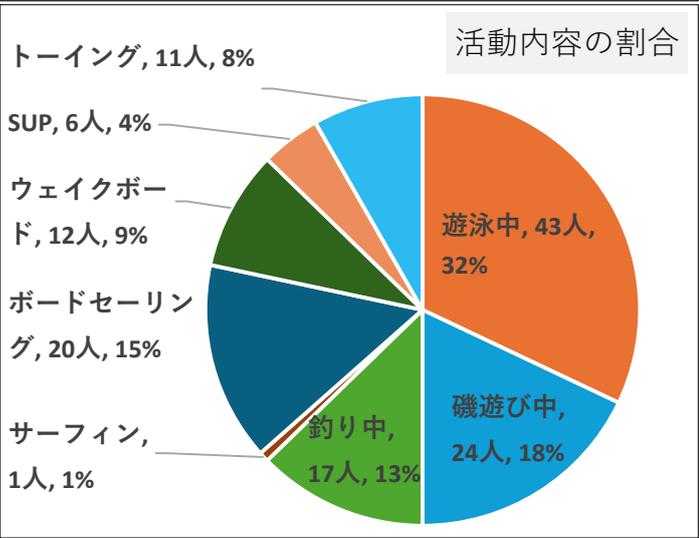
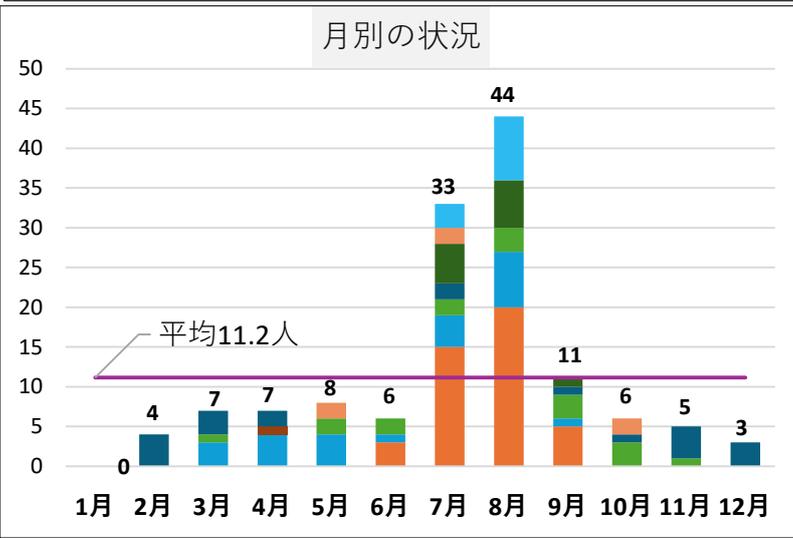
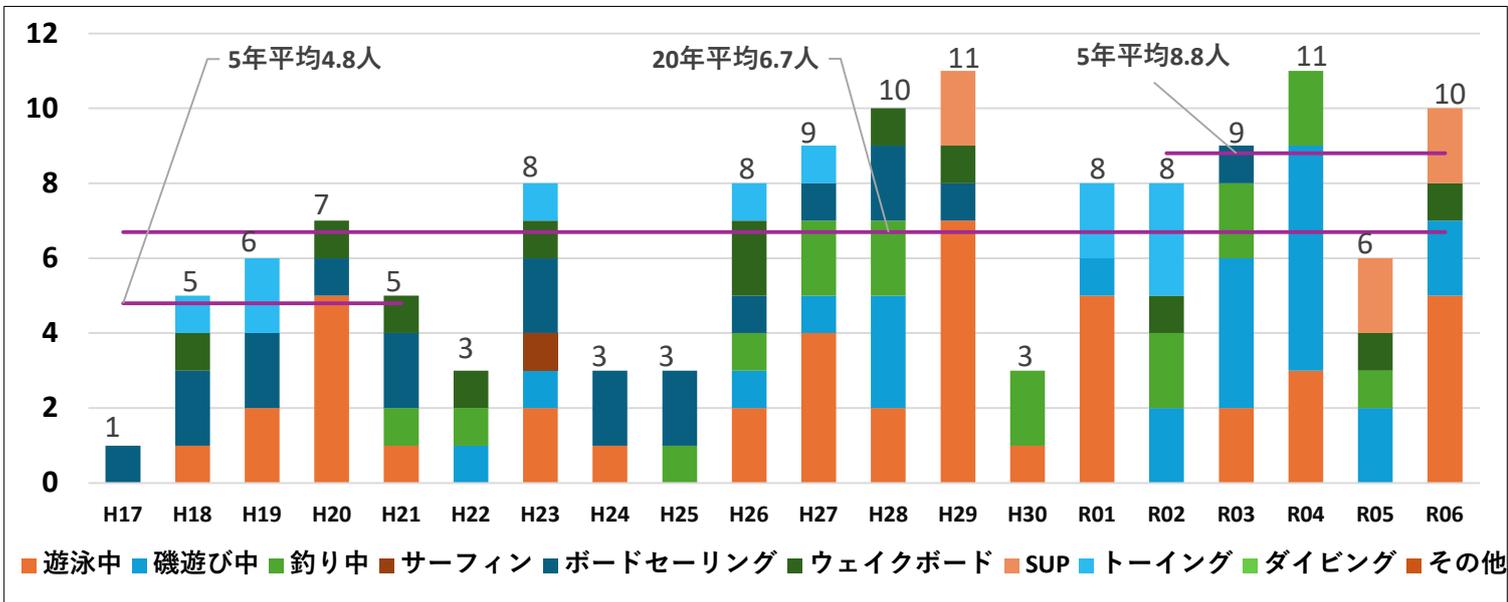
2 三河海上保安署

(2) マリンレジャー事故の状況

○過去20年間の事故者数は134人（うち死者24人）

○年間平均7人。H17～H21年の平均5人、直近R02～R06年の平均は9人で増加傾向（約28%増）

○事故者数134人のうち7月、8月に77人（57%）と集中して発生

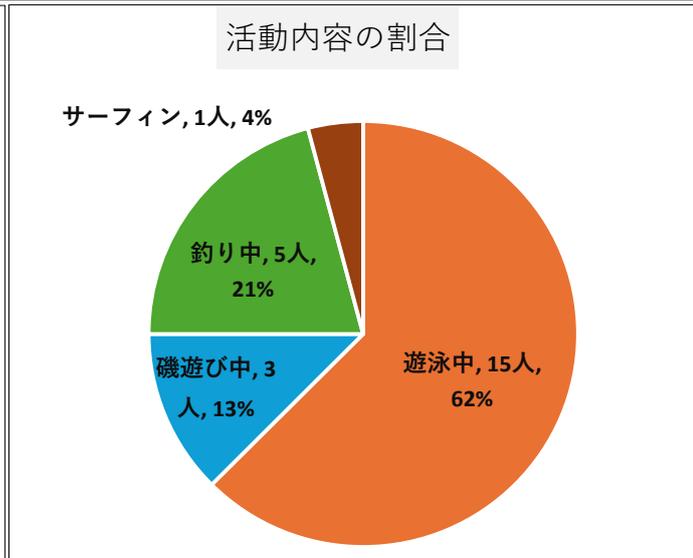
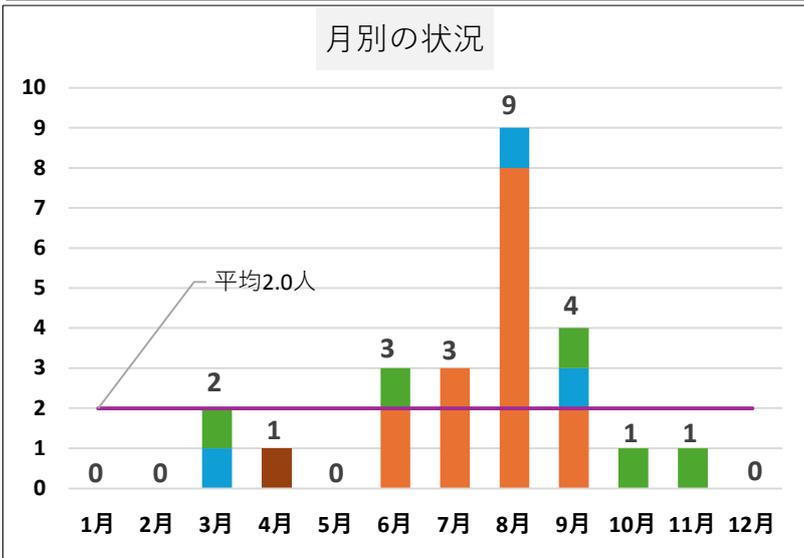
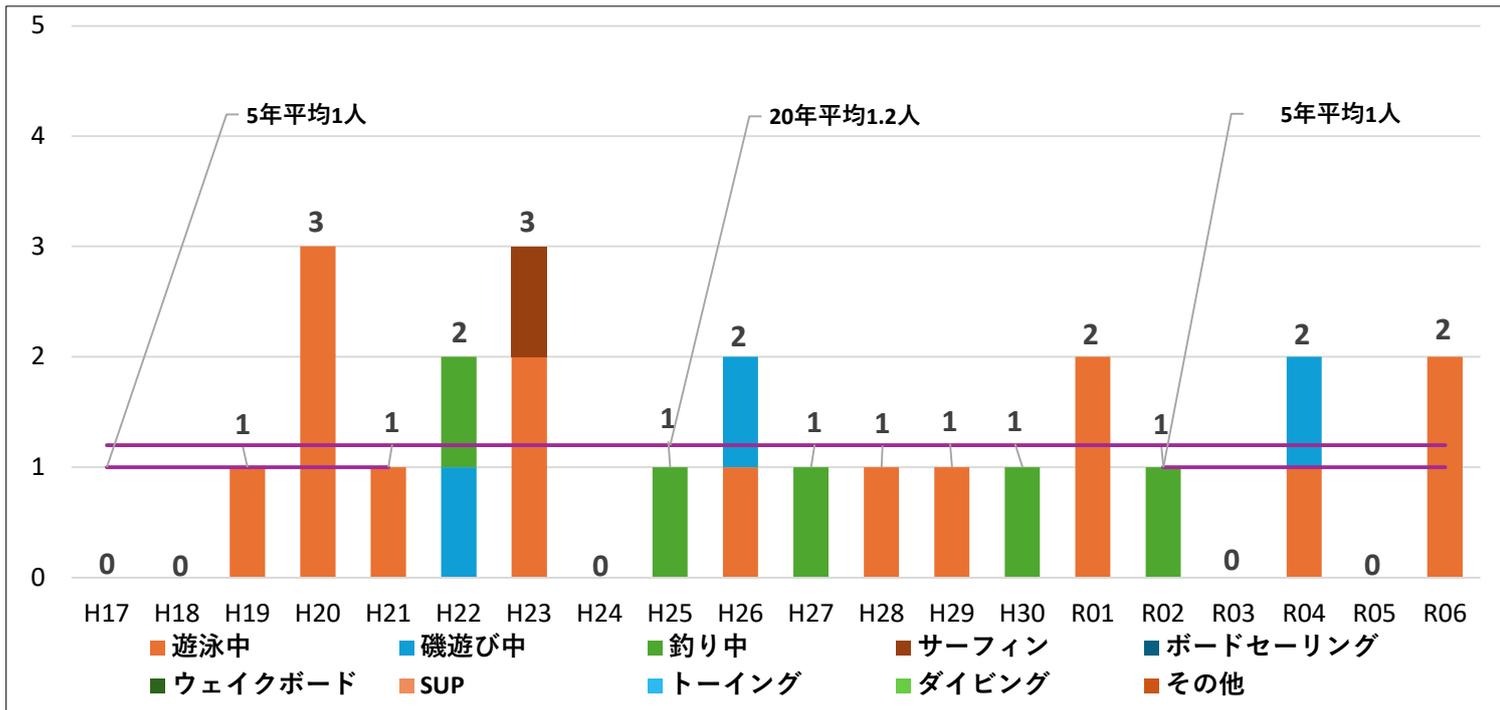


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
遊泳中	0	1	2	5	1	0	2	1	0	2	4	2	7	1	5	0	2	3	0	5	43
磯遊び中	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	3	0	0	1	2	4	6	2	2	24
釣り中	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	2	2	0	2	0	2	2	2	1	0	17
サーフィン	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ボードセーリング	1	2	2	1	2	0	2	2	2	1	1	2	1	0	0	0	1	0	0	0	20
ウェイクボード	0	1	0	1	1	1	1	0	0	2	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	12
SUP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	6
トーイング	0	1	2	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	2	3	0	0	0	0	11
ダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	5	6	7	5	3	8	3	3	8	9	10	11	3	8	8	9	11	6	10	134

うち死亡者を伴う事故の推移

○死亡者の年間平均1.2人。H17～H21年平均約1人、直近R02～R06年平均は1人でほぼ横ばいの状況

○死亡事故は24人のうち8月に9人（38%）発生



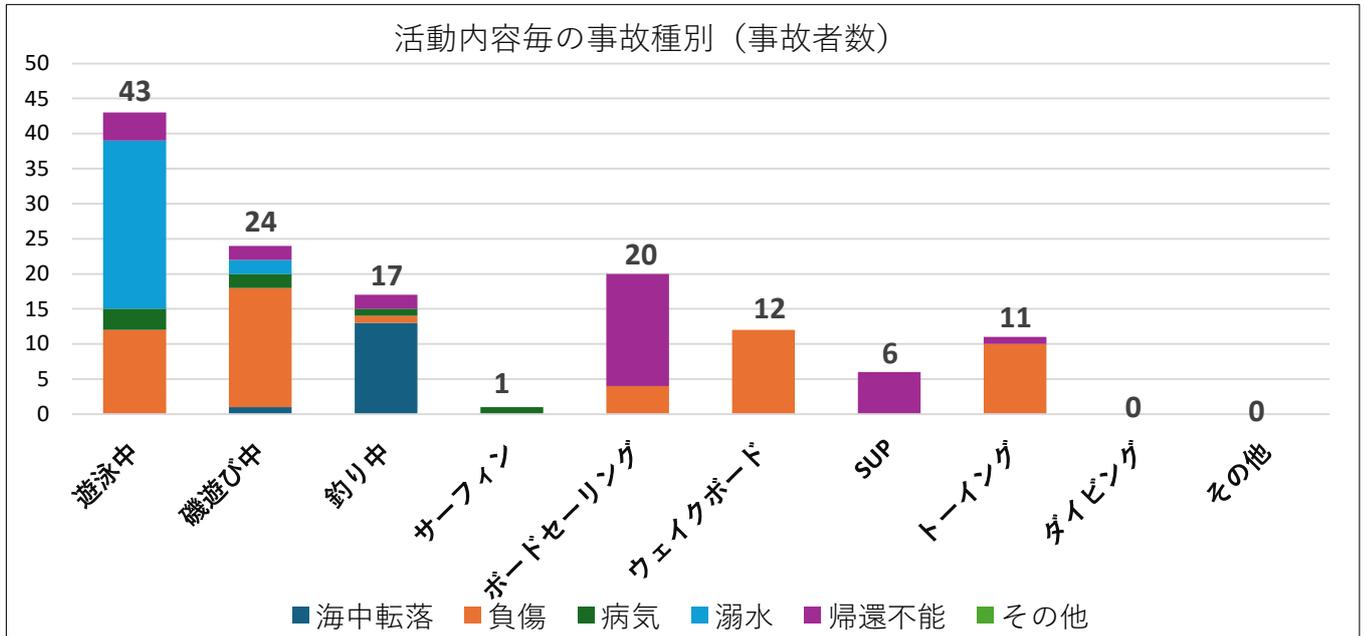
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
遊泳中	0	0	1	3	1	0	2	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	1	0	2	15
磯遊び中	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
釣り中	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5
サーフィン	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ボードセーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウェイクボード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SUP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トーイング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	3	1	2	3	0	1	2	1	1	1	1	2	1	0	2	0	2	24

活動内容毎の事故種別

○活動内容別では134人中、遊泳中43人（32%）、磯遊び中24人（18%）が多く発生

○遊泳中の事故は43人中、溺水24人（56%）、負傷12人（28%）が多く発生

○磯遊び中の事故は24人中、負傷17人（71%）が多く発生



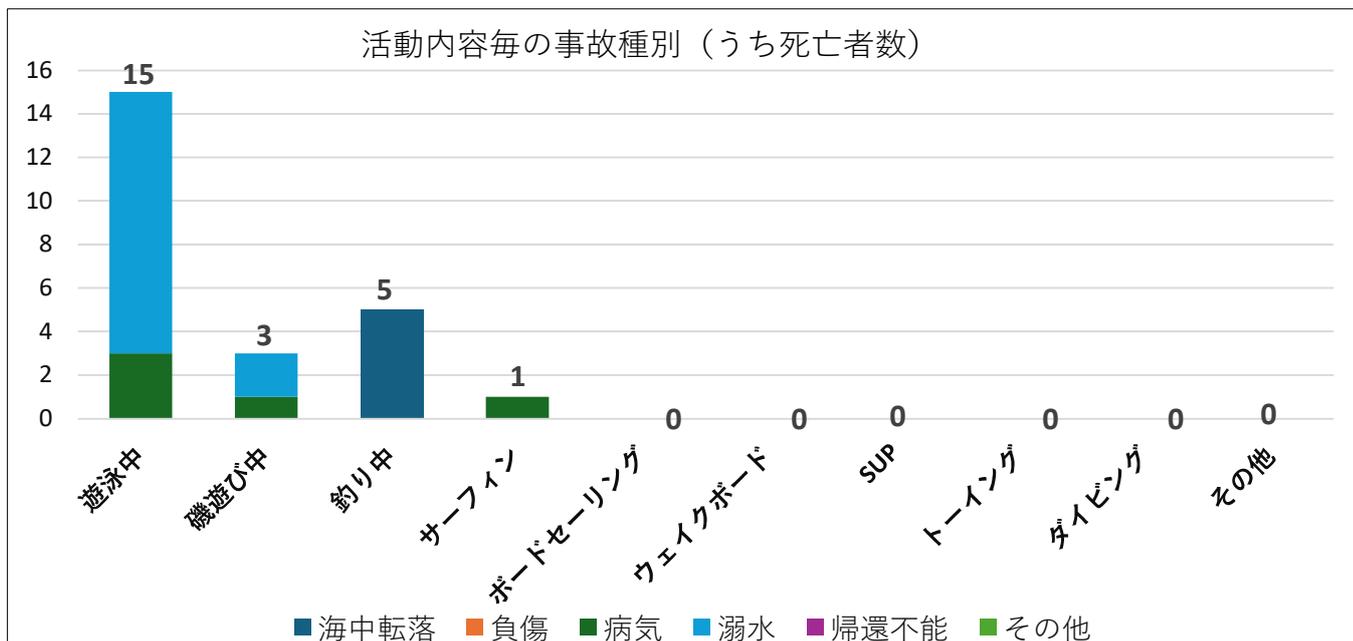
	遊泳中	磯遊び中	釣り中	サーフィン	ボードセーリング	ウェイクボード	SUP	トーイング	ダイビング	その他	計
海中転落	0	1	13	0	0	0	0	0	0	0	14
負傷	12	17	1	0	4	12	0	10	0	0	56
病気	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	7
溺水	24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	26
帰還不能	4	2	2	0	16	0	6	1	0	0	31
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	43	24	17	1	20	12	6	11	0	0	134

うち死亡者を伴う「活動内容毎の事故種別」

○死亡者を伴う事故は24人のうち、遊泳中が15人（63%）、釣り中が5人（20%）と多く発生

○遊泳中の死亡事故は15人中、溺水が12人（80%）と多く発生

○釣り中の死亡事故は5人中、全て海中転落5人（100%）によるもの

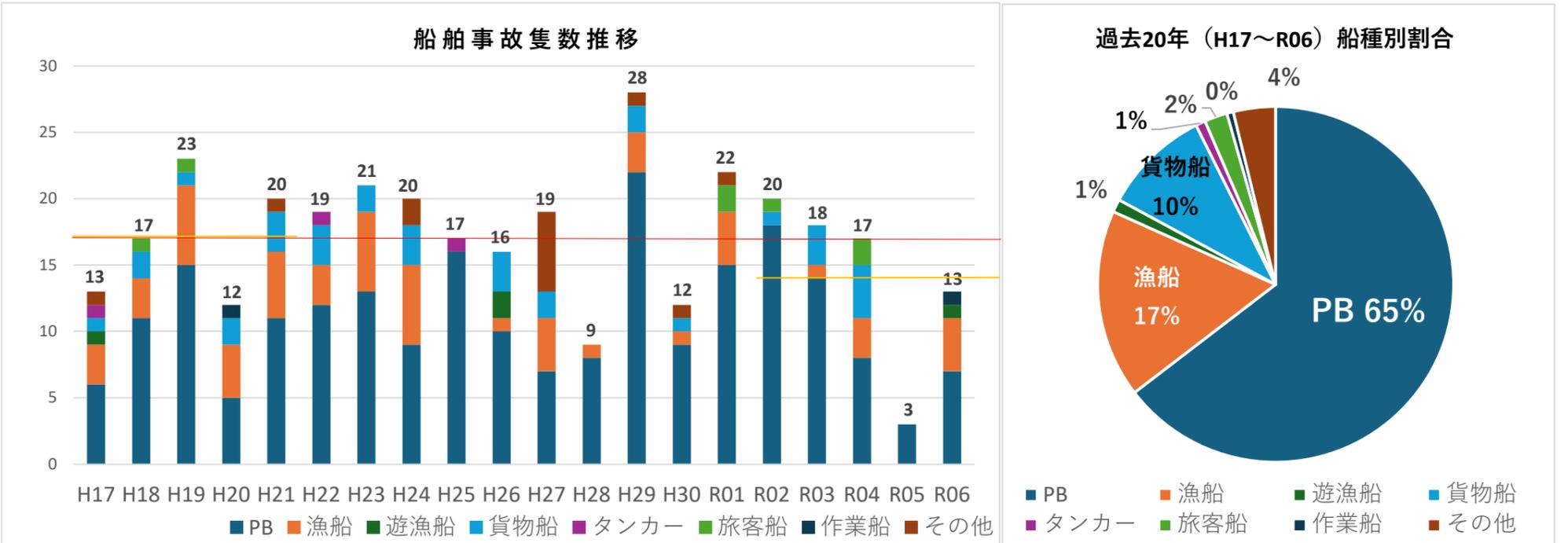


	遊泳中	磯遊び中	釣り中	サーフィン	ボードセーリング	ウェイクボード	SUP	トーイング	ダイビング	その他	計
海中転落	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病気	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5
溺水	12	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14
帰還不能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	15	3	5	1	0	0	0	0	0	0	24

Ⅲ 部署別の海難等の状況

3 衣浦海上保安署

(1) 船舶海難の状況

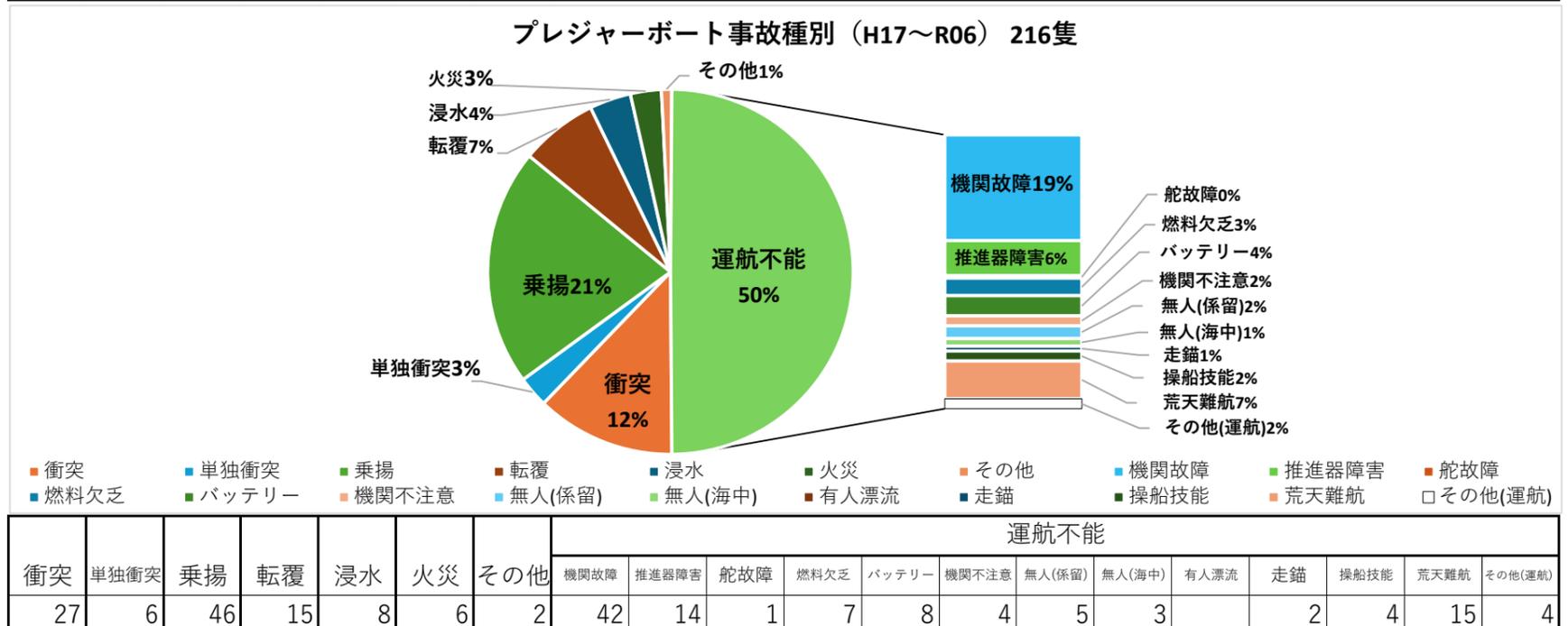
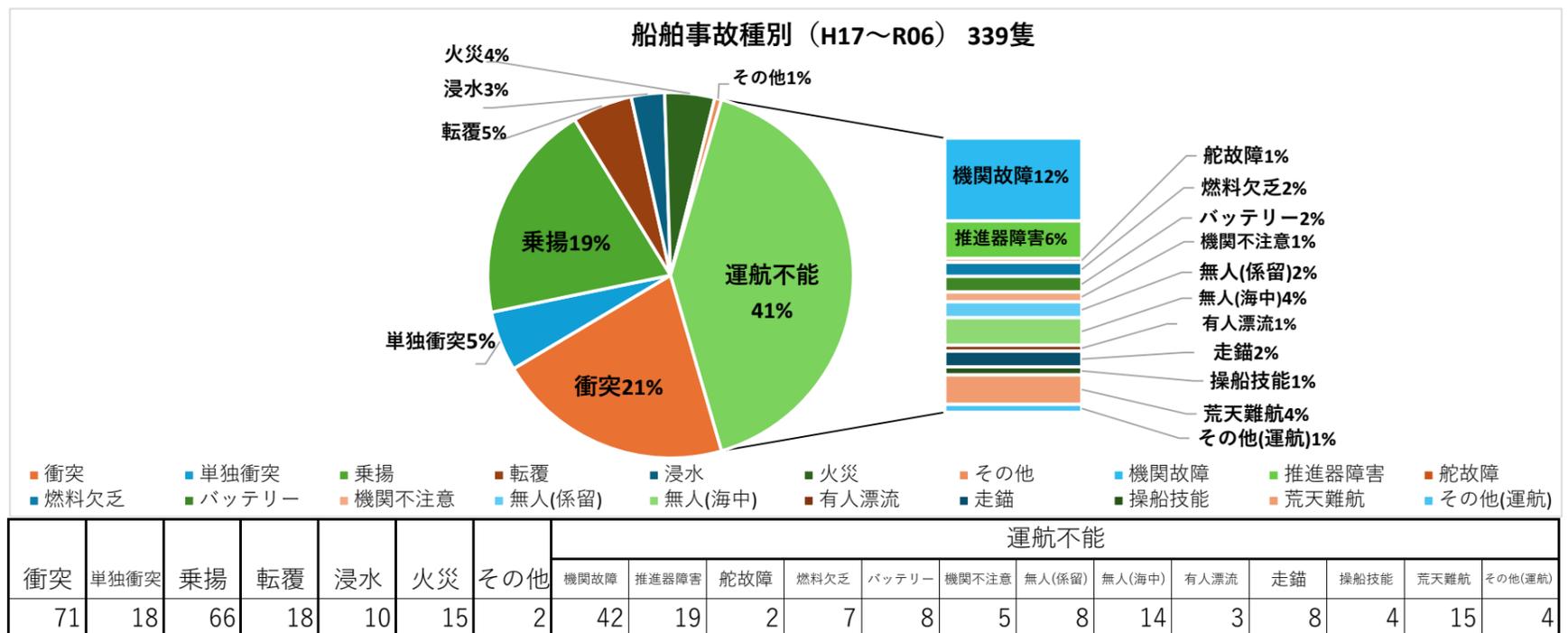


船種	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	計
PB	6	11	15	5	11	12	13	9	16	10	7	8	22	9	15	18	14	8	3	7	219
漁船	3	3	6	4	5	3	6	6	0	1	4	1	3	1	4	1	3			4	58
遊漁船	1									2										1	4
貨物船	1	2	1	2	3	3	2	3		3	2		2	1		1	3	4			33
タンカー	1					1			1												3
旅客船		1	1												2	1		2			7
作業船				1																1	2
その他	1				1			2			6		1	1	1						13
計	13	17	23	12	20	19	21	20	17	16	19	9	28	12	22	20	18	17	3	13	339

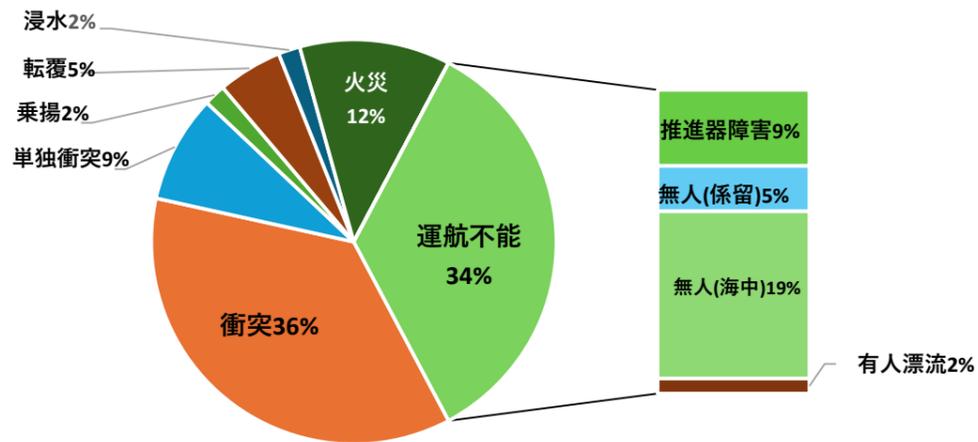
○衣浦海上保安署における過去20年間の海難隻数は339隻で、PB(65%)が最も多く、次いで漁船(17%)、貨物船(10%)

○年間平均は17隻。H17~H21年まで5年間の平均17隻に対して、最近の5年間 (R02~R06) の平均は14隻で減少傾向 (約2割減)

○PBの事故隻数平均は約11隻。H17~H21年まで5年間の平均9.6隻に対して、最近の5年間 (R02~R06) の平均は10隻でほぼ横ばい



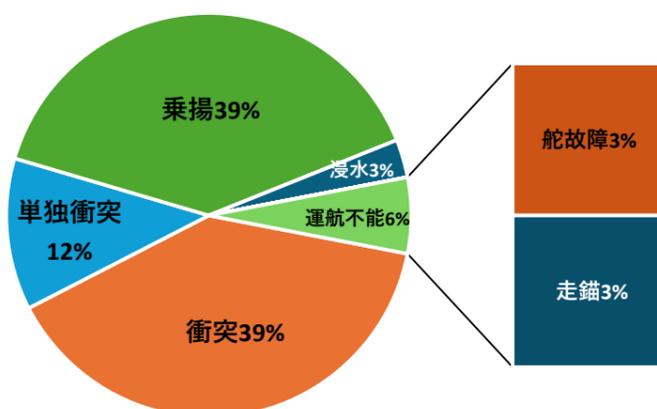
漁船事故種別 (H17~R06) 58隻



- 衝突
- 単独衝突
- 乗揚
- 転覆
- 浸水
- 火災
- その他
- 機関故障
- 推進器障害
- 舵故障
- 燃料欠乏
- バッテリー
- 機関不注意
- 無人(係留)
- 無人(海中)
- 有人漂流
- 走錨
- 操船技能
- 荒天難航
- その他(運航)

衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能													
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)	
21	5	1	3	1	7			5						3	11	1				

貨物船事故種別 (H17~R06) 33隻



- 衝突
- 単独衝突
- 乗揚
- 転覆
- 浸水
- 火災
- その他
- 機関故障
- 推進器障害
- 舵故障
- 燃料欠乏
- バッテリー
- 機関不注意
- 無人(係留)
- 無人(海中)
- 有人漂流
- 走錨
- 操船技能
- 荒天難航
- その他(運航)

衝突	単独衝突	乗揚	転覆	浸水	火災	その他	運航不能													
							機関故障	推進器障害	舵故障	燃料欠乏	バッテリー	機関不注意	無人(係留)	無人(海中)	有人漂流	走錨	操船技能	荒天難航	その他(運航)	
13	4	13		1					1								1			

Ⅲ 部署別の海難等の状況

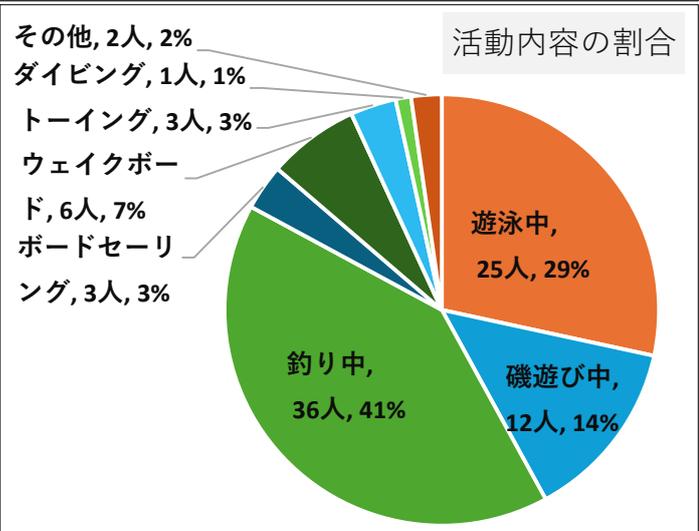
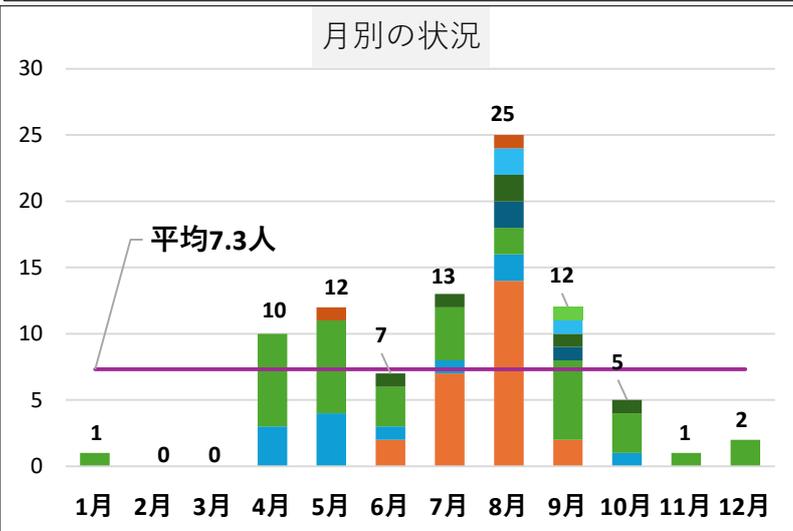
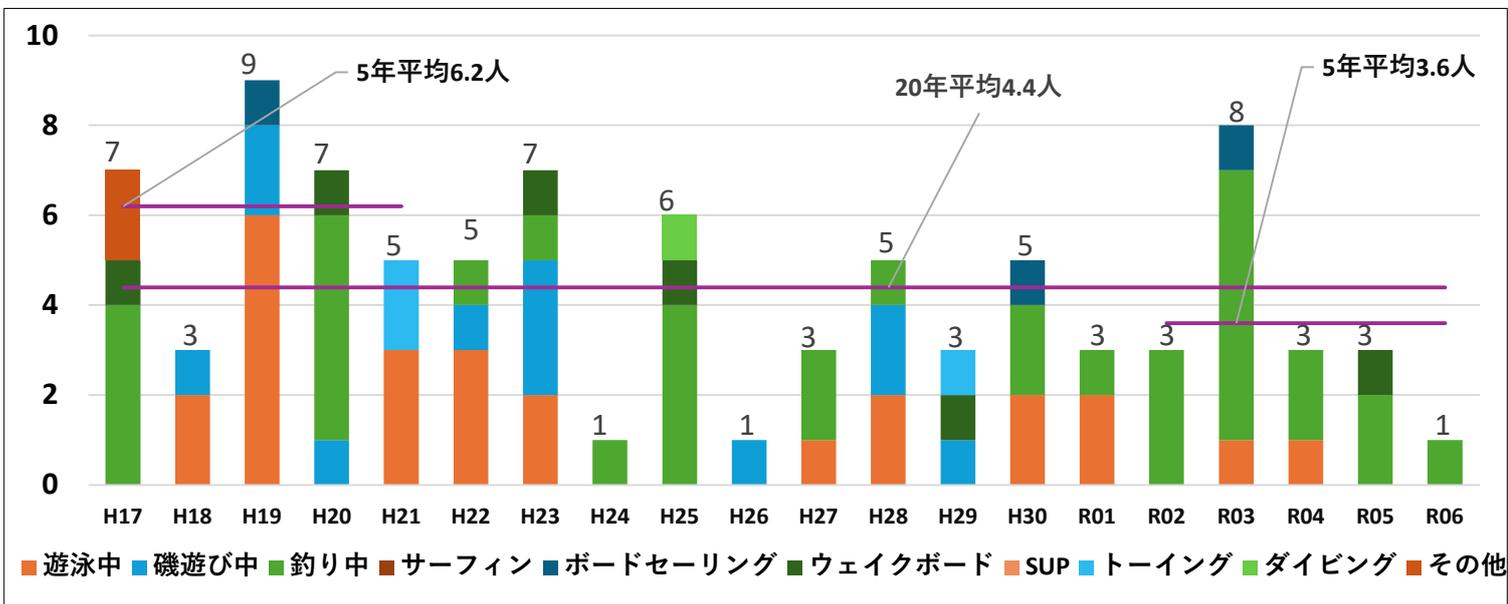
3 衣浦海上保安署

(2) マリンレジャー事故の状況

○過去20年間の事故者数は88人（うち死者23人）

○年間平均4.4人。H17～H21年の平均約6.2人、直近R02～R06年の平均は3.6人で減少傾向（約50%減）

○事故者数88人のうち8月に25人（28%）と集中して発生

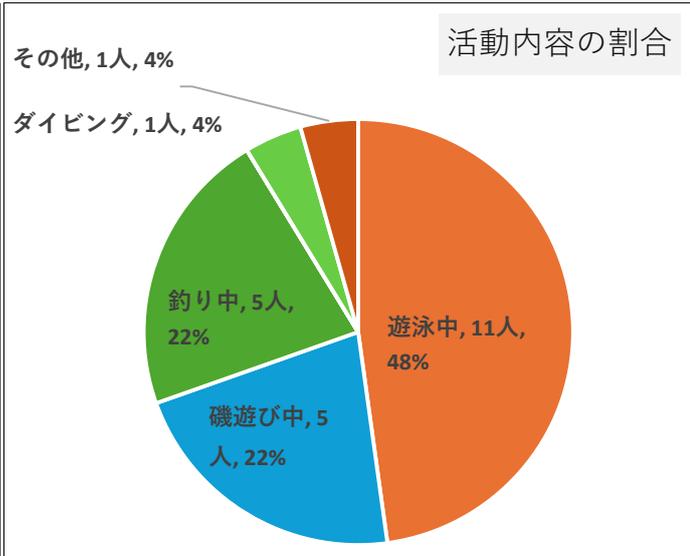
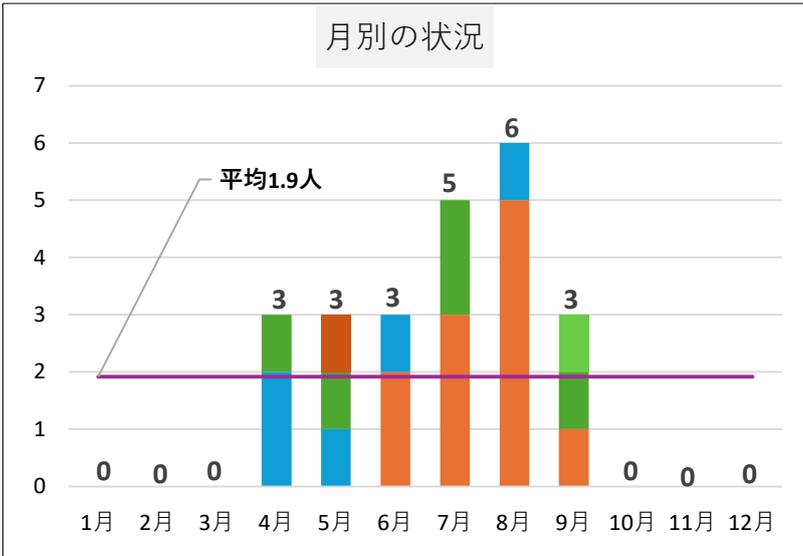
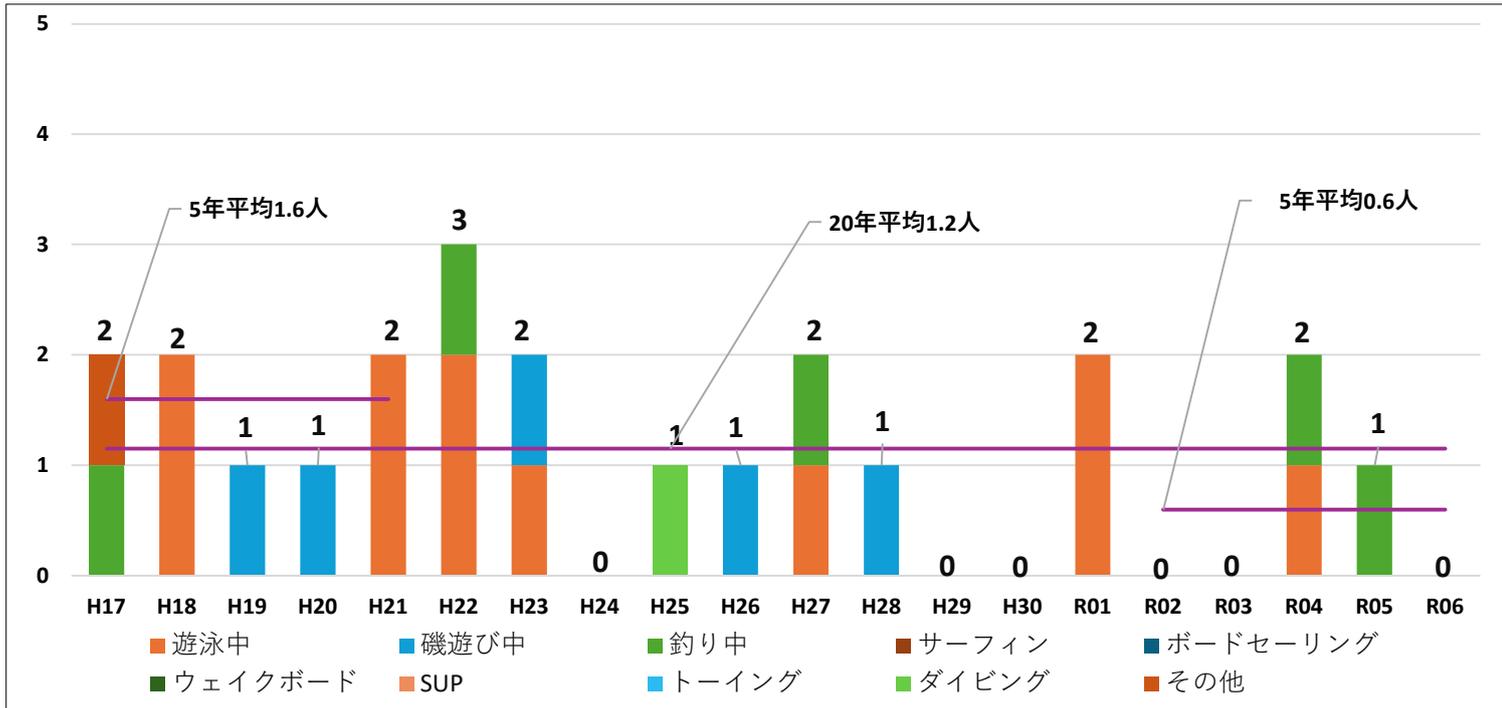


	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
遊泳中	0	2	6	0	3	3	2	0	0	0	1	2	0	2	2	0	1	1	0	0	25
磯遊び中	0	1	2	1	0	1	3	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	12
釣り中	4	0	0	5	0	1	1	1	4	0	2	1	0	2	1	3	6	2	2	1	36
サーフィン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボードセーリング	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
ウェイクボード	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	6
SUP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トーイング	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
ダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	7	3	9	7	5	5	7	1	6	1	3	5	3	5	3	3	8	3	3	1	88

うち死亡者を伴う事故の推移

○死亡者の年間平均1.2人。H17～H21年平均約1.6人、直近R02～R06年平均は0.6人で減少傾向（約40%減）

○死亡事故は23人のうち7月、8月に11人（48%）発生



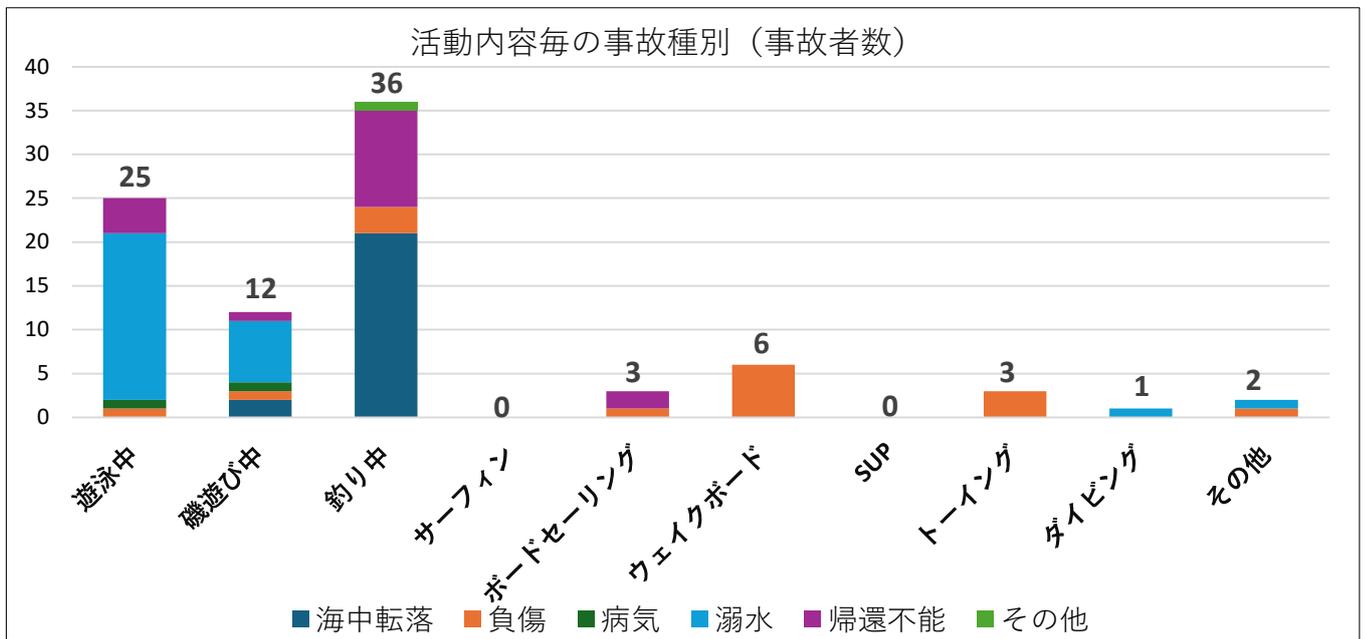
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04	R05	R06	合計
遊泳中	0	2	0	0	2	2	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	11
磯遊び中	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
釣り中	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5
サーフィン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボードセーリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウェイクボード	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SUP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トーイング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ダイビング	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	2	2	1	1	2	3	2	0	1	1	2	1	0	0	2	0	0	2	1	0	23

活動内容毎の事故種別

○活動内容別では88人中、釣り中36人（41%）、遊泳中25人（28%）が多く発生

○釣り中の事故は36人中、海中転落21人（58%）、帰還不能11人（30%）が多く発生

○遊泳中の事故は25人中、溺水19人（76%）、帰還不能4人（17%）が多く発生



	遊泳中	磯遊び中	釣り中	サーフィン	ボードセーリング	ウェイクボード	SUP	トーイング	ダイビング	その他	計
海中転落	0	2	21	0	0	0	0	0	0	0	23
負傷	1	1	3	0	1	6	0	3	0	1	16
病気	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
溺水	19	7	0	0	0	0	0	0	1	1	28
帰還不能	4	1	11	0	2	0	0	0	0	0	18
その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
計	25	12	36	0	3	6	0	3	1	2	88

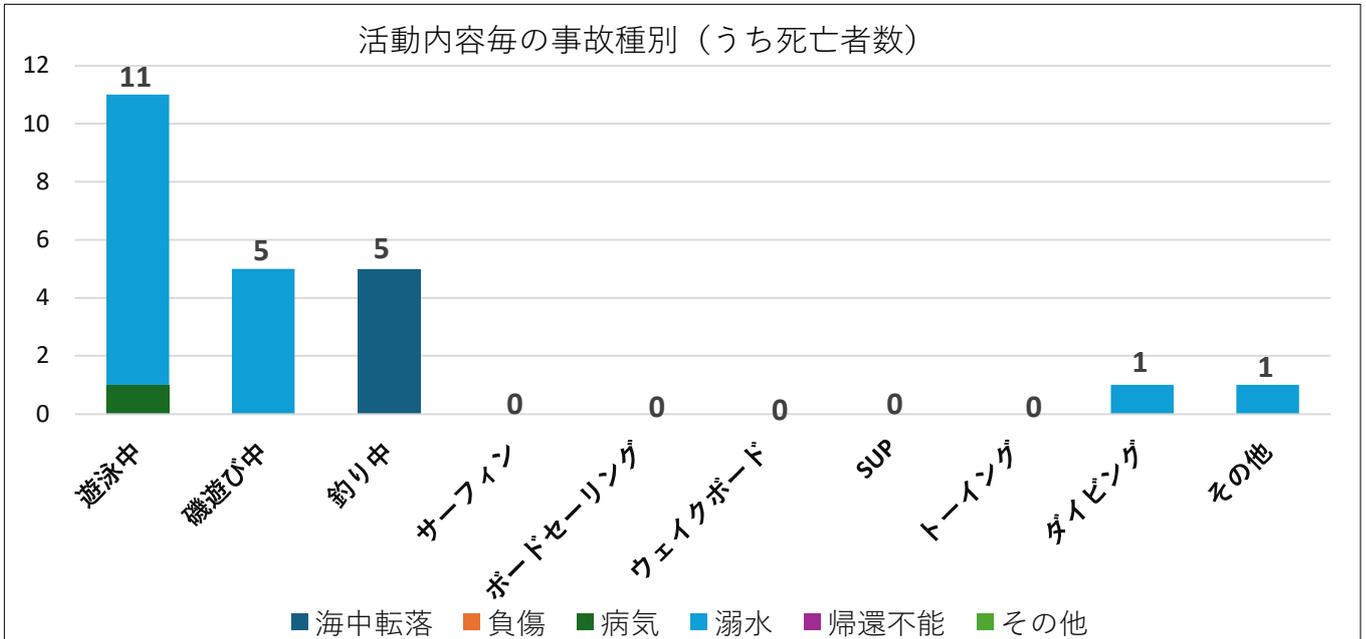
うち死亡者を伴う「活動内容毎の事故種別」

○死亡者を伴う事故は23人のうち、遊泳中が11人（48%）、釣り中が5人（22%）、磯遊び中が5人（22%）と多く発生

○遊泳中の死亡事故は11人中、溺水が10人（91%）と多く発生

○釣り中の死亡事故は5人中、全て海中転落5人（100%）によるもの

○磯遊び中の死亡事故は5人中、全て溺水5人（100%）によるもの



	遊泳中	磯遊び中	釣り中	サーフィン	ボードセーリング	ウェイクボード	SUP	トーイング	ダイビング	その他	計
海中転落	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5
負傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病気	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
溺水	10	5	0	0	0	0	0	0	1	1	17
帰還不能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	11	5	5	0	0	0	0	0	1	1	23

○その他の事故の概要

年 月	年齢	活動内容	事故種別	死亡事故	救命胴衣	部署
H17 5月	63歳	海中転落孫の救助中	溺水	死亡事故	無	衣浦
H17 8月	22歳	魚突き中	負傷		無	衣浦